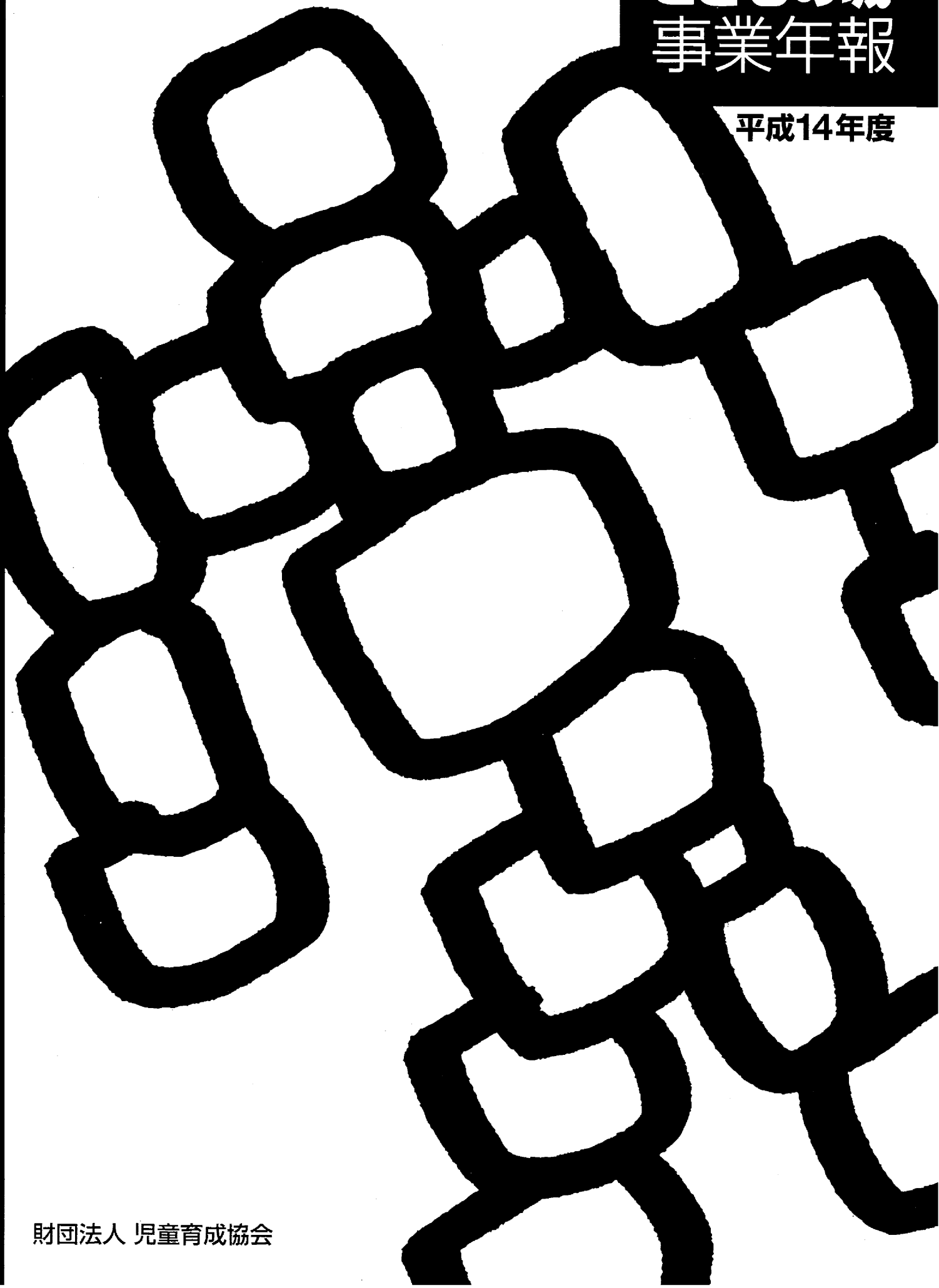
こどもの城
事業年報

平成14年度



財団法人 児童育成協会

こどもの城
事業年報

平成14年度

CONTENTS

こどもの城 事業年報 平成14年度 目次

1 事業の概要

平成14年度の活動 7
1. 〔こどもの城〕の概要 7
2. 一般事業活動 9
3. その他の活動 11
4. 国庫補助による事業活動 11
5. 開館時間・入館料（こども活動エリア） 12

平成14年度活動一覧表 13
1. 来館児・者数 13
2. グループ活動実施状況 14
3. 講座・クラブなど 15
4. 視察・見学実績 18

1年の歩み 19

2 各部の事業

体育事業部 23

平成14年度の活動 23
1. はじめに 23
2. スポーツ遊びプログラム 23
3. まとめ 24

平成14年度活動一覧表 25
1. 一般利用 25
2. 講座・クラブなど 27
3. その他 31

プレイ事業部 33

平成14年度の活動 33
1. はじめに 33
2. 学校週5日制に応えて 34
3. まとめ 35

平成14年度活動一覧表 36
1. 一般利用 36
2. 講座・クラブなど 40
3. その他 41

造形事業部 45

平成14年度の活動 45
1. はじめに 45
2. 造形発見展「建築と造形」 46
3. まとめ 48

平成14年度活動一覧表 49
1. 一般利用 49
2. 講座・クラブなど 50
3. その他 53

平成14年度プログラム一覧表 54
1. 親子プログラム 54
2. 子どもだけのプログラム 55

音楽事業部 57

平成14年度の活動 57
1. はじめに 57
2. 高学年楽器体験コーナー 58
3. まとめ 59

平成14年度活動一覧表 60
1. 一般利用 60
2. 講座・クラブなど 64
3. その他 67

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部 69

平成14年度の活動 69
1. はじめに 69
2. 第10回キンダー・フィルム・フェスティバル 70
3. サタデー・ラボラトリー 72
4. まとめ 72

平成14年度活動一覧表 73
1. 一般利用 73
2. 講座・クラブなど 74
3. その他 76

保育研究開発部 77

平成14年度の活動 77
1. はじめに 77
2. 「よちよちクラブ」と「保育クラブの夏休み保育」 77
3. まとめ 80

平成14年度活動一覧表 81
1. 一般利用 81
2. 講座・クラブなど 82
3. その他 83

小児保健部 85

平成14年度の活動 85
1. はじめに 85
2. 診療・相談活動 86
3. 「健康スポーツ教室」の取り組み 87
4. まとめ 88

平成14年度活動一覧表 89
1. 一般利用 89
2. 講座・クラブなど 90
3. その他 91

企画研修部 93

平成14年度の活動 93
1. はじめに 93
2. ボランティア活動と養成 95
3. 講座・クラブ 98
4. まとめ 98

平成14年度活動一覧表 99
1. 一般利用 99
2. ボランティアの活動 101
3. 講座・クラブなど 105

平成14年度「グループ活動」プログラム一覧 107
資料:平成14年度〔こどもの城〕来館児・者アンケート 109

劇場事業本部 111

平成14年度の活動 111
1. はじめに 111
2. 主な自主・提携公演 112

平成14年度公演演目一覧表 115
1. 青山劇場 115
2. 青山円形劇場 116
3. その他 118

広報部 119

平成14年度の活動 119
1. はじめに 119
2. パブリック・リレーションズ 119
3. 宣伝・広告 121
4. その他 121
5. まとめ 122

利用者サービス 123

平成14年度の活動 123
1. 業種別の状況 123

平成13年度の概要 124
1. 業種別の一覧 124

3 こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ 127

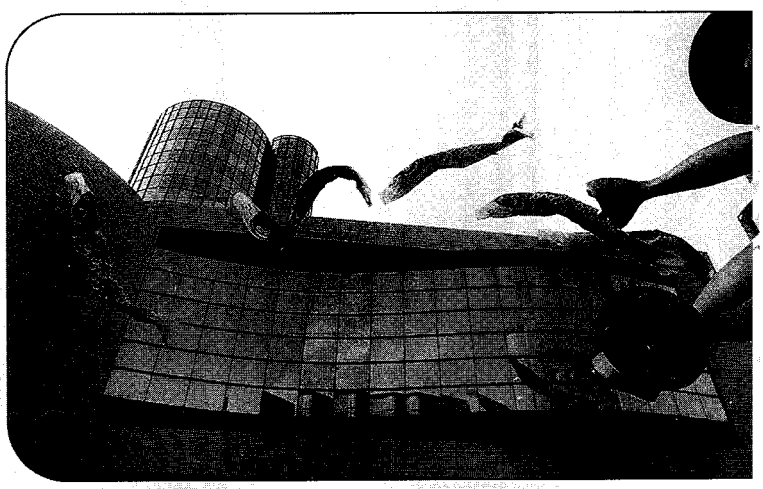
平成14年度の活動 127
1. はじめに 127
2. 動くこどもの城 128
3. 助成金による事業 128
4. まとめ 129

平成14年度活動一覧表 130
1. 講座・クラブなど 130
2. 〈動くこどもの城〉 131
3. 助成金による事業 134

1

事業の概要

事業の概要



平成14年度の活動

1.〔こどもの城〕の概要

〔こどもの城〕は昭和54年（'79）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設である。

国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5―53―1の約1万㎡の敷地に、昭和56年（'81）11月に着工され、以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階のミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、昭和60年（'85）11月1日に開館した。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

（ア）〔こどもの城〕の基本理念

〔こどもの城〕の創設にあたって、昭和54年に「こどもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、「"こどもの城"（仮称）の基本構想に関する意見」が厚生省児童家庭局長（当時）に提出された。以来、厚生労働省と（財）児童育成協会は、この基本構想を踏まえ、協力しながら〔こどもの城〕の建設にあたり、運営に取り組んできた。現在も、社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、基本構想に示された理念を大切に、より一層の充実をめざして児童のための福祉・文化活動を展開している。

〔こどもの城〕は、児童だけでなく、親をはじめ児童の福祉・文化関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うあらゆる人々が利用できるように開かれた施設である。

子どもを主な対象とした〈あそび〉のプログラムを中心に、親や児童福祉・文化関係者などの大人も視野に入れた子育て支援の活動や、育児に関する研究・研修活動にも力を入れるなど、幅広い活動を展開している。

これらの活動は、既成のプログラムにとらわれず、先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ全国に普及していくこと、そして国際的な視野に立って行われることが要請されている。

（イ）各種機能を併せ持つ総合施設

〔こどもの城〕は、乳幼児から高校生までのすべての児童を対象に、幅広い福祉・文化活動を行っている。「こども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、ＡＶ（オーディオ・ビジュアル）の各部門のほかに、保育研究開発、小児保健、企画研修、劇場（青山劇場・青山円形劇場）、広報などの部門があり、子どもを取り巻くさまざまな分野の専門スタッフが活動している。

そして、(1) 芸術・文化・科学・スポーツなどの活動による児童の健全育成　(2) 児童福祉関係者の研修・現任訓練　(3) 児童福祉に関する研究・開発　(4) 国際交流――といった各種の機能を併せ持つ総合施設として、これらの機能を相互に関連させながら運営している。

【こども活動エリア】

〔こどもの城〕の活動は、(1) 一般来館児・者を対象とした活動　(2) 団体を対象としたグループ活動　(3) 講座・クラブ活動――の3つを柱に行われている。

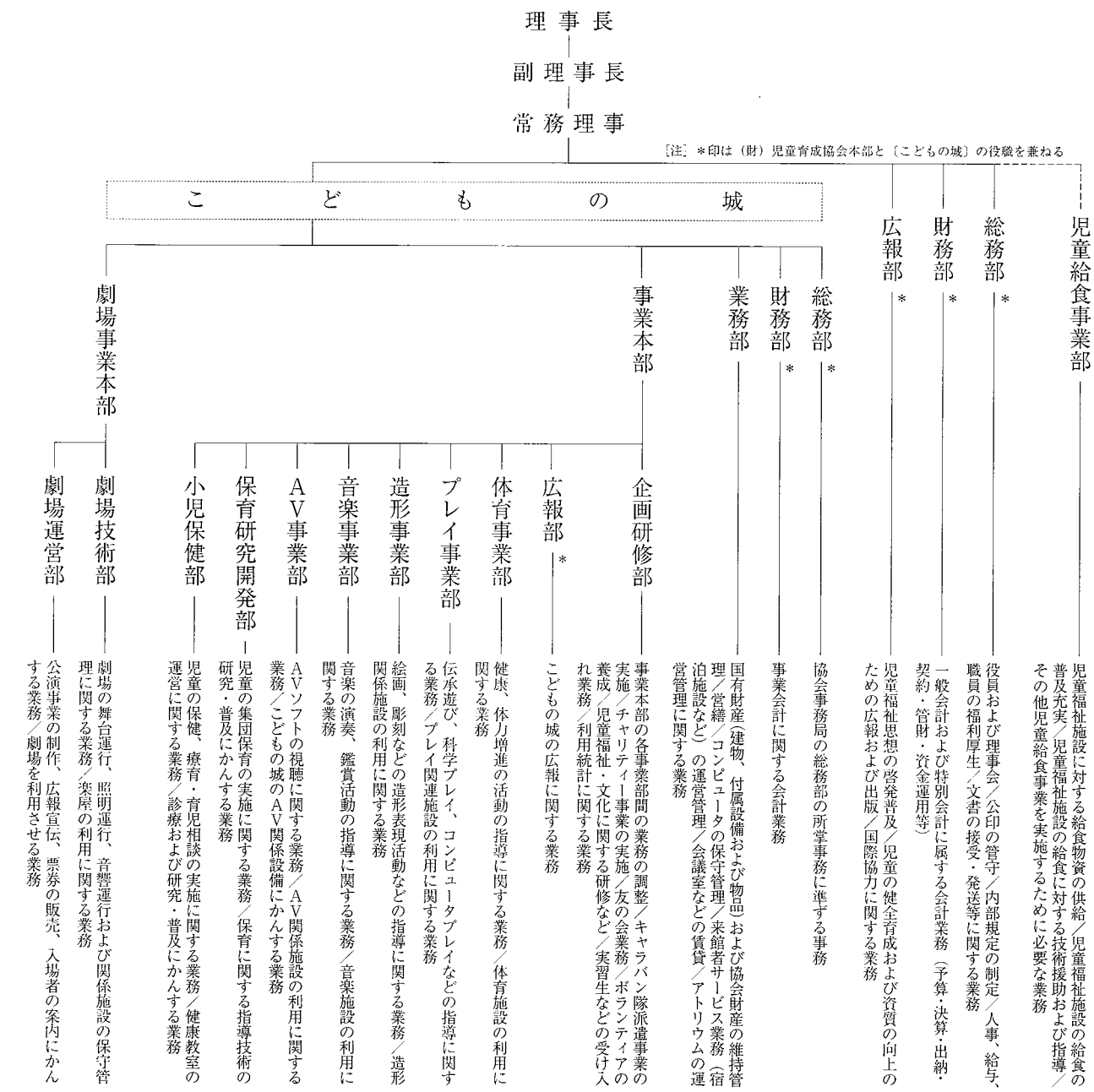
「一般来館児・者を対象とした活動」は、毎日「こども活動エリア」で行われている。〔こどもの城〕に遊びに来た子どもやその家族が楽しみながら参加、体験できるプログラムである。〈あそび〉をとおして、出会いと発見、そして仲間作りができるように工夫されたもので、初めての子どもでも、自然に〈あそび〉の輪の中に入って楽しむことが

できる。

平常期間の平日は、スタッフとのふれあいを大切にしたきめ細かいプログラムを、土・日曜日・祝日には、多くの子どもたちに対応できるようにプログラムの内容などを工夫している。また、学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）と児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、開館記念日（11月1日）の前後を特別期間とし、各部門が協力して、たくさんの人が参加できる大型のプログラムを集中的に行っている。

「グループ活動」は、保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持った子どものグループを対象に、平日の午前中に行っている。一般来館児・者の活動や講座・クラブ活動の経験をもとに、〔こどもの城〕ならではのプログラムを開発し、積極的に受け入れている。

【〔こどもの城〕組織機構図】（平成15年3月31日現在）



部＼職員数	一般	嘱託	計
総務	3	0	3
財務	5	0	5
広報	3	0	3
業務	19	0	19

部＼職員数	一般	嘱託	計
事業本部	1	0	1
企画研修	8	0	8
体育事業	7	1	8
プレイ事業	8	0	8
造形事業	4	0	4

部＼職員数	一般	嘱託	計
音楽事業	4	0	4
AV事業	6	0	6
保育研究開発	8	1	9
小児保健	5	0	5

部＼職員数	一般	嘱託	計
劇場技術	7	0	7
劇場運営	7	0	7
劇場事業本部	1	0	1
合計	96	2	98

「講座・クラブ」は、平日を中心に〔こどもの城〕の整った施設・設備を利用して実施している。幼児と親が一緒に受講するもの、就学前の幼児を対象にするもの、小学生から高校生までを対象にするもの、高校生から一般成人、さらに専門家を対象にするものなど50種類を超える講座・クラブを行っている。

【その他の活動】

「こども活動エリア」の各部門のほかに、先駆的な保育の実践と保育士などの研修事業を主とする保育研究開発部門、子どもの心や体の健康、育児相談などの家庭支援に取り組む小児保健部門、円滑な事業の推進をはかるために各部門間の調整や〔こどもの城〕に協力するボランティアの養成とコーディネート、全国の児童館などで子どもに遊びを指導する職員などの研修事業を担当する企画研修部門、〔こどもの城〕の活動への理解と周知をはかるために働きかけを行う広報部門、宿泊施設や研修室などの運営にあたっている利用者サービス部門などがあり、〈あそび〉をとおして直接子どもたちとふれあう活動だけでなく、研究や研修活動など幅広い活動を展開している。

【青山劇場・青山円形劇場】

〔こどもの城〕には、上記部門のほかに青山劇場・青山円形劇場の2つの劇場がある。あらゆる世代の人々が、それぞれの視点で楽しめ、見終わった後に対話が生まれるような、真の意味での“ファミリー向け”の演目を上演している。自主公演はもとより、貸し劇場の場合でも、企画の内容を吟味し、〔こどもの城〕の劇場としてふさわしいものを選んで上演している。

(ウ)〔こどもの城〕の組織機構と役員

〔こどもの城〕の組織機構と(財)児童育成協会の役員は別表のとおりである。

【(財)児童育成協会役員】(平成15年3月31日現在)

役員	氏名	
理事長	高峯　一世	
副理事長	小山　敬次郎	目白大学教授
常務理事	本橋　紘	
理事	今泉　昭雄	(社福)全国心身障害児福祉財団理事長
理事	大野　出穂	
理事	上村　一	(社福)恩賜財団母子愛育会会長
理事	品川　正治	日本興亜損害保険(株)相談役
理事	篠原　徹	日本商工会議所常務理事
理事	成瀬　健生	東京経営者協会参与
理事	山口　規容子	総合母子保健センター愛育病院名誉院長
監事	秋山　昭八	弁護士
監事	藤間　秋男	公認会計士

2. 一般事業活動

(ア)来館児・者数

本年度の〔こどもの城〕来館児・者数は、一般有料来館児・者が255,154人、劇場入場者が350,910人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室やホテル関係の利用者を加えた総数は925,043人となった。

有料来館児・者数については、前年度に比べ2,529人増となった。

【来館児・者数の推移(対前年度比較)】

	平成13年度実績(A)	平成14年度実績(B)	差し引き増減(A−B)
有料来館児・者数	252,625	255,154	2,529
3歳未満児(推計)	60,349	60,119	▲230
招待者	44,163	43,592	▲571
劇場入場者	309,832	350,910	41,078
講座・クラブ利用者	61,697	66,077	2,750
営業部門(研修・会議室および宿泊施設関係利用者)	142,806	149,191	4,380
計	871,472	925,043	53,571

(イ)一般来館児・者のための活動

【平常期間】

幼児と母親の来館が多い平日は、親子がゆっくりと過ごせる環境作りや気軽に参加できるプログラム作りに留意した。また、「平日ゆうゆうパス」の発売・利用促進、渋谷・港区内の小学校の創立記念日に児童を無料招待するなど、リピーターや新たな来館児・者の獲得への努力をした。

特に、本年度から小・中学校が週5日制(完全週休2日)になったことに対応して、土曜日には高学年を対象としたプログラムの充実をはかるとともに、土曜日専用の「小・中学生土曜日パス」を新設した。父親を含めた親子連れが多い日曜日・祝日には、親子が一緒に参加できるプログラムの充実に努めた。

また、日替わりプログラムや「端午の節句」「七夕」「お正月」「節分」「ひなまつり」といった季節行事、造形スタジオにおける「建築」のような年間をとおしたテーマの設定によって活動に変化をもたせ、来館児・者に新鮮な魅力を感じてもらえるように努めた。

【特別期間】

学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）の期間および児童福祉週間、11月1日の〔こどもの城〕開館記念日を中心とした数日を特別期間とし、多数の来館児・者が同時に楽しめるようなプログラム作りと、施設利用の工夫をした。

屋上などを含め全館を使った大がかりな企画を各部門協力のもとに行い、親子がそろって参加したいと思うような、魅力あるプログラムを展開するとともに、このようなプログラムが1回限りではなく、シリーズ化され定着するように努力した。

夏休み特別期間には、「形で遊ぶ」をテーマにしたギャラリーでの展示、「人形劇カーニバル」、じっくり取り組める一日完結型の短期講座などを行った。

リピーターの便宜を考え、夏休み期間限定の「わくわくパス」（大人用）、「ドキドキパス」（子ども用）の制度を推奨するとともに、渋谷駅周辺の展示・体験施設5館（NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館、こどもの城）で共催して「渋谷スタンプラリー」を開催して、共同でPRすると同時に連携をはかった。

【外部団体・企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体・企業の協力を得て、積極的に事業展開を行った。

夏休み特別期間の恒例プログラムになった「キンダー・フィルム・フェスティバル」(ベルリン国際映画祭の子ども映画部門と提携して行われている、子どものための映画祭)は10回目を迎え、本年度も多数の観客が集まった。

3月には、これも恒例となった「ニッサンゆかいな絵本と童話展」を日産自動車（株）との共催で実施した。

（ウ）講座・クラブ活動

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうために、講座・クラブ活動を実施した。

講座34種54コースを開催し受講者数は1期1,322人、2期1,343人、3期1,264人であった。クラブは6種6コースで受講者数は950人、講習会（1か月以上のもの）は、9種22コースで543人であった。

このほか、夏休み、春休み特別期間に体育、造形、音楽などの各部門で短期講習会（16種130コース、1,968人受講）を行うと同時に、専門指導者向け講習会（13種24コース、915人受講）を実施した。

（エ）グループ活動

平日〔こどもの城〕開館前の午前中を利用して、ハンディキャップを持った子どものグループ、保育所・幼稚園および小学生のグループを対象に、各部門がグループ向けの特別プログラムを提供している。

本年度は、134グループ、3,144人（前年度は131グループ、3,084人）を受け入れた。

（オ）保育研究開発・小児保健（クリニック）

保育研究開発部では、保育事業の3つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施したほか、「育児相談のケースカンファレンス」「ニュースレターの発行」「保育セミナー」の開催など、保育関係者のための研修プログラムを積極的に実施した。

また、来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「土曜企画」などにも積極的に取り組んだ。

小児保健部では、小児保健クリニックでの診療・相談を実施したほか、各部門と連携して、「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「親と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」「マタニティ・スイミング」などを継続して実施した。

診療・相談件数については、前年度に比較して延べ件数で110件の増加となっている。その内訳は、医師の診療（保険適用）30件、心理発達相談74件、初診（新規来所者）6件となっている。

また、小児保健関係者のための研修会「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」や「赤ちゃんサロン」を実施した。特に音楽ロビーを使い月2回実施している「赤ちゃんサロン」は、若い母親たちの育児相談、交流の場として、年間2,714人にもおよぶ参加者を集め、好評を得ている。

（カ）劇場事業

自主公演としては青山劇場で1公演、青山円形劇場で5公演、提携公演としては青山劇場で3公演、青山円形劇場で8公演を実施した。

このうち、「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ『とびこむ絵本』」は平成14年度児童福祉文化賞推薦作品（舞台芸術部門）に選ばれた。また、青山劇場および青山円形劇場での『ダンスビエンナーレ TOKYO 2002 BAGNOLET』は、日本芸術文化振興基金、東京国際交流財団、国際交流基金の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与については、青山劇場28件、青山円形劇場46件で、国費による工事期間などを除いた稼働状況は、下表のとおりである。

	使用可能日数	使用日数	稼働率（%）
青山劇場	341	281	82.4
青山円形劇場	364	328	90.1
計	705	609	86.3

(キ) 利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の営業を行った。

また、各種の研修・会議などに研修室を貸与し、広範な利用者の確保に努力した。

とくに、宿泊施設の利用者にはインターネットを通じての照会が多いことから、従来の電話予約に加え、インターネット上からの予約システムを併用し、1,134件の予約を受けた。これは全体の利用件数の14.4%に相当する。

3. その他の活動

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解・認識してもらうとともに、利用者の増加をはかることを目的に、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱は――、

(1) 『こどもの城ニュース』の発行(年11回)
(2) 各種広報資料(パンフレット、ちらしなど)の作成・配付
(3) 月刊誌『こども未来』(こども未来財団発行)をとおして〔こどもの城〕の活動内容の紹介
(4) 新聞・テレビ・雑誌などをとおしての広報
(5) 広報企画の推進

――などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間204件にのぼった。

また、年度末に「こどもの城ホームページ」の全面改訂を行い、総情報量は2,000ページと従来の約8倍になった。アクセス数は「こどもの城ホームページ」が、161,982件(前年比1.66倍)、「青山劇場ホームページ」は2,530,206件(前年比1.88倍)であった。

(イ) こどもの城友の会

常に加入の呼びかけを行い、平成15年3月31日現在の会員数は、1,347家族となっている。

(ウ) 国際交流

京浜地区の外国人学校の合同造形展「アートスケープ展」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカの民族楽器を紹介するなど、気軽で自然な国際交流をめざした。

(エ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて、〔こどもの城〕の各部門をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れている。本年度は、実習生24人、研修生37人を受け入れた。

(オ) 講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会・セミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請により、講師派遣という形で職員が各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。本年度の派遣実績は、133件であった。

(カ) 助成金による事業

社会福祉・医療事業団の「子育て支援基金」からの助成を受け、異世代間の遊びをとおして子育て支援を行う「こどもの城ファミリーフェア事業」、ボランティアとの交流をとおして子どもたちの健全育成に取り組む「小・中学生ボランティア交流事業」、および乳幼児を持つ母親を中心とした子育てサークルのネットワーク化を推進する「子育てサークルネット支援事業」を行った。

また、日本財団の助成を受けて、音楽と声優の読み語りによる『おはなしコンサート』を実施した。

4. 国庫補助による事業活動

以上の諸活動に加え、〔こどもの城〕が全国の児童館等のセンター的役割を果たすため、国から助成を受けて次のような事業を行った。

(ア) 啓発活動

児童の健全育成にかんする月刊誌『こども未来』(こども未来財団発行)を購入し、中央官庁、地方公共団体、社会保険事務所、各県経営者協会および商工会議所、中央児童福祉審議会委員などの関係者に配付した。

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発・蓄

プログラム	巡回支援活動	巡回実技指導
音楽関係	4か所	4か所
映像・パソコン関係	2 〃	3 〃
体育関係	5 〃	6 〃
乳幼児と親子への支援	6 〃	6 〃
絵本関係	1 〃	1 〃
折り紙作品の展示	12 〃	−
昔遊び・グループ遊び	5 〃	4 〃
造形活動	2 〃	1 〃
計	37か所	25か所

積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、あわせて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発につとめた。

巡回支援活動事業は、佐賀県ほか19都道府県で37か所（前年度22か所）、巡回実技指導事業は長野県ほか19都道府県で25か所（前年度18か所）実施した。

（ウ）中央児童厚生施設活動推進事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充などをはかるための事業を行った。

本年度末までのボランティア講習修了者は2,229人となり、うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されているのは401人。本年度中に〔こどもの城〕の事業活動に参加した人は、延べ5,660人にのぼっている。

5. 開館時間・入館料（こども活動エリア）

（ア）平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平　日	午後 0 時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日	午前10時00分～午後5時30分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館。開館時間は、午前10時～午後5時30分）

（イ）特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）は特別期間とし、多数の来館児・者が同時に楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。特別期間の日程は下記のとおり。

■児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間■
4月27日～5月6日（4月30日は休館）

■夏休み特別期間■
7月20日～9月1日（毎日開館）

■こどもの城ファミリーウイーク（開館記念）特別期間■
10月26日～11月4日（10月28日は休館）

■冬休み特別期間■
12月21日～平成15年1月7日
（12月28日～1月2日は休館）

■春休み特別期間■
3月26日～4月6日（毎日開館）

（ウ）入館料・優待パス

【一般入館料】

一　般	18歳未満		400円
	（保護者が同伴した3歳未満児は無料）		
	18歳以上		500円
回数券	18歳未満（6枚つづり）		2,000円
	18歳以上（6枚つづり）		3,000円
団　体（20人以上）		18歳未満	320円
		18歳以上	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）	18歳以上	3,000円
わくわくパス（夏休み期間限定）	18歳以上	1,800円
ドキドキパス（夏休み期間限定）	18歳未満	1,500円
小・中学生土曜日パス（1年間有効）	小・中学生	2,500円

平成14年度活動一覧表

1．来館児・者数

	一般来館児・者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	大人	10,240	29,303	22,256	7,064	29,320	12,954	71,577
	子ども	10,505						
	団体	501	推計					推計
	招待など	8,057	(34,428)					(76,702)
5月	大人	10,155	27,867	33,097	7,948	41,045	13,719	82,631
	子ども	6,886						
	団体	489	推計					推計
	招待など	10,337	(32,951)					(87,715)
6月	大人	8,533	25,970	35,914	7,852	43,766	13,867	83,603
	子ども	7,016						
	団体	833	推計					推計
	招待など	9,588	(30,243)					(87,876)
7月	大人	10,221	32,427	27,594	4,412	32,006	15,572	80,005
	子ども	10,053						
	団体	3,862	推計					推計
	招待など	8,291	(37,543)					(85,121)
8月	大人	23,555	69,355	26,427	8,316	34,743	10,474	114,572
	子ども	25,676						
	団体	7,399	推計					推計
	招待など	12,725	(81,141)					(126,358)
9月	大人	9,769	26,236	16,420	7,041	23,461	11,547	61,244
	子ども	7,895						
	団体	471	推計					推計
	招待など	8,101	(31,236)					(66,137)
10月	大人	7,672	24,079	18,909	9,961	28,870	12,724	65,673
	子ども	6,067						
	団体	918	推計					推計
	招待など	9,422	(27,922)					(69,516)
11月	大人	8,660	25,417	20,625	7,852	28,477	13,052	66,946
	子ども	6,636						
	団体	1,176	推計					推計
	招待など	8,945	(29,753)					(71,282)
12月	大人	6,091	18,085	21,814	8,975	30,789	9,588	58,462
	子ども	5,522						
	団体	741	推計					推計
	招待など	5,731	(21,136)					(61,513)
平成15年 1月	大人	7,986	28,167	9,043	7,469	16,512	10,528	55,207
	子ども	7,019						
	団体	5,003	推計					推計
	招待など	8,159	(32,165)					(59,205)
2月	大人	6,479	21,579	1,080	4,450	5,530	12,430	39,539
	子ども	5,184						
	団体	1,959	推計					推計
	招待など	7,957	(24,825)					(42,785)
3月	大人	10,724	36,338	29,898	6,493	36,391	12,736	85,465
	子ども	10,580						
	団体	2,678	推計					推計
	招待など	12,356	(41,706)					(90,833)
計	大人	120,085	364,823	263,077	87,833	350,910	149,191	864,924
	子ども	109,039						
	団体	26,030	推計					推計
	招待など	109,669	(424,942)					(925,043)

注）「一般来館児・者」の"推計"は、3歳未満児の推定来館児数を含めたものである。
「招待など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。
「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	養護学校	盲学校	小学校特殊学級	障害児施設	障害児グループ(幼児)	自主保育グループ	計
件数		28	53	14	2	14	3	16	1	1	2	134
月別内訳	4月		2	1					1			4
	5月	1	4				1					6
	6月	4	3			1		5				13
	7月		1			1	1	1				4
	8月											
	9月	2	1			4						7
	10月		1		1	6						8
	11月	3	10	3		1		1				18
	12月	6	2	3							1	12
	平成15年 1月	2	11	3				5			1	22
	2月	7	12	3	1	1	1	3				28
	3月	3	6	1				1		1		12
地域別内訳	東京都 区	28	51	14	1	9	3	12		1	2	121
	東京都 市					2		4	1			7
	他府県		2		1	3						6
参加児童数別内訳	10人未満	1	1			6	2	9	1			20
	10~19	17	18	4	1	3	1	6			2	52
	20~29	9	13	9	1	4		1		1		38
	30~39		8	1		1						10
	40~49		3									3
	50~59		2									2
	60~79	1	3									4
	80~99		5									5
	100~149											
	150人以上											
参加児童数	延べ人数	564	1,805	285	37	217	23	157	3	23	30	3,144
	1件当たり人数	20.1	34.1	20.4	18.5	15.5	7.7	9.8	3.0	23.0	15.0	23.5
引率者数		89	236	30	2	156	18	96	6	23	1	657
付添者数		42	57	4		29	11	1		10	18	172
活動部門	体育	4	18			1		2			1	26
	プレイ	15	19	4		5		5				48
	造形	3	15	6	1	1		5		1		32
	音楽	5	17			7	3	4	1		1	38
	AV	3	13	4	1	1		2				24
	プレイ自由	27	44	13		6	3	9	1		2	105
	AV自由	2				1						3

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	親子水泳	幼児・親	1年 2コース	60（組）
	幼児水泳	幼児	〃 5〃	270（人）
	幼児体育	〃	〃 3〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 7〃	380
	シニア・スイミング	小・中学生	〃 2〃	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	〃	〃 1〃	30
	小学生体育	小学生	〃 2〃	60
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1〃	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	〃 1〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1〃	15
プレイ	キッズクラブ	小学生	〃 1〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1〃	40
造形	こどもクリエイティブクラブ（クレイワーク）	〃	〃 1〃	20
	〃（ゆかいな造形）	〃	〃 1〃	20
	〃（親子でアート）	幼児・親	〃 1〃	10（組）
	〃（絵本の世界へ）	小・中学生	〃 1〃	20（人）
	〃（ハンズワーク）	小・中・高校生	〃 1〃	20
	映造ワークショップ	〃	〃 1〃	10
音楽	おかあさんもいっしょリトミック	幼児・母親	〃 3〃	60（組）
	リズム・ムービング	幼児	〃 2〃	32（人）
	リズム・ムービング&パーカション	小学生	〃 1〃	15
	おとなのためのリズム・ムービング	18歳以上	〃 1〃	15
	合唱講座	小学生	〃 1〃	30
	児童合唱団	合唱講座修了者	〃 2〃	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃 1〃	15
	三味線	〃	〃 2〃	24
	混声合唱	高校生以上	〃 1〃	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	〃 1〃	12
	エレクトリック・アンサンブル	中・高校生	〃 1〃	8
	パーカッション・アンサンブル	小・中・高校生	〃 1〃	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	〃 1〃	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	〃 1〃	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小学生（肥満児）	〃 1〃	20
	親と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉	ダウン症幼児・親	〃 1〃	15（組）
合計	34種		54コース	1,621

〈クラブ〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通年 1コース	−
	レディース・コース	一般女性	〃 1〃	150（人）
	マタニティ・スイミング（4月〜12月）	〃	〃 1〃	420
保育	幼児グループ	幼児	1年 1〃	22
	保育クラブ	〃	〃 1〃	400
企画研修	L．I．T．（高校生ボランティア）	高校生	〃 1〃	30
合計	6種		6コース	−

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（1・2歳）	幼児・母親	3か月 3コース	60（組）
	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2・3歳）	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくランド Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	〃	〃 3 〃	60
	ぱちゃぱちゃファミリースイム Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・保護者	〃 3 〃	90
プレイ	小学生パソコン教室 ⅠA	小学生	2か月 1 〃	20（人）
	小学生パソコン教室 Ⅱ	〃	〃 1 〃	20
音楽	おんがく星みつけた Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・母親	3か月 3 〃	90（組）
保育	親子教室	幼児・親	〃 3 〃	48
企画研修	手話講座（前・後）	高校生以上	5か月 2 〃	60（人）
合計	9種		22コース	216

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	夏休みこども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5日間 2コース	100（人）
	〃 （B・D）	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1 〃	30
	春休みこども集中水泳講習 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 〃	240
プレイ	春休み小学生パソコン教室スペシャル	小学生	5日間 1 〃	20
造形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 35 〃	525
音楽	夏休み手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生の親子	〃 17 〃	510
	大人のためのガムラン体験講座	一般	〃 4 〃	60
	親子のためのガムラン体験講座	小・中・高校生の親子	〃 1 〃	15
AV	夏休み映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	1日 44 〃	440
	映像技術セミナーシリーズ	一般	2日間 3 〃	90
	ビデオとパソコン基礎講座	〃	1日 1 〃	20
小児保健	夏休みこども1日ドック	小・中学生	〃 1 〃	10
	季節の離乳食講習会 春夏秋冬	乳児・母親	〃 4 〃	50
劇場	ダンスビエンナーレ TOKYO 2002 フォーラム	一般	〃 6 〃	300
	〃 ワークショップ	小・中学生／一般	〃 8 〃	240
	日本の音楽シリーズ「日本の太鼓」ワークショップ	小学生～一般	〃 8 〃	220
	〃 「日本のふるさと弦楽器」ワークショップ	〃	〃 4 〃	120
合計	20種		156コース	3,160

〈専門指導者向け講習会等〉

部　門	プ　ロ　グ　ラ　ム　名	対　象	コ　ー　ス	総　定　員
A　V	プロフェッショナルビデオ講習会	指導者・一般	3コース	80（人）
	現代アニメーション講座	〃	3　〃	180
保　育	保育セミナー	保育関係者	1　〃	150
	育児関係者が行う子育て研修会（基礎編）	育児相談担当者	2　〃	260
	育児関係者が行う子育て研修会（応用編）	保育関係者	3　〃	150
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	養護教諭など	1　〃	50
	小児保健セミナー	保育士・保健師など	1　〃	100
	最新の小児保健の基礎と実際	〃	1　〃	40
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2　〃	100
	つくって演じる人形劇	〃	2　〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3　〃	140
	ボランティア講習会	18歳以上	2　〃	60
	女性ボランティア講習会	一般女性	1　〃	20
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2　〃	60
合　計	13種		24コース	1,270

4. 視察・見学実績

年度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体		児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの団体		海外からの視察・見学		その他		計	
昭和60年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
平成14年度 4月	(2)	7	(10)	15	(0)	0	(1)	1	(13)	23
平成14年度 5月	(1)	1	(18)	48	(1)	12	(2)	3	(22)	64
平成14年度 6月	(1)	1	(17)	115	(1)	25	(1)	2	(20)	143
平成14年度 7月	(3)	17	(19)	177	(1)	8	(0)	0	(23)	202
平成14年度 8月	(2)	5	(26)	91	(3)	42	(0)	0	(31)	138
平成14年度 9月	(1)	1	(4)	19	(0)	0	(0)	0	(5)	20
平成14年度 10月	(0)	0	(22)	184	(6)	72	(0)	0	(28)	256
平成14年度 11月	(1)	3	(17)	253	(2)	39	(2)	3	(22)	298
平成14年度 12月	(2)	5	(21)	74	(0)	0	(0)	0	(23)	79
平成14年度 1月	(0)	0	(3)	6	(1)	10	(0)	0	(4)	16
平成14年度 2月	(0)	0	(20)	104	(0)	7	(2)	29	(22)	133
平成14年度 3月	(0)	0	(12)	126	(2)	0	(0)	0	(13)	129
平成14年度 合計	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
累計	(1,423)	10,829	(2,142)	24,119	(346)	3,260	(327)	3.110	(4,238)	41,318

注）（ ）内は、団体数
「海外からの視察・見学」は、韓国、中国、台湾、アメリカなど。
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月　日	事　項
4.	学校週5日制（週休2日）に対応して、土曜日の小中学生向けプログラムの充実をはかる（ビッグ・サタデー＝体育室、サタデーラボラトリー＝フリーホールほか、高学年楽器体験コーナー＝音楽ロビー、高学年コーナー・造形実験室＝造形スタジオ）。あわせて「小・中学生土曜日パス」（1年間有効）を発売。
4.27～5.6	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間「元気印の〈あそび〉を食べて 五月の空を ひとおよぎ」＝キャッスルファンタジー2002～不思議ケ丘の魔法使い～／もうすぐサッカーワールドカップ～名ストライカーへの登竜門～／わいわいスタジオ音楽の世界旅行～ワールドカップ参加国特集～／こども歳時記「端午の節句」／きみもパソコンアニメーターほか
5.18	子育て相談研修会「応用編」第1回（第2回は11月30日、第3回は平成15年1月25日に開催。研修室）
5.22、29	平成14年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「パソコン遊び」（パソコンルーム）
6.12	公開講座「みんなで子育て」平成14年度第1回「"育つ力"を信じよう～親の子離れと子の自立～」（研修室）
6.29	子育て相談研修会「基礎編」第1回（第2回は10月26日に開催。研修室）
7.7	こどもの城マタニティコンサート（青山円形劇場）
7.20～8.31	夏休み特別期間「元気印の あそび はじける 夏休み」＝汗はすばらしい友だち～世界スポーツめぐり～／造形発見展「建築と造形」／世界の楽器にチャレンジしよう！～面白楽器商店街／不思議な映像実験室「絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ」／つくって遊ぼう親子工房～トンボをつっかまえて～／ギャラリー企画展「○・△・□形であそぼう」／ウオーターアドベンチャー2002～西部の決闘～など
7.23～25	月猫えほん音楽会2002（青山円形劇場）
8.2～10	第10回キンダー・フィルム・フェスティバル（Bスタジオ、青山円形劇場）
8.3・4	こどもの城保育セミナー「子どもと生活・家庭と文化 PART Ⅲ」（研修室）
8.7～18	ダンスビエンナーレ TOKYO 2002（青山劇場・青山円形劇場） ※フォーラム、ワークショップも開催
8.19・20	日本の音楽シリーズ (1)「日本の太鼓 林英哲・大倉正之助・木津茂理」ワークショップ&デモンストレーションライブ（青山円形劇場ほか）
8.23～29	こどもの城×ジーツープロデュース・ファミリー公演「おじいちゃんの夏」（青山円形劇場）
9.11	Thank you! Broadway! vol. 2（青山劇場）
9.25	公開講座「みんなで子育て」平成14年度第2回「どこからが、わがまま～自己主張とがまん～」（研修室）
10.23～25	平成14年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「～古いけれど新しい～伝承遊び徹底研究」（研修室ほか）
10.26～11.4	開館記念特別期間期間ファミリーウイーク2002＝親子三代 みんなでレクリエーション／第9回親子体験ワークショップ／人形あそびのワークショップ～わくわくパペットランド／秋のチャレンジゲーム大会／うつしとるとるなぞってアート／つくって遊ぼう親子工房「こまのフ～ゥ～」ほか
10.26～11.17	全国児童館おりがみ作品展・第9回おりがみカーニバル（ギャラリー）
10.30	赤ちゃん大集合（研修室ほか）
11.3	子育てママの悠遊タイム～クリスマスボールのオーナメントをつくろう（研修室）
11.9	第17回小児保健セミナー「虐待とその周辺～不適切なかかわりとその対応」（研修室）
11.23・25	あそびのおもちゃ箱（フリーホール）
12.21～平成15年1.7	冬休み特別期間「冬休みはこどもの城へ大集合ー！ あそびでホット」＝新春昔あそび～つくってあそんでお正月／世界スポーツめぐり［日本・アジア編］相撲！こどもの城場所／パソコンでデザイン！～わくわく☆カレンダー／こども歳時記「お正月」ほか
1.2～8	第15回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本Ⅱ～天使と人魚がトコトコと～」（青山円形劇場）
1.12	おひさまおはなしコンサート～心をこめた贈り物～（青山円形劇場）
1.22～24	平成14年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「つくる 育む 子育てサークル～児童館の子育てサークルとは～」（研修室）
1.25・26	日本の音楽シリーズ (2)「日本のふるさと弦楽器～ワークショップ&デモンストレーションライブ」（青山円形劇場ほか）
2.5	公開講座「みんなで子育て」平成14年度第3回「みんなで子育て～社会・家族の役割～」（研修室）
2.14・15	第2回子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康0．1．2歳児」（研修室）
2.28～3.9	アートスケープ展（ギャラリー）
3.13～15	女性ボランティアによる「あそびのポケット～おみせやさんごっこ」（フリーホール）
3.16	輝 2003 新体操発表会（体育室）
3.21～23	ぼくらのサウンド2003（青山円形劇場）

利用案内

●開館時間

平　　日　　午後0時30分～午後5時30分

土・日曜日・祝日
学校の季節休み中　　午前10時00分～午後5時30分

●休館日

毎週月曜日

（月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。
また、学校の季節休み等には休館日が変則となることがあります。）

●入館料

こども 400円（3歳以上18歳未満）　おとな 500円

（20人以上の団体は、こども320円、おとな400円です。
事前にご連絡ください。）

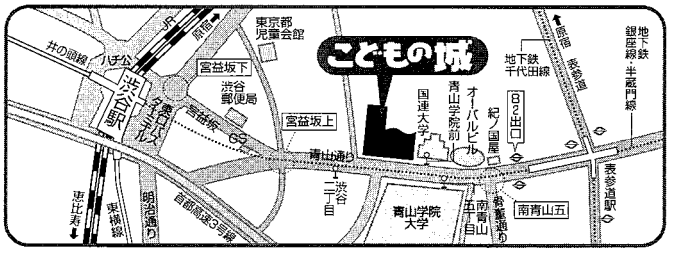
●交通案内

・渋谷駅　　徒歩10分（東口／宮益坂側）
JR山手線・埼京線／東急東横線・新玉川線／
京王井の頭線／営団地下鉄銀座線・半蔵門線
○渋谷駅（東口バスターミナル）から都営バスが
ご利用いただけます。
新橋駅北口行（渋88）　「青山学院前」下車すぐ

・表参道駅　徒歩8分（B2出口）
営団地下鉄銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場（地下）

有料・約80台収容・車高制限2m
日曜日・祝日は混み合いますので、なるべく電車・バスで
ご来館ください。



財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http://www.kodomono-shiro.or.jp/

2

各部の事業

体育事業部



平成14年度の活動

1．はじめに

体育事業部の活動は、講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブが中心であるが、土・日曜日、祝日は一般来館児・者向けに体育室でスポーツ遊びのプログラムを実施したり、プールの開放を行ってきた。

子どもたちの体力低下が騒がれている今日、〔こどもの城〕に遊びに来る子どもたちに体を動かす楽しさを伝え、いかに体力を向上させるかが、使命であると考えている。25m×5コースの温水プール、バスケットボールコート約1面分の広さの体育室を中心に、楽しみながら体力が向上できるようにしている。

（ア）一般利用

最近は、遊ぶ場所がない、遊ぶ友だちがいない、遊ぶ時間がない――子どもを取り巻く環境はないないづくしで、体力はつけたいがつけられないのが現状である。遊ぶ内容も変わってきたようである。ビデオゲームの普及により、家で遊ぶことが多くなり、友だちと一緒にいるときでさえ会話することもなく、別々のことをして遊んでいることがあると耳にする。体を使って遊ぶ、体を動かして遊ぶことは以前に比べて非常に少なくなっている。

そこで、〔こどもの城〕に遊びに来る子どもたちに、“動く”楽しさ、楽しみを体験してもらうために、土・日曜日、祝日に、体育室でスポーツ遊びを楽しむプログラムを行った。学校体育では体験できないユニークな練習や幼児も楽しめる試合を行ってきた。毎回参加している子ども同士が顔見知りになり、友だち作りの場にもなっている。小学校のドッジボールは嫌いだけど、〔こどもの城〕のドッジボールは好き、という声も聞かれた。

（イ）講座・クラブなど

親と子、そして幼児から小学生の水泳と体育、ちょっと変わったものとしてジュニア・シニアの新体操の講座がある。講座は主に週1回（新体操は2回）であるが、子どもたちは毎週元気に通ってきている。受講生は、八王子など遠方から通ってくる子どももいるが、渋谷区など近隣の区が大多数を占めている。

年度の後半には、活動の成果を発表する「水泳記録会」「新体操発表会」を設けている。自己タイムの向上をめざす「水泳記録会」では、今年度もよい記録が生まれた。「新体操発表会」では、初めて採点法を導入。対象となる個人の部では、今までにない緊張感あふれる演技が体育室で繰り広げられた。

2．スポーツ遊びプログラム

（ア）汗はすばらしい友だち

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年間でテーマを決めてプログラム作りをしている。本年度は「汗はすばらしい友だち」がテーマ。日常のさまざまな活動のなかで、汗をかく場面に出合う。そのとき子どもたちから「汗をかいて気持ち悪い」「汗をかくからやりたくない」という声がたびたび聞かれた。

体を動かせば汗がでてくるのは人間の生理。冷や汗、あぶら汗など、いろいろな汗がある。気持ちの悪い汗もある


ビッグサタデー「サッカー」


ビッグサタデー「フライングディスク」

が、スポーツでかく汗は気持ちがいいものであることを子どもたちに伝えたいと考えて、「汗はすばらしい友だち」というテーマを設定した。汗をかくことをいやがる子どもたちの意識改革のつもりで考えた。

前年度のテーマ“おにごっこはスポーツの原点だ”は、鬼ごっこにはスポーツと似ているところがあることに着目し、鬼ごっこからスポーツへ発展させることを柱に活動してきた。本年度は、気持ちのよい汗を流すことができるスポーツをもういちど見つめてみようと、世界中のさまざまなスポーツを体験することにした。

タイトルを“汗はすばらしい友だち～世界スポーツめぐり”にして、児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間は、FIFAサッカーワールドカップ2002（日韓共催）にさきがけて、サッカーを取り上げた。夏休み特別期間は、欧米編、冬休み特別期間は日本・アジア編、そして春休み特別期間は総集編「スポーツぶらり旅」を行った。日本・アジア編では、日本の国技である相撲を中心に「相撲！こどもの城場所」――新弟子検査から幕内に出世して、グループ（相撲部屋）対抗で腕相撲、脚相撲、尻相撲、ケンケン相撲、ふつうの相撲など、さまざまな相撲遊びの取り組みを行った。

（イ）ビッグサタデー

学校週5日制にともない、小学校4年生以上を対象とした「ビッグサタデー」を平常期間の土曜日の午前中に実施した。サッカー、タグラグビー、バスケットボール、フライングディスクなど、2か月交代でいろいろなスポーツを取り上げた。

土・日曜日、祝日に体育室で行っているスポーツ遊びのプログラムとは違った内容。それぞれのスポーツ固有の体の使い方を指導したり、ルールを掘り下げて戦法や戦術などをふまえた練習や試合を行った。技術を磨くコツなど、高学年なら理解し、体を動かすことができるものを紹介。クラブ活動的な雰囲気作りにつとめた。

定期的に参加してもらえるように、参加者には住所を書いてもらい、種目が替わるごとにダイレクトメールを送るなど、子どもたちとスタッフの関係作りなどに工夫した。

3. まとめ

平成17年度には、〔こどもの城〕が開館して20周年を迎える。体育事業部の活動の柱である講座・クラブ、講習会もいくつかの変更はあったにせよ、開館以来継続して運営してきた。最近は、ハッピーマンデーの導入にともない、定例休館日が火曜日にずれこむことが多くなり、火曜日の講座開催日数の確保が難しくなってきた。また、学校週5日制が完全実施されて平日の授業時間が増えるなど、学校生活が変化した。始まる時間が遅い講座に受講者が集中したり、講座に間に合わなくなって退会するなどの影響が現れてきた。20年近く前に設置した講座・クラブ、講習会も、世の中の変化に合わせて見直す時期にきている。

一般来館児・者を中心に、子どもの体力作りをいろいろなテーマにそって行ってきた。これからも、遊びをとおして体力作りができるようなプログラムを開発・提供していきたい。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
プール一般利用	土曜日　13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:30	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般開放。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1でついて利用。（プール）
体育室一般開放 レクリエーションゲーム ドッジボール 卓球 ウオールサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を変えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は、日曜日は14：00と16：00の2回、土曜日は14：00に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13：30～16：00、日曜日が10：00～17：00。児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、開館記念特別期間を除く、土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこを行った。（体育室）
体力測定	土・日曜日と祝日	7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1人100円。土曜日＝14：00、15：00の2回、日曜日＝11：00、13：00、14：00、15：00、16：00の5回。（健康開発室）
グループ活動	火・木曜日 10:00～12:00	保育所などの団体向けのプログラム。6種類のプログラムがあり、体を動かす楽しさや、あまり経験できない種目を紹介・体験できるようにしている。利用団体のニーズに合わせて、いくつかのプログラムの中からピックアップしてプログラムを構成。本年度はレクリエーションの希望が多かった。最近は幼児の団体の利用も多く、お別れ遠足の一つとして利用されているようだ。（体育室）
ビッグサタデー	土曜日　10:30～11:45	学校週5日制に対応して、本年度から始めた小学校4年生以上を対象としたプログラム。サッカー、タグラグビー、バスケットボール、フライングディスクなどの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。（体育室）
親子三代健康づくり	5.26 8.4 10.5・6 H15.2.28～3.2	野外で体を動かして楽しむプログラムを中心に、親子三代（家族）でふれあいながら体を動かす“家族交流プログラム”。参加費＝子ども1,000～32,000円、大人1,000～41,000円。 □5月26日＝家族みんなでピクニック～なつかしのザリガニ釣り（水元公園＝東京都） □8月4日＝川遊びハイキング～おもいっきり川遊び（伊奈キャンプ場＝東京都） □10月5・6日＝自然ふれあいキャンプ（清水公園キャンプ場＝千葉県） □平成15年2月28日～3月2日＝スノーキャンプ（シャトー塩沢スキー場＝新潟県）
第15回水泳記録会	12.9　9:30～13:30	水泳講座受講者がエントリー（1人2種目1,000円）を行い参加。年齢別・男女別で記録に挑戦。幼児4種目、小中学生10種目。幼児20人、小学生以上180人、計200人参加。クラス別対抗のリレーも行った。（プール）
第15回新体操発表会	H15.3.16	「ジュニア新体操」「シニア新体操」受講者による発表会。1年間の成果を発揮し、親、祖父母の前で演技を発表した。今年のテーマ「輝（かがやき）」を盛り込んだ演技を披露。44人参加。（体育室）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 汗はすばらしい友だち 第1弾 もうすぐワールドカップ2002　ストライカーへの道	4.28～30、5.3～6	本年度は日韓合同開催のサッカーワールドカップの年。ひと月早く、〔こどもの城〕でワールドカップを行った。集まった子どもたちで即席のチームを作り、好きな出場国を選んで代表選手になったつもりで対戦。試合終了後に記念写真を撮影して、出場国のトーナメント表にはりつけた。（体育室）

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 汗はすばらしい友だち 第2弾 世界スポーツめぐり～ 世界のいろいろなスポーツを体験しよう（欧米編）	7.20～9.1	サッカーワールドカップの開催年で、サッカーが注目を集めた。サッカーの発祥地はどこ？という素朴な疑問から始まって、さまざまなスポーツの発祥を探ることをきっかけに、そのスポーツを楽しむプログラムを行った。夏休み特別期間は、サッカーやラグビーなどヨーロッパ発祥のスポーツと野球やバスケットボールなどアメリカ発祥のスポーツに絞って取り上げた。 サッカー（7月20～28日）／野球（29日～8月4日）／タグ・ラグビー、アメリカンフットボール（5～11日）／フライングディスク（12～16日）／ホッケー（19～25日）／バスケットボール（26日～9月1日） ※恒例となっている、山田光明さんの指導による、トランポリンを8月17・18日の2日間、特別プログラムとして実施した。（体育室）
〈　〃　〉 ちびっこプール	7.20～9.1	屋上に仮設プールを設置、一般に開放。利用料200円、レンタル（タオル・水着）各200円。（プール）
〈　〃　〉 こども一日ドック	7.24	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当した。（健康開発室）
〈開館記念〉 親子三代みんなでレクリエーション～ドキドキアスレチック	10.27、11.3・4	道具や器具を使わないアスレチックを行った。午前中は、3～6歳の幼児とその親を対象に、ふれあい力だめし体操、午後は年齢に関係なく、友だち同士でも楽しめる力だめし運動やサーキット遊びなどのレクリエーションプログラムを行った。（体育室）
〈冬休み〉 汗はすばらしい友だち 第3弾 世界スポーツめぐり （日本・アジア編）～ 相撲！こどもの城場所	12.21～H15.1.7	クイズ形式の新弟子検査から始まり、稽古を積みながら序二段、三段目、十両、幕下と昇格して、最後に、腕相撲、脚相撲、尻相撲、ケンケン相撲など、さまざまな相撲遊びの取り組みを行った。新弟子検査合格後に、5～6人で相撲部屋を作り、団体戦チームを作った。（体育室）
〈春休み〉 汗はすばらしい友だち 第4弾 世界スポーツめぐり （総集編）～スポーツぶらり旅	H15.3.26～4.6	1年間行ってきた「世界スポーツめぐり」の総集編。欧米のサッカー、アジアのカバティ、日本の相撲など、世界各国を発祥の地とするスポーツを取り上げた。参加者には、写真入りの特製パスポートをパソコンで作成して配り、国ごとにスタンプを押した。12日間にわたる旅にすべて参加した子どもには記念品を贈呈した。体育室の入り口は、“世界旅行”の雰囲気を作り出すため、税関の出国ゲートを作った。 ホッケー（3月26日）／バスケットボール（27日）／フライングディスク（29日）／ラグビー（30日）／ドッジボール（31日）／ゴルフ（4月1日）／サッカー（2日）／ハンドボール（3日）／カバティ（4日）／卓球（5日）／相撲（6日）。（体育室）
体力測定	特別期間中	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人100円。（健康開発室）
プール　一般利用	〃	10:30～12:00、13:30～17:30に一般開放（プログラムにより変更あり）。有料。

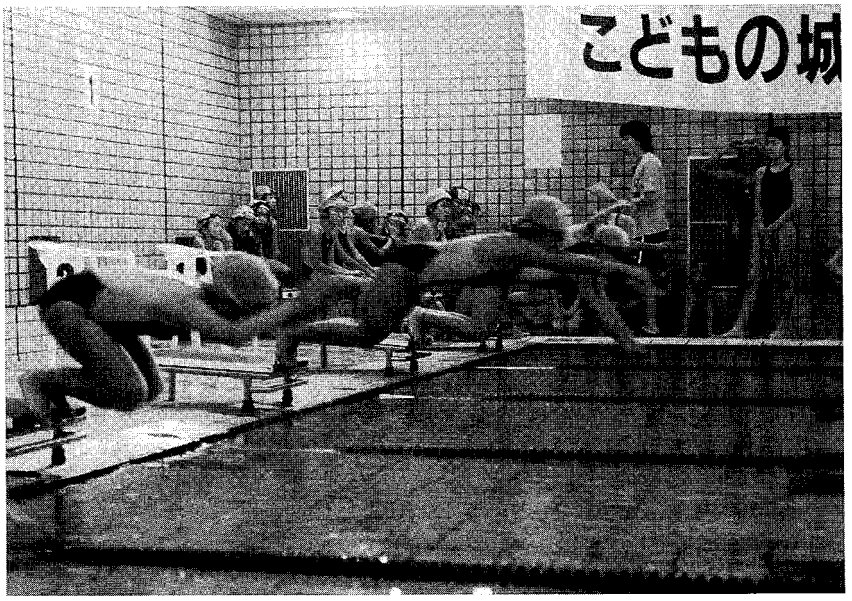


汗はすばらしい友だち第1弾
「もうすぐワールドカップ2002　ストライカーへの道」

2. 講座・クラブなど

《講座》

名称		対象・定員	受講数	日時	内容
		(組)	(組)		
親子水泳	A	1・2歳児と親	22 26	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。父親も参加できるようにしてから2年目。特に土曜日のコースは、父親の参加が定着してきた。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期27,000円、3期17,000円。
		(30)	15		
〃	B		40 38 30	土曜日 10:00～11:00	
		(人)	(人)		単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。
幼児水泳	A	3・4歳児	22 36	木曜日	
		(50)	31	14:00～15:00	
〃	B	4・5歳児	20 26	木曜日	
		(60)	34	15:00～16:00	
〃	C	〃	42 38 39	金曜日 14:30～15:30	
〃	D	3～5歳児	15 26	火曜日	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
		(50)	27	14:30～15:30	
〃	E	〃	34 36 36	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育	A	3・4歳児	21 16	水曜日	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。
		(40)	18	14:30～15:30	
〃	B	4・5歳児	25 25	火曜日	
		(40)	22	15:00～16:00	
〃	C	〃	18 15 13	木曜日 15:00～16:00	「幼児体育A・B」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期19,000円、3期13,000円。



第15回水泳記録会

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
小学生水泳　A	小学生	48	水曜日	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施（10級～1級）。次への目標としている。受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
	（60）	47	14:30～15:30	
		48		
〃　B	〃	21	火曜日	
		29	15:30～16:30	10級　顔つけ　もぐり　息こらえ　ボビング　水なれ
		23		9級　伏し浮き　背浮き　板キック　ボディーイメージ1
〃　C	〃	62	水曜日　〃	8級　伏し浮きキック　背浮きキック　ボディーイメージ2
		66		7級　ノーブレクロール　バックキック　ボディーイメージ3
		61		6級　クロール・バック（12.5）　ブレスト・バタフライ（キック）
〃　D	〃	58	金曜日　〃	5級　クロール・バック（25）　ブレスト・バタフライ（リズム）
		50		4級　クロール・バック（50）　ブレスト・バタフライ（呼吸）
		41		3級　ブレスト（50）　バタフライ（25）　個人メドレー（タイム）
〃　E	〃	26	木曜日	2級　個人メドレー（100）（タイム）
		33	16:00～17:00	1級　個人メドレー（200）（タイム）
		26		
〃　F	小2～6	31	火曜日	
	（40）	33	16:30～17:30	
		37		
〃　G	〃	29	木曜日	※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。
		36	17:00～18:00	受講料＝1・2期25,000円、3期17,000円（2コース合計）。
		26		
シニアスイミング　A	小・中学生（30）	15	火曜日	「小学生水泳」からのステップアップの場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため、基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球も経験する。指導者の推薦が必要。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
		15	16:30～18:00	
		14		
〃　B	〃	14	水曜日　〃	
		15		
		10		
シニアスイミングフレッシュ	小・中学生（30）	13	金曜日	小学3年生以上で泳ぎが不得意な人のクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
		16	16:30～18:00	
		18		
小学生体育　A	小学生（30）	27	火曜日	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。 受講料＝1・2期17,000円、3期11,000円。
		31	16:00～17:00	
		29		
〃　B	〃	29	木曜日　〃	※バランス良い発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。
		25		受講料＝1・2期25,000円、3期17,000円（2コース合計）。
		16		
ジュニア新体操	小1～3の女子（35）	27	水・金曜日	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1・2期26,000円、3期19,000円。
		26	15:30～17:00	
		29		
シニア新体操	小4～中3の女子（35）	20	水・金曜日	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるような練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1・2期26,000円、3期19,000円。
		21	16:30～18:00	
		18		
手足の不自由な子の水泳	小・中学生（15）	5	土曜日	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1・2期16,000円、3期10,000円。
		7	17:00～18:00	
		7		
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生とその親（20）	20	土曜日	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック――3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料＝1・2期22,000円、3期18,000円。
		21	16:00～17:00	
		21		

※講座回数＝1期13回、2期13回、3期9回（「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回）

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ダイナミック・ヘルス・クラブ(D.H.C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人 その他	(人) 年間延 7,337 294 212 515 合計 9,348	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用し体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月20,000円、月会費5,500円、利用料（利用の都度）300円。パス券（月3,000円、4か月11,000円）、ビジター1,500円。『渋谷ウォーカー』ほかに広告掲載。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 (150)	63 62 62	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加チケットを発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法の修得を目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料＝1・2期21,000円(13回分)、3期14,000円(9回分)。クーポン券(6回)5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦 (月35)	年間延 258	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。お産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円(月7回)。

〈講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
母と子のすくすくランド	(組) おすわりのできる乳児と母親 (20)	(組) 21 23 27	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェープアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期23,000円、3期21,000円。
幼児・母親体育 A 〃　B	1・2歳児と母親 (20) 2・3歳児と母親 (30)	22 29 29 32 30 30	火曜日 13:30～14:30 水曜日 11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、楽しさを身につける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期19,000円、3期17,000円。
ぱちゃぱちゃファミリースイム	1・2歳児と父母、祖父母 (30)	27 29 33	金曜日 10:00～11:00	楽しくプールで活動をして、水慣れとともに親子・祖父母と孫のコミュニケーションを深める。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期25,000円、3期23,000円。

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
夏休みこども集中水泳講習会　A	小・中学生 (50)	50	7.22～26 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児 (40)	40	7.22～26 10:30～11:30	
〃　C	小・中学生 (50)	50	8.21～25 9:30～10:30	
〃　D	4・5歳児 (40)	40	8.21～25 10:30～11:30	
ガンバ！2002	小学生 (30)	30	8.21～25 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を習得する、体操の苦手な子どもの体操教室。受講料＝7,000円。
春休みこども集中水泳講習会　A	小・中学生 (50)	50	4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児 (40)	40	〃 10:30～11:30	
水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 108	水・金曜日 18:00～19:00 (各月7回)	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。受講料＝10,000円。

〈専門指導者向け講習会等〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
小児肥満のための指導者講習会	保育士・保健師・養護教諭など (40)	41	H15.3.14・15	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や体力測定についてのレクチャーおよび実践を行った。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
新体操夏合宿	8.1～4	集中的に練習を行うため、講座ではできない活動を体験。生活面、精神面の自立をうながし、集団活動による協調性を養うことを目標とした。精神面を含め、個人の成長がみられた。30人参加。福島県東白河郡ユーパル矢祭。
スポーツキャンプ	7.28～31	テニスの技術を学んだり、マラソンで体力トレーニングをしたり、サッカーやラグビーなどの球技も行った。栄養を考えた野外料理作りなど、合宿的要素が大きいハードなキャンプ。地元の人の協力を得て、特産物を使った“おやき”作りを行い地元と交流。小3～中3、31人参加。新潟県グリーンピア津南。
チャレンジキャンプ	8.27～30	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、山中湖一周ウオーキングにチャレンジした。小1～3年生45人が参加。山梨県YMCA山中湖。
スキースクール パート1　1期	12.26 ～29	1期は自然の地形を生かしたロングコースが楽しめる妙高高原池の平スキー場、2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるグリーンピア津南。2期の往復に本年度から新幹線を利用。疲労の軽減をはかった。また、2期には、新しい試みとして近年人気を集めているスノーボード（中学生のみ）を取り入れた。小2～中学生対象。1期は45人、2期は38人参加。
〃　2期	H.15.1.4～7	
スキースクール パート2	3.26～29	小1～3年生の低学年が対象。雪遊びとスキーレッスンをとおして自然と多くふれあうことが目標。スキーを初めてはく子どもも少なくないが、楽しみながらのレッスンで上達も早い。恒例の雪上レクリエーションでは、雪上運動会、雪合戦協会ルールでの雪合戦を行った。45人参加。グリーンピア津南。

3．その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
身近な道具でスポーツ遊び	5.23	長野県下諏訪町「山王閣」。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	6.1	福岡県田川市青少年文化ホール。
身近な道具でスポーツ遊び	6.11	滋賀県石部町青少年文化ホール。
〃	6.28	大分県豊前市総合福祉センター。
〃	7.10	島根県益田市人権センター。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	9.9	北海道余市町中央公民館。
〃	9.30	茨城県猿島郡境町保健センター。
〃	10.15	茨城県行方郡玉造町保健相談センター。
身近な道具でスポーツ遊び	10.22	大阪府能勢町子育て支援センター。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	11.12	埼玉県上福岡市児童センター。
〃	H15.1.14	岡山県勝田郡勝央町高齢者福祉センター。

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
楽しい運動あそび～親子スキンシップ	6.6	板橋区児童女性部保健課（東板橋体育館遊技場）。
遊んで楽しく体力つくり～親子でもっともっと運動あそび	6.17	中央区立京橋朝海幼稚園ＰＴＡ（京橋朝海幼稚園）。
父と子の教室「お父さんと遊ぼう」	9.7	神奈川県相模原市保健所中央保健センター（東林公民館）。
ちびっこ村の実技指導・親子体操	10.10、25	目黒区立烏森住区センター児童館。
親子で一緒に楽しもう	11.16	豊島区西部子ども支援センター。
あそび上手でたくましく～土台づくりは0.1.2歳から～	11.19	大田区こども育成部子育て支援課（下丸子児童館）。
乳幼児の親子体操	12.17	中央区築地児童館。
元気で鬼ごっこ	H15.1.16	新宿区中町児童館。
子育て講座	1.23	目黒区健康福祉部（中目黒住区センター児童館）。

名　称	日　時	内　容
親子でできる健康体操～小児生活習慣病予防のために～	10.20	愛媛県西条中央保健所・東予市民体育館
太りすぎ改善のためのスポーツ指導について	H15.1.25	平塚市保健福祉事務所
動いて、遊んで、楽しく育児	2.8	北区赤羽保健センター
食生活探検セミナー	2.10、3.10・26	平塚市保健福祉事務所
0－3歳児運動発達と体操実践	2.13	浦和市母子専門研修会・浦和市民保健センター
父親の子育てセミナー	2.25	伊豆健康福祉センター・西伊豆町子育て支援センター

プレイ事業部



平成14年度の活動

1．はじめに

プレイ事業部は、室内の大きな遊び空間であるプレイホールを中心として、屋上遊園、コンピュータプレイルームとパソコンルームの各エリアを担当している。さらに、夏季と冬季にはキャンプ活動を行う大自然のフィールドも活用して、子どもたちにさまざまな活動プログラムを提供した。実施するプログラムは、〈あそび〉をとおして子どもたちのよりよい成長・発達をうながすことを目的に、次に述べる３つの方向性を土台にして活動を計画・実施した。

(1) 子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮したよりよい遊び環境の整備

(2) 児童文化、子どもの遊び文化を題材にしたプログラムの提供

(3) 仲間遊びや子どもたち同士の交流を促進するプログラムの開発・提供

子どもたちの成育環境の大きな変化に伴って、子どもの遊びも“群れ型”から“孤立型”へより進んでいて、仲間遊びや交流のプログラムをとおして社会性の発達を促すというプレイ事業部の中心課題は、より重要性を増してきたように感じられる。

本年度は、学校週５日制（週休２日）実施に伴い、特に小学生以上を対象とした活動の充実を計画した。屋上遊具も高学年向けのものを整備すると同時に、プレイホールにも小学生以上を対象とした遊びのコーナーを新設した。

土曜日の特別プログラムとして、小学生以上を対象としたＡＶ事業部と共同の科学・映像遊びプログラム「サタデー・ラボラトリー」を新設した。

（ア）一般利用

一般来館児・者を対象とした活動では、子どもの発達年齢やさまざまな遊びに対応できるように、〈あそび〉の環境を整備することを基本とし、年間をとおしてさまざまなプログラムを実施した。

平常期間の平日は、日替わりで折り紙や人形劇などのさまざまな児童文化財を取り上げた定例の週間事業を実施している。主に女性ボランティアが中心となって行っているが、どのプログラムも子どもたちや親子と向かい合い、語りながら手を取ってものごとを伝えるという、まさに遊びを伝承する温かい遊びの場となっている。

本年度は週間事業の構成を変更し、前年度まで別々の曜日に実施していた紙芝居と人形劇・影絵を水曜日（週替わりで実施）にまとめ“おはなし”プログラムを楽しむ「みんなのにこにこ広場」とした。

今まで定例の週間事業がなかった金曜日には、本年度から「金曜開店！　あそびやさん」を実施することにした。幼児から小学校低学年の子どもたちを対象にしたプログラムで、おもちゃがもたらすさまざまな発達効果を期待するとともに、家庭では体験できないようなダイナミックさやたくさんの子どもが一緒にかかわり合いながら遊べるというような、より楽しい遊びの空間を作ることを目的にした。

プレイホールの中にも幼児コーナーを中心にさまざまなおもちゃを配置しているが、一種類のおもちゃを大量に、また週替わりで利用できるようにすることで、このプログラムを特徴づけた。ふだんはなかなか接することができない変わったブロックや、ドミノ倒しなどに夢中になる子どもたちの姿が見られた。ただ指導スタッフを常時置いての

運営はできないため、安全管理が容易で、遊び方の指導が不必要な簡単なおもちゃしか出せず、どうしてもかたよりが出てしまう傾向になった。今後は、さらに幅広いおもちゃで遊べるプログラムとなるよう、スタッフのサポートも視野に入れて検討する必要がある。

（イ）講座・クラブなど

【キッズクラブとユースクラブ】

本年度から学校週5日制がスタートして子どもたちの生活パターンが大きく変化した。土・日曜日の2日間を家庭で過ごすこととなった訳である。一方、平日の小中学校は、6時間授業が増えるなど学校生活も忙しくなり、放課後に子どもたちが自由にできる時間も少なくなってきている。土・日曜日の過ごし方も各方面で考えられ、たくさんの“居場所”が提案・実施された。

「ユースクラブ」「キッズクラブ」は、週末の子どもたちへ活動の場を提供することを目的に活動している。特に土曜日が学校休みとなったために、朝から定期的に予定を入れることができるようになり、高学年になるほど学習塾や模擬試験などの学習的な活動の場として使われる傾向がみられる。一方、連続した休みが2日間続くことで家族で出かけるなどの時間も増えてきているようだ。

学校以外の活動に継続的に参加して居場所を作り、さまざまな直接体験をしたり、グループのなかで自らが役割を持って仲間との人間関係をとおして社会性や自主性などをはぐくんでいくことは、子どもたちにとってかけがえのない大切な経験である。少子化も進み、地域での豊かな人間関係を期待できなくなっている状況で、保護者の声としても今後ますます「ユースクラブ」「キッズクラブ」のように、集団の中で社会性を身につけていくプログラムが期待され、重要視されてくることが考えられる。

【パソコン教室】

「パソコン教室」は、開館以来パソコンを子どもたちの仲間遊びの遊具・媒介として組み込んだ活動を実施してきている。ここでは、ロゴ言語によるプログラミングという形でグラフィックスの共同制作を行うコースと、グループで話し合った視点で〔こどもの城〕館内を取材してレポートを共同制作する『マルチメディア探検隊』（平成12年度開始）の2コースの教室を実施した。パソコンの普及も進み、機器の進歩や使用方法も大きく変化する中で、内容の見直しを進め、ロゴ言語のプログラミングコースは、今年度をもって一旦終了した。

【児童厚生員実技指導講習会
～パソコン遊びのワークショップ～】

各地の児童館にもパソコンの導入が進んでいるが、十分に利用されていないところも多く、子どもたちにパソコン活動を提供する具体的な方法を知りたいと言う声も多かった。そこでプレイ事業部で運営しているパソコンルームの活動を紹介し、パソコン活用のヒントや子どもたちにプログラムを提供するために必要な技術を学んでもらうことを目的とした講習会を実施した。

「遊びを広げるパソコンの活用法」をテーマに、全国から集まった児童厚生員40人が、2日間にわたってパソコン遊びや、また遊びを提供するための準備作業の実際を体験し、研修を進めた。参加者の年齢は20歳代前半から、50歳代後半と幅広く、またパソコンの経験もまちまちで機器の操作にとまどう場面も見られたが、参加者からはゲームだけではなく、パソコンを子どもたちの創造的な遊びの活動に活用するヒントがつかめたという声も多く聞かれた。より詳しい内容も学びたいという要望も多く、より整理した形で継続していく必要を感じた。

（ウ）コンピュータを使った遊びの活動

コンピュータプレイルームでは、コンピュータ絵本やパズルなど市販のソフトウェアで遊ぶことができる。またパソコンルームでは、もう一歩進んで写真データを組み合わせた空想の風景を作り上げたり、音楽遊びやペーパープレーンの設計を楽しんだりなど、さまざまなテーマの活動を実施した。

本年度、コンピュータプレイルームでは老朽化していた機器を更新し、さらに端末を16台から22台に増設。機器が新しくなったことで、より新しいソフトウェアを多くの利用者に提供できるようになった。ただ、開館以来使用している端末の収納ブースや椅子などの造作物は老朽化が激しく、順次更新していく必要がある。

2. 学校週5日制に応えて

学校週5日制に対応し、特に小学生以上の子どもたちの活動の充実をはかるために、遊び場とプログラムの充実をはかった。

遊び場については、屋上のネット広場のネットを更新し、ピッチング遊びのための遊具（ストライクアウト）とバスケットボールのゴールを新しく設置。活動的に仲間と一緒に遊ぶことができる場所として整備した。プレイホールでは、新たに小学生コーナーを新設。室内用のミニサッカーゴールとバスケットゴール、回転式の輪投げ、そして空き缶積み遊びができるコーナーなどの遊具を整備した。このコーナーでは、おもに小学校低学年の子どもたちが集まり、競い合って群れ遊ぶ光景をよく見受けることができた。

サタデー・ラボラトリー

〔こどもの城〕では全館で小学生以上を対象としたプロ

グラムを充実させる取り組みを行った。「サタデー・ラボラトリー」もその一環のプログラムであり、プレイ事業部とＡＶ事業部の共同事業として実施した。小学１年生以上を対象に、科学遊びと映像遊びを中心に、毎週異なった内容で実施した。

物事の原理や仕組みはどうなっているんだろうという興味や探求心をはぐくむこと、文字や映像で表された知識だけではなく本物を自分の目で見て、自分の手で触れること、さらにさまざまな物を自分の手で作り上げるような実体験をすることに重点を置いた。現代の生活は、多くの“自動化・ブラックボックス化されたもの”に囲まれていて、ボタンひとつで何かができてしまう場面が多い。「サタデー・ラボラトリー」では“なぜだろう”とか“どうしてだろう”という気持ちを大切にしながら、子どもたちがより創造性にあふれた生活をする上で大切な知識、技術、経験、視点、考え方、人の心などに触れられるような機会となることを願った。

本年度から販売を開始した「小・中学生土曜日パス」や、近隣小学校に対して土曜日の小学生向けプログラムの広報を充実させたことにより、５月から７月の開始期に多くの参加者があった。これらの参加者は、回数を重ねていくうちに“常連”のメンバーとなり、単に準備されたプログラムを楽しむというだけでなく、自分から遊び（プログラム）の可能性を広げ、スタッフの予想を超える“実験”を試みるようになった（例えば、材料の調合を変え、温度変化の違いを調べてグラフに記録するなど=「カイロをつくろう」=）。

ときにはスタッフとともに自発的に運営の補助（受付やプログラムの説明、物品の準備や片づけなど）を行うなど、スタッフと参加者とのかかわりの中から、このプログラム自体が彼らの“居場所”として機能しはじめていることも特記すべきことの一つとしてあげられる。

近年〔こどもの城〕の一般活動をみると、複数の部が共同でプログラムを展開する例は少なくなっている。「サタデー・ラボラトリー」はプレイ事業部とＡＶ事業部の共同企画であり、また特別プログラムとして行った「青山劇場バックステージツアー」は劇場事業本部の全面的な協力のもとに実現したものである。

各部門がその特徴を生かしながら共同し、新しいプログラムの可能性を広げることは、〔こどもの城〕本来のあるべき姿ではないかと考えられる。今後もこのような形を大切にしつつ、さらに外部の多くの人の協力をも得ながら、新しいプログラムの可能性を探っていきたい。



サタデー・ラボラトリー「砂糖大変身～さとうでつくるお菓子の科学」

3. まとめ

小学生以上を対象とした遊びや体験活動の充実をめざした「サタデー・ラボラトリー」は、本年度は科学遊び・映像遊びのプログラムを中心に実施したが、これらのテーマ以外に、自動化や機械化が進んだ現代の生活の中で忘れられがちな、自分の手で作ることや、伝統的な知恵や技術を体験したり知ることなど、子どもたちが自分の力で生きることにつながるようなテーマにも広げていきたい。また１年を経過し、常連の子どもたちが自ら進んで運営を手伝うというような状況も現われてきているので、子どもたちの居場所作りという観点からも、更に充実させていくことが大切だと考えられる。

近年、子育て支援のための活動や情報が増え、〔こどもの城〕にも０～２歳の乳幼児を連れた親子・家族の利用が目立つようになってきた。土曜日を中心とした高学年以上の子どもの利用とあわせて、利用者の年齢層が広がってきている。このような状況に対し、ハード面も、提供するソフト面も対応が遅れているのも事実である。検討を要する課題である。

さらに“子育て支援”を進めるにあたって、乳幼児期だけではなく、乳幼児が中高校生に育つまで対応できるようなサポート体制作りが求められているのではないだろうか。プレイ事業部だけでなく、〔こどもの城〕全体においても今後の大きな課題であろう。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
みんなの にこにこ広場	水曜日　15:00～15:30	火曜日に実施していた「おはなし紙芝居のつどい」を水曜日に移し、従来から行っている人形劇、影絵とあわせた3つの鑑賞型プログラムを週替わりに実施。いずれも女性ボランティアの協力を得ている。毎週のように参加する人も多く、いろいろなジャンルの児童文化を伝える機会となっている。赤ちゃん連れのお母さんの参加が近年増え、子どもと一緒に楽しもうとする姿やアットホームな雰囲気にリラックスしている姿が見られた。（プレイホール）
おりがみ遊び広場	木曜日　14:00～15:00	女性ボランティアの協力を得て実施。各回1～2種類の作品を紹介。取り上げる折り紙は、動物、食べ物や季節にちなんだもの、作って遊べるものなどバラエティに富むように工夫した。折り方だけを教える場としてでなく、折り紙をとおしてボランティア自身が親子との交流を楽しむことで、親子がゆったりとできる空間を作ることができた。親子同士が共有する時間を持てるように、親への声かけも積極的に行った。（プレイホール）
金曜開店！ あそびやさん	金曜日　開館時間中	本年度から開始した、さまざまなおもちゃを登場させた新プログラム。期ごとに3～4種類のおもちゃを選び週替わりで利用できるようにした。（プレイホール） 1期＝ブロック／木製の汽車遊びセット／井げた型のブロック 2期＝ネジどめ式ブロック／空気でふくらませたゴム製遊具（跳ねて遊ぶ）／マジックテープ式の簡単ダーツ 3期＝手びねりゴマ／ドミノ倒し／木製の汽車遊びセット／パネル遊び・福笑い（パネルシアターの素材をはり付けて遊ぶ）
おはなし人形広場	第2・4土曜日 15:00～15:30	プロの人形劇団やアマチュア人形劇サークルによる人形劇やパネルシアターなどの公演。親子で楽しむだけでなく、本年度から小学生の人数も増え、集まった人たちがゆったりと過ごせる時間となった。変則的な日程なので、事前の告知方法を工夫する必要性を感じている。全17回実施。（音楽ロビー）
サタデー・ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00 （受け付け時間）	小学生以上を対象とした、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。ＡＶ事業部と共同で、毎週異なったプログラムを実施。別表参照。（フリーホールほか）
〈七夕行事〉 天までとどけ ねがいごと	7.3～5　13:00～16:00 7.6・7　11:00～16:00 （受け付け時間）	願い事を短冊に書いてプレイホールに設置した竹に飾るワークショップを実施。平日には、紙芝居やパネルシアターで、七夕にちなんだ“お話の会”を行い、集まった親子が七夕行事の由来に耳を傾けたり、七夕の雰囲気を感じたりすることで、同じ時間を共有する機会となった。（プレイホール）
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H15.2.1　16:00 2.2　14:00／16:00	会場に集まった子どもたちにむけて、福の神が節分の由来を分かりやすく説明、途中突然現れた鬼軍団を福の神と参加者で豆をまいて追い返すという、参加劇仕立てのプログラム。また、節分にちなんで、鬼の的めがけて輪を投げる「鬼わなげ」、プレイホール横の廊下の壁面装飾をかねた「鬼さがし」もあわせて実施。（プレイホール）
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	3.1・2　11:00～16:00 （受け付け時間）	ひなまつりをテーマに6つのゲームを用意し、1つでも参加するとひなあられをプレゼントした。ゲーム性の高い遊びを盛り込んだため、男女問わず親子での参加が多かった。会場内の装飾にも力を入れたため、ひなまつりの雰囲気をより感じられる空間となった。（プレイホール）
第31回 パンパー大会	3.21 小学生の部 10:00～12:30 中・高校生の部 13:30～17:00	プレイホールの高学年コーナーにある人気遊具『パンパー』（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。普段から高学年コーナーに集まる子どもたちの、さらなる交流のきっかけ作りを目的に行った。小学生の部9人、中高生の部3人が参加。前回の大会の参加者も引き続き参加し、交流もさらに深まっている。（プレイホール）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 キャッスルファンタジー～不思議ヶ丘の魔法使い～	5.3～6　11:00～16:00 （受け付け時間）	魔法使いをモチーフにしたゲーム大会。ほうきの術、物体浮遊術など魔法使いになるための修行と称したさまざまなゲームを計5種類用意。子どもたちは好きなゲームに何度でも挑戦することができる。ゲームを行うことでもらえる“魔法道具カード”で、一日数回、そこに印刷されているじゃんけんマークを使ったカードじゃんけん大会を実施した。ゲームの種類が多いこと、会場を限定したこと、カードの種類が多いこと、特にゴールとなる設定がなかったことなどから、会場に滞留する子どもたちが多く、カードを見せ合ったりと交流する姿が見られた。 （ふしぎが丘）
〈　〃　〉 ゴールデンウイーク人形劇フェア	4.27～29 11:00～16:00 （受け付け時間） 公演＝11:30／13:30／15:30	人形を作る、遊ぶ、人形劇を見るという3本立てで実施した。広々とした空間の中で3つの要素が一体となった催しになった。発泡スチロールを使ったパクパク人形、靴下人形、封筒人形の3種類の人形を準備し、自分の作った人形を使って歌や劇遊びを楽しんだ。首都圏の大学の人形劇サークル、児童文化研究会のネットワークである「じゃんぐるじむ」の大学生とそのOBの取り組みが、温かな雰囲気を作り上げ、子どもたちののびのびとした活動につながっている。 （研修室）
〈夏休み〉 ウオーターアドベンチャー2002～西部の決闘～	8.14～18 11:00～15:00 （受け付け時間）	夏ならではのダイナミックな水遊びプログラム。テーマは西部劇。参加する子どもたちは“保安官みならい”という設定で、西部のおたずね者を退治しに行くというストーリー。子どもたちは受付で5～6人のチームを作り、水鉄砲の練習をしてスタート。水の障害物をのりこえ、おたずね者の手下たちを次々倒しながらボスのアジトまでたどりつき、力を合わせて勝負する。ふだんはなかなかできないダイナミックな水遊びに、子どもたちは歓声を上げていた。18日は雨天のため、館内で西部劇をテーマにしたチャレンジゲームを実施。　（ふしぎが丘）
〈　〃　〉 第30回バンパー大会	8.31 小学生の部 10:00～12:30 中・高校生の部 13:30～17:00	記念すべき30回大会であることと、参加者の減少傾向が続いたため、参加者増とさらに幅広い交流を目的に、開催日を秋分の日から夏休みに移した。参加者も大幅に増加した。練習に来館する参加者が多く、大会前からバンパーコーナーで交流する姿が見られた。小学生の部13人、中高生の部7人が参加。　（プレイホール）
〈開館記念〉 わくわくパペットランド	11.2～4 11:00～15:30 （受け付け時間） 公演＝13:30／15:30	口がパクパク動く人形を身近な材料・紙コップで工作し、作った人形でおはなし「ウシとカエル」の子ガエルになり、会場全体でおはなしの世界を楽しんだ。参加劇の中での子ガエルの役割を認識し、参加への期待を高めるものとなった。大人の参加を呼びかけ、親子での人形作りをすることで人形遊びの楽しさを共有してもらえるように心がけた。参加劇を見た後、人形の工作を希望する子どもが多く、自分の人形で人形劇遊びをする楽しさを感じてもらえたようだ。 （プレイホール）
〈冬休み〉 新春昔遊び～つくってあそんでお正月	H15.1.3 13:00～17:00 1.4～6　11:00～17:00	こま、かんぽっくり、三つ馬、紙相撲などの伝承遊びを実施するほか、今年は“フィルムケースこま”を作って遊ぶコーナーを設置。自由にそれぞれのコーナーでの伝承遊びを体験。自分で作ったおもちゃに愛着を持ったせいか、より長く回るようなこまを作るために何度も改良している姿があった。また、その場に集まった子ども同士でこまを見せ合ったり、競争が始まったりと交流も見られた。夕方には、エントリー方式でこま、紙相撲の大会や、全員で参加できる音相撲などの「東西対抗昔あそび大会」も実施した。　（Bスタジオ・屋上遊園）
〈春休み〉 スーパーフライト紙ヒコーキ	3.28～30 12:30～17:30 大会＝15:00／17:00	折り紙飛行機を作って飛ばすワークショップを行った。「へそ飛行機」と「いか飛行機」の2種類の折り図を準備し、それを見ながら折ってもらう。できあがった後は「飛ばすコーナー」で飛ばしながら、よりよく飛ぶための調整をした。各日とも2回の大会を実施。スタートラインからいっせいに飛ばし、着地した地点で点数を決める。5投の合計得点で優勝者を決めた。紙飛行機という身近な素材ながらも、良く飛ぶためのコツを伝えるなどして、幼児から保護者まで幅広い年齢層の人たちが興味を持ちやすいものとなり、多数の参加があった。 （フリーホール）

〈パソコンルームのプログラム〉

名　称	日　時	内　容
似顔絵ペインター	～4.16	コンピュータに接続してあるCCDカメラで自分や友だち、家族の顔写真を取り込み、画面上に1ページ重ね、透けて見える画像をなぞって似顔絵を描くプログラム。なぞるのはなかなか難しく、目や鼻、口などを何度も書き直したり、マンガ風にデフォルメして描いたりして個性豊かな似顔絵を作った。
きみもパソコン アニメーター	4.17～6.4	複数枚（2～4枚）の絵を画面上に書き、できあがったものを交互に映し出すと簡単なアニメーションができるプログラム。数種類の音楽の中から好きなものを選び（BGM）、画面に合わせて楽しむことができる。1人ひとりのユニークな発想で、多くの作品ができあがった。
バードビュー 立体マップ	6.5～7.14	パソコンの中に登録してある白地図の中から好きなものを選び、店、住居、線路、樹木など、さまざまなアイコン（小さなイラスト）をスタンプのようにはりつけ、オリジナルのカラーマップを作成、印刷する。同じ白地図でも子どもによってレイアウトが変化し、十人十色の作品ができあがっていくのがおもしろいのか、幼児から大人まで熱中して遊ぶ姿が見うけられた。
ペーパープレーン ファクトリー	7.16～9.23	パソコンで飛行機の設計やデザインをし、プリントアウトしたものを工作して実際に飛ばして遊ぶプログラム。主翼、尾翼、垂直尾翼を数種類のパターンの中から選んで組み合わせ、割り箸の胴体にはりつけて作る「カスタムプレーン」、羽の形を自在に調整できる「カスタムジェット」、ふわふわと飛ぶ鳥形飛行機「スパロー」「ハヤブサ」、そして紙で作る竹とんぼ「紙トンボ」を実施した。設計・デザインを楽しむ姿はもちろん、翼の調整をして作った飛行機を飛ばして楽しむ姿が見られた。
ことばあそびの A☆B☆C	9.25～10.22／ H15.1.22～2.25	「しりとり」「アナグラム」「暗号解読」「まぜこぜ作文」の4つのプログラムを用意。コンピュータを相手に言葉遊びを楽しんだ。文字を遊びにしているため、小さい子はひとりで遊ぶことは難しかったが、親子で話し合いながら楽しむ姿が印象的だった。
うつしとるとる なぞってアート ～とれ・とれ ハイポーズの巻～	H14.10.23～12.3	スポーツ選手や子どもなど、人間のいろいろなポーズの写真から好きなものを選び、その写真をペンタブレットを使ってなぞり、色をつけて印刷するというプログラム。ペンの種類や太さ、色を選ぶ機能を使って陰影を表現し、本物らしく見えるようにポーズを描く高学年の子どもたちや大人の姿が見られた。しかし、幼児にとっては細かい部分の描画は難しく、高学年向けのプログラムとなった。
わくわく☆カレンダー 2003	12.4～H15.1.21	壁にはることもできる平面型とスケジュール帳型から1つ選びカレンダーを作るプログラム。飾り枠やイラスト、家族の誕生日や行事などを自由にレイアウトして、自分だけのカレンダーを作ることができる。用意してあるマークやイラストをはりつけるという比較的容易な作業なので、幼児から大人まで作成することができ、多くの参加があった。
サウンドエフェクター OTOPITA－55	2.26～3.18	ある場面の写真に、雨や雷、叫び声などの効果音や、場面に合ったBGMをつける、パソコンを使った音の表現遊び。子どもたちは独自の物語を作りながら、それぞれの場面に合わせてさまざまな効果音をつけていた。
ミニメモ。 スケジュール帳	3.19～	半年分のカレンダーに、時間割、電話番号リスト、時刻表、メモ帳、イラストなどを自由に組み合わせ、手のひらサイズのスケジュール帳を作る。どんなメモ帳にしようかと迷いながら、パソコンに向かっている子どもたちの姿や実用的とあって親の参加も多かった。
パソコンルーム ～土曜日スペシャル～	4・5月 （平常期間の土曜日）	学校週5日制実施にともない、土曜日の高学年対象プログラムの充実をはかり、パソコンルームで過去に実施して高学年に人気のあった『フレンドシップカード』（オリジナル名刺作り）を行った。土曜日パス発行の効果もあり、毎週このプログラムに参加する子どもが多かった。

〈サタデー・ラボラトリー〉

名　称	日　時	内　容
アニメをつくろう～ストーリーアニメに挑戦～	4.13	物語を自分で考え、数場面の背景画と登場するキャラクター、タイトルなどを色紙を切り抜いて作り、ビデオカメラのアニメ機能を使ってコマ撮りして、短いストーリー・アニメを作る。できあがった作品は、リサイクル・ビデオテープにコピーして手渡した。(担当：AV事業部)
空飛ぶおもちゃ大集合	4.20／6.15	「わりばし飛行機」「ペットボトルジャイロ(ペットボトルを輪切りにし回転をかけて投げて遊ぶおもちゃ)」「紙トンボ」の3種類を作り飛ばした。飛行の原理を知り、それぞれが良く飛ぶように工夫する。(担当：プレイ事業部)
デジタルビデオ撮影ワークショップ	5.11／6.22	DV(デジタルビデオ)カメラを使って、子どもたちがビデオの撮影体験をする。4～5人のグループを作り、交代でカメラマン、インタビュアー、時計係と役割を分担して、館内の子どもたちにインタビューを行った。(担当：AV事業部)
クイズ100問答えてラリー～君の頭脳と体力に挑戦～	5.18／6.29／10.12／12.7／H15.1.25／3.15	〔こどもの城〕館内にはられた100問の問題を探し、それに答えるクイズラリー。解答用紙はマークシート方式を採用。その場で採点、得点ランキングを発表した。各期2回ずつ計6回行ったが、毎回数問ずつ設問をかえたり、掲示場所を移動したりして、繰り返し来る参加者も楽しめるようにした。(担当：プレイ事業部)
混（まぜ）虫工場土曜日スペシャル	5.25／7.13／10.5／10.19／H15.1.18／2.22	一枚の紙に印刷された展開図を切り抜いて、胴体や足を細かく折り込み、昆虫の模型を作る。サタデー・ラボラトリーは小学校1年生以上が対象なので、低学年の子どもたちが作りやすいような形や組み立て方などを改良した型紙を制作した。(担当：AV事業部)
砂糖大変身～さとうでつくるお菓子の科学～	6.1／7.6	砂糖を原材料とした3種類のお菓子「べっこうあめ」「わたあめ」「カルメ焼き」を作った。砂糖を熱すると液体となり、それが冷えて固まる過程の違いで、さまざまなお菓子に変わることを体験した。(担当：プレイ事業部)
アニメをつくろう～切り紙アニメに挑戦～	6.8／9.28	「ストーリーアニメに挑戦」では、色紙を組み合わせて使うので、制作時間が長いのが難点だった。このプログラムでは、背景やキャラクターをペンで描き、それを切り抜いていくようにして制作時間を短縮。より多くの子どもたちが参加できるようにした。(担当：AV事業部)
空気であそぼう～見えない空気が見えてくる～	9.14／11.23	「浮沈子」「CDホバークラフト」「空気砲」を作り遊んだ。空気の圧力などを利用したおもちゃから、身の回りにある空気の存在を感じてもらうことをねらいとした。(担当：プレイ事業部)
フェルトをつくる・フェルトであそぶ	9.21／11.30	羊毛からフェルトを作り、小物入れなどを作成。実際に刈ったばかりの羊毛(実物)や毛刈りの様子(写真)も展示。羊毛、フェルトを身近に感じてもらうことをねらいとした。(担当：プレイ事業部)
君の絵がぐるぐる動く「驚き盤」をつくろう	11.9／H15.2.8／3.8	映画発明以前に存在した視覚がん具の中で、構造が簡単なフェナキスティスコープ(驚き盤)をアニメ・キットの型紙を利用して制作。裏面に描いたアニメのような連続した絵を鏡に写し、回転させて12個のスリット(細いすきま)ごしに見ると絵が動いて見える。(担当：AV事業部)
ビデオで突撃インタビュー	11.16	より親しみがわくよう、「デジタルビデオワークショップ」を改題。内容は変わらず、DV(デジタルビデオ)カメラでのインタビュー撮影体験。(担当：AV事業部)
びっくりミラー合成ボックスをつくろう	12.14	光を半分透過し、半分反射するマジックミラー(ハーフミラー)は、2つの映像を簡単に合成することができる。同様の効果が期待できる透明プラスチック製フロッピーディスク・ケースを利用し、顔と絵が合成して見える簡単な装置を作った。(担当：AV事業部)
青山劇場バックステージツアー	H15.2.1	青山劇場スタッフの協力で、楽屋や客席、舞台機構など、普段ではなかなか見ることができない「劇場の裏側」を約1時間のツアー形式で体験。定員20人で3回実施。(合同、協力：劇場技術部)
あったかいぞ!! カイロをつくろう	2.15／3.1	鉄粉や木片、塩などを材料に、使い捨てカイロを実際に作るプログラム。鉄が酸化するときに熱を出すこと、また材料の調合具合で温度変化に差があることを体験。(担当：プレイ事業部)
サタラボスペシャル	3.20～22	人気プログラムを日替わりで実施。20日＝混虫工場／クイズ100問答えてラリー、21日＝驚き盤／クイズ100問答えてラリー、22日＝空飛ぶおもちゃ／クイズ100問答えてラリー。(合同)

2. 講座・クラブなど

《講座》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
キッズクラブ	小1～4 1期（30） 2期（30） 3期（30）	 30 30 30	隔週土曜日 15:00～17:00 （原則）	遊びのクラブ。家庭や学校では体験できない活動を行う、地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす、子どもたち自身がプログラムを考え作り上げる――ことで、自発性や発言力を養うことを目的としている。 1・2期は6回、3期は5回開講。受講料＝9，000円（1・2期）、8，000円（3期）。
ユースクラブ	小5～中3 1期（40） 2期（40） 3期（40）	 27 27 27	隔週日曜日 13:30～15:30 （原則）	遊びのクラブ。１０代前半の心の成長期に集団活動をとおし豊かな人間形成をはかるのがねらい。いろいろな活動をとおしてさまざまな直接体験をする、仲間をとおして人間関係を学ぶ、計画から実施をとおして夢を実現する――が目的。前年度末に中学校を卒業して退会したメンバーが多く、定員を下回っての活動となった。積極的にメンバー募集の活動を継続している。 1・2期は6回、3期は5回開講。受講料＝9，000円（1・2期）、8，000円（3期）。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
小学生パソコン教室Ⅰ	小4～6 （20）	13	4.12～5.26（6回） 日曜日 10:30～12:30	ロゴ言語のプログラミングという形で、グループによる共同作業の場面を設定し、グラフィックスの共同作品を制作する。パソコンを仲間遊びの媒介ととらえた活動で、子どもたちは、パソコン操作やプログラミングと、仲間と一緒に楽しく作品作りを行った。受講料＝9，000円。
小学生パソコン教室Ⅱ	小4～6 （20）	4	H15.1.19～2.23 （5回） 日曜日 10:30～12:30	小学生パソコン教室Ⅰを終了した子どもたちのためのコースで、ゲーム作りがテーマ。ゲーム作りのプログラミングをとおして、変数や再帰といった概念を学び、創意工夫する楽しさを体験した。受講料＝7，500円

《短期講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
小学生パソコン教室スペシャル～マルチメディア探検隊～	小4～6 （20）	7	H15.3.26～30 （5日連続） 10:30～12:30	取材とパソコン操作による資料作成という形で、5人のグループによる共同作業の場面を設定し、写真入りのレポートの共同作品を制作することを内容にした。デジタルカメラで、自分たちが考えた視点で〔こどもの城〕館内を取材、グループごとにレポートを作成し、〔こどもの城〕のホームページで発表した。 受講料＝7，500円

《指導者向け講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「パソコン遊びのワークショップ」	児童厚生員など （40）	40	5.22・29 （2日間通い） 10:00～16:00	児童館などに導入が進んでいるパソコンをどう活用すれば、子どもたちの遊びを広げることができるか、またその準備作業はどう進めるかなどを、〔こどもの城〕で実施しているプログラムを体験しながら研修を行った。全国から参加。 受講料＝10，000円。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
ちびっこ冒険団2002	7.27～30（3泊4日）	小学校1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と共に“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係性を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度はエリアを広げ、阿武隈川の支流にある剣桂神社まで冒険ハイキングを行った。往復にはやや時間もかかったが、子どもたちの達成感は大きなものとなった。参加者72人、ボランティア21人、職員4人。参加費＝38,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）
フェローシップキャンプ2002	8.4～8（4泊5日）	小学校4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度で7年目を迎え活動も順調に進むようになり、目的にそって充実した活動を展開することができた。今回は「茶臼岳トレッキング」をメインの活動とし、自然を豊かに感じ仲間とともに楽しみながらさまざまな体験を楽しんだ。参加者38人、ボランティア12人、職員3人。参加費＝45,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）
ゆきんこ冒険団2002	12.25～28（3泊4日）	小学校1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、その中で遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は雪に恵まれ、ソリやかまくら作り、雪合戦など冬の遊びを満喫した。恒例の「もちつき」も実施した。ふだんの生活の中では体験することのできない、たくさんの雪を使ってグループごとに考えた遊びを十分に楽しみ、仲間との関係も深まったようである。参加者74人、ボランティア25人、職員4人。参加費＝38,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
パソコン遊びのワークショップ	9.20	〔こどもの城〕で実施してきたパソコン遊びのプログラムをいくつか体験しながら、子どもたちにとっての活動の意義とパソコン遊びを提供するまでの具体的な方法について体験し、児童館で子どもたちの遊びを広げるためのパソコンの活用方法を学んだ。豊島区の児童厚生員19人が参加。（こどもの城）
みんなで遊ぼう パペットランド（ネズミ村～おむすびころりん）	10.9 研修会 10.10 ワークショップ	保育士・児童館職員を対象に、実践的なプログラムの準備と展開をねらいとして、身近な素材である紙コップを使った人形作り・ごっこ遊び・参加劇へと発展していくものを行った。また、児童館を利用している保育園児を対象にプログラムも行い、イメージの世界を友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しんだ。（鳥取県国府町栃本児童館）
〃	10.18 研修会 10.19 ワークショップ	児童館母親クラブの母親・児童センター職員を対象に、身近な素材を使った人形作り・ごっこ遊び・劇遊びへと発展していくものを紹介。実践的なプログラムの準備と展開方法を指導。その場で小グループを作り「サーカス」の演技を話し合い・練習し、発表し合う形式で行った。主催者から、特に児童センターの表現クラブの小学生に人形劇遊びのおもしろさを伝えてもらいたいという要請があり、子どもたちを仲間と考え、作っていく展開に焦点をおいた。（岐阜市本郷児童センター）
〃	11.8 研修会 11.9 ワークショップ	市内に児童館が2館しかないため、採用1年目の保育士の研修も兼ねて開催された。ワークショップは、工作コーナーと遊ぶコーナーとに分かれ、随時来館する幼児から小学生高学年までの広い年齢層の親子がいつでも遊べるように工夫した。（愛知県新城市鳥原児童館）
「忍者マスター決定戦」レクリエーションゲーム・大会の演出プラン	12.4	駒繋小学校の学童クラブ「新BOP」とPTA、近隣の児童館の共催。雨天にもかかわらず200人ほどの子どもが参加。“忍者”をモチーフにした「忍者の世界一を決定する『忍者マスター決定戦』がやってきた！」を展開した。また、プログラムに先立ち、指導者向けの講習会を実施。レクリエーションゲーム大会の演出プランについて〔こどもの城〕で行ったプログラムをもとに、そのねらいや考え方、実施例を紹介した。（世田谷区立駒繋小学校）

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
愛知県児童館連絡協議会実技指導研修会	11.13	県内の児童館指導者を対象にした研修会。レクリエーションゲームの展開例として「仲間づくりのためのゲーム指導」をテーマに、じゃんけんを利用したゲームのバリエーションと新聞紙を使ったさまざまな遊びを紹介した。（愛知県尾西市）
平成14年度地域子育て支援センター担当者研修会	12.5	日本保育協会主催の講習会。本年度は3歳児とその親のペアを想定した人形を使った交流遊びのプログラム「みんなであおむしくん」を実施。靴下で作った青虫の人形を手にはめてお互いにあいさつしあったり、くすぐりあったり、体を山や木に見立ててよじ登ったりという、親子のスキンシップに大きなポイントを置いたプログラム。（こどもの城）
静岡県放課後児童指導員研修会	12.10、H15.1.29	県内の学童クラブなどの施設職員を対象に、現場ですぐに使える実技について研修する。県中央部と県東部の2地域で実施。みんなで遊べるレクリエーションゲーム「仲間づくりのためのゲーム指導」をテーマに、記録に挑戦する「チャレンジゲーム」とオリンピックの競技にちなんだ「オリンピックゲーム大会」を紹介した。（10日：静岡市、29日：沼津市）
子育てサークル指導者講習会	H15.1.16	子育てサークルの指導者約100人を対象に、3歳児とその親のペアを想定した人形を使った交流遊びのプログラム「みんなであおむしくん」を実施。30分の制限があったため、一つひとつのプロットを余裕を持って展開することはできなかったが、プログラムのねらいや概要が伝わるように配慮。（こどもの城）
静岡県児童館連絡協議会東部ブロック研修会	1.22	県内東部の児童厚生施設の職員を対象に「仲間づくりのためのゲーム指導」の実技指導を実施した。レクリエーションゲームの展開例として「仲間づくりのためのゲーム指導」をテーマに、ジャンケンを利用したゲームのバリエーションと新聞紙を使ったさまざまな遊びを紹介した。（静岡県大仁市）
石神井児童館子育てネットワーク事業	3.5	「情報化社会と子どもたち」と題し、主に子育て中の母親を対象に、子どもたちがインターネットやテレビを中心とした情報化社会と、どうかかわっていけば良いかを参加者とともに考えた。（練馬区立石神井児童館）
埼玉県草加市児童福祉施設職員専門研修	3.13	児童厚生員、学童保育担当者を対象に「グループワーク入門」のテーマで、児童館でのグループ活動や学童保育などで必要なグループワークの概論を講習した。（埼玉県草加市）



「ユースオリジナル～夢のビックリハウス大作戦」（ユースクラブ）

「キッズお笑いたこ焼き」（キッズクラブ）



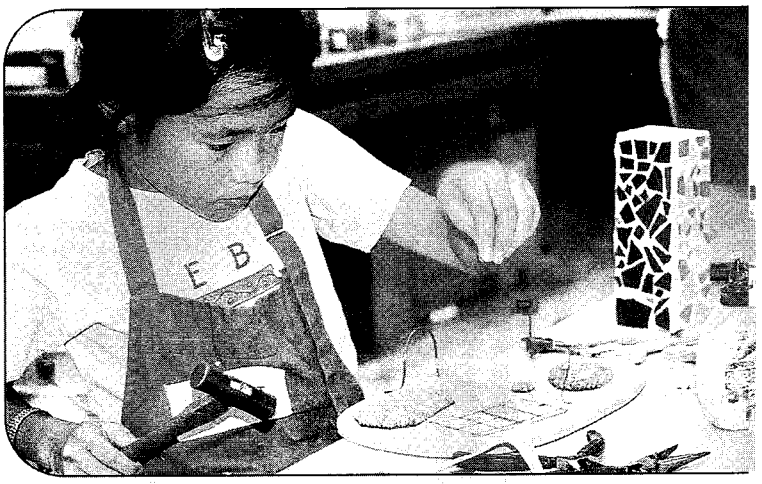
□キッズクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.20	集まれキッズ！ゲーム天国	班対抗で、万歩計を使った「万歩でダンス」、自分の靴をすばやく探し出す「波乗りシューズ」などのゲーム大会を実施した。
5.11	街中探検ウォークラリー	コマ図というマップを使って、〔こどもの城〕周辺を探検し、様々な課題を探し出した。
5.25	これがキッズ！の鬼ごっこ	手つなぎ鬼やだるまさんがころんだ、人間知恵の輪、しっぽとりなど、さまざまな集団遊びを楽しんだ。
6.8	とべ！タケコプター2	プロペラを使った空飛ぶおもちゃを工作。代々木公園（渋谷区）に移動しテスト飛行を行った。
6.29	キッズお笑いたこ焼き	班ごとに内緒で相談し、おせんべいやお菓子、焼き鳥の缶詰などを入れたおもしろたこ焼きを作り、保護者と試食。
7.6	ウォータープロジェクトVII	水鉄砲を使った2チーム対抗の陣取りゲーム。額に金魚すくいのポイをつけ、生き残りの数で勝敗を競った。
9.14	みんなそろって遊んじゃオウ！	投げる修行、逃げる修行などの練習を行ったあと、2チーム対抗でドッジボール大会を実施。
9.28	キッズ・スパイ大作戦！	班ごとにスパイチームを結成し、ボスから指示されたものをデジカメで撮影する。背中につけた暗号を敵に読まれると減点。
10.19	びすとろ・きっず	小麦粉を練るところから、本格手打ちラーメン作りに挑戦。鶏ガラを使ったスープのいい香りが部屋中に充満していた。
11.9	秋だ！　キッズだ！　遠足だ！	鴨志田一族の財宝があるという手紙と地図をたよりに、青葉台（横浜市）にある寺家ふるさと村で、宝さがしふうのポイントラリーを実施。
11.30	皆で作ろう X'masイルミネーション	透明なプラスチックケースの中に思い思いに装飾し、組み合わせてツリーを作成。中には発光ダイオードを組み込み、光るようにした。
12.14	お楽しみクリスマスパーティー	装飾班、食べ物班、プログラム班の3つに分かれ、自分たちの力でクリスマスパーティーを準備から運営まで行った。
H15.1.18	お正月遊ぼうキッズの仲間たち	はねつきやこま、三ツ馬など、正月がん具を使った班対抗のゲーム大会を実施。自分の得意なものにエントリーしていた。
2.8	ナンダーコール世田谷城の決戦	額につけた3文字の言葉を読まれるとアウトになる陣取り“ナンダーコール”を、古（いにしえ）の趣のある世田谷城跡公園（世田谷区）で実施。
2.22	こどもの城館内探検ツアー	警備室やボイラー室など、ふだん子どもが入れない〔こどもの城〕館内のさまざまな部屋を探検して歩き回った。
3.8	館内宿泊作戦会議	どろけいで思いっきり遊んだあと、最終回の館内宿泊のプログラムについて企画会議を行った。
3.15～16	わくわくお泊り大作戦	ドッジボールやデザート作り、暗闇どろけい、代々木公園まで怪人21面相の謎解きをして歩くなど、盛りだくさんの1泊2日だった。

□ユースクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.7	フレンドシップゲーム大会	新メンバーを迎え、じゃんけんなど、すぐにできるゲームをみんなで楽しんだ。ゲームをして和んだところでお互いの自己紹介を行った。
4.21	こどもの城を探る！ Oh！しろ(城)DEビンゴ	屋外活動が雨天中止のため館内クイズラリーを実施。ます目に書かれた問題を解き、正解をつないで、いくつビンゴできるかを競い合った。
5.12	代々木で遊ぼう フィールドゲーム大作戦	代々木公園でダイナミックなゲームを実施。前半は取り放題しっぽ取りゲーム。気分がほぐれたところで後半はアドベンチャーゲームの「クマ狩り」楽しんだ。
6.9	里山にGO!! 春を発見！ 夏も発見!! in KOMA	埼玉県高麗周辺での野外活動。岩山に登り、山頂をきわめたのち下山して、河原で簡単野外炊事を行った。陽気に誘われ、皆びしょ濡れになって川遊びも楽しんだ。
6.30	ジャンボに作ろう！ 班対抗コリント合戦	畳半分ほどの台の上にグループでコリントゲームを作った。サッカーのワールドカップなどのテーマを考えて各班おもしろいコリントが完成、互いに遊び合った。
7.14	PAN！ パン!! ぱん！ 本日開店?! パン屋さんに挑戦	段ボール箱でオーブンを作り、それを使って手作りのパンを班ごとに生地から作った。形もユニークでおいしいパンがたくさんできた。
9.8	夏、再び……ウオーター大作戦	去る夏を惜しんで豪快に水遊び。水鉄砲を使った陣取り合戦やすいか割りなどを行った。
9.29	デジカメ芸術祭& ユース活動の企画会議	秋をテーマに班の皆で写真を撮ってくる活動。たくさんの作品のなかから1点を選び、題名も考える。後半はやってみたい夢を語り合う企画会議を実施した。
10.20	材料ゲット宝捜し& 謎のナイスおやつ作り	前半のゲームでおやつの材料を獲得して、後半はおやつ作りを楽しんだ。おやつはたこ焼きのプレートを使って球形のホットケーキを作った。
11.10	いそいそと海にGO! GO! 磯遊びに出かけよう	神奈川県三浦半島での活動。磯など海辺を歩くハイキングを実施。昼食はキャンプ用コンロを使った簡単炊事を行った。
11.24	チョット遊ぼう&作戦会議	最終回の企画について考え、思いきりゲーム大会を実施することを決定した。
12.14	思い切りゲーム大会 遊びプロジェクト in こどもの城	自分たちの考えたやりたいゲームを泊りがけで、できるだけたくさん行おうという活動。1泊2日の24時間全部で100回以上のゲームを行った。
H15.1.19	年の始めのおめでたいゲーム大会	お金持ちになろうという初夢ゲーム大会。班対抗のゲームでどの班が一番お金持ちになれるかを競い合った。
2.9	マル秘おやつ作り& ユースまとめ作戦会議	班で串だんごを作って食べるおやつの活動をしながら、リラックスして班ごとに話し合い。後半は全体で最終回に行う活動について考え意見をまとめた。
2.23	ビデオで遊ぼう& これで決めよう作戦会議	最後回の案にある映画のもととなるビデオカメラでの特撮を作って遊ぶ体験を行い、後半は最終回に行うユースらしい活動を話し合い、“ビックリハウス”を作ることに決定した。
3.9	ユースビックリハウス プロジェクト会議	来館児・者を驚かせるいろいろなビックリを考えて、次回に制作するための計画をみんなで話し合いまとめた。
3.22～23	ユースオリジナル 夢のビックリハウス大作戦	泊まりがけで準備をしアイデアどおりのビックリハウスを完成させ、日曜午前中には一般来館児・者に公開し楽しんでもらった。

造形事業部

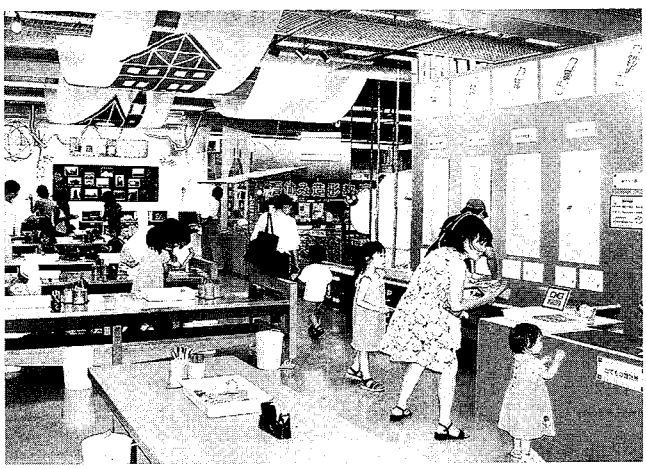


平成14年度の活動

1．はじめに

開館以来、造形スタジオでは子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに発育してゆく方法として、(1) 新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせる方法（素材との出会い）(2) そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感を新しくする方法（造形発見展）(3) 制作活動の基本となる「素材と道具と技法」の三つの関係を理解できるように視覚化した方法（オープンスタジオ）――これらの3つの「ワークショップ」を軸に活動。これらを、順次くりかえしながら、スタジオの運営をしている。

3つのワークショップの構成要素である“展示”“体験”“制作”という従来の基本コンセプトに加え、プログラムに応じて環境設定を行い、その環境に子どもたちが積極的にかかわっていけるようにプログラムを展開した。夏休み特別期間に行った造形発見展「建築と造形」では、“建築”という語感が持つ硬いイメージを子どもたちが 少しでも変えられるように、環境設定には特に気を配った。



造形発見展「建築と造形」のスタジオ風景

また、学校の週5日制に伴い、平常期間の小学生以上の子どものプログラムの充実をはかった。特に高学年（小学校4年生以上）を対象とした「造形実験室」を土・日曜日、祝日に新設した。

（ア）一般来館児・者へのワークショップ

本年度の一般来館児・者への活動は、建築を造形的な見地から取り上げ、その構造、しくみ、美しさなどをテーマに選んで、夏休み特別プログラム造形発見展「建築と造形」を開催した。9月以降は「やってみよう！つくってみよう！～建築と造形」と季節感を題材にした「こども歳時記」を実施した。

（イ）講座・クラブ

講座・クラブの活動では、「こどもクリエイティブクラブ」5コースと平成12年にAV事業部と共同で行った「映・造ワークショップ」を再開、実施した。

（ウ）グループ活動

平常期間の午前中は、受け入れの総合案内課と協力して、「かげをうつそう」「木をつくろう」「ねんどのジャングル旅行」と前年度から実施している「竹体験ワークショップ」を実施した。

以前から実施している3つのプログラムは、すでにルーチン化していて、事前の打合せ、リハーサル、実施とスムースに運営できた。

「竹体験ワークショップ」は、2年間にわたる造形スタジオの一般プログラム活動から生まれたもの。参加する子どもたちの年齢や経験などを考慮して、竹の素材としての特性をスタッフとともに手、体、道具などをフルに使い体験し、実際に竹の玩具などを制作するプログラム。本年度は健常児のグループだけでなく、障害を持った子どもたちの学級の参加があった。他のプログラムと同様に、参加する子どもたちの状態を考慮し、竹の素材体験の方法や実施プログラムをアレンジ。子どもたちは、約1時間半の「竹体験ワークショップ」を楽しんだ。

今後もこうしたそれぞれのグループに合わせたプログラム活動が重要になると思われる。

2. 造形発見展「建築と造形」

前年度のワークショップ「すみかと造形」のながれをくみ、建物の形、色、素材の可能性などを検証、発見するという視点から造形発見展「建築と造形」を実施。平常期間はプログラム試行のステップとしてプログラムの開発、実施、再考をくり返した。

「造形発見展」の企画は、素材そのものを造形活動の中心に置くのではなく、子どもたちの視点や発想を広げるために、造形と直接かかわりのないと思われるもの、例えば音や光や空気などと造形を結び付け、造形表現領域の拡大を目指したワークショップである。

人間が寒暑や風雨や攻撃から身を守るために家を作ること、神をまつり、祖先を葬るための記念物を作ることなどが建築の始まりといわれている。それゆえに、その国や地方の風土・風習にあわせて建築は発展してきた。時代時代の様式が生み出され、人間の物質的要求と精神的要求の双方を満たすために役立ってきた。現代の私たちが生活する上でなくてはならない物のひとつであり、あってあたりまえの存在である。

このような建築に注意深く目を向けてみると、素材と形の関係・力のバランスと構造・様式や人の知恵といったものが随所にあふれている。建築に隠された先人の知恵と工夫がさまざまな表現につながっていることに改めて気づくきっかけとして造形発見展「建築と造形」を企画した。普段あまり気にもとめていないこと、見過ごしてきたありふれた物をほんの少し注意深く見つめることで、心と物が大きく変化していくように設定した。

来館する子どもたちは、年齢も性別も育った環境も異なるため、みんながそれぞれに楽しく、建築に隠されたさまざまな要素を、探検し発見していけるように、3階のエレベーターホール、廊下、ロビー、そして造形スタジオ全体を「建築広場」という形で、新しい発見や出会いがあるような展示空間設定を行った。

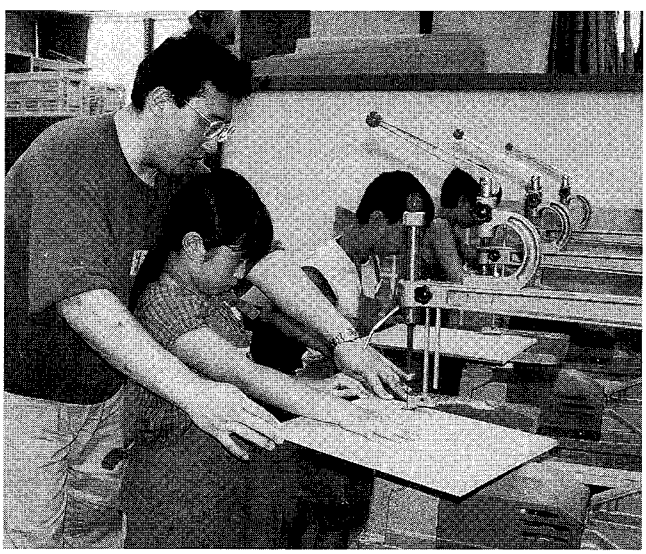
「建築広場」案内役として建築の基本要素といえる構造体に着目し、“構造くん”というキャラクターを登場させ、子どもたちを発見の旅へと導いた。

3階エレベーターホールから造形スタジオへ向かう細長い廊下をシルクロードならぬ「シルエットロード」とし、両側の壁に色とりどりの建物シルエットを配した。このシルエットは単なる装飾ではなく、3階ロビースロープ「たてもの世界一通り」に展示した「建物なんでも世界一」パネルに登場する、特徴ある建築物をシルエット化したもので、クイズ形式の形をとって造形スタジオへの誘いを設定できた。

ロビーには木、金属、人工芝と3種類の素材でできた「いろいろ柱」を設置。形、大きさは同じなのに、素材によって周囲の空間までが変化してみえたり、触感による印象の違いが楽しめるようにした。また、大きな円筒の中に入って見上げると、天井に張ってある伸縮性のある布の内側のところどころにあるハリネズミのように突起している部分が光って見える「ハリハリライトの塔」も設置。来館する



造形発見展「建築と造形」の“継ぎ手の森”（体験コーナー）



造形発見展「建築と造形」の“一日造形教室〜ハリテント”

子どもや大人は柱の手触りを楽しんだり、光の粒に魅了されたりしていた。金属の柱は人の触れた場所だけ手油などにより変化し、さまざまな色や模様が出現した。

造形スタジオ入り口横のスペースには、「建築広場」全体の絵地図を配し、展示物の存在をアピールするとともに、広場を探検しているような気分の盛り上げをはかった。建築がより楽しい造形物であることを伝えるため、地図の横に人が数人は入れる大きさの「かべかべ小屋」を組み立てた。屋根に透明素材を使ったり、壁の一部を取り付けなかったりして、意図的に小屋の骨組みが見えるように設定した。小屋の壁は格子状に区切り、ビー玉、貝殻、竹、モザイクタイルとさまざまな素材を埋め込んだパネルをはめ込み、バラエティーに富んだ触覚体験コーナーとなった。

日本の建築で代表的な物は木造建築である。現代のようにくぎ、ネジのなかった時代はどうやって木と木を接合したのか？　そんな疑問に答えるべく、昔の人が考えだした“継ぎ手・仕口”と呼ばれる方法を伝えるため、図版と実際に手に取り触り体験できる「継ぎ手の森」体験コーナーを設けた。“継ぎ手・仕口”の役割は、ただ単に木と木をつなぎ合わせるだけでなく、組まれたあとの美しさも重要な要素とされているため、“ねじ組み”と呼ばれる屋根の骨組みもスタジオ内に展示。ヘルメットを着用し、潜り込んで観賞できるようにした。

ちょっとしたアイテムを加えることでより積極的な参加形の体験の場が設定できた。本来“継ぎ手・仕口”は、1度組み合わせたらはずすことがとても難しいものだが、今回造形スタジオに展示した“継ぎ手”は、形や仕組みなどがわかるように特別に接合部をゆるめに仕上げ、何度でも組み立てができるようにした。

現代は機械でも簡単な“継ぎ手”ができるそうだが、昔ながらの形は職人の手によってのみ生み出されるという。残念ながらその技術も年々継承するものが少なくなっているといわれている。普段は屋根や壁に覆われていて、目にすることのできない建築の技術を自分の手でたしかめながら、組み立てることができ、子どもも大人も夢中で体験していた。曜日別で“継ぎ手”の種類をかえたことで、リピーターへのアピールも高かった。

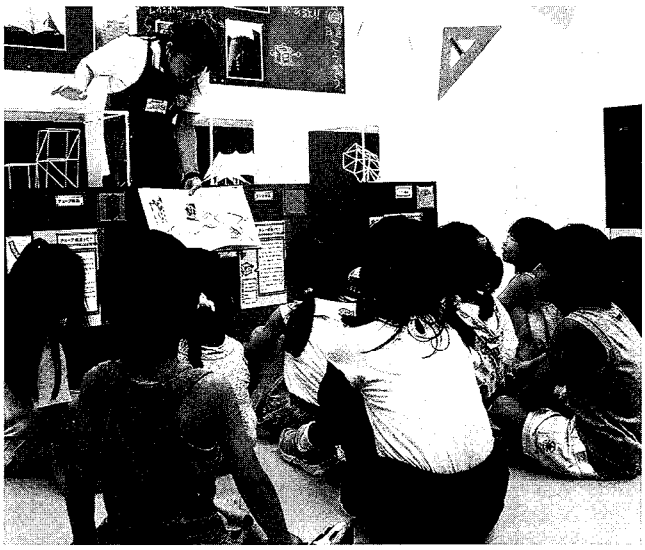
平成11年度に造形作家・松本秋則氏協力のもと制作された、竹と和紙の空間「松本劇場」も復活。未来的なフォルムを来館児・者に提示することができた。

スタジオ奥には「建築構造研究所」が出現。スタッフ自らが都内をめぐり収集した特徴ある建築物の写真と、建築構造模型を展示。案内役・構造くん、テトラちゃん、愛犬わんチューブが楽しく分かりやすく構造体について教えてくれる仕組みだ。この研究所では、夏休み特別期間中、「夏休み造形教室」が休講で一般プログラムやスタッフに影響の少ない木・金曜日夕方を中心に、当日受け付け8人限定の「構造ワークショップ」を実施した。

子どもたちは、建物にはそれを支える仕組みがあること、構造（骨組み）の違いで建物の形が変わったり、骨組みが強いとしっかりした家が建つことを身近な道具を使って発見した。生き物の骨の図鑑や3びきのこぶたの紙芝居などを導入部とする4歳児から小学校1年生までを対象としたものと、“テンション”“トラス”“テント”と代表的な建築構造をロープや布、竹などを使って実験していく、小学1年生以上を対象とした2つのプログラムを交互に展開。どちらも最終的には、みんなが協力しあって、塩ビパイプとジョイントで大きな構造体を完成させた。

参加した子どもには、構造研究所の「研究員認定書」と「TOKYO建築MAP」が授与され、街へ出かけて研究するようにうながされる。造形スタジオから外へ向かって大きく開かれたワークショップとなった。リピーターがでるほど大好評だった。

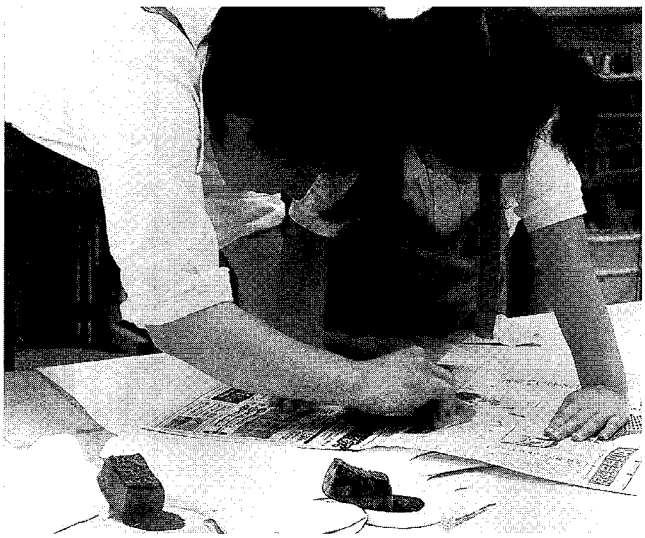
この他にも、受付で随時配付するスタンプシートを仕上



造形発見展「建築と造形」の“建築構造研究所～レクチャー”



造形発見展「建築と造形」の“構造ワークショップ”



こどもクリエイティブクラブ「親子でアート～わくわくアート」



こども歳時記「クリスマス」

げて、決まった時間に研究所へ持っていくと「建築カード」と交換できるようにした。子どもたちがさまざまな遊びをとおして、無理なく建築に親しめるようにと、スタッフが考案したさまざまな仕掛けが、スタジオ全体を活気づかせてくれた。

3. まとめ

開館以来17年間、造形スタジオでは常に子どもたちの造形体験が豊かであるように、また、感性を健やかにはぐくんでいけるように、さまざまな試みを行ってきた。前年度は“生きる”“生活する”知恵を分かりやすく理解できるよう「オープンスタジオ～すみかと造形」を実施し、本年度はさらに“すみか”からその構造、しくみなどの造形的な美しさを発見できるように、ワークショップ造形発見展「建築と造形」を実施した。

今回は建築に見られるさまざまな要素から、造形表現とのつながりを見い出す試みを行った。素材からのアプローチとは違い、建築に隠された造形要素をどのように表現へと結び付けるかを探り出すことからはじめなければならないため、スタッフ一同初めて試みるものも多く、苦労はしたが、逆にこのようなアプローチの仕方に新しい発見もあり順調にプログラム開発へと進んだ。

学校の週5日制に伴い平常期間に新設した小学4年生以上のコーナー「造形実験室」は好評で、毎回50人平均の子どもたちが参加した。今後は、プログラムの内容をさらに検討し実施していきたい。夏休みなどの特別期間中に、開催されていないこと残念がる来館児・者もいたが、予算も含めて検討すべきことである。

また、前年度に続き「第6回図工大好き子ども美術展」を実施し、造形スタジオの活動に幅を持てるような外部との共同事業を積極的に行った。今後も継続して実施していきたい。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

《平常期間》

名　称	日　時	内　容
やってみよう! つくってみよう!「建築と造形」	4.10～21、5.10～7.19、9.10～10.20、11.6～12.1、H15.2.4～17、3.5～16	前年度のワークショップ「すみかと造形」を引き継いで、建物の形や色、素材などを検証、発見するという視点から「建築と造形」をテーマにしたワークショップを行った。平常期間は、プログラム試行のステップとして開発、実施、再考を行いながら、建築を体験的に学ぶ、展示・体験・制作の3要素で構成するワークショップ活動を実施した。
こども歳時記「七夕」	6.25～7.7	スタジオ内壁には、紙で作った大量の星を飾り、天の川に見たてて、その周りに織り姫、ひこ星、けん牛を飾った。透明アクリルの半球を2つ合わせ、そのなかに、レインボーシートなど“光る素”を入れ惑星にしたものをいくつか飾り、宇宙のイメージを出した。「天のかけ橋2002」(親子)、「テトラ☆スター」(小1～)。
こども歳時記「節分」	H15.1.15～2.2	廊下やスタジオ内に鬼のパンツやこん棒など、節分にまつわるものを紙で作り飾った。ロビーにあるボイド管を鬼の顔にみたて、子どもたちがそのなかに入ると、鬼に食べられているように見えるようにした。造形スタジオ入り口横の小屋は、紙の筒で作った鬼を並べて、鬼の家にした。造形スタジオでは、段ボールで作った青鬼、黄鬼が子どもたちを迎えた。「おにバルーン」(親子)、「鬼車」(小2～)。
こども歳時記「桃の節句」	2.18～3.2	廊下やロビー、造形スタジオ内を、紙で作ったおだいり様やおひな様、ひしもち、桃の花など(平面、立体)で飾った。また、全国各地の伝統的な民芸品のおひな様の展示も行った。子どもたちは、自分たちで作った作品と伝統的なものとを見くらべていた。「ふんわりびな」(親子)、「かぐやびな」(小2～)。

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉こども歳時記「端午の節句」	4.23～5.5	廊下を空にみたてて紙で作ったこいのぼりを飾り、造形スタジオへの誘導役とした。ロビースロープは窓越しにこいのぼりを見る装飾、造形スタジオ入口にはボイド管（大きな紙の筒）の天井にこいのぼりのステンドグラスを配置したもの、ドアスコープからのぞくとこいのぼりがある風景を見ることができるボックス、ミラーに自分の姿を映すとかぶとをかぶっているように見える仕掛けなどを展示、制作前の足がかりになるような環境を作った。 造形スタジオでは、天井に飾った大きなビニール製の親子ごい4ひきが子どもたちを迎える。4ひきのこいをつなげて先頭の口から風を送って、体がふくらむようにした。ほかにも、「建築と造形」で制作した“触感の柱”に目玉をつけて、柱と柱の間にかさ袋で作ったこいのぼりをたくさんぶらさげるなど、さまざまな素材で作られたこいのぼりで飾った。また、親子プログラム「アームごい」で遊べるコーナー（ミラーに映すと、空を飛んでいるように見える）を設置。自分で作った“アームごい”で楽しそうに遊んでいた。「コイシーソー」(小3～)。
〈夏休み〉造形発見展「建築と造形～建築広場」	7.20～9.1	人間と密接な関係にある建築をテーマに、いろいろな素材を使い、建築構造の重要さ、形のおもしろさなどを造形的にとらえ、建築を体験的に学ぶ、展示・体験・制作のワークショップを実施した。
〈開館記念〉第9回親子体験ワークショップ	10.22～11.4	「ニコニコハウス」(親子)、「スライドハウス」(小2～)を実施。
〈　〃　〉開館17周年記念 第17回造形スタジオ展	11.1～24	平成13年11月～14年10月に来館した子どもたちが制作した一般プログラムの作品と「こどもクリエイティブクラブ」の受講生の作品を展示。ロビースロープに、どのような活動が行われたかを年表形式のパネルで展示(10枚)。1年の流れを道路にみたて、イラストとプログラム名を実施期間順に道路両脇に配した家のシルエットの中におさめた。「建築と造形」案内役キャラクター“構造くん”の動きを追うと活動の流れが読み取れる仕組み。スタジオ内には実物をプログラムボックスやガラスケースにいれて展示。活動写真パネルとともにより具体的に活動内容が伝わるようにした。ボックスを飾るパーテーションに屋根をつけ、ちょうどボックスと写真パネルが窓になるよう工夫しスタジオ全体の環境設定も行った。

名　称	日　時	内　容
〈冬休み〉 こども歳時記 「クリスマス」	12.3～25	3階ロビーには、紙で作ったクリスマスの飾りやリース・電飾などの飾り付けを行い、クリスマスの雰囲気を出した。入り口横の小屋は“サンタの家”とし、プレゼントボックスをたくさんぶらさげた。家のなかに入って煙突を見上げると、万華鏡のようにキラキラ光って見える仕掛けも作った。造形スタジオ内も、紙や段ボールで作ったサンタクロースやとなかい、プレゼントボックス（平面、半立体、立体）などをにぎやかに飾った。特別イベント「インディアンドン2002」で子どもたちが共同制作したあんどんふうのクリスマスツリーを飾った。クリスマスをテーマにした絵を木の骨組みにはっていき、内側からライトアップするもの。「メクリマスカード」（親子）、「へんてこツリー」（小2～）を実施。
〈　〃　〉 こども歳時記 「お正月」	12.26～H15.1.13	正月に関連したものを廊下にたくさん飾り、にぎやかな雰囲気を出した。プレイ事業部と共同で、全国各地の伝統的な凧（たこ）を飾り、伝承している地域などをパネルで紹介。入り口横の小屋には、スポンジで作った2ひきのひつじ（干支）を置き、ひつじの家にした。造形スタジオ内にも、凧のレプリカ、全国各地のひつじの伝統的な民芸品を展示した。そのほか、三輪車を固定して、ひつじヘルメットをかぶって遊べるコーナーも設置した。「プルプルシープ」（親子）、「ぶらり羊旅」（小2～）。
〈春休み〉 やってみよう！つくってみよう！「建築と造形」	3.20～4.6	建築を体験的に学ぶワークショップ「テンションブリッジ」（親子）、「自在都市」（新小3～）を実施。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
こどもクリエイティブクラブ　A 土の冒険～クレイワーク	（人） 小1～中3 （20）	（人） 15 17 17	火曜日 16:00～17:30	土にはいろいろな種類があり、技法や釉（ゆう）薬、焼成方法などもさまざま。土による表現の可能性を追求しながら、子どもたちの表現力を引き出した。こねる、たたく、つかみだす、といった初歩的な行為から、次第にくり抜きやぞうがん、たたら、型押し、ひも作りなど、陶芸の基本的な技法を用い、子どもたちが遊びながらも個性を発揮できるよう指導。年間をとおして子どもたちが使用する粘土は、一人あたり合計100kg以上というダイナミックな活動である。 1期は「かたまりからの変化」。大きな粘土のかたまりを使い、体全体を使って活動。初回は、土とクラブメンバーにも慣れることを目的に「粘土の冒険旅行～恐竜時代にタイムスリップ」を実施。最初は緊張していた子どもたちも和やかな雰囲気となった。次に、50kgの土の粉に水を混ぜ、足で踏んで粘土を作り、平らにのばして足型をとった。手型のプレートを作る子も出てきて、にぎやかな活動となった。続いて，くり抜きの技法を使う「虫食いハウス」「謎の宇宙生命体」、くり抜きとぞうがん、磨きの技法を使う「陶魚」、ひも状にした粘土をつなげて作る「リング・リング・リング」「うずまきハウス」を制作。「陶魚」は、木魚の粘土（陶器）版。肉厚や中の空洞の大きさなどが異なるため、一つひとつが異なった音色。それぞれの陶魚の音色の違いを楽しんでいた。 2期は「板からの変化」。粘土の板「たたら」を変化させて造形。丸めて作る「ランプシェード」、手の形に切り、それを変型させて「手形オブジェ」、ガラスを溶かして飾りをつける「自分の表札をつくろう」、箱状に組み立て、その中にぞうがんや磨き、型押し、泥漿（でいしょう）、型紙のステンシルなどの技法を用いて作ったカードを入れる「粘土ボックス＆カード」。 3期はひも状にした粘土を、蛇がとぐろを巻いているように巻いたり、積み上げたりして作る「ひもからの変化」。器を作り、好きな食べ物を作って入れる「おべんとう箱をつくろう」。大物の「碁盤DEゲーム」も制作（作品の平均的な大きさは直径25cm、高さ20cmくらい）。ダイナミックに作る本体と、指先での細かい駒作りの作業に分かれる。子どもたちは作ったもので早く遊びたいという気持ちを抑えながら取り組んでいた。最後は、1m角ほどの布地に「どべ」（粘土を泥状にしたもの。粘土どうしを接着する際に使う）と絵具を使った染め体験をする「クレイマント」を制作した。

名　　称	対象・定員	受講数	日　　時	内　　容
	（人）	（人）		
こどもクリエイティブクラブ　B 素材の楽しみ～ゆかいな造形	小1～中3 （20）	22 21 20	水曜日 16:00～17:30	木や金属、プラスチックなど、さまざまな素材と用途に合った道具を使い分け、子どもたちが遊びのなかで、より深い造形体験をすることが基本。 1期の最初は、全員で「新聞紙でトラスジャングル」を制作。新聞紙を細く細く巻いていくと、ある程度の強度がある筒ができる。これを組み合わせて三角錐にし、どんどん増殖させて大きなトラス構造の構造体を作る。最終的に、縦横4×10m、高さ1．5mほどの巨大な構造物となり、子どもたちも大はしゃぎだった。次は「ミニミニパットパットゴルフ」。ゴルフコースを設計し、30cm角の段ボール板の上にゴルフコースを作っていく。コース上には、木やバンカー、池、橋などの障害物をあちらこちらに設置し、紙粘土で作ったキャラクターが、振り子仕掛けのクラブでボールを転がしながら進んでいく。ほとんどの子どもは、障害物が多過ぎてなかなかカップインできない。それでも楽しそうに遊んでいた。その他に、カラーアルミ針金をよって作る「はりがねぼんさい」、乳白の筒を回しながら直進光を上からあてると、筒の表面に映る光と影がくるくると回りながら踊っているように見える「クルクルとうろう」を制作した。 2期には、パズルのピースから携帯用の箱まで全てベニヤ板から切り出して作る「ケイタイパズル」。次に、木の棒で作った柱と梁の上に、伸縮性に富んだ布と竹ひごを使ってテントのように組み上げる「サーカス小屋をつくろう」。いろいろな大きさの木の端材を使って、玉乗りをするピエロや火の輪くぐりをする動物を作ったり、にぎやかなサーカス小屋になっていた。次いで、地球儀のような形の「帝王儀」の制作。帝王儀を回すと、下部についているルーレットが回り、出た数に従って帝王儀の上の道を進んでいく、立体双六である。 3期の最初は、アルミ板を鍛金（たんきん）の技法で打ち出し、かぶることのできるかぶと「アルミDEファンキーカブト」。飾りには真ちゅう板や銅板も使用。勇ましいものからメルヘン的なものまでさまざまなかぶとができた。小型超強力磁石を使った「マグネットダーツ」、ボイド管に豚革を張った太鼓を作り、棒の上で揺れると音を奏でる「Bu-Taiko」。最終日には、全員で天井から床まで糸をはり、巨大な蜘蛛の巣をつくる「クモノスハウス」を行い、一年を終了した。 子どもたちは、プログラムの変わり目には必ず「今日は何するの？」と、目を輝かせて聞いてくる。「今日は金属を溶かすよ」「光るものを作るよ」などと話をすると、「どうやって作るの？」「道具は何を使うの？」といった具合に、制作に関する質問が次々ととんできていた。子どもたちは、さまざまな素材や道具、そして技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。また、回を重ねるごとに取り組み方や制作技術も向上していっていた。
	（組）	（組）		
〃　　C 親子でアート～わくわくアート	5歳児と親（10）	10 15 16	木曜日 16:00～17:30	親子が時には協力しあい、時には個々に制作をする――造形表現をとおして新しい親子のかかわりに目覚めていくことを目的としたクラブ。新プログラム。 紙製のたまごパックやトイレットペーパーなどを水に溶かし、紙すきをして再生する体験。1度くずれた紙の細かい繊維が再びからみ合い、新しい表情の紙に変化していくことを親子一丸となって楽しく活動していた。 透明シートに針金やボタンなどをはり付けて、簡単に版画を楽しむ体験。大人は子どもの自由さ、子どもは大人の正確さのあるデザインに目を見張っていた。 親子ゲーム盤の制作。ゲームのこまは粘土に指をさしこみ石膏で型取りをしたものを使用。固まった石膏の指を見て、改めて爪の形や、大きさの違いなどに驚いていた様子。 サンダルの裏がスタンプになっているスポンジサンダルで、クラブコーナー一面に敷き詰めた紙の上を自由に歩き回り、大きな共同制作絵画。 この他にも、光の透けるツリー、羊毛から作るフェルト、垂木に釘をうった車、アルミの板をたたいて仕上げた皿、パラフィンで作るろうそく、影と光の遊び、板にタイルをはって、へんてこ万華鏡でのぞいたり、粉と水から粘土をこねあげたり――体を大きく動かすことから、静かに正確な作業を試みたり、さまざまな方法で親子の造形表現を模索した。

※「こどもクリエイティブクラブ」の「クレイワーク」「ゆかいな造形」「絵本の世界へ」「ハンズワーク」講座回数と受講料
　1期11回（27,500円）、2期12回（30,000円）、3期9回（22,500円）。「クレイワーク」は各期ごとに焼成費8,000円が必要。
※「こどもクリエイティブクラブ」の「親子でアート」講座回数と受講料
　1期11回（33,000円）、2期12回（36,000円）、3期9回（27,000円）。
※「映・造ワークショップ」の講座回数と受講料
　1期5回（12,500円）、2期6回（15,000円）、3期5回（12,500円）。

名　　称	対象・定員	受講数	日　　時	内　　容
	(人)	(人)		
こどもクリエイティブクラブ　D イメージする楽しみ〜絵本の世界へ	小4〜中3 (20)	20 19 16	金曜日 16:00〜17:30	本を制作することだけにとどまらず、子どもたちが持つお話やイメージの世界を人に伝えられる表現力、想像力を養うことを大切にしながら、いろいろな素材や技法を体験して、世界で1冊しかない絵本作りをめざした。 1期は、絵本制作に必要な、いろいろな素材、技法、手法の体験。針金と透明フィルムを張り合わせた名札、太い丸太をのこぎりで切り、くぎとひもで飾ったオブジェを制作。また、6つの制作台に敷く6種類のテーブルカバーを、100×190cmの紙にインク絵やフロッタージュ技法で描いたものを素材にしコラージュをしたり、6種類の音楽を聞いて各々の曲のイメージに合わせて絵を描いたりして作った。図鑑の挿し絵のコピーをコラージュし、新種の生物を作り、それをTシャツにプリントした。絵を作るのにも色々な技法や表現があることを体験。 2期に入ると、お話的な要素を取り入れ、子どもたちのイメージの世界がより広がるように、いくつかの構成で作る絵本の制作を行った。透明なシートに絵を描き、何枚か重ねると絵に変化が出る「透明シート絵本」、2つ折りの紙の片方に穴を開け、開くと絵の正体が分かる「穴開きびっくり絵本」、赤と青のペンで、異なる絵を同じ場所に重ねて描き、赤と青のメガネで交互に見ると絵が動いて見える「2コマアニメ」、街や家で気になるものを写真撮影し、それをオリジナルの生き物に変化させ、標本箱に採集した「写真採集」、シートに描いた絵やお話を自分たちで作った幻燈機を使って壁に写して見た「幻燈機を作ろう」を行った。 3期は、活動の集大成として、「Theater Box」を制作した。製本された絵本ではなく、フタの付いた箱型の小さな劇場で、背景や地面を入れ換えることができる。その舞台に、各々が作ったキャラクターや小道具を並べて動かし、自分だけの劇を作った。自分のお話の世界をどこへでも持ち運び、見せることができるように、箱に取っ手を付けスーツケースの形にした。子どもたち同士で作品を鑑賞し、お互いの世界を広げていた。1年をとおし、きっかけがあるごとに、子どもたちの想像力がふくらんでいくのが見えた。
〃　　E 創造探検〜ハンズワーク	小4〜中3 (20)	12 10 9	土曜日 16:00〜17:30	日常気づかないもの、見過ごしている事などを取り入れて、新しい造形表現の発見をめざす、小学4年生以上の高学年向けクラブ。石膏や金属、樹脂といった抵抗感のある素材、新しい素材を積極的に取り上げることもひとつの特徴。 手始めに薄手の金属（銅、アルミ）を使った名札制作を実施。金切りバサミ、タガネによる装飾技法を体験。金属は硬いが、厚みや種類によって柔らかさもさまざまであることを体感した。続いて、木、金属、竹、樹脂系と素材別に街ができていて、クルクル入れ代わる地図を制作。素材ごとに接着方法、加工技法、道具までもが存在することを知るきっかけとなった。 自分の身長にあわせて心棒を作り、パイプやカラフルに色塗りした垂木を何本も差し込み、等身大のツリーに仕上げた。身長が意識的に視覚化された。なかには未来の身長を設定した子もいた。粘土で作った家を石膏で型取り反転させたオブジェ。同じ模様、形なのにどこかが違って見える不思議に出会える制作。 ネジやビーズといった立体物をコピーで平面的にデザインし、シャツにプリントした。コピーによる物体のずらしや変形反転などを楽しく体験した。 「旅行鞄プロジェクト」では、旅するアイテムなどを入れたトラベルケースを制作。架空の場所の地図、持ち物からケース本体までを全て手作り。全体的に、自分の身の回りを意識して見るようなきっかけとなる地図や場所、家のことを中心にした作品が多かった。次年度にはさらに外へとでかけられるようなプロジェクト、溶接による共同制作なども実施してみたい。
映・造ワークショップ	小4〜中3 (10)	4 6 5	日曜日 13:00〜16:30	平成12年度に実施した「映・造ワークショップ」を再開した。“時間”“動き”を伴う表現の映像、素材や道具を使い平面や立体のものを表現していく造形——それぞれの分野から一つのテーマにアプローチするクラブである。 1期は、ビデオカメラなどの機材に慣れるために、屋外で2人1組で撮影と出演を交互に行い、コマ撮りで不思議な動きや空間を作ることをテーマに活動した。 2、3期は、ストーリーを考え、絵コンテを作り、粘土、紙、木などの素材でキャラクターを作り、撮影を行った。場面設定、キャラクター制作、撮影方法などもできる限り本人の考えをもとに、基本的に自由に映・造表現ができるようにした。編集作業はパーソナルコンピュータを使用。作者本人が編集。最終日は、簡単なポスターを作り、上映会を行った。 造形制作や撮影は個人的な作業が多いが、それぞれが協力する場面も多かった。それぞれの作品を鑑賞しあうことで、色、形、動きなどお互いの表現の違い、おもしろさなどを改めて確認しあえた。AV事業部と共同事業。

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
夏休み造形教室 A 和が家	(人) 小3〜高3 (5日間 計75)	(人) 延べ 50	7.27〜31 10:30〜17:00	柱と梁（はり）で家の骨組みを作り、床や壁を作る。土をこねたり、和紙を張ったり、竹や木を組み合わせ本当の大工になったように一軒の家を作った。受講料5,000円。
〃 B タイルちゅう (柱)	〃	延べ 55	8.3〜7 10:30〜17:00	発泡スチロールの土台にさまざまな色、形のタイルを張り、柱の上に空中庭園のような屋根を作った。受講料5,000円。
〃 C ハリテント	小3〜高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 100	8.10〜14 10:30〜13:00 14:30〜17:00	アルミパイプを差した土台を伸縮性に富んだ布で包んで不思議なテントを作る。パイプに光ファイバーを付け、暗い場所で点灯すると幻想的な世界が広がる。受講料3,000円。
〃 D クルリタウン	小3〜高3 (5日間 計75)	延べ 75	8.17〜21 10:30〜17:00	木、金属、プラスチック、発泡スチロールなどを使って、クルクルと回転する舞台を作り、素材の異なる4つの街を作った。受講料5,000円。
〃 E スケラミッド	小3〜高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 83	8.24〜28 10:30〜13:00 14:30〜17:00	三角形の透明アクリル板を4枚組み合わせ、透明なピラミッド構造を作り、アクリル板に絵やもようを描いたり、カラーシートを張って、光を当てると……。受講料3,000円。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
造形ワークショップ+ 造形ワークショップ展	11.19 (11.19〜12.1)	17年間の造形スタジオの活動でも人気の高かった一般親子のプログラムのなかから、身近な素材と道具を使ったプログラム「素材ア・ラ・カルト」を実施。平行して12月1日まで「造形ワークショップ展」を開催した。公立私立の保育士およびセンター職員52人参加。 (兵庫県西宮市立子育て総合センター)
造形ワークショップ展	H15.3.1〜16	福井県立児童科学館主催「児童館フェスタ2003」への協力事業として「造形ワークショップ展」を開催した。37のプログラム・ボックスと写真パネル、子どもたちの共同作品や陶の立体オブジェの展示を行った。 (福井県立児童科学館)

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
ブルーノ・ムナーリ展	5.4〜29	造形事業部所蔵の「ブルーノ・ムナーリ巡回展キット」をソウル・アートセンター　デザインギャラリーに貸し出し、展示、ワークショップ、記念講演会を行った。 (大韓民国　ソウル・アートセンター　デザインギャラリー)
第6回図工大好き子ども美術展	9.10〜10.5	東京都小学校図工専科教師の有志団体「東京児童幼児画堂」との共催で、都内公立小学校の子どもたちの作品展を開催した。こどもの城では2回目。 (ギャラリー)
造形実技研修会	11.21、H15.3.21、3.25	17年間の造形スタジオの活動でも人気の高かった一般親子のプログラムのなかから、身近な素材と道具を使ったプログラムを取り上げ研修した。福井県児童科学館（11. 21）／埼玉県児童館連絡協議会南部ブロック（H15. 3. 21）／同東ブロック（3. 25）。

平成14年度プログラム一覧表

1．親子プログラム

名　　称	活　　動　　内　　容
バンブリッジ	直径7～8cm、巾2cmほどの竹を半割にしたものを紙やすりで仕上げ、台紙にとめ、橋にみたてて飾り付ける。
アームごい	大きな色ラシャ紙をよくもんで柔らかくし、筒状にのり付け。こいのぼりの飾り付けをすると完成。できたら腕にはめてクニャクニャと泳がせて遊ぶ。
アームハウス	「アームごい」の平常期間バージョン。家の飾り付けをする。
ひっぱっタワー	段ボールにポンチで数個穴を開け、その内の2つにたこ糸(長)の両端を入れ裏でとめる。残りの穴にたこ糸(短)を通して裏でとめ、反対端をたこ糸(長)の好きなところにとめる。飾り付けをして完成。たこ糸(長)の中央を引っ張ると、タワーのようになる。
ぱっとタワー	色ラシャ紙大小をそれぞれ半分に折る。色ラシャ紙小を折った状態のままタワーの形に切り、開いた色ラシャ紙大の中央に開いてとめる。飾り付けをしてできあがり。色ラシャ紙大(台紙)を開くと、タワーが立ち上がる。
Sロープ	Wクラフト紙の帯を縦に半分、横に半分に折り、開いて中央にポンチで穴を開る。縦の折り線に向かって切れ込み(指2～3本間隔)を入れる。竹ひごをポンチ穴に通し、Wクラフト紙の帯の両端をひねってS字になるように竹ひごにとめる。土台になる段ボールにも穴を開け、竹ひごを差し込み、飾り付けをして完成。ねじれた階段ふうの空間ができあがる。
天のかけ橋2002	色ラシャ紙の長手方向の両端をのりしろとして谷折りにする。その間に道の線を描き、のりしろ側からその線まで1cm程度の間隔程度で切れ込みをいれ、道の線を山折りにする。のりしろをハガキ大の台紙にとめると、自立する橋になる。七夕の飾りをするとできあがり。
∞回廊	Wクラフト紙の帯を半分に折って開き、両端から折り線に向かって切り込んでいく(折り線の前後、指2本分ほどまで)。両端を互い違いに8の字型に組んではったら、階段状に折った別のWクラフト紙の帯(小)を8の字の輪のなかにはり、飾り付けをする。帯の上をたどっていくと、∞(無限)に続く廊下になる。
ステップルーム	色ラシャ紙の帯を四角く組み立て、角から切り込みを入れ、内側に階段状に折り込む。家の中のように飾りつけをすると完成。四角い枠の中に、不思議な階層のある空間ができあがる。
よせ部	色ラシャ紙の端にカギ型に切り込みをいれ、好きな家の形に折り、のりでとめる。もう1枚の色ラシャ紙を家の下にはりつけ、飾りつけると完成。
イエクルン	2枚の色ラシャ紙の間に竹ひごの先端をはさんではり合わせ、屋根の形に切って飾り付けをする。段ボールは、表と裏に家の外壁と部屋の中の飾り付けをする。段ボールに竹ひごを通し、抜け止めストッパーをつけて完成。竹ひごを回すと、段ボールに飾った家の中と外が交互に見える。
ふえるハウス	A5サイズほどのWクラフト紙を、長手方向に2～3cm残して切れ込みを入れ、互い違いになるようにまるめて、のりではる。台紙にとめて、建物の飾りをすると完成。最初の切れ込みが1か所なら2階建て、2か所なら3階建ての建物になる。
ニコニコハウス	長さ14cmほどの垂木をのこぎりで斜めに切り、紙やすりで仕上げる。2つになった垂木をそれぞれ家に見立て、親子で1つずつ飾り付けをする。土台の段ボールには、風景の飾り付け。できあがったら家は固定せず、動かして遊ぶ。
ネットランド	10cm×15cmほどのネットを、台紙の上で曲げたりくねらせたりしながら形を決め、ホッチキスでとめる。ネットの形を建物や街、遊園地などに見立てて自由な飾り付けをする。
かがみ家のなぞ?!	鏡面紙の帯を折ったり曲げたりして家の壁を作り、色ラシャ紙にとめる。家の中の飾り付けをしたら、不思議なミラーワールドが出来る。登場人物を作って竹ひごの先端につけ、部屋の中を探検させて遊ぶ。
メクリマスカード	はがき2枚弱の大きさのWクラフト紙を半分に折って、開く。表になる面の任意の場所にポンチで穴を開け(穴は窓にみたてる)、再度半分に折り、上部を屋根の形に切る。自由に飾り付けをすると、家型の開くクリスマスカードができあがる。
プルプルシープ	15cm角のカラペを手でもんで柔らかくする。Wクラフト紙の帯2本を十字に組んだら、片方は輪にし、片方は丸く曲げた状態でやわらかくしたカラペと組み合わせて台紙にとめる。これに干支にちなんだ羊の飾り付けをして完成。羊のおしりの方を指で弾くと、羊がプルプルと動く。

名　称	備　考
おにバルーン	ビニール袋に鬼の飾り付けをし、曲がるストローのじゃばら側をビニール袋に差し込み、開口部をセロハンテープで密閉。直径5cmほどの短い紙管と組み合わせる。ストローから息を吹き込むと、紙管の中から鬼がふくらみながら出てくる。
らせん通り	A5サイズほどの色ラシャ紙を半分に折る（台紙）。内側にらせん状に切った別の色ラシャ紙の両端をはる。飾り付けして完成。台紙を開くとらせん状の道が飛び出してくる。
ふんわりびな	のりを塗った2枚の色ラシャ紙の間にストローをはさんでとめ、針金にとおす。針金で輪を作って両端をまとめてねじっておく。色ラシャ紙にお雛様の飾り付け。針金をまとめた部分を指先で転がすと、輪の中をふわりふわりとくぐり抜ける。
ストライプゾーン	A5サイズほどのWクラフト紙の片端から4～5cmのところで折る（壁になる）。反対端から折り線まで切れ込みを入れて、10本前後の帯を作る。帯を1本おきに折って壁と台紙のケント紙にはり、残りの帯は丸みをつけて台紙の反対側にはっていくと、ストライプ模様の建物ができる。自由に飾り付けをする。
テンションブリッジ	Wクラフト紙(台紙)を半分に折り、2本のストローにたこ糸を引っ掛け、テンションをかけて台紙にとめ、飾り付けをする。台紙を開くと、糸にテンションがかかってストローが起き上がる、ポップアップ絵本になる。

2. 子どもだけのプログラム

名　称	備　考
フニクラート	段ボールの任意の場所に10個ほどポンチで穴をあけ、好きな穴に毛糸の両端をとおし裏側でとめる。逆さにして溶けたろうの中につけると、ろうの重みで毛糸が自然にたれさがり、不思議なアーチ状のものがたくさんできる。建物や町に見たてて飾り付けをする。高学年コーナー(小4以上)では、土台が大きくなり、毛糸の本数と長さも増える。　(小2以上、1時間)
コイシーソー	土台用の半割の竹(直径7～8cm)を8cm程度の長さで、飾り用の竹(直径5cmぐらい)を2～3cmの長さでそれぞれ切り、飾り用の竹はナタで半分に割る。それぞれに仕掛けのたこ糸をとおす穴を開けたら、伏せた土台の上に飾り用の竹を背中合わせにしてたこ糸とともに組み上げ、こいのぼりの飾りをする。土台の裏のたこ糸を左右に動かすと、こいのぼりの飾りがピョコピョコとユーモラスに動く、からくりおもちゃができる。　(小3以上、1時間30分)
シーソーハウス	「コイシーソー」の平常期間バージョン。こいのぼりの代わりに、Wクラフト紙帯で家を作る。　(小3以上、1時間30分)
バンヴィレッジ	直径9cm前後の半割りの竹をのこぎりで切り、約3cm幅のもの3個作る。自由に構成して台にはり、街や家の中などにみたて自由に飾り付けをする。高学年コーナーでは、土台が大きくなるとともに半割りの竹が1つ増え、飾り付け材料に竹ひごや平竹、竹の端材も使う。　(小2以上、1時間)
ジョイントハウス	15cmほどの長さの垂木を任意の場所で2つに切り、それらを建物にみたてて並べて、金網を釘でつなげ、家の飾り付けをする。高学年コーナーでは、4つの垂木を建物にみたてて飾り付けをする。　(小2以上、1時間)
スライドフロアー	10cm×15cmの1層段ボールに、任意の形を2つほど大きく描いて切り取る。それぞれに支柱の竹ひご用の穴（1つ）、たこ糸用の穴(4つ)をポンチであける。片端に4本のたこ糸をつけた竹ひごを作り、2枚の段ボールのそれぞれの穴にとおし、たこ糸をテンションをかけた状態で竹ひごの反対端にとめる。2枚の段ボールを建物の床と考えて飾り付け。たこ糸にテンションがかかっているので、床を自由に上下でき、好きな位置でとめることができる。高学年コーナーでは、床が3枚になり、サイズもアップする。　(小2以上、1時間)
テトラ☆スター	15cmの長さの竹ひごを6本、輪ゴムを使って三角錐に組み、中にできる空間に七夕の飾り付けをする。高学年コーナーでは、竹ひごは長くなり、装飾材料に竹の端材も使う。　(小1以上、1時間)
ダンウォール	段ボールの土台に竹ひごを4本立て、それらに細長く切った別の段ボールをどんどん差していき、壁を作り、家の飾り付け。高学年コーナーでは、土台の段ボールがベニヤ板に変わるため、手回しドリルを使って作る。　(小2以上、1時間)
ネガポジハウス	子どものこぶし大の発泡スチロールを、ヒートカッターを使って2回切り、家の形にし、波段ボールや凹凸のある壁紙などをはって飾る。できた家をスタンプと考えて、白い紙に家を転がしてスタンピングし、家の展開図を作る。本体の家(ポジ)と本体を写しとった家(ネガ)ができる。段ボールの土台に庭や街の飾り付けをし、発泡スチロールの家を乗せると完成。高学年コーナーでは、展開図も組み立てて、土台に2つともかざる。　(小2以上、1時間半)
ひっぱりテント幕ハーリー	ベニヤ板のなかほどにドリルで穴を1つ開け、穴にかぶせるように伸縮性に富んだ生地を小釘でとめる。穴に裏側から竹ひごを差し込み、生地がテント状になったら竹ひごを紙とボンドでとめる。テントに入口の切れ込みを入れ、周りを飾ると完成。高学年コーナーでは、飾りに各種飾り釘やカラー針金なども使用。　(小2以上、1時間)

名　称	備　考
カヤコロニー	9cm幅の寒冷紗の上下に、2本のセロハンテープのしんを置いて巻いて筒状にし、数色のカラーセロファンをつないだものを天井部分にはる。床になるケント紙にはあらかじめ飾り付けをして、本体に下からはめ込むようにつける。てんじょう、床とも、はみだした部分を切り取って完成。直進光の下で見ると、色とりどりの光がなかに映し出される。高学年コーナーでは、なかの飾りに発泡スチロールやスチレンボードを使う。（小2以上、1時間）
スライドハウス	直径7～8cm程度の竹を、5cmほどの長さにのこぎりで切り、ナタで半分に割る。紙やすりをていねいにかけ、片方（壁になる）を土台の段ボールにはる。ドアレール用に切った2cm幅ほどの半割り竹と、もう一方のドアレールになる竹ひごをドアの動きに支障がないようにとめる。家の内外の飾り付けをするとできあがり。（小2以上、1時間30分）
和紙DEキャンプ	4～5本の竹ひごを土台になる段ボールの端の方に差し込む。それを中央でたばね、テントの骨組みのようなものを作る。和紙をはり、全体の飾りをする。高学年コーナーでは竹ひごの数が倍になり、上部に梁や屋根を作る。（小2以上、1時間）
ポコメタルドーム	10cm角、0.3mm厚のアルミ板を、砂袋の上でしゅもく槌という特殊な道具でたたき、ドーム型にする。アルミ針金の骨組みを取り付け、ベニヤ板の土台にとめ、建築物やドーム状のテントに見立てて飾り付けをする。高学年コーナーでは、アルミ板が10cm角、0.7mm厚となる。（小2以上、1時間）
へんてこツリー	15cmの長さの垂木を任意のところで斜めに4つに切り、ツリーにみたてて組み合わせ、ボンドでとめる。土台につけて飾るとできあがり。（小2以上、1時間）
ぶらり羊旅	直径5cmほどの竹を9cm程度の長さで切り、穴を2か所あけてつるし針金を取り付ける。竹に羊の飾り付けをする。段ボールの土台にカラーアルミ線でアーチ状のものを作り、竹の羊を吊るす。ゆらゆらとゆれる羊ができる。（小2以上、1時間）
鬼車	段ボールの車輪がついた車軸に、ケント紙の帯を巻いたものを取り付け、コの字に折ったWクラフト紙のボディーと組み合わせる。鬼の飾りをするとできあがり。鬼車を後ろに引いて手を離すと、ケント紙帯がゼンマイの役割をはたし、とことこと前に走り出す。（小2以上、1時間）
鬼びねり	15cmの長さの垂木を縦に斜めに4分割し、それぞれの断面の中央に貫通穴をあける。順番にゴムひもをとおし、両端に抜け止めの竹ひごを結び、鬼の飾り付けをする。垂木を回すと、真直ぐ立っていた鬼が横を向いたり、おじぎをしたり、腹筋運動をしたりと、ユーモラスに動きを変える。（小4以上、1時間）
まきまきランド	カラー針金を丸や四角の筒の型に巻き付けてバネ状にし、両端を段ボールの土台に穴を開けてとめる。街や遊園地などに見立てて自由に飾り付けをする。高学年コーナーでは、針金が太くなり、土台もベニヤ板に変わる。（小2以上、1時間）
かぐやびな	直径7～8cmほどの竹を、8cmほどの長さにのこぎりで切り、ナタで半分に割って、天地に和紙と色ラシャ紙をはる。その竹の中に金銀紙で作った屏風と、5cmほどに切ったしの竹にお雛様とお内裏様の飾り付けをしたものをはり、ちょうつがいとなる布ガムテープをはって完成。竹を開くと、雛飾りが現れる。高学年コーナーでは、しの竹の代わりに自分の指を石こう取りしたものを使う。（小2以上、1時間）
丸太大国	直径7～9cmの丸太を2cm幅程度にのこぎりで切り、各種のくぎや紙、毛糸などで飾り付けし、自分の国を作る。高学年コーナーでは、丸太を2個切り、金網でつないで2つの国を作る。（小2以上、1時間）
自在都市	2枚のベニヤ板をカラーアルミ線でつなぎ、それぞれの板面にくぎや針金、色紙で街や家を作る。宙に浮いたり地面に降りたりと自在な動きをする都市ができる。（新小3以上、1時間）

音楽事業部



平成14年度の活動

1．はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般来館児・者向け活動の場、2つのスタジオを特別な催しと講座・クラブの活動の場としている。音楽ロビーは長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、〔こどもの城〕になくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしている。

（ア）平常期間の活動

平日の音楽ロビーは、一日1回の音楽遊びのメインイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは、特に親子のスキンシップがはかれる歌遊びやダンスを取り上げ、1回30分プログラムの流れで“動”と“静”のめりはりをつけたプログラム構成にしている。

日曜日・祝日は、12時30分から5時までの間に、プログラムが7本組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「いろいろ楽器コンサート」である。さらにそれらの催しの合間をぬって管楽器や打楽器を中心に編成したバンドが、マンボ・ボルカ・サンバなどの楽曲を演奏。自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、常に音楽で遊べるスペースとなっている。

2つのスタジオで行っている一般来館児・者向けの活動の核となるのが、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。 世界各地の民族音楽を定期的に取り上げて、鑑賞型の音楽体験の場を提供している。また、職員による手作り楽器ワークショップも「わいわいスタジオ」の枠のなかで毎月のように定期的に実施、能動的参加型プログラムとして子どもたちの人気をよんでいる。内容的にもフィルムケースを素材にした「カモを呼ぶ笛」や「まわす鳥笛」などユニークなものを取り上げている。

（イ）特別期間の活動

特別期間は特に来館児・者が多いこと、そして平常期間より年齢が高い学童が増えることを念頭においたプログラムを実施している。

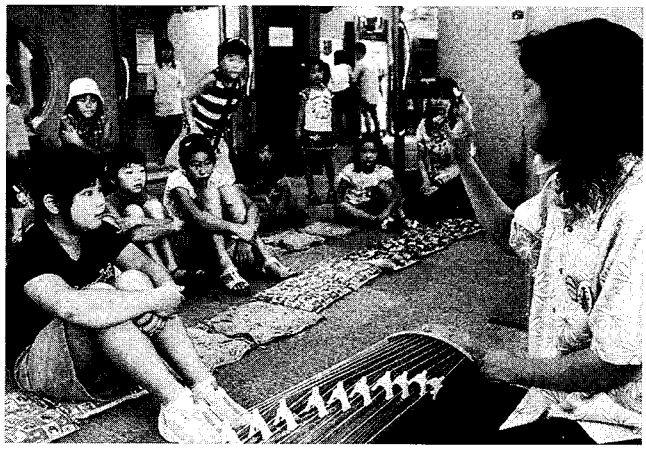
児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間には〔こどもの城〕のオリジナルバンド「ガドガド」のコンサートを青山円形劇場で実施した。音楽事業部で行っている日々の活動の要素を1時間に凝縮して構成。さまざまな音楽遊びに加え、民族楽器や手作り楽器などの紹介演奏などを織り込んだ、ほかでは体験できない音楽プログラム。また、音楽ロビーでも特別イベントを組み、たくさん訪れる異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供している。

40日を超える夏休み特別期間には、特別イベント「世界の楽器にチャレンジしよう！ 面白楽器商店街」などを実施した。世界各地の民族楽器、がらくたを集めて作った楽器など、素材やジャンル別に5つのコーナーに分けて、それぞれを“楽器屋”として設定し、音楽ロビー全体が5つの“楽器屋”が立ち並ぶ商店街としたプログラムである。

「手作り楽器のワークショップ」も夏の定番プログラム



「うたってハッピー」（児童福祉週間特別期間）


「面白楽器商店街」（夏休み特別期間）

となっている。インドネシアの竹のハンドベル「アンクルン」、アフリカの太鼓「ジェンベ」、竹のたて笛「スリン」、宇宙人の声がする(?)「口琴」、アフリカのおしゃべり太鼓（トーキングドラム）「タマ」のワークショップを行った。楽器を作るだけでなく、作った楽器で演奏してみるという〔こどもの城〕ならではの内容。全てのコースはほぼ定員一杯（充足率90%以上）で夏の企画として定着している。リピーターも非常に多く、新プログラムへのニーズも高い。「ジェンベ」「タマ」の講師には、西アフリカ・セネガル出身のパーカッショニスト、ワガン・ンジャエローズ氏を招いて、楽器作りと演奏の指導を依頼した。

冬休み特別期間は、恒例となっている「へんしん大飯店」。音楽ロビーは中国風の飾りつけで赤と金に染め上げられ、中国の楽器の生演奏も繰り広げられる。さまざまな変身グッズを用意し、子どもだけでなく大人も変身して家族で楽しめるプログラムとなった。ストリートオルガンの体験から始まり、チャイナ服に身をつつんだスタッフによるマンボ・ポルカの演奏。童謡コンサート「うたってまんぷく！」、音楽遊びの「へんしん大宴会」、世界の楽器を体験する「たらふくコンサート」を実施した。

春休み特別期間はダンスプログラムの「みんなでおどれ春ダンス！」がレギュラープログラム。アフリカンドラムに合わせたダンスやブラジルのサンバダンス、親子で楽しむフォークダンス、インドネシアの神秘的な踊り“ジョゲダンス”を取り上げた。“ジョゲダンス”はインドネシアの竹製の楽器“ジョゲットブンブン”に合わせて、民族衣裳をまとったスタッフが踊りを紹介、子どもたちもほかのダンスとは違う不思議なゆっくりとした踊りを体験した。

（ウ）講座・クラブ

音楽講座・クラブの特徴の一つとして、青山円形劇場での合同発表会「ぼくらのサウンド」がある。年度末の春休み直前の3日間に、1年間の活動の成果を発表する合同コンサート。講座・クラブの発表の場であると同時に、一般の来館児・者などにも、広く〔こどもの城〕の活動を知ってもらうことも目的としている。毎年約400人の音楽講座・クラブの受講生が出演している。

（エ）グループ活動

〔こどもの城〕のグループ活動全体の利用件数のうち約半数を音楽事業部が占めている。それだけグループの要望にフレキシブルに対応できる柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムが用意できているといえよう。幼稚園・保育所はもとより、盲学校、養護学校、インターナショナルスクールの利用も多く、小学校高学年の楽器体験のニーズにも対応できる形が整っている。

（オ）講師派遣など

講師派遣の要望も多く、積極的に展開している。グループ活動と同じように各団体の要望に応えて、ひとつ一つがオーダーメイドのような形をとっている。型にはまったものだけでは限界もすぐに来る。できるだけあらゆる要望に応えていくことでスタッフも試行錯誤し、新しいプログラム展開へのヒントとなることも多く、〔こどもの城〕一般活動へフィードバックされていくこともある。

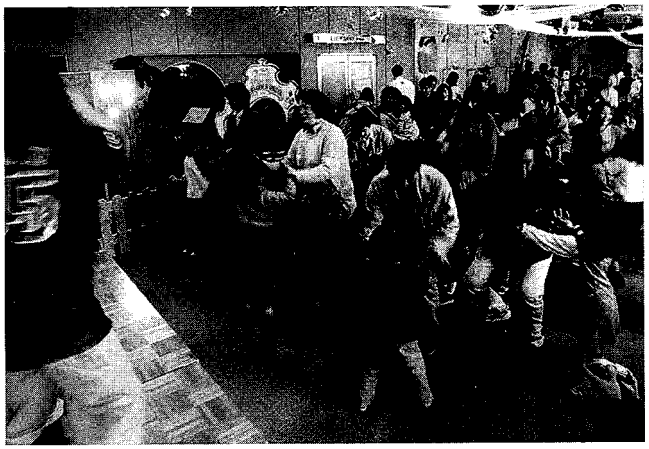
各地に出向くことで〔こどもの城〕の存在をアピールし、また各団体から学べることも多いので今後も積極的に取り組んで行きたい。

2．高学年楽器体験コーナー

本年度の活動の特徴として土曜日に新設した高学年楽器体験コーナーがあげられる。学校週5日制（週休2日）の完全実施を受けて、高学年（小学4年以上）の子どもたち向けのプログラムとして企画・運営。5月ゴールデンウイーク明けから実施した。毎週土曜日に、1回30分のプログラムを3～4回実施する方法で行った。

乳幼児向けスペースという印象が強い音楽ロビーを、高学年の子どもたちも楽しめるスペースだと知ってもらうた


「へんしん大飯店」（冬休み特別期間）


「せかいなりきり！ハリキリダンス!!」（春休み特別期間）

めに、どのようにしたらよいかが当初の課題となった。まず、高学年楽器体験コーナーを囲い、「大きい君たちのためのコーナー」であることを明確にし、「小さい子たちは入ってこないので遠慮なく楽しんで欲しい」と働きかけた。

通常行っているように、全員が一斉に楽しむプログラムではなく、興味を持ったら自由に体験でき、時間内であればそのコーナーに居続けてもよいという方法をとった。参加者のほとんどが、高学年らしい集中力で、体験し始めると時間いっぱいコーナーで過ごしていた。取り上げたプログラムは、ドラム（6回）、箏（7回）、金管楽器（9回）、アフリカンドラム（2回）、竹の楽器（4回）、エレキギター（5回）など。大きな子どもたちが興味をもちそうな楽器をピックアップしてみた。

延べ326人の子どもたちが参加。一回あたり平均9．8人であるが、学校や地域の行事に左右されることが多々あり、日によってかなりのバラつきがあった。

スタッフを身近に感じてもらうために、名刺カード（表面にスタッフの似顔絵と自己紹介、裏面に体験した楽器の紹介）を作成。あいさつ代わりに子どもに渡し、楽器の体験に限らず楽器や音楽をとおして人と出会うということを大切にした。

スタッフは乳幼児と接することが多いため、大きな子どもたちへの言葉がけ、活動内容が幼児向けにならないように心がけた。この経験を生かし、夏休み特別期間には“面商完全攻略ツアー”というプログラム（小学4年生以上対象の楽器体験プログラム）を実施。延べ308人が参加した。今後も高学年プログラムへの足掛かりとして高学年楽器体験コーナーの充実を図りたい。

今後の課題は、さらに高学年の子どもたちが部屋に入りやすくするためにどのように工夫したらよいか、高学年コーナーと並行して行っている幼児・低学年向けのプログラムとの音の重なり、体験できる楽器の種類を増やす――などがあり、来年度工夫していきたいと思っている。

3．まとめ

今までは、講座・クラブの活動の中で高学年のニーズに応えていくということが基本姿勢であった。今後は、一般活動のなかで、高学年や中学生の児童も興味がもてる民族楽器・洋楽器・邦楽器・電子楽器などをどのようなプログラムで提供できるかが大きな課題である。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
みんなでライブ	火曜日　14:30～15:00	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむ中で、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。親子がペアになって楽しむダンスも好評で引き続き行っている。（音楽ロビー）
水曜パチパチパーク	水曜日　15:30～16:00	歌遊び・手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国の音楽を聞かせる観賞型プログラムを実施。後者は観賞型であるが、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設けた。（音楽ロビー）
木曜なかよし広場	木曜日　14:30～15:00	遊び歌を中心としたプログラム。親子でじっくりふれあう、大勢で盛り上がる、パネルシアターや絵本を見る――など。担当スタッフの個性やレパートリーに合わせて内容は変わるが、子どもたちが楽しめる、おもしろがる、プログラム構成を行っている。（音楽ロビー）
王さんの楽器屋さん	木曜日　15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、観賞と体験のプログラム。子どもたちが気軽に参加できるように音楽スタッフが店長・店員になって“楽器屋さん”という遊びの演出を行っている。本年度は、一緒に活動する女性ボランティアの位置付けを模索する一年だった。（音楽ロビー）
みかんちゃんズのオパオパサンバ！	金曜日　15:00～15:30	サンバのリズムに合わせて体を動かす女性ボランティア中心の活動。親子で共に活動することに重点をおき、「楽器でチュー」という新プログラムに取り組んだ。昨年までも実施している新聞を使ったプログラムも並行して実施。（音楽ロビー）
ハートフルライブ	土曜日　13:00～13:30 14:00～14:30	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおし、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。日本・中国・インドネシア・アフリカをはじめ世界の楽器を毎回テーマ（「弦楽器のおと」など）に沿って紹介。高学年プログラムとリンクした演目選びや、演奏と体験の時間配分に試行錯誤する一年であった。（音楽ロビー）
高学年楽器体験コーナー	土曜日　10:30～11:00 13:30～14:00 14:30～15:00	学校週5日制に対応して、本年度から始めた高学年（小4以上）向けプログラム。ドラム、箏、エレキギター、金管楽器など、目にすることはあるが実際に手にしてみることができないものを取り上げた。じっくり体験でき、充実感のあるコーナーとなった。（音楽ロビー）
いろいろ楽器コンサート	土・日曜日・祝日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴を紹介。ふだんなかなか体験できることのない楽器にふれ、文化までも感じとれるよう構成した。（音楽ロビー）
マンボ・ボルカ！	日曜日・祝日 13:45～14:00 14:30～15:00 15:45～16:00	マンボ、ボルカ、サンバなどのリズミカルな楽曲を、マリンバ、サックス、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する（音楽広場を実施する日は14:30の回はなし）。（音楽ロビー）
みんなであそぼう！音楽広場	日曜日・祝日 14:30～15:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えバラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。（音楽ロビー）



「高学年楽器体験コーナー～金管楽器」

名　称	日　時	内　容
わいわいスタジオ	日曜日・祝日 (ほぼ隔週) 13:30～14:00 15:30～16:00	来館している親子全般を対象にしているコンサートで、幼児でも楽しめるように構成している。アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国などの民族音楽、ラテンジャズやロック、草笛、手作り楽器のワークショップなど、常に新しい企画、さまざまなジャンルの音楽を取り上げるように努めている。夏休みの手作り楽器ワークショップ参加者による「マイ・アンクルン・コンサート」、「ビックリ! Bigバンドラテン・ジャズコンサート」、「インドネシアからコンニチハ! ～演奏と踊りの現地まるごとコンサート」などを行った。（Bスタジオ）
うたってハッピー	火曜日　15:00～15:30 16:30～17:00 水・木曜日 14:00～14:30 金曜日　14:00～14:30 16:00～16:30 土曜日　12:30～13:00 日曜日・祝日 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 いろいろ楽器コンサート	4.27～29 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 うたってハッピー	4.27～29 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30 5.3～6 14:30～15:00 16:30～17:00	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 わいわいスタジオ 音楽の世界紀行～ワールドカップ参加国特集	5.3～6　開館時間中 13:00～13:30 15:00～15:30	中国(3日)、韓国(4日)、アルゼンチン(5日)、ブラジル(6日)の音楽を取り上げ、演奏家を招いて日替わりコンサートを行った。会場は出入り自由にしたため、多くの人々が気軽に世界の音楽にふれることができた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	5.3～6　開館時間中	0～3歳の乳幼児と親がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開園した。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付けられ、大勢の親子に利用された。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 おんがくがスキ！	5.5　11:00～12:00 13:30～14:30 15:30～16:30	毎年恒例になった〔こどもの城〕オリジナルプログラムのコンサート。民族楽器やがらくた楽器をまじえたバンド編成で、音楽の楽しさを個性的なアプローチで訴えている。活動10周年を記念して今回は10人編成で演奏。会場参加の遊びの部分も充実し、ファミリーで楽しめた。（青山円形劇場）

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 いろいろ楽器コンサート	7.20～28 16:30～17:30	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器を体験できる。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 夏のごいっしょライブ	7.20～28 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 みんなであそぼう！ 音楽広場	7.20～28 14:30～15:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えバラエティー豊かなプログラム。日替わりでいろいろなプログラムを展開。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 わいわいスタジオ 南の国から音楽の波～ ジャワガムランコンサート	7.28　13:30～14:30 15:30～16:30	「ガムラン講座」のコンサート。講座講師と生徒の出演でインドネシア・ジャワ島のガムラン音楽と踊りを披露。コンサート終了後には希望の楽器にふれる体験コーナーを設け、親子で音色を楽しんでもった。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 面白楽器商店街	7.29～9.1　開館時間中	前年度から引き続き2年目のプログラム。世界各地の民族楽器、がらくたを集めて作った楽器など、素材やジャンル別に5つのコーナーに分けて、それぞれを“楽器屋”と設定して、音楽ロビー全体を“楽器屋”が立ち並ぶ商店街とした。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 高学年だけの面商完全 攻略ツアー	7.29～9.1 13:30～14:30 15:30～16:30	本年度から意識的に取り組んでいる高学年を対象としたプログラム。対象は小学4年生以上。45分間で商店街の5つの店をまわり、楽器の説明、体験をする。高学年だけに限定することはめったにないため、プログラムの進め方など試行錯誤しながら実施。小さい子どもたちの遊び場というイメージの強い音楽ロビーのため、なかなか対象の子どもたちを集めるのが難しかったが、延べ308人が参加した。（音楽ロビー）
〈冬休み〉 わいわいスタジオ～クリスマススペシャル	12.22・23 13:30～14:00 15:30～16:00	恒例となったクリスマスコンサート。22日は「おはなしおんがくパンパカパ～ン　クリスマスのおくりもの」（ピアノ、パーカッションとおはなし。オリジナル作品の『赤鼻のルディ』を上演。出演＝とらいぽっど）。23日は「5人のアカペラコンサート　ア・カペラで歌うクリスマスソングコンサート」（出演＝ペンギンフィッシュ）。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 うたってハッピー	12.21～23 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	歌、シンセサイザー、ベース、ドラムという楽器編成のバンドでさまざまな歌を演奏。子どもたちに大人気のクリスマスソングを中心に演奏し、親子で楽しむ姿が多くみられた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 いろいろ楽器コンサート	12.21～23 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器が体験できる。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 へんしん大飯店	H15.1.3～7　開館時間中	平成12年の春休み特別期間にスタートしたプログラム。華やかな装飾と扮装で一年の始まりらしい雰囲気をかもしだした。子どもたちも大人も変身グッズを身につけ、日常とは違った空間を演出。弾き語りの「うたって　まんぷく」、世界の音楽を紹介する「たらふくコンサート」などのプログラムが行われた。合間にはスタッフによるマンボやポルカが演奏され、楽器をもって子どもたちとスタッフが自由に接する時間も好評だった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	1.3～7　開館時間中	対象の中心は親子だが、正月らしく家族で訪れ祖父母などと一緒に過ごし、こころゆくまで滞在し、ゆっくり過ごす人たちがたくさんいた。（Aスタジオ）

名　称	日　時	内　容
〈春休み〉 世界なりきり！ ハリキリダンス！！	3.26～4.6 14:30～15:00	ここ数年行っているダンスプログラムの集大成。「アフリカンドラム・マンボ・サンバでおどろう」「ほのぼのフォークダンス」「インドネシアのジョゲダンスとバンブーダンス」「かっこいい！ヒップホップダンス」の4プログラムを日替わりで実施。前年度までよりも、いろいろなジャンルの音楽とダンスをじっくり楽しんでもらえるようになった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 いろいろ楽器コンサート	3.26～4.6 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器を体験できる。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 うたってハッピー	3.26～4.6 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	3.26～4.6　開館時間中	0～3歳の幼児と親がゆっくりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開園した。大変好評なスペースであるので、今後は平常期間への常設をめざしていきたい。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 ぼくらのサウンド2003	3.21 14:00～／16:30～	「おかあさんもいっしょリトミック」「合唱講座」「こどもの城合唱団」「混声合唱団」の公演。（青山円形劇場）
	3.22　13:00～	「リズム・ムービングA・B・C」「リズム・ムービング&パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」の公演。（青山円形劇場）
	17:30～	「和太鼓グループ」「レッツ・プレイ・サンバ」「レッツ・プレイ・サンバ初級」の公演。（青山円形劇場）
	3.23　15：00～	「エレクトリックアンサンブル」「三味線」「ガムラン講座」の公演。（青山円形劇場）



「わいわいスタジオ～クリスマススペシャル」

「わいわいスタジオ
～ビックリ！ Big バンド ラテン・ジャズコンサート～」



2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
リズム ムービングA	(人) 3歳児 (12)	(人) ① 13 ② 6 ③ 6	火曜日 14:30～15:20 (全32回)	身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし、創造性を引き出し、はぐくむことをめざした活動を行っている。主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用しているが、そのほかに聞こえた音を全身で表現したり、造形活動を行ったりしている。楽譜は使用していない。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
〃 B	4・5歳児 (20)	① 7 ② 5 ③ 5	火曜日 15:30～16:20 (全32回)	
リズムムービング&パーカッション	小1～3 (15)	① 10 ② 11 ③ 11	火曜日 16:30～17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
パーカッションアンサンブル	小4～高3 (15)	① 17 ② 21 ③ 20	火曜日 17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者もていねいな指導で、すぐに楽しんでいる。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
おとなのためのリズム・ムービング	18歳以上 (15)	① 7 ② 6 ③ 5	火曜日 18:00～19:30 (全16回)	小学校教諭や音楽教室の指導者、一般企業の会社員や子どもコースの保護者とさまざまなメンバーで構成されるクラス。小太鼓やマリンバを用いて基礎的奏法からアンサンブルまでを行う。 受講料＝1期15,000円、2期15,000円、3期10,000円。
おかあさんもいっしょ リトミック I	(組) 3歳児と母親 (20)	(組) ① 20 ② 20 ③ 20	水曜日 14:00～15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
〃 II	4歳児と母親 (20)	① 21 ② 20 ③ 17	水曜日 15:00～16:00 (全32回)	初級（I）で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。受講料＝「おかあさんもいっしょI」と同じ。
〃 III	5歳児と母親 (20)	① 20 ② 21 ③ 21	水曜日 16:00～17:00 (全32回)	就学を迎えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみ、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料＝「おかあさんもいっしょI」と同じ。
和太鼓グループ	(人) 小3～高3 (12)	(人) ① 15 ② 14 ③ 11	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	湯島（東京都文京区）に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
レッツ・プレイ・サンバ初級	小1～3 (10)	① 19 ② 17 ③ 17	土曜日 13:00～14:00 (全15回)	前年度から始まった「レッツ・プレイ・サンバ」の低学年向けの初級コース。サンバ楽器を使った演奏と踊りの指導を行っている。サンバをとおして、音楽の楽しさや仲間と演奏することの楽しさ、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを感じてもらうことをめざしている。受講料＝1・2・3期6,000円。
レッツ・プレイ・サンバ	小4～高3 (10)	① 11 ② 9 ③ 9	土曜日 15:30～17:00 (全29回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。 受講料＝1・2期15,000円、3期14,000円。

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
合唱講座	小1～4 （30）	①35 ②36 ③35	土曜日 14:00～15:30 （全32回）	遊ぶことをとおして無理なく声を出し、身体表現なども取り入れて、上手に歌うことだけではなく、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
こどもの城 児童合唱団　I	小2～3 （合唱講座修了者・30）	①50 ②48 ③46	土曜日 15:30～17:30 （全32回）	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験するユニークな総合プログラムを展開。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
〃　II	小4～中3 （合唱講座修了者・60）	①117 ②111 ③109	土曜日 17:00～19:00 （全32回）	
混声合唱団	高校生以上 （15）	①58 ②57 ③56	土曜日 19:00～21:00 （全32回）	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざしている。コンサートや合宿などのときは、常に「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
エレクトリック ・アンサンブル	中1～高3 （8）	①7 ②6 ③6	日曜日 10:30～12:00 （全32回）	アンサンブルの中での各楽器の役割が分かりやすいバンド形式のプログラム。無限の音色が操れるシンセサイザーを活用することで、さまざまなジャンルの音楽にチャレンジしている。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
三味線講座　A	小2～高3 （12）	①15 ②12 ③12	日曜日 10:00～11:30 （全32回）	学校教育への和楽器導入が始まり、さまざまな催しに招かれたり、取材を受ける機会の多い1年だった。「東京新聞文化フォーラム～三味線ってなあに？」（主催：東京新聞／（社）長唄協会）、「日本の伝統の春」（テレビ東京）、「日本のふるさと弦楽器～デモンストレーションライブ」に出演したほか、恒例となっている田島佳子講師主催の「三味線のつどい」（青山円形劇場）では、『こども組曲』を演奏、こどもの城児童合唱団も賛助出演した。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。
〃　B	小2～高3 （12）	①13 ②12 ③10	日曜日 11:30～12:45 （全32回）	
ガムラン講座	小1～高3 （15）	①15 ②15 ③14	日曜日 13:00～14:30 （全32回）	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者のクラス。さまざまな音楽的な要素が潜在しているガムラン音楽は、アンサンブルすることでその特異さがわかる民族音楽。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
おんがく星みつけた～就園前のリトミック～	2歳児と母親 （30）	30 32 31	木曜日 10:30～11:30 （各期＝10回）	就園前の幼児と母親が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期15,000円、3期14,000円。

〈短期講習会〉

名称		対象・定員	受講数	日時	内容
大人のためのガムラン一日体験講座		（人） 一般 （各日15）	（人） 計 49	7.7、9.8、12.15、 H15.3.2 16:15～17:45	インドネシアの青銅製の打楽器アンサンブル・ガムランの大人向け一日講座。子どもをとりまく多くの大人に知ってもらい、「ガムラン講座」（小1～高3対象）の増員をはかることが目的。受講者増に大きく結びつかなかったが、今後も機会をみて実施していきたい。受講料＝3,000円。
親子で作ろう手作り楽器のワークショップ	アフリカン“ジェンベ”	小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけでの参加も可。 （各日30）	計 150	8.10、12、15、28、31 ※各日 13:00～16:00	3年目を迎えた大人気プログラム。「講義」＋「製作」＋「演奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。本年度も全日満員。セネガル出身のパーカッショニスト、ワガン・ンジャエローズ氏の合奏指導も、前年度以上の白熱ぶりだった。受講料＝親子ペア9,800円、子どものみ4,900円。
	トーキングドラム“タマ”		計 150	8.11、14、27、30、9.1 ※各日 13:00～16:00	受け付け開始早々に全日満員となった。西アフリカのセネガル共和国、ウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズ氏が指導。太鼓の胴にたくさんのヒモがあり、それをコントロールすることで音程が変わり、しゃべっているように演奏することができる。受講料＝親子ペア9,800円、子どものみ4,900円。
	竹のハンドベル“アンクルン”		計 90	8.16、20、26 ※各日 13:00～16:00	5年目を迎える不動のプログラム。“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を発揮する楽器。3日とも満員になった。平成15年2月16日には、有志が参加して「わいわいスタジオ」でミニコンサートを行った。 受講料＝親子ペア5,400円、子どものみ2,700円。
	宇宙人の声が出せる“口琴（コウキン）”		計 60	8.17、24 ※各日 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。指ではじいて中央の弁を振動させ、半開きのくちびるにあてると、口腔や頭に共鳴して音を出すというユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる楽器”と紹介。両日とも満員になった。受講料＝親子ペア5,000円、子どものみ2,500円。
	竹のたて笛“スリン”		計 60	8.19、22 ※各日 13:00～16:00	3年目のプログラム。竹のたて笛を2種類製作。インドネシアの6穴のたて笛「スリン」は、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている笛。細い棒をスライドさせて、鳥の鳴き声をまねできる「スライドホイッスル」も制作。受講料＝親子ペア5,400円、子どものみ2,700円。
親子のための一日ガムラン講座		小1～高3の親子 ※小3以上は子どもだけでの参加も可。 （15）	6	3.9 16:15～17:45	インドネシアの青銅製の打楽器アンサンブル・ガムランの魅力を多くの人に知ってもらい、「ガムラン講座」（小1～高3対象）の増員をはかることが目的。初めてガムランにふれる子どもたちばかりで、興味をもって参加してくれた。受講者増に大きく結びつかなかったが、今後も機会をみて実施していきたい。 受講料＝3,000円。



「親子で作ろう手作り楽器のワークショップ～口琴～」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	9.22・23	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器の紹介、がらくた楽器の演奏など。約500人の親子が参加。22日には、児童厚生員などを対象に「打楽器で遊ぶワークショップ」の実技研修を実施（参加約20人）。静岡県三ケ日町中央公民館。
〃	11.9	約400人の親子が参加。公演終了後「打楽器で遊ぶワークショップ」の実技研修を行った（参加約100人）。岩手県種市町文化会館。
音楽ゲームセンターであそぼう「スーパースターゲッター！」	H15.3.18・19	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれた音楽ゲーム遊びのプログラム。歌、ダンス、民族楽器体験、リズム遊びなどをもりこんだプログラム。約８０人の学童が参加。前日には、児童厚生員などを対象に実技研修を実施、約４０人が参加。栃木県高根沢町児童館。

〈講師派遣〉

名　称	日　時	内　容
音楽科研究・民族音楽演習	4～7月（全8回）	東京学芸大学の小学校教諭をめざす学生（国語、理科、音楽専攻の３年中心）約150人に対し、インドネシア、西アフリカ、ブラジルなどの民族音楽、手作り楽器の演習を行った。国語、理科の専攻であっても小学校では音楽を指導することがあり、慣れない音楽分野であるが積極的に興味をもって受講していた。
子育て支援の輪づくり講座	8.23、10.4、18	8月は子育てサークルリーダー養成のための講習（約70人参加）。10月は受講生がリーダーとして遊びを実践し、ディスカッションなどを行った。新潟市主催（新潟市総合福祉会館）。
キッズダンス講習会	9.20	板橋区児童館、学童クラブ職員を対象に「幼児から小学校低学年の楽しめるダンス」をテーマに講習。いろいろな種類の音楽と動き、子どもたちへの伝達法から、受講者自身で創作するダンスまでを行った。座文ホール（板橋区）。
地域子育て支援センター指導者研修会	12.5	乳児・幼児と親のプログラムについて、プログラムの組み立て方、親子で遊ぶための呼びかけなどを中心に研修を行った。（社福）日本保育協会主催。全国各地から約40人の参加。会場は〔こどもの城〕。

〈演奏依頼〉

名　称	日　時	内　容
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	5.25	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器の紹介、がらくた楽器の演奏など。約500人の親子が参加。栃木県宇都宮市清原体育館。
プッチガドコンサート童謡コンサート	6.16	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれたミニバンド形式の参加型童謡コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器の紹介、がらくた楽器の演奏など。約150人の親子が参加。茨城県土浦市都和公民館。
〃	9.7	約300人の親子が参加。福島県本郷町体育館。
東京新聞文化フォーラム「三味線ってなあに？」	9.8	春から中学校に取り入れられた和楽器を身近に感じてもらうことをめざした文化フォーラム。主催は東京新聞と(社)長唄協会。さまざまな三味線の紹介、プロの迫力ある演奏もあり、講座生は出演するだけでなく、自分たちも楽しめる催しとなった。イイノホール（千代田区）。
プッチガドコンサート童謡コンサート	9.19	約100人の園児が参加。東京都目黒区双葉保育園。
〃	12.10	約100人の園児が参加。杉並区私立八幡幼稚園。
第14回「三味線のつどい」	H15.1.13	〔こどもの城〕三味線講座の講師である田島佳子氏と音楽事業部の共催する演奏会。三味線講座生も2クラスそろって出演。三味線講座のために作られた「こども組歌」を演奏。こどもの城児童合唱団も賛助出演した。青山円形劇場。
プッチガドコンサート童謡コンサート	1.28	約90人の園児が参加。神奈川県厚木市ちぐさ幼稚園。
〃	2.4	約80人の園児が参加。神奈川県横浜市竹山南幼稚園。
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	2.20〜3.3	毎年恒例となった欧州公演。5か国6公演行い、延べ約1,500人の親子が参加。開催都市はウィーン、パリ、ジュネーブ、ブリュッセル、フランクフルト、デュッセルドルフ。
プッチガドコンサート童謡コンサート	3.19	約80人の園児が参加。世田谷区下馬保育園。

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
こどもの城児童合唱団夏合宿	8.17〜22	夏季合宿に合わせ、公演をとおして沖縄県内の子どもたちとの交流を深めた。また、平和祈念館やひめゆりの塔などで戦争について学習。公演は佐敷町文化センター（8月1日）、豊見城市立中央公民館と那覇市安謝児童館（2日）、宜野湾市民会館（3日）　渡嘉敷小体育館（6日）。

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部



平成14年度の活動

1．はじめに

子どもたちに豊かな感性を養ってもらいたいと願い、映像を〈みる〉活動や、映像を〈つくる・仕組みをしる〉活動などを行った。前者の〈みる〉活動には、19,000タイトルのビデオソフトが登録されており、家族やグループ単位で視聴することのできる「ビデオライブラリー」と、国内外の優れた作品をより品位の高いフィルムで上映する「こどもの城映画劇場」がある。

特に、「こどもの城映画劇場」の夏休み特別企画として実施した「キンダー・フィルム・フェスティバル」は本年度で10周年という節目を迎え、従来の上映場所であったBスタジオに加え、青山円形劇場も使用し規模を拡大しての開催となった。「キンダー・フィルム・フェスティバル」は、子どもたちのためのプログラムを大人が提供するという形ではなく、子どもたち自身が審査員や司会者をつとめ、優れた作品の選定・表彰を行うという国内唯一の子ども映画祭である。本年度は、子どもジャーナリストの登場など、より一層子どもたち自身で作り上げる映画祭という色を濃く出すことができた。

映像を〈つくる・仕組みをしる〉活動では、実際に簡単なアニメを作ったり、視覚玩具を体験することで動画の原理をしることのできるプログラムを行った。これは、通常「不思議な映像実験室」という名称でBスタジオや音楽ロビーを使用して実施されている。

さらに、特筆すべき事項として学校の週5日制（週休2日）に伴う、土曜日強化策があげられる。AV事業部では、プレイ事業部と合同で土曜日の午後1～4時に小・中学生を対象とする〈科学遊びプログラム〉のコーナーをフリーホールに新設した。「サタデー・ラボラトリー」と名付けられたこのプログラムは、科学離れが叫ばれる昨今の子どもたちに、少しでも科学に対する関心を取り戻してほしいというコンセプトで、AV・プレイ両事業部がそれぞれ隔週でプログラムを担当するという形式で行った。AV事業部では主として「不思議な映像実験室」のプログラムを中心に展開した。

AV事業部では、このほかにも子どもや児童福祉施設の指導者を対象とする講座や講師派遣事業、館内外や劇場の活動・公演を記録し、オリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録したりと幅広い活動を行った。

（ア）ビデオライブラリー

本年度は前年度に比べ、1,700組程度の減少になった。平均視聴時間は0.9分増加した。この結果、総時間数（総組数と平均視聴時間をかけた数字）では前年度をわずかに下回った。この減少には、さまざまな原因があると思われるが、1つの原因に次のようなことがある。

ビデオライブラリーは、〔こどもの城〕が開館して以来コンピュータなどの部分改修は行ってきが、ビデオデッキや主要部分は開館当時の機械をいまだに使用している。17年を過ぎた現在ではいろいろな部分で故障が発生し、修理が不可能なものもあり、1～2ブース（視聴部屋）が完全に使用できない状態になった。機械をブース間でやりくりすることで何とかしのいでいるが、根本的な改修が急務になってきた。

ビデオライブラリーには、現在およそ19,000タイトルの作品が収集されている。その収集内容としては、生物などの自然科学的な作品、歴史や紀行などの社会科学的な作

品、スポーツやバラエティーなどの娯楽的な作品、健康やしつけなど教育的な作品、邦画や洋画・ドラマ、そして童話やアニメなどがある。中でも、童話やアニメの割合が7割から8割を占めている。

多くの利用者に支持されている作品は、前年度と同様に『クレヨンしんちゃん』だった。これは、主な利用者層である小学生に、主人公の奇想天外な発想や行動が受けたためであると考えられる。また、この作品は、男女の区別なく見られることも、視聴率1位の要因であろう。

男女の区別なくという観点からは、『ドラえもん』も注目すべき作品である。利用の多い作品100位のうち、約1割（9作品）が『ドラえもん』関連の作品である。ライブラリーには幼児や小学生を伴った家族連れが多く利用するが、夢があり、ほのぼのとしたストーリーの『ドラえもん』は、子どものみならず大人にも好印象を与えているようだ。この2作品に共通していることは、男女の区別なく視聴されるということ、みんなで笑いを共有できること、そして見ている者同士の雰囲気が和むなどの良い部分を持っているのではないか。

毎年のことになるが、“怖い話”の作品が良く視聴されている。ある意味でこのような作品も恐怖というキーワードで、見る者同士が空間を共有できるとも考えられる。ビデオライブラリーを利用する場合グループで利用するケースが多いので、みんなが空間共有できる作品が多く利用されるという結果なのかも知れない。

【夏休み特別期間の特集】今夏は“エジプト”をテーマにした「エジプト特集」を行った。古代文明の中心でもあるエジプトは文化や歴史、観光都市としても注目できる。そこで、前年度はライブラリー内におばけ屋敷風の暗い部屋を作ったが、本年度もその場所を改良してピラミッドの内部という設定のセットを作った。室内にはレプリカの調度品や象形文字で雰囲気作りをし、〔こどもの城〕の各フロアーにパソコンなどを設置して、各ポイントの問題をクリアーしていくといったゲームも行った。来館児・者の反響は、おおむね好評であった。

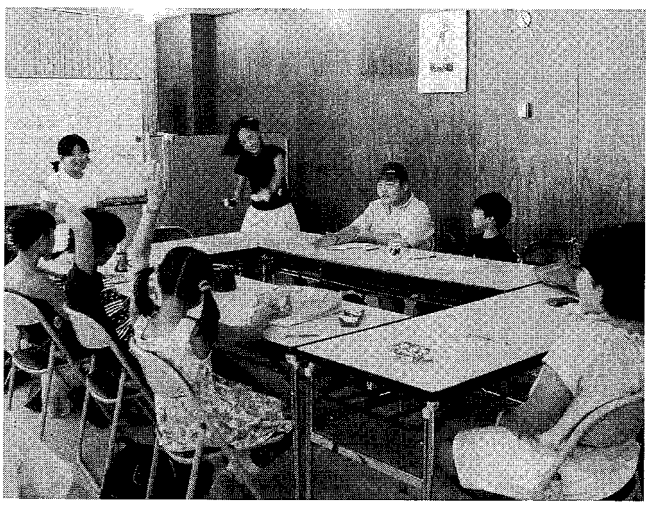
2. 第10回キンダー・フィルム・フェスティバル

今回で10回目を迎えた子どものための国際映画祭「キンダー・フィルム・フェスティバル」（以下キンダー）は、8月2～8日はA・Bスタジオで、さらに9日と10日には青山円形劇場を会場として実施し、約5,000人もの入場者でにぎわった。

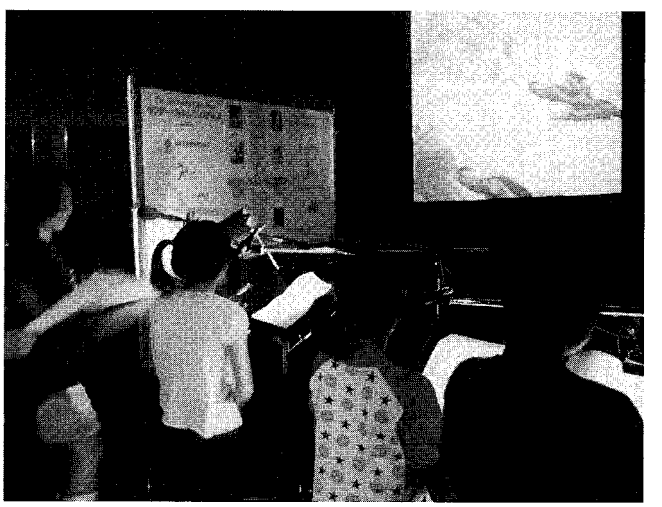
キンダーは、ベルリン映画祭の子ども部門で上映された作品を中心に世界の子ども向け優秀映画やアニメを集めて日本で紹介する映画祭。〔こどもの城〕は第2回から部分的な催しでかかわり、第3回からは本会場をBスタジオに移し、以後積極的に実施を続け、今回で第10回を迎えることとなった。前年度までは、共催もしくは後援という形だったが、本年度はキンダー・フィルム・フェスティバル実行委員会（以下実行委員会）の改組もあり、〔こどもの城〕の高峯一世理事長を実行委員長に共同主催で進めることになった。

10回目の記念行事として特別プログラムの上映を青山円形劇場で2日間実施した。AV事業部が劇場を使用するのは初めてだったが、大きな問題が生じることもなく、2日間とも客席が定員に達した。

AV事業部と実行委員会は、優れた作品を子どもたちに見せたいという志は同じだが、実際の運営にあたっては、それぞれの“映画祭”という催しに対する方向性を一致させておくことが大切。そこで、対象となる年齢層、観客動員の方法、協賛スポンサーとの関係などについて、常に綿密な打ち合わせを繰り返して運営にあたった。ベルリン映画祭や国内外の配給会社とのコンタクト、フィルム輸入、協賛スポンサーとの交渉とこれらにかかわる事務作業を主に実行委員会が受け持ち、上映作品の選定やワークショッ



キンダーの「子ども審査員コンペティション」の審査風景



キンダー「声優体験ワークショップ」。観客の前で成果を発表

プの企画、経験を積んだスタッフの確保、会場設営や進行を〔こどもの城〕が受け持つという役割分担をした。

（ア）子どもたちが積極的にかかわる“映画祭”

キンダーは、“子どもたち自身が積極的にかかわることができる映画祭”という意識を持って開催することが重要だと常に考えている。今回は、参加する子どもたちの役割を増やすこと、いろいろなワークショップを連日実施して一般来館児・者が映像とかかわる機会を増やすことなどを特に重視した。

第1回から恒例となっている「こども審査員コンペティション」は、キンダーを特徴づける大切な活動。公募で選ばれた「こども審査員」がすべてのノミネート作品を見て、最後に全員で討議して作品賞を決定する。ここ数年、応募者が増加し、高学年の参加者も毎年増えている。本年度は50人を超える応募者があり、積極的な参加意志を持った高学年10人が選ばれた。コンペティションの長編ドラマ部門の選考では約1時間30分にもおよぶ話し合いを続けたが推薦作が2つに別れ、結局はその2作をグランプリと決める結果となった。

グランプリ＝長編ドラマ部門『パコダテ人』（前田哲監督／日本）、『アヒル救出大作戦』（ディ・ドリュー監督／オーストラリア）。アニメ部門『ウォー・ゲーム』（デイブ・アンウィン監督／イギリス）。一般公募アニメコンペ部門『わすれんぼヘビ フィック』（中根裕美監督／日本）。

今回初めての試みとして、映画祭の様子を広く伝える役割を担った「子どもジャーナリスト」を公募した。これは、出品された映画にまつわるいろいろな事柄を調べたり、実際にゲストの制作者にインタビューして、それを記事や番組としてまとめ、観客に伝えていく仕事である。新聞記者チームの中学生3人、ニュースキャスターチームの小・中学生6人が、それぞれに取材を重ね、新聞の発行・インタビュー・ビデオの放映をとおして、キンダーの様子を来館者にすばやく伝えた。

初めての試みであったが、広報部の協力で新聞記者チームは最終日に審査結果を刷り込んだ“号外”を発行することまでやりとげた。参加した子どもたちの満足度も高く、今後も継続して実施していきたいと考えている。

さらに今回は、過去に審査員を経験した中学生が積極的にサポーターとしてキンダーに参加し、司会や会場スタッフなどで活躍してくれた。

従来から実施しているコンペティションとは別に、今回から良質な子ども向け作品が増えることを願って、アニメの自主制作作品を対象とした一般公募アニメコンペティションを開始した。プロ、アマの作家から子ども向けアニメ作品32作品の応募があり、予備審査を通過した10作品をこども審査員が審査した。グランプリは、なんと10歳の小学生の作品が獲得。この作品は楽しいギャグが繰り返される粘土の人形アニメで、一般上映の会場で子どもたちからいちばんの笑いと歓声を得た作品であった。

（イ）多彩なワークショップ

一般来館児・者対応のワークショップでは、前年度好評だった、子どもたちがオーバーボイスの声優を体験する企画を本年度も開催した。声優の指導で、約2時間の練習をした後にすぐに舞台で発表するというプログラムだが、子どもたちは、即席ながらなかなかの演技であった。声優の仕事を知るだけでなく、観客の前で“演じる”という行為を体験することができるので、参加した子どもたちの満足度は非常に高い。

キンダーでは海外からアニメーション作家を招き、制作の舞台裏を紹介するワークショップを継続して行っている。今回はテレビや劇場用作品の監督としてイギリスで活躍しているデイブ・アンウィン監督を招き、セルの技法によるストーリー・アニメ作りの工程を紹介していく内容を実施。原作を脚本化して絵を描いていくことから、セルア



キンダーの「ワークショップ」で指導するアンウィン監督（イギリス）



キンダーの「表彰式・特別上映会」（青山円形劇場）



サタデー・ラボラトリー「アニメをつくろう~ストーリーアニメに挑戦~」

ニメの技法の特徴、音声作りといった流れを、豊富な資料をもとにアンウィン監督がていねいに子どもたちに紹介してくれた。

Aスタジオでは、ビデオカメラでコマ撮りしてアニメの一場面を作ってみるワークショップを行った。これは、通常期間に実施している「サタデー・ラボラトリー」で行っている切り絵アニメのワークショップをもとにアレンジしたもので、一般の来館児・者が約1時間程度で作品作りが体験できる。自分で自由にデザインした自動車を、自分の好みの風景の中で走らせてみるといった内容で、幼児は保護者と一緒に参加してもらった。作品はビデオテープにコピーして持ち帰ることができるようにしたが非常に好評で、参加者は357人を数えた。

本年度は実行委員会が、協賛スポンサーを募る活動をかなり積極的に展開したため、主旨に賛同いただくことができたスポンサーから多くの協賛金の出資、上映作品の無料提供、記念品の提供などがあり、前年度以上に内容を充実させることができた。特に、ビー・エム・ダブリュー株式会社からピロティへの実車展示という条件での多額な協賛をいただいた。Aスタジオでのアニメ・ワークショップとの関連や、実際の展示方法などを双方で協議しながら、また事故防止に留意し、企画研修部、管理課、防災センターとの密な連絡によって進めていくことができたことは非常によい経験になった。今後も実行委員会との上手な連携をとりながら、小規模でも、より子どもたちがかかわれる映画祭をめざしていきたいと考えている。

3. サタデー・ラボラトリー

プレイ事業部のページ参照。

4. まとめ

学校でのゆとり教育導入や週5日制（週休2日）の実施により、子どもたちを取り巻く環境が変化しつつある。空き時間の過ごし方が子どもたち自身や家庭へとゆだねられた結果、その行動パターンは、塾・習い事・児童館・サークル活動……などますます多様化することとなった。学校という場を離れ、いろいろな人と良き出会いをし、知識や経験を深めて行くことは、各々の個性を伸ばす上でも素晴らしいことであろう。

AV事業部では、この点に着目して柱となる2つのプログラムを行った。一つは、子どもたちが興味を持って集い、新たな仲間作りができる「サタデー・ラボラトリー」。もう一つは、子どもたちがやりがいを持ってプログラム作りの段階から参画できる「キンダー・フィルム・フェスティバル」である。

昨今は、巷に上辺だけの楽しさや快楽が氾濫しており、これに目を奪われた子どもたちが悲しい状況におちいるケースも少なくない。今後さらに、一人でも多くの子どもたちが興味ややりがいを抱き、新たな仲間作りができるような環境を整備して行きたい。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
ビデオライブラリー自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなどさまざまなジャンルにわたるビデオソフトが、19,000タイトル網羅されたビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された35のブース（小部屋）で好みのソフトを視聴できる。（ビデオライブラリー）
走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会（第13～15回）	4.13～17 6.22～30 10.9～17	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。プラレールの展示もした。（フリーホール）
〃（第16回）	H15.1.18・19	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラムのほか、鉄道をモチーフとしたカードゲームやすごろく、パズル、100問クイズ、手回し発電によるNゲージ模型の競争、鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなどを設置した。（ギャラリー）
不思議な映像実験室「くるくるアニメをつくろう」	3.21～23	音楽ロビーを2つに区切り、幼児から参加できる「不思議な映像実験室～くるくるアニメをつくろう」と、小学生以上対象の「サタデー・ラボラトリー」（科学遊びのプログラム）を実施。幼児から参加できる“くるくるアニメ”には、3日間で1,000人を超える参加があった。（音楽ロビー）
おもしろビデオ館	金曜日　15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて作品を選び、上映。（Bスタジオ）
サタデー・ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00 （受付時間）	学校5日制（週休2日）が始まったことを受けて、小学生を対象として始めた新プログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなど、身近にある“不思議”を体験するさまざまなプログラムを実施。プレイ事業部と共同で主催。（フリーホールほか）
不思議な映像実験室	土曜日　15:30～17:30	2枚の絵を描いて簡単なアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を作った。音楽ロビーの利用者にあわせて、幼児から参加できるように、かんたんな工作で視覚がん具が楽しめるようにしている。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ「不思議な映像実験室」	日曜日・祝日（月1～2回） 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示とワークショップを行った。展示と、幼児向けのくるくるアニメコーナーは開場時間中は随時参加できるようにしてある。ワークショップ（3種類）は、2時間程度の時間枠を決めて実施。本年度は、新規プログラムとして、映画フィルムに直接針で絵を描く“シネカリアニメ”を行った。このプログラム用に黒味フィルムにフレームラインの入ったオリジナルフィルムを作成。（Bスタジオ）
こどもの城映画劇場	日曜日・祝日（月1回）	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBC（National Film Board of CANADA）のアニメーション映画などを11:30／13:30／14:30／15:30の4回上映。（Bスタジオ）
館内放送テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当のミニコンサート「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継及び録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送出も行った。（Bスタジオ・映像調整室）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 アニメを作ろうスペシャル	4.27～29、5.3～6	色紙で好きなキャラクターを作って背景画の前に置き、ビデオカメラでコマ撮り（アニメ機能を使った撮影）をして、自分だけのアニメ作品を作る（小4以上）。幼児から参加できる「くるくるアニメ」のコーナーも設けた。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 ビデオライブラリー特集「エジプト」	7.20～9.1	「エジプト」にかんするビデオソフトの視聴促進を目的に行った特集。観光スポットとしてのエジプト、歴史や文化の側面でも重要なエジプトを紹介した。あわせて、ラリー形式のクイズ、遊びのコーナーも設けた。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 第10回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.2～10	ドイツのベルリン国際映画祭・子ども映画部門「キンダー・フィルムフェスト・ベルリン」との提携で、優れた映画やアニメを紹介する映画祭。ゲストとしてイギリスのデイブ・アンウィン監督が来日し、アニメ作りの舞台裏を紹介するトークショーを開催。10回目を記念して、9･10日は青山円形劇場で開催した。（Bスタジオほか）
〈　〃　〉 不思議な映像実験室	8.6～9.1	視覚がん具の展示とワークショップを実施。展示コーナーは本格的な視覚がん具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップコーナーは、幼児から小学生低学年を主な対象として「くるくるアニメ」を実施。（Aスタジオ）
〈春休み〉 こどもの城映画劇場「カナダのアニメーション特集上映」	H15.3.26～31	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」所蔵のカナダのアニメから、表現技法や対象年齢別にプログラムを組んで上映。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 エイプリルフール　クイズ大会	4.1	イタリア映画『ピノッキオ』の見どころや舞台裏を紹介する映像をもとにしたクイズ大会「映画ピノッキオの魅力大公開!!」を実施。協賛＝アスミック・エース・エンタテインメント／びあ映画事業推進部。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 こどもの城映画劇場「世界のアニメーション」	4.2～6	イギリス、スウェーデン、ドイツ、アメリカ、日本で作られた子ども向けの優れたアニメーション作品を集めて上映。（Bスタジオ）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
映・造ワークショップ	（人） 小4～高3 （10）	（人） ①　6 ②　4 ③　5	日曜日 13:30～16:30	平成12年度に実験的に行った「映・造ワークショップ」（造形事業部と共同）を改めて再開。自分で描いた絵やいろいろな素材を使って作った人形をビデオで撮影。アニメーション作りをとおして、映像の動きなどを追及した。 受講料＝1･2期（各7回）17,500円、3期（5回）12,500円。（造形スタジオ）

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ビデオとパソコン基礎講座	（人） 一般（20）	（人） 5	6.1 10:00～12:00	初心者を対象とした講座。パソコンでビデオを編集したり、デジタルカメラの使用方法を分かりやすく講義。受講料＝3,000円。（会議室）
16mmフィルム撮影初歩セミナー	〃（30） 〃（30）	8 8	7.27・28 H15.3.15・16 （各2日間）	16mmフィルムでの映画撮影入門セミナー。フィルムの取り扱いから撮影技術まで、基礎的な専門知識を習得する講座。ボレックスやアリフレックスなどのポピュラーな16mm撮影機の取り扱いをとおして、フィルムについての基礎知識や露出の計測までを初心者に分かりやすく講義。受講料＝10,000円。 （7月＝Aスタジオ、3月＝会議室）

名称		対象・定員	受講数	日時	内容
アニメーション「撮影」技術セミナー		(人) 一般(30)	(人) 3	8.24・25（2日間）	アニメ作りでの撮影技術にスポットをあて、カメラや照明機器の選び方とその使用方法などを講義するセミナーと、実際に受講者が短い作品を作るワークショップを実施。受講料＝10,000円。（会議室）
夏休み映像・科学ワークショップ	天体望遠鏡工作教室	小4～高3 (5日間 =2回/日= 計100)	計101	8.11～15	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って、天体観察用望遠鏡「マックロースコープ」を作る。受講料＝2,200円。（Aスタジオ）
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ヘリオシネグラフ	小1～高3 (4日間 =2回/日= 計80	計 83	8.16～19	回すと円盤に描いた絵がアニメのように動いて見える「驚き盤」を作る講座。絵の部分が取り外しでき、交換できる「ヘリオシネグラフ」の組み立てと、絵を描くことをとおして映画のしくみを体験。受講料＝2,200円。（Aスタジオ）
	混虫（まぜむし）工場2002	小4～高3 (6日間 =2回/日= 計120)	計118	8.20～25	オリジナル昆虫ペーパークラフト「混虫（まぜむし）工場」に、ヘラクレスカブトムシなどの短期講習会限定の型紙を付け加えて行った、実践的なペーパークラフト教室。受講料＝1,800円。（Aスタジオ）
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」プラクシノスコープ	小1～高3 (7日間 =2回/日= 計140)	計141	8.26～9.1	映画が発明される前にあった視覚がん具「プラクシノスコープ」を作る講座。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,200円。（Aスタジオ）

〈専門指導者向け講習会等〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
プロフェッショナルビデオ講座「VE技術コース」	(人) 指導者・ 一般(30)	(人) 9	H15.2.15 13:00～17:00	アナログ機器に必須なビデオの信号管理と実際の技術を、各種モニターを実際に使用しながら詳細に解説。ウェーブフォーム、ベクトル、ピクチャーの各モニターを受講者が体験使用する時間も設定。受講料＝5,000円。（会議室）
DVノンリニアを使いこなすセミナー	〃 (30)	22	2.22	自分でパソコンを使った本格的なビデオ編集システムを構築する方法を実際の教材を組み立てて解説。講師は、ビデオ作家の浜口文幸氏。豊富な実例や参考作品も披露。参加者は、施設のビデオ担当者、ビデオ業務関係者、学生と多数で、実践的な内容が好評だった。受講料＝3,000円。（会議室）
現代アニメーション講座	〃 (60) 〃 (60) 〃 (60)	計 71	2.29 3.9 3.29 各日 18:00～21:00	映像の分野にかかわる専門家、児童福祉（厚生）施設や小・中・高校などの教育機関に携わる人、そして広く一般を対象に、アニメーションにかんする知識のなかで、現代とくに話題となっている事柄を取り上げて啓発していくことを目的とした講演会形式の講座。講師は日本アニメーション学会会員。デジタル化に伴う制作現場の変化と表現、アニメーションの教育、カナダで先駆的な制作を続けたノーマン・マクラレンの業績についてなどを取り上げた。受講料＝2,000円。（Bスタジオ）
プロフェッショナルビデオ講座「ビデオマンの電気基礎コース」	〃 (30)	18	3.1 13:00～17:00	伝送や照明などにかんして現場で起こりうるトラブルを検証しながら、ビデオ撮影や機器運用に不可欠な、電気にかんする基礎的な知識を再確認するための講座。受講料＝10,000円。（会議室）

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
アニメ・ワークショップ	10.5・6	「高浜市やきものの里　かわら美術館」（愛知県）で開催された高浜市在住のアニメ・クリエーター貞本義行氏の展覧会関連企画として開催。5日は、指導者向け講習会を行い、児童厚生員や学校教員、ボランティア・スタッフなど25人が「ソーマトロープ」「マジックロール」「驚き盤」作りを行った。6日は、一般来館向け随時参加プログラムとして「くるくるアニメを作ろう」を実施、75人の子どもたちが参加した。また、事前募集による「お話くるくるアニメ」には、14人の小学校高学年と中学生の子どもたちが参加し、各自がオリジナル・ストーリーのアニメ作品をビデオで制作した。
映像探検　写真ワークショップ／不思議な映像実験室	10.18～20	児童館フェアの1コーナーとして「映像探検　写真ワークショップ」を開催。ピンホールカメラでの写真撮影と紙工作のピンホールカメラ作りを行った。18日には、児童厚生員等を対象に「不思議な映像実験室」の講習会。栃木県子ども総合科学館。

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
パルテノン多摩アニメ・ワークショップ	4.1～4	「パルテノン多摩」（東京都多摩市）で、毎年春休みに行われるアニメ・ワークショップに講師を派遣。「ぱたぱたアニメ」「驚き盤」作りでアニメの基礎を体験する初級コース20人、切り絵や粘土で作品を作る中級コース35人の参加があった。中級コースでは、新企画のパソコン紙芝居「デジタルマンガ・コーナー」、いろいろな技法を試した不思議画面を集めた「お試しコーナー」も設置して、子どもたちの制作意欲を高めた。
日本保育協会地域子育て支援センター指導者研修会	12.5	日本保育協会主催の研修会。指導者を対象とした子育て支援のプログラムを〔こどもの城〕各部が紹介。AVプログラムは「不思議な映像実験室」と題して、絵が写ったり、動いて見える視覚がん具作りのワークショップを実施。
練馬アニメーションフェスティバル in 大泉	H15.3.30	東京都練馬区で行われたアニメーション・フェスティバル（会場＝練馬区勤労福祉会館、主催＝練馬区、催し担当＝NPO法人アニメーションミュージアムの会）で、“カナダのアニメーション”を上映した。さまざまな技法を使った作品、「ライツフロムザハート」シリーズから選んだ作品の2プログラムを交互に上映した。上映会入場者数は計98人。

〈映像記録〉

名　称	日　時	内　容
館内活動の記録	通年	館内の講座等をビデオ取材しソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」（Part 1～3）の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み特別期間 冬休み特別期間 春休み特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。 体育事業部「チャレンジキャンプ2002」「スキースクール」（Part 1－1期、同－2期、およびPart 2）／プレイ事業部「ちびっこ冒険団2002」「フェローシップキャンプ2002」「ゆきんこ冒険団2002」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2002」「ジュニア・スプリング・キャンプ2003」 同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場で行われた公演・発表会をビデオ記録し、編集の上ビデオライブラリーで公開。また一部を出演者等に販売。 ◎青山劇場＝自主公演「Dance Biennale TOKYO 2002」など3本。 ◎青山円形劇場＝自主公演「こどもフェスティバル」「おじいちゃんの夏」および共催公演「第10回キンダー・フィルム・フェスティバル」「とびこむ絵本Ⅱ」など28本。 ◎青山円形劇場＝外貸し公演「バラ売り人生～アラビアン・ローズ」。

保育研究開発部



平成14年度の活動

1．はじめに

児童福祉施設における福祉サービスの第三者評価の実施、保育士の国家資格化、そして少子化対策のさらなる取り組み「少子化対策プラスワン」が厚生労働省から出されるなど、保育行政の大きな変化の年であった。とりわけ「少子化対策プラスワン」は、依然として少子化が進行していて、人口を維持するのに必要な水準を大幅に下回る状況から打ち出された対策であった。

このような状況を踏まえ、“子ども家庭支援プログラム”を中心にした保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」）、および研修事業（「保育セミナー」「子育て相談研修会・基礎編」「子育て相談研修会・応用編」「子育て支援のニュースレターの発行」）を行った。

また、“保育”に対する関心が教育現場に広がり、地方からの中・高校生や短大生などの見学が増えている。特に、中学生は質問を事前に送付してから訪れることが多く、学習の一環として“保育”をとらえている中学校が多くなっていることがうかがえた。

国の少子化対策を念頭におき、子どもを育てる楽しさを親に伝える一般来館児・者事業「よちよちクラブ」、地域で年齢の異なる子ども同士が触れ合って遊ぶ機会が減っていることから「保育クラブの夏休み保育」について詳述する。

2．「よちよちクラブ」と「保育クラブの夏休み保育」

（ア）「よちよちクラブ」

以前から〔こどもの城〕に来館する親子が気軽に立ち寄り、親子遊びのプログラムを楽しんだり、親がゆったり過ごせる場を求める声があがっていた。館内には3歳未満の親子がくつろいだ気分で遊ぶスペースが少ない、ということもその理由のひとつであろう。

利用者のニーズに応えると同時に、数年前から全館あげて土曜日の活性化を進める方向となったことも「よちよちクラブ」を推し進めていく大きな要因となった。

保育研究開発部では、ここ数年来試行的に低年齢児の親子に向けたプログラムの開発に取り組んできた。そのねらいは、楽しく親子遊びを経験することを中心に親もゆったりと過ごせる場をつくることにある。これまでに行ってきたプログラムを振り返り、整理をした上で新たな形の子育て支援プログラム「よちよちクラブ」を本年度から再スタートすることとした。

●プログラム実施回数を年間10回から20回へ

実施回数を増やすことは、来館児・者には歓迎されたが、プログラム担当者の調整をきめ細かに行う必要があった。他の事業も担当しているからである。

保育主任2人がプログラムのコーディネートを担当。交替でプログラムの実施にあたり、もう一人のスタッフが補助的について2人1組で進めた。

●来館者のニーズに合わせてプログラムを組み立てる

4～7月は、前年度同様に親子遊び（歌遊び、手遊び、スキンシップ遊びなど）を中心に、リラックスした雰囲気のなかで親子が家でも遊べるようなプログラムを多く紹介した。

前年度はこの他に、子どもを楽しませるための親の“作り物プログラム”を入れていたが、親自身が楽しむというより、興味を持たない1歳児に親が無理にやらせようとす



パネルシアターを楽しむ「よちよちクラブ」の参加者

る傾向がでてきたこともあり、一時取りやめることにした。その分、自由におもちゃなどで遊ぶ時間を増やしたが、親のなかには手持ちぶさたになり、子どもと1対1でつきあうことに疲れているという様子などが見受けられた。また、参加した親子やリピーターの親子のなかには、“作り物”がなくなったことでプログラムに物足りなさを感じる親もいたようである。

こうしたことから、参加者のニーズを改めて知るためにアンケート調査を行った。その結果は「いろいろな遊び方を教えてほしい」という声が多数をしめた。1時間のプログラムのなかに“作って遊ぶ”メニューを再び入れることにした。ただし、親にも子どもにもこれまで以上に無理がない工作（例：新聞紙の帽子、ままごとのかごなど）を提供するように工夫した。あわせて、親が作りものをしている間は子どもから目を離さないこと、親同士も互いの子どもを見るようにすることなどを親にていねいに伝えることにして“作り物”を再開した。

また、子育て中の親同士が少しでもリフレッシュできることを願い、親のためのプログラムを企画実践してみた。例えば、親にとっての思い出の歌、好きな絵本について親同士が話し合ったりするプログラムを行ったところ、親は喜び、見知らぬ親同士が笑顔で話し始める場面も生まれた。“親プログラム”は好評であった。

パネルシアター、人形劇などもこれまでどおり行うことでプログラムの内容は盛りだくさんになった。参加者の満足度は高くなり、リピーターの親子が徐々に増えた。

【よちよちクラブ（1・2歳児）プログラム進行例】

時間	プログラムの内容	スタッフの動き
10:00		設定（敷物、テーブルなどの準備／掃除／おもちゃ・遊具の設定／お茶の用意／看板・名札・タオルの準備） スタッフ打ち合わせ
11:00	保育室の開室／名札をつける 好きな遊びを親子で	心地よいBGM 自由遊びは、さりげなく一緒に遊ぶようにする
11:15	集まりのあいさつ パネルシアターなど（導入） スタッフ・参加者の紹介 手遊び・歌遊びなど 親プログラム（車座に座る）	リーダーのスタッフが呼びかけゆったりと進める 一人ひとりの親に話を聞く
11:40	作り物プログラム お茶の時間（親子で交流）	材料・作り方のレシピの用意 お茶のセットを並べ、親同士の話がはずむように配慮する
12:00	参加カードを配り、シールをはる（次回の案内） さよならのあいさつ 閉室	参加カードとシールの説明（館内の案内） 退室を見送る

●保育室を生かした環境構成の工夫

保育室の壁面には子どもたちの絵、棚にはほほえましい子どもの制作物、水槽には金魚、亀、イモリなどの生き物、観葉植物や窓越しに見えるベランダの季節の花々――これらに加えて、「よちよちクラブ」を行う日は保育室を家庭的な雰囲気に変えて、親子にくつろいで遊んでもらう工夫をした。

床には落ち着いた色の敷物、おもちゃもできるだけシンプルで質の良いものをそろえ、テーブルには花を飾りその周りで親同士が自然に麦茶を飲み、談笑できる環境を作った。

●20回を終えて

20回で延べ374組の親子が参加。両親以外の家族（祖父母、兄弟）連れも多く、実際の参加人数はこれを上回る。当初は一回20組としていたが、家族が一緒の場合も多いことから15組ぐらいが妥当な人数。プログラムは午前と午後の2回行った。

午前に参加する親は初めからプログラムの内容を把握して事前に予約をして来るケースが多く、リピーターが増えた。午後から参加する親は〔こどもの城〕に来てたまたま「よちよちクラブ」を知ったという人が多かったが、回を重ねるごとに確実にリピーターは増えていった。

「よちよちクラブ」の魅力は、安心して親子で過ごせること、スタッフとの何気ない会話が楽しめることなどにある。保育を行う人には、子どもの成長を親と共に見守り喜びあうことが、自然なかたちで求められている――と実感させられた。地域での子育てが難しくなっている現在、形や場を変えても子育て中の親をサポートすることの必要性が親たちの反応から読み取れた。

まだまだプログラムの工夫や親への援助の仕方、アプローチなどには課題も多いが、今後も継続していく中で子どもと家庭のためのプログラムの一つになるのではないかと思っている。

（イ）「保育クラブの夏休み保育」

「保育クラブ」は登録をして利用する会員制の保育であるが、近年、夏休み期間のみ保育に参加したいという家庭からの要望が高まってきた。長い夏休みを隣り近所で遊ぶ友だちもおらず、狭い家の中や家族だけで過ごすことが多くなることを親たちが懸念していることが背景にあげられる。そこで、ここ数年来、５月の連休明けに主に夏休みの保育を希望する家庭への募集（不定期利用として）を行っている。本年度はこれまで保育準備にあてていた月曜日も保育を行うこととし、日数も多くなることをアピールして利用者のニーズに応えた（夏休み特別期間中は月曜日も開



いろいろな幼稚園に通っている子どもたちで給食
（「保育クラブの夏休み保育」から）

【3～5歳児の「夏休み保育」デイリープログラムの例】

時間	活動	子どもの動き	スタッフの動き
9:30	保育準備		利用者表と保育の流れ（特記事項がある場合は記入）を全員に配付。ホワイトボードに保育内容を掲示（保護者向け）。環境設定（遊具、タオル、生きものなどの確認。室内の整理整頓など）。
9:45	保育スタッフ打ち合わせ		打ち合わせ（保育ボランティアへの指示）。
9:55	受け入れ（視診）	親子で待つ。	受け入れ（通常の保育と同じ。利用表を受け取り、健康状態や連絡事項を記入）。
10:00	保育室開室 身支度をする	靴をぬぎ入室。コップ、はしをトレイに出し、リュックをロッカーに。	子どもを迎える（初回の子どもの支度、遊びへの声かけ、保護者への対応・分離などをていねいに行う）。 受け入れ時の連絡事項等をスタッフ全員に伝える。
10:15	朝の集まり	名前を呼ばれたら返事をする。	人数の確認。
10:30	保育プログラム 月・金曜日＝プール	トイレに行き、着替え。屋上プールへ移動。	移動の際、人数の再確認。出入り口に滑らないように大判タオルを敷く。プールの後は、体をふく手伝い。室内の冷えすぎに注意。
	火曜日＝砂場	トイレに行き、サンダルと帽子着用。砂場へ。	砂場でも水分を補給できるように、お茶とコップを用意。
	水・木曜日＝自由遊び・集い ゲーム（水） 室内遊び（木）	好きな遊びをみつけて遊ぶ。片づけはみんなで協力。集いでは、みんなの前で自己紹介。ゲーム・室内遊びは、スタッフの話（ルールなど）を聞いて参加する。	遊んだ後に、子どもたちとともに片づけ。集いでは、恥ずかしがってうまく言えない子どもには、そばについてフォローする。説明は分かりやすく、ていねいに。全員が参加できるように、誘ったり、そばについて一緒に遊ぶ。
12:00 (30分)	給食	手を洗う。コップにお茶をくみ、はしを持って自由に着席。配膳を手伝う。食事の前後のあいさつ。 自分の食器の片づけ。うがい。	テーブルの準備。配膳。終了時間を伝えておく。子どもとともに食事。おかわりの対応。 終了時間を伝えるが、ゆっくり食べている子どもには、ゆっくり食事をしていてもよいことを伝える。 食器、テーブルの片づけ。
	自由遊び	好きな遊びをみつけて遊ぶ。	日差しが強いときは室内で。
13:35	後片づけ。トイレ。	みんなで一緒に後片づけ。	子どもたちとともに後片づけ。
13:45	帰りの集まり。 （延長する子どもと分かれる） 帰り支度。	お話、紙芝居、パネルシアターなどを楽しむ （名前を呼ばれたら、延長担当のスタッフのところへ） コップなどをしまい、荷物をもって集まる。	振り返りの後、紙芝居など。 （延長担当のスタッフ入室） 忘れ物確認。
14:00	「さよなら」のあいさつ。	車座に集まり、互いの顔を見てあいさつ。受付ロビーでお迎えを待つ。	一人ひとりの健康を確認して、帰りのあいさつ。 保育活動のようすを保護者に伝える。

館することに連動したこともある。「保育クラブ」の正規の募集は毎年2月)。

本年度も2～5歳児の35人が年度の途中の6月に保育クラブ会員の登録を済ませ、夏休み保育に参加した（保育クラブの会員は約400人)。幼稚園児の登録が多くなるのも特徴であるが、都内のさまざまな幼稚園に在籍している子どもたちが保育クラブで出会うことになる。地方から（父親の転勤先）の子どもや海外からの一時帰国の子どももいる。

一日の定員と時間は、2歳児は12人（1時と2時まで)、3～5歳児は26人(延長は4時、5時まで)として受け入れている。本年度の夏休み期間（34日）中の利用人数は2歳児では、延べ364人、3～5歳児では延べ716人となった。

●夏休み期間の保育内容の特徴

さまざまな子どもたちが出会うため、遊びをとおして皮膚感覚で人間関係を学習する場になっている。子どもたちの顔ぶれはその日によって毎日異なるため、〔こどもの城〕の保育（集団生活）の仕方を子どもたち（時には親にも）にていねいに伝えることが欠かせないものとなる。例えば、遊び方や生活の手順、年齢の異なる子どもなどが一緒に活動することなどである。「ボクの幼稚園ではそんなことはしない」や「どうして、靴を脱がなければいけないの」などという場合もあるからである。

また、みんなが集まる時間には子ども一人ひとりが自己紹介を行うようにしている。3歳児以上では自分の名前、年齢、通っている幼稚園、好きな遊びなどを皆の前でいってみる。こうすることで、子どもたちもお互いの存在を知ったり、確認したりしていくことになる。

夏休みの保育には小、中学生の保育体験ボランティアも参加しているが、子どもたちは少し大きなお兄さんお姉さんに遊んでもらうのがうれしくて、就学前まで毎年参加する子どももたくさんいる。また、親も子どもの遊びや人とのかかわりが広がることを期待していると素直にスタッフに語ってくれる。

●夏休み期間の保育から見えてくるもの

地域のなかで、幼児がどのように過ごしているのかがみえにくくなっている。特に夏休みなどは、親の見える範囲内でのみ子どもは遊んでいることが、保育クラブを利用する親の話から聞こえてくる。家族旅行なども出かけるがほとんどは短期間となるため、幼児にとって長い夏休みは退屈なものになり、親子とも疲れてくるという。保育クラブの夏休みの保育に来ることで、親子のストレスが減るという親もいる。送り迎えの時間を利用して子育ての相談をしたり、親同士が親しくなり友だちになったりしていく。

一方、さまざまな家庭環境と生活スタイルが異なる子どもの保育には、通常以上の配慮が求められてくる。どんな家庭環境で育っているのかを保育クラブに登録をした時点で大まかには把握しているが、実際に保育が始まると子どもの気になる行動、親の抱えている問題などが浮かび上がりその対応には時間がかかることもある。〔こどもの城〕では、何人かのスタッフがチームを作って保育にあたっているため、みんなで話し合い、ケースによっては他機関との連携なども視野に入れて保育を行うようにしている。

夏休み保育の果たす役割は年々大きくなっている。今後ますます利用者が増えることが予想されることから、子どもの遊びを広げること、ボランティアの生かし方、スタッフと親との関係のとり方などを検討することが必要となっている。

3. まとめ

保育研究開発部の3つの事業（保育事業、一般来館児・者事業、研修事業）は、本年度も予定通り行うことができたが、保育事業の中心であった「親子教室」「保育クラブ」は、地域に似たようなプログラムが広がってきたこと、子どもが少なくなっていることもあり、定員を大幅に上回ることはなくなった。

「保育クラブ」の会員数もここ数年来、400人前後を推移しているが、施設の規模から考えると妥当な数字であると考えている。また、親にとっては、さまざまな保育形態の出現で選択の幅が増え、時間、保育料金、保育スタッフ数など、保育のシステムや保育内容を見学した上で保育を利用するようになってきた。一方で、子育てに悩む親、親になりきれない親が目立ちはじめ、保育士の専門性だけでは対応しきれないとの声が保育の現場からあがっている。

こうした親の子育て環境から、本年度は「よちよちクラブ」「夏休み保育」に重点を置き“親への理解と援助”に視点を置き取り組んでみた。「保育クラブ」会員に対する通常の子育て支援のプログラムをはじめ「夏休み保育」も、一般来館児・者を対象に行う「よちよちクラブ」なども、プログラム内容や対象年齢は違っていても、参加する親が抱える不安と悩みに変わりはない。

保育研究開発部で行っている子育て支援のプログラムはささやかなものであるが、「子どもを育てることは楽しいこと」を、一人ひとりの子どもをていねいに保育していくなかで、親に伝えていきたいと思っている。また、実践から生まれるいろいろなプログラムなどを、研修会や「ニュースレター」（年3回発行）などをとおして、提言や発信をしていくのが保育研究開発部の役割であると考えている。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
春の親子遠足	5.11（雨天のため中止）	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の親子プログラムとして例年行ってきたが、悪天候が続き中止とした。久しぶりに交流を楽しめることを期待していた保護者から、“残念ですね”のメッセージが届いた。改めて子育て支援の家族プログラムの意義を実感。
親子deスポーツ	10.12	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児親子プログラム。企画当初は屋内での実施を想定していたが、「春の親子遠足」が中止になったため、屋外でもできるように両にらみで準備をすすめた。「さわやかな秋の一日、家族一緒に元気にあそびましょう」のスローガンのもと屋外（代々木公園＝渋谷区）で実施することができた。プログラムは、玉おくり、ロープ鈴まわし、綱引き、パラバルーン、親子のダンス、大人のくっつき鬼など。競技の要素を少し多くしたことで大人も十分楽しめた（参加者の感想）。終了後自然の中で親子同士が輪を作り昼食。親子や兄弟祖父母を含めての参加数は約230人。
保育活動展	H15.1.28～2.11	「幼児グループ」を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児の1年間の作品や活動の様子を写真やビデオで紹介。試みに、保育事業以外の研修事業や一般来館児・者事業のコーナーを設けて紹介。〔こどもの城〕の出入り口でもあり、保護者以外の一般の来館児・者が興味深かげに立ち寄った。子どものプライバシーを考慮して作品に子どもの名前を表示することについて保護者と協議。下の名前のみをつけることにした。遊びの姿や作品作りの過程を小冊子にまとめて保護者、見学者に配布。開催期間を2週間としたのは好評だった。（ギャラリー）
よちよちクラブ	土曜日　11:00～12:00 13:30～14:30	国の「少子化対策」を意識したプログラム。子どもを育てることは楽しいこと――を伝えるのがねらい。本年度の重点事業の一つ。対象は〔こどもの城〕に来館する一般の親子（1～2歳児）。低年齢児の親子向けのプログラムが少ないことから、回数を年10回から20回（午前と午後）へ増やした。手作りおもちゃやパネルシアターの作り方の説明には関心が高かった。また、親同士が楽しく遊ぶゲームなども加え喜ばれた。定員は15組。年間の親子参加者は374組（父親を含めると実数はもっと多い）。保育スタッフ2人と保育ボランティアが担当。プログラム企画の参考とするためのアンケート調査を期間を決めて実施した。本文参照。（保育室1）
保育室の一般開放	土曜日　14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。毎週利用する親子、4・5人の親子グループで遊びに来るの姿もある。2歳児になると保育クラブの会員に申し込みたいという親も多い。（保育室2）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 つくって遊ぼう親子工房「オリキリハリキリ箱」	5.3～5	オリ（折り）キリ（切り）ハリ（はり）キリ（切り）という工作の基本を親子で楽しみ、親子の宝箱を作ることがねらい。父親の参加が多く、父子のみの参加も目についた。熱心なあまり見本や色などにこだわる人もいた。3～9歳の親子の参加がほとんど。材料は、画用紙、色紙、ハサミ、のり。3日間で111組155人の親子が参加。保育室の雰囲気がよく親がリラックスできたという感想が寄せられた。（保育室1）
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房「トンボをつっかまえて」	8.16～18	使用済みの磁気カード（パスネットカード、オレンジカード、テレホンカードなど）を利用して「竹トンボ」を作って飛ばして遊ぶプログラム。室内で遊ぶ竹トンボならぬカードトンボ。材料は、磁気カードのほかに串（17～18ｃｍぐらい）1本・アイロンビーズ2個・両面テープ少し。磁気カードに羽の型紙を重ね、ずれないようにセロテープで軽く止めてハサミで切り取り、真ん中に両面テープをはり、二つの羽を重ねてはりあわせる。羽の中心に穴を開けて串を通し、羽に折りぐせをつけてできあがり。「身近な素材でこんなにも簡単にしかも親子で遊べるおもちゃが作れるなんて感激です」という参加者からの声が多かった。（保育室1）
〈開館記念〉 つくって遊ぼう親子工房「こまのフ……ウ」	11.1～3	息をかけて回す“ふきごま”作り。首にかけるとペンダントにもなる。磁気カードまたは塩化ビニールシートを利用する。ペイントマーカーで好きな模様を描いて、おもいおもいのデザインのものを作って楽しんだ。（保育室1）

名　称	日　時	内　容
保育室の一般開放	特別期間中 土曜日　10:00～17:00 日曜日　10:00～17:00	保育スタッフが選んだ遊具やおもちゃを用意し、一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。兄弟が他部門で活動したり、遊んだりしている間、1・2児が母親とゆっくり過ごすケースが多い。この場をめざして来館する親子が増えている。大きい子どもたちと交じり合うほかのスペースと違って、親子が安心して遊べることが魅力。夏休みなどに遠方から来た親子には特に喜ばれている。（保育室2）

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
幼児グループ	（人） 4歳児 （11） 5歳児 （11）	（人） 9 12	火～金曜日	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。異年齢保育として「保育クラブ」の3歳児が、曜日ごとに異なる顔ぶれで加わる。複数の担当者がそれぞれにテーマを持ち保育にあたる。多様な人間関係を体験する場として、夏休みには小学5年生～中学3年生の保育体験ボランティア、平常期間には青年・女性ボランティアを積極的に受け入れた。「保育クラブ」と連動しているので、延長保育を利用する家庭が多くなった。仲良しになった子ども同士で遊びたい、延長で行う調理保育を体験したいなどが理由。保育料33,000円、給食費4,800円（いずれも月額）。
保育クラブ	2～5歳児 （登録数 400）	14 9 （1日 あたり）	月～土曜日（2歳） 火～金曜日（3～5歳）	集団への参加、母親の社会参加などを主な目的とした子育て支援プログラム。日時を選べる保育、イベント・通信・子育て相談などの家族プログラムがある。2歳児の集団参加希望が例年多い。地域での遊びが少ないことへの危機感が親にあり、3～5歳児とも、仲間遊びでの社会性、協調性を身につけさせたいと参加してくる。子どもの基本的生活習慣の自立が年々遅くなり、きめ細かな援助が必要。入会金10,000円、年会費5,000円。保育料として、2歳児1,200円（1時間）、3歳児以上850円（1時間）。昼食代600円、おやつ代200円（1回）。

〈講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
親子教室　1期 2期 3期	（組） 1歳児親子 （各期16）	（組） 16 16 16	月曜日 10:00～12:30 （全10回。 土曜日1回含む）	親子遊びを中心に子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。スタッフの援助で、ほかの親子との交流もはかれるようにしている。医学・心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイスもある。父親の参加3回を含む。本年度から、親にも軽食を用意。受講料は35,000円。

〈専門指導者向け講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
子育て相談研修会（応用編）	（人） 育児相談 担当者 （50）	（人） 33	5.18、12.7、 H15.1.26 14:00～20:00	テーマは「保育所や児童館が行う育児相談とは何か」。スーパーバイザーは、山崎美貴子（明治学院大学）と山田美和子（元全社協・高年福祉部）の両氏。参加者が持ち寄る事例から子どもと親の置かれている状況の厳しさが増していることが伝わってきた。
子育て相談研修会（基礎編）　春	〃 （130）	91	6.29 14:00～17:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談の基本と実践」。春・秋とも「保育行政の動向」（小峰弘明厚生労働省保育指導専門官）、「保育者が行う子育て相談の入口」（山崎美貴子明治学院大学）の基本講義。秋には「連携の方法について学ぶ」を学習。各回とも〔こどもの城〕子育て相談研修会の企画委員の事例報告を題材に、事例を分析・把握するための手法「エコマップ」「ジェノグラム」で書き表し方を学んだ。1、2回とも受講者にアンケートに協力してもらっているが、事例や具体的な説明が多く分かりやすいと好評を得ている。一方で午前中から時間をとって研修をしたいと希望する参加者が多くなった。相談研修に対する期待と必要性を感じさせられる。次年度の検討事項である
〃　秋	〃 （130）	85	10.27 14:00～17:00	

名　　称	対象・定員	受講数	日　　時	内　　容
	（人）	（人）		
第16回こどもの城保育セミナ「子どもと生活・家庭と文化 PARTⅣ ～子育て過程のよきパートナーになるために～」	保育関係者など（150）	92	8.3 10:00～17:00 8.4 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。話題性のあるテーマを取り上げている。今回は“食”の面から子どもたちの健康や家族の置かれている状況を専門家と考え、各地の子育て支援の実践者から“特色ある園作りとは”と題して事例発表をしてもらった。保育の質を保ちつつ特色ある児童福祉施設を作るにはどんな工夫や配慮が必要なのかなどを参加者はそれぞれに考え、疑問を出し合い、そして講師の助言を得つつ語り合う場とした。 【対談】「家族の風景」　山崎美貴子（明治学院大学副学長） 服部幸應（服部栄養専門学校長料理研究家） 【問題提起－特色ある園作りとは－】 「地域ぐるみで文化をつくる」中川律子（富山県大山町立大庄保育所所長） 「生活を大事にする」杉山治子（練馬区光が丘第四保育園園長） 「感性を育てる」天野優子（川崎市私立風の谷幼稚園園長） 【分科会】 「より専門性をもつ保育者を育てるにはPART Ⅱ」 助言者＝吉村真理子（元東雲短期大学教授） 「ワークショップ（音楽あそび）」 助言者＝繁下和雄（国立音楽大学副学長） 「さまざまな親との接し方」 助言者＝末次順子（平塚保育園副園長） 千田邦枝（八千代市立高津保育園園長）

3. その他

〈講師派遣〉

名　　称	日　　時	内　　容
楽しい体育遊び	6.5	運動会に向けて楽しめる子どもと親子向けの体を使った運動遊びを保育士120人に指導。主催は東京都公立保育園研究会。
遊びの中での健康づくり	6.15	子育て支援プログラムの一環で、乳幼児を持つ家庭の保護者にふれあい遊びの大切さと楽しさを実技と講義で紹介。“楽しかった”の感想。参加30人。主催は川越市児童センター。
体を使った楽しい遊び	6.16	母親の育児負担を軽減し、父親の育児参加を促すきっかけ作りがねらい。2、3歳児と父親に遊びを紹介。主催は富士見市立健康増進センター。
こどもの城における保育の実際	6.27	〔こどもの城〕保育研究開発部の事業説明と子ども家庭支援プログラムの必要性について講義。保育の実践例をビデオで学生に紹介。今回、パネルシアター、手遊びのワークショップも加えた。実技が身につくと好評。主催は玉川大学文学部教育学科。
幼児のつどい・のびのびクラブ	6・7・9・10月	親子の触れ合い遊びが目的。年4回で参加は自由。毎回親子で楽しくなると喜ばれた。主催は東京都港区立白金台児童館。
こどもの造形指導研修会	8.22	公立幼稚園教諭を対象に、幼児向けの造形指導「創造性を引き出す造形活動」（身近な素材の生かし方）を前年度に引き続き指導。参加者100人。熱心な眼差しに時間をオーバーして指導した。主催は千葉県習志野市教育委員会。
子どもの遊びと、親への接し方	9.6	保育園時間外勤務職員を対象にした研修会。早朝、延長保育を利用する保護者の増加とともにパート勤務の保育担当者の質の向上を図るのがねらい。退職した元保育園長をはじめ子育て経験のある主婦、現役の保育士など130人が真剣に聞いていた。なかなか研修の機会が持てないとの悩みなども出される。主催は千葉県浦安市子育て家庭課。
子どもへの関わりと遊びについて	9.12	区民の支えあいによる「ふれあい子育て」の援助者のための研修会。20代～60代（男性含む）までの年齢層が地域の子どもにボランティアでかかわる。遊びのストックが少ないのが悩みという。〔こどもの城〕の低年齢児向けの遊びや現代の親の様子なども伝え、また、かかわりについて具体例で紹介した。主催は東京都世田谷区社会福祉協議会。

名　称	日　時	内　容
子育てを楽しもう	8.10・11	乳幼児を持つ親対象に「子育てを楽しもう～子育ての豊かな感性を育てる」の講演とワークショップ。民生委員が託児を担当し、母親(父親)がゆったりと育児講座に参加。〔こどもの城〕の保育の実践を紹介しながら、歌や手遊びで親同士の交流を楽しんだ。子育て支援は地域の力で行わなければならないことを実感させられた。参加者親40人、民生委員80人。主催は東京都多摩市民生委員協議会。
お父さんと遊ぼう	10.19	1、2歳児の親子(父親)で楽しくふれあう遊びの指導。参加25組の親子。主催は新宿区中町児童館。
主任の業務と役割	11.1	保育所、児童養護施設の職員(主任)を対象に、主任としての業務と役割、職員指導、研修にかんする知識、技術の向上をはかるための研修講師。受講者25人、主催は財団法人鉄道弘済会。
子育て相談の実務	11.11	保育所での子育て相談の基本、技術、記録の取り方のポイントの研修講師。保育所長17人、主催は千葉県市原市役所児童家庭課。
保育を豊かにする遊びのいろいろ	11.12	保育士を対象に保育を豊かにするための〔こどもの城〕のオリジナルの手作りおもちゃ、パネルシアター、手遊び、歌遊びなどを実技指導。参加者120人、主催は埼玉県西部地区保育士会。
連合子ども会研修会	11.22	地域の子ども会活動をスムーズに進めるためのプログラムと実技指導の講師。主催は東京都南中野連合子ども会。
双子の親への遊びとお話	11.28	双子の親に対して、遊びや子育てについての講演を行った。双子の子育ての大変さと援助のあり方を考えさせられたと講師で行った職員。主催は東京都新宿区落合保健センター。
遊びの中での健康づくり	H15.1.30	地域の子育て支援の一環で、幼児と母親に「親子教室」。親子で体を動かして楽しく遊んだ。参加者40組の親子。主催は埼玉県川越市クラッセ川越児童館。
子どもの発達と遊びの持つ意味	2.10	子育て支援にかかわるスタッフのためのステップアップ研修と保育ボランティア講座の講師として講演とワークショップ。主催は神奈川県横浜市都筑区役所地域振興課。
親子で楽しむリズム遊び	2.28	家庭で子育て中の保護者や子育てサークルなどで活動している人を対象に、楽しいリズムを体験する研修会の講師。主催は神奈川県平塚市児童福祉課。

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
ニュースレターの発行	第26号（7.15） 第27号（H15.1.15） 第28号（3.15）	行政、経済界、利用者にかんする情報及び子育てをめぐる情報、子育て相談研修会の内容の概要などを紹介している。児童福祉施設における子育て支援のプログラム開発が活発化してきているなかで、具体的な資料を求める要望が多くなってきている。〔こどもの城〕で行っている「親子工房」の紹介をはじめ、児童の虐待や保育サービス第三者評価、子どもとメディアの問題を取り上げたのが好評だった。 主な配布先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円(郵送費、印刷代一部負担金)

小児保健部



平成14年度の活動

1．はじめに

小児保健部は、子どもの健康の問題に取り組み、子育てを援助する目的で活動している。その活動は、次の4点を軸に行われている。

(1)「小児保健クリニック」での診療・相談
(2) グループで行う講座や子育て支援の活動・催し
(3) 研修会・講習会などの啓発活動
(4) 活動の成果をまとめるための研究活動

小児保健部の活動の中心である「小児保健クリニック」は、子どもの心身の発育・発達、健康状態、社会適応などについて、予約制で診療・相談を受けられる小児科の診療所（保険診療機関）。ただし一般のかぜや腹痛といった急性の疾患は対象外としている。初診で1時間をとって保護者の話をよく聴き、背景にある子どもの生活や親子関係を含めて相談にのることが特色である。小児科医をはじめ、保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士などが連携し、心身両面から子どもとかかわれるような体制をとっている。

さらに、子育て支援を目的としたさまざまな活動――子どもの生活習慣病予防のための「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「マタニティ・スイミング」などの講座、「季節の離乳食」講習会や「赤ちゃんサロン」など――を、他の事業部とも連携して実施。その経験から得られた成果を研修会・講習会などで外部の専門職の人たちに広めていくようにしている。

事業のあり方の再検討

21世紀を迎え、子どもの健全な成育や保護者への子育ての支援がますます必要な時代になってきているとの認識から、当部の事業のあり方も再検討を行った。

(1)「親と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」は、16年間継続し、音楽事業部の事業として独立可能なことから、本年度限りで運営を音楽事業部に移管することとした。

(2) 本年度から、0～2歳の低年齢の子どもを持つ保護者への支援や、子育て支援に従事する専門職の研修活動をさらに充実させる方向で考えることとし、「季節の離乳食」(乳児の保護者対象の講習会)を年4回から6回に増やした。また、前年度から開始した専門職対象の「子育て支援講習会」を1日コースから2日コースにして、乳幼児の生活の各分野について小児保健の観点から学べるようにした。

再検討の結果、保護者に対する子育て支援の活動は、グループで行う「マタニティ・スイミング」「赤ちゃんサロン」「離乳食講座」、「マタニティ・コンサート」「マタニティ・スイミング同窓会」「赤ちゃん大集合」などの催し、個別支援の「小児保健クリニックの診療・相談」に整理された。また、指導者向けとしては、「小児保健セミナー」「子育て支援講習会」の2つの講習会を今までどおり開催していくことになった。

一方、18年間にわたって毎年2回行ってきた「小児肥満のための指導者講習会」は年1回にすることにした。しかし、肥満の子どもは一般的にも増加しており、当クリニックの外来や「健康スポーツ教室」の希望者も多く、問題が複雑化している事例も増えている。子どもの肥満について、医学・栄養・運動・心理の各分野がかかわって定期的に活動を行っている施設は、全国的にも数少ないといえる。

本年度は、関係者と協力して、肥満児とその家族および指導者が使用できる「健康の手帳」の改訂作業にとりかかった。現代社会のひずみともいえる現象であり、今後も必

要な取り組みであると考えている。

2. 診療・相談活動

表1は、平成14年度の月別診療・相談延べ件数である。診療（健康保険扱い）の総件数は1,066件で前年比30件増、健康診査は公費・自費計で157件だが前年比13件増、心理・発達相談は1,445件で前年比74件増と、全体に来所件数が増えている。合計も、前年度の2,656件から2,763件へと107件も増加した。初診（新規）件数も、従来300件前後で推移しているのだが、本年度は323件と前年より6件の増となっている。

表2は新規来所者の居住地別の内訳で、東京都の人が約80%という傾向は変わらない。渋谷区・世田谷区という順位は同じだが、今まで5位以下であった目黒区が、2位の世田谷区と同数になっているのが大きな変化である。その他の県では、交通の便のよい神奈川県が多いのも変わらない傾向である。

表3は新規来所者の年齢別内訳である。健診の多い0～1歳が27.4%を占めているのは今までと同様の傾向である。本年度は就学前の5歳児と小学校2～3年生にあたる8歳児が多かった。5歳児の方は、言語の発達の遅れのために受診した人が多かったことが関係しているかもしれない。

表4は、新規来所者の診療・相談内容で、「発達の相談」「情緒・行動面の相談」「身体的・心身症的な相談」と大きく3つに分けている。「発達の相談」は、平成12年度69件（21.8%）、平成13年度81件（25.6%）、平成14年度94件（29.1%）と増加傾向にある。これは、落ち着きがないなどの理由で「学習障害や注意欠陥多動性障害ではないか」という訴えで受診する人が増えているためで、この数は、平成12年度16件（5.1%）、平成13年度28件（8.9%）、本年度33件（10.2%）となっている。

新規来所者の相談内容は、保護者の訴えを参考に初診時の判断で分類しているため、「疑い」の段階でここに集計される人が多くなっている。実際には、再診や心理・発達相談、小児精神科相談などを経ていくうちに、親子関係など環境要因による情緒的な問題であることがはっきりする事例も含まれている。

「情緒・行動面の相談」は、平成13年度の77件（24.2%）から62件（19.2%）に減っているが、主には不登園・不登校が29件（9.1%）から16件（5.0%）と減少したためであろう。不登園・不登校は平成13年度にいったん減少したが、本年度にまた増加しており、変動が大きい。しかし、以前は首位を占めていたことを思うと、学校現場でのスクールカウンセラーの配置などの対処が影響しているのかもしれない。

また、集団不適応は「落ち着かない」「集中できない」などの子どもがめだってきているが8件に留まっている。集団不適応の子どもが「注意欠陥多動性障害ではないか」という主訴で訪れ、当クリニックには、その医学的診断を含めた期待が向けられてきているように思われる。

「身体的・心身症的な相談」は62件（19.2%）から67件（20.7%）へとわずかに増加したが、なかでは、肥満のため受診した人が31件（9.8%）から45件（13.9%）と大幅に増え、夜尿症やその他心身症が減っている。これは、当部の小児肥満への取り組みがマスコミなどにも取り上げられ、知られるようになってきたためと考えられる。肥満の子どもの増加は現代の便利で快適な生活の一つの面を象徴する現象である。外来だけでなく、健康スポーツ教室も

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療		82	81	97	91	74	83	79	81	90	106	86	116	1,066
健康診査（公費）		17	5	4	12	10	7	6	15	9	7	13	11	116
健康診断（自費）		1	1	26	2	2	2	0	4	0	3	0	0	41
育児・健康相談		1	1	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	7
心理・発達相談		142	128	128	124	112	107	119	119	98	107	127	134	1,445
ダウン症療育相談		7	9	9	5	8	7	8	8	9	5	7	6	88
合計		250	225	264	234	207	206	212	229	207	228	234	267	2,763
内訳	初診（新規）	29	18	26	32	25	27	19	29	28	29	29	32	323
	再診	221	207	238	202	182	179	193	200	179	199	205	235	2,440

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	目黒区	大田区	港区	その他23区	市郡部	計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他	計	合計
人	74	21	21	13	11	97	16	253	41	14	11	4	74	323
(%)	(22.9)	(6.5)	(6.5)	(4.0)	(3.4)	(30.0)	(5.0)	(78.3)	(12.7)	(4.3)	(3.4)	(1.2)	(21.7)	(100)

【小児保健クリニック初回来所時の年齢内訳】（表3）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12~17歳	18歳以上	合計
人	56	42	18	19	27	24	16	27	20	17	16	14	24	3	323
(%)	(17.3)	(13.0)	(5.6)	(5.9)	(8.4)	(7.4)	(5.0)	(8.4)	(6.2)	(5.3)	(5.0)	(4.3)	(7.3)	(0.9)	(100)

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】（表4）

内容		件（%）
発達の相談	学習障害・注意欠陥多動性障害（疑いも含む）	33（10.2）
	言語発達遅滞（疑いも含む）	25（7.7）
	精神・運動発達遅滞（疑いも含む）	23（7.1）
	ダウン症、その他先天異常	7（2.2）
	自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）	6（1.9）
	小計	94（29.1）
身体的・心身症的な相談	肥満・肥満と心理的な問題	45（13.9）
	身体疾患（扁桃腺肥大・血管腫など）	9（2.8）
	心身症（脱毛・チック・吃音など）	6（1.9）
	夜尿症・遺ふん・頻尿など	4（1.2）
	アレルギー疾患・湿疹・ぜんそくなど	3（0.9）
	小計	67（20.7）
情緒・行動面の相談	情緒障害・情緒不安	27（8.4）
	不登園・不登校	16（5.0）
	神経症（強迫神経症・恐怖症など）	9（2.8）
	集団不適応	8（2.5）
	育児不安（夜泣き・指しゃぶりなど）	2（0.6）
	小計	62（19.2）
合計		223（69.0）
健診	健康診査（公費）	78（24.1）
	健康診断（自費）	22（6.8）
	小計	100（31.0）
総計		323（100）

満員となっている。

この他、公費の乳幼児健康診査の件数も69件から78件へと増えており、自費の健康診断と合わせると100件に達した。この健診のなかでも、親の子育ての悩みが解消できるように対応している。

以上のように全体の受診者・来談者は増加し、本年度はとくに子どもが「学習障害・注意欠陥多動性障害」ではないかと疑いを持ってくる人、肥満のため受診する人が多いのが特徴であった。学校5日制で、毎週土曜日が休みになり、第1・3土曜日にも小学生が受診しやすくなったといえる。土曜日の小児科（1日）と小児精神科（半日）の診療、心理相談はほとんど予約で埋まっているが、それだけが件数の増加の原因とはいいきれない。

診療・相談に来る人々の全体的な印象としては、本人のもともと持っている素質から行動上の不適応が起きてくることもあり、比較的軽い自閉的傾向（広汎性発達障害と呼ばれる）を持っていることが見いだされたりする。また、落ち着きのなさから「ADHD」が疑われてくる子どもは、そうである場合もあるし、実は親子関係など家庭環境からくる情緒的な障害であることも多い。このあたりが小児科医の診察や心理・発達相談のなかだけでは判断しきれない場合、小児精神科医の診断を受けられるようにしている。ケースによっては、医学的診断を踏まえて、周囲の家族や学校がその子どもにどう対応したらよいか、を考えて対処することが大切になってくる。

幼稚園・保育所や学校などの集団生活の場になじみにくい子どもたちが増えている現在、医学面と心理面の両方の対応のできる機関が、子どもたちの来やすい〔こどもの城〕という場所にあることは、大切であると思われる。

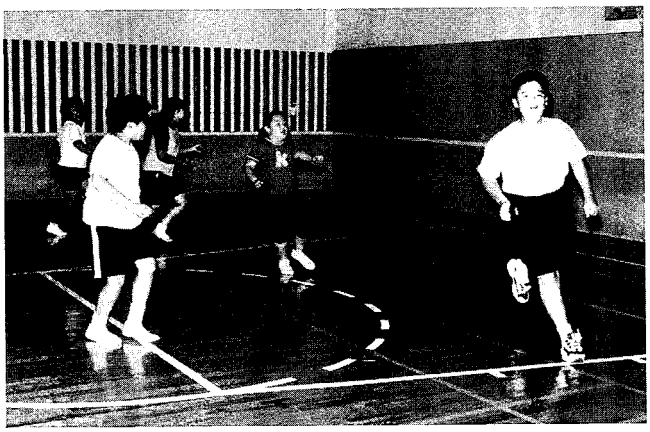
診療や相談に来る保護者の特徴として、教育的な志向のある人や学歴の高い人でも、情緒的な感性の低い人や未熟な人、精神的に不安定な人の割合が多くなっていることがあげられる。保護者自身が実はその親から情緒的に適切な養育を受けていないこともある。そうした場合、自ら子育てをする際に自信が持てなかったり、子どもとうまくかかわれなかったりする。本人もそれで悩んでいる場合もあるし、自分では普通に子育てをしているつもりでも、かかわりが適切でないこともある。

自分が良い対人関係のルールを学んでいないと、自分の家族内ばかりでなく、幼稚園や学校などでの先生とのやりとりも良い関係を持てないことがある。こうした保護者に対しても人間としての成長を促しながら、地域の社会的な資源（関連機関）と連携しつつ、子育てをサポートする必要性が高まっているように思われる。

3.「健康スポーツ教室」の取り組み

体育事業部と共同で〔こどもの城〕開館当時から「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」を開設し、17年間続いている。当時、小児科の領域では感染症による子どもの死亡率が下がり、むしろ都市化により生活環境が変わったため、将来生活習慣病に結びつく可能性のある肥満の増加などが問題となってきていたという背景があったからである。我が国では、60年代から高度成長社会のなかで食べ物が豊富になり、統計的にもコレステロール値の高い子どもが増加していた。

「健康スポーツ教室」の活動内容は、1980年から検討され、開館前の1983年6月から東京都新宿区の肥満の小学生を募ってシミュレーションを行った。医学・栄養指導のほ



運動指導は、体育室とプールを交互に使って行っている



「健康スポーツ教室」の活動風景（写真左から、医師による「医学的指導」、管理栄養士による「栄養指導」、保護者を対象とした「レクチャー」）

か、体育指導、心理検査・面接、そして他事業部の協力も得て音楽・造形などの活動やキャンプも試みた。これは、単に身体面の健康管理だけではなく、“食べる”行動だけになりがちな生活を、別の活動をとおして他に喜びを見いださせる試みでもあった。〔こどもの城〕にいろいろな活動部門があることにより考えられた企画である。

開館後、プログラム内容は試行錯誤を繰り返しながら少しずつ変化した。現在の「健康スポーツ教室」は、肥満の小学生20人を対象にし、土曜日の午後4時から1時間、体育事業部の協力を得てグループで水泳と体育のプログラムを毎週交互に行っている（1・2期は12回、3期は9回）。体育プログラムの前に、小児保健クリニックでの個別指導。1期間に最低2回の医学指導（診察）・栄養指導を受けられるようにプログラムを組んでいる。ほかにも、保護者対象に医学・運動・栄養・心理のレクチャーを各期ごとに設けている。

個別指導と集団指導、そして各専門分野からの多角的なアプローチを組み合わせて、肥満の子どもたちが、体も心も健康的になれるように活動を工夫している。ここで、それぞれの取り組みの内容を簡単に紹介したい。

【医学的指導】 検査（血液検査、尿検査、血圧測定）と身体測定（腹囲を含む）の結果により、内臓脂肪型なのか皮下脂肪型なのかを探り、それぞれの成長曲線などの資料に基づいて医師が生活面を含めて指導している。検査の結果、中性脂肪値の上昇、肝機能の異常などがみられた子どもは、定期的に経過観察をしている。

【栄養指導】 保護者が記入した家庭での食事調査から管理栄養士が分析を行い、目標とする摂取エネルギー量と栄養バランスについて比較し、その結果に基づいて親子に対して指導を行っている。最近は、主食と主菜の組み合わせが考えられていないために、献立のバランスを欠いているケースが目立つ。一汁二菜・三菜の組み合わせを実行していくだけでも改善につながる。子どもにもフードモデルなどを使い、わかりやすく説明している。

【運動指導】 たとえばフライングディスクを使うなど楽しみながら活動し、体を動かす喜びを体験するようにしている。体重を減らすだけではなく、継続して体力のある体作りをねらった指導をしている。定期的に歩数計をつけて動きの分析を行っている。また、最近は1期に1回外出活動として、親子一緒にスケートやウオーキングなどいろいろな運動を体験する機会をもうけている。

【心理相談】 集団での適応が難しかったり、ストレスがあると身体症状を出しやすかったりする子どもには、「小児保健クリニック」での心理相談を勧めている。肥満の子どものなかには、情緒の発達が未熟で言葉でうまく気持ちを伝えられないとか、うつ状態になっている子どももいる。心の面でも健康的に成長できるような配慮が必要である。

我が国では、高度成長期からの数十年間で機械化がすすみ、便利で快適な生活環境が実現されてきた。その結果、子どもたちは体を動かさずとも手軽に食べ物を手に入れ、テレビやコンピュータゲームで過ごす生活をおくるようになった。肥満はだれしもが陥りがちな現代の象徴的な現象といえる。現在では都市だけでなく、自然に恵まれた地方に行っても似たような現象がみられる。

小児保健部では、肥満の子どもに対する指導の経験などを地域での活動に役立ててもらおうと「小児肥満のための指導者講習会」を毎年開催している。参加者は各地の養護教諭・栄養士・保健師などであり、毎回医学・栄養・運動・心理などの面からの講義・講習を行っている。これからの日本をになう子どもたちが健康に育っていけるよう、各地でもいろいろな取り組みが求められている。

4. まとめ

小児保健部は、子どもたちの健全な成長を促すために、十分に相談できる機能を持った医療機関としてそれぞれの親子に個別的な支援を行っている。また、講座などのグループでの活動を通じて、今後もよりよい「子育て支援」の方向を探っていきたいと考えている。

今回は、なかでも肥満の子どもたちへの取り組みとして17年間行ってきた「健康スポーツ教室」を取り上げてみた。子どもたちの生活状況が変化しているなか、心身の健康を守る活動は今後もより意識的に取り組んでいかねばならないものであろう。各地の子育て支援の活動にもこうした視点を取り入れていくことが大切である。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
小児保健クリニック （診療・相談） 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健診 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談 ※専門相談 ダウン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:30 日曜日・金曜日（各月１回）	診療・相談はすべて予約制。小児保健部の小児科医師・看護師・保健師・臨床心理士・管理栄養士が診療・相談にあたる（週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む）。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。健康保険が適用されない相談もある。 育児・健康相談は相談料1回5,000円。心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接入る場合の初回相談料7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医が担当。
赤ちゃんサロン	火曜日（月1・2回） 12:30～14:00	対象は3か月～1歳半の子どもとその保護者、妊婦。入館券対応。参加者同士の自由な交流（井戸端会議）の場で、育児情報の交換や、医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士による育児相談が行われる。本年度は延べ2,714人が参加した。（音楽ロビー）
第10回マタニティ・スイミング同窓会	5.29　13:30～15:00	乳児（2歳未満）のいる、マタニティ・スイミングの卒業生（母親）を対象とした同窓会。小児科医のトークや体育事業部スタッフによる親子体操を行い、久しぶりに会った仲間と語り合い、楽しいひとときをもった。40組80人が参加。（研修室）
第17回マタニティ・コンサート	7.7　15:00～17:00	妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。絵本のスライド上映・朗読とサックス（田中靖人）・ピアノ（白石光隆）の演奏を合わせて行うコラボレーション。このほか、野末源一医師（山王病院産婦人科）と巷野悟郎こどもの城小児保健部医師のメディカル・トーク、体育事業部スタッフによるリラックス体操などを行った。263人参加。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 こども１日ドック	7.24　12:00～17:30	対象は小・中学生。体育事業部との共同事業。医師による診察、検査（尿、血圧測定）、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、心理検査、体力測定の結果に基づいた診断・指導。受診者は7人。（小児保健クリニックほか）
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロンスペシャル～	10.30　10:30～15:00	「赤ちゃんサロン」のイベント版。主会場で「小児科医師のトーク」「井戸端会議」（小児保健部）、「手あそび歌あそび」（保育研究開発部）のほか、体育室で「すくすく体操」（体育事業部）、音楽ロビーで「ピヨピヨパーク」（音楽事業部）、プレイホールで「パネルシアター」「みんなのにこにこ広場」（プレイ事業部）、ビデオライブラリーの「子育てビデオ特集」（AV事業部）、育児用品や育児情報の「展示コーナー」（研修室）など、全館を使って赤ちゃんと保護者向けのプログラムを行った。参加者は920人（460組）、天候に恵まれ盛況であった。（研修室ほか）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉第19期	(組) 太りすぎの小学生とその親(20)	(組) ①20 ②21 ③21	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学附属第二病院小児科医)・栄養指導(和洋女子大学家政学部栄養学助教授・講師)・体育指導(水泳と体育を交互に)を行う。親向けレクチャー(数回)、親子で屋外活動(年3回)なども実施。体育事業部との共同事業。 受講料1・2期(12回) 22,000円、3期(9回) 18,000円。
親と子のリトミック〈ダウン症クラス〉第19期	2歳半～5歳のダウン症児とその親(15)	①10 ②12 ③13	木曜日 14:30～15:30	リトミックを利用し、子どもたちが親やスタッフとリラックスして一緒に活動する中で、自分の気持ちを表現できることをねらっている。音楽事業部との共同事業。講師は吉村温子(音楽事業部)。 受講料1・2期(10回) 19,000円、3期(9回) 17,000円。

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週以降の妊婦(35)	(人) 4月27 5月24 6月31 7月33 8月29 9月27 10月24 11月20 12月27 1月21 2月18 3月18 (延べ299)	火・木曜日(月7回) 10:00～12:00	水泳という活動をとおして、妊娠中を心身ともに健康に過ごすことをねらっている。母親になる人たちの友だち作りの場でもあり、妊娠期からの子育て支援の意味もある。水泳の前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師とスタッフが担当。年4回、担当の看護師がレクチャーを行い、毎回9～12人が参加。体育事業部との共同事業。

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
季節の離乳食	(人) 5～12か月の乳児とその親(10)	(人) 5月 7 7月 9 9月 2 11月 8 1月15 2月 7 (延べ48)	木曜日(隔月) 13:30～14:30	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問しあい、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。小児保健部プレイルーム。管理栄養士が担当。



「マタニティ・スイミング同窓会」

〈専門指導者向け講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
第17回小児保健セミナー「虐待とその周辺～不適切なかかわりとその対応～」	保育士・保健師・養護教諭・児童館職員など子育て支援の専門家（100）	69	11.9 10:00～17:00	子育て支援の現場で、緊急性をおびた虐待ではないが、不適切な養育のために子どもの発達や生活が健全とはいえないケースに出会うことが多い。「虐待の発見と対応」（庄司順一青山学院大学教授・臨床心理士）について講義を聞いた後、「現場における“不適切なかかわり”への対応」（細川玲子社会福祉法人新通保育園副園長・保育士）を事例をもとに考え、「子どもや家族への援助のあり方」（木下政子高柳病院院長・NPO法人子育てアドバイザー協会理事・小児科医師）について振り返った。
子育て支援講習会（第2回）「最近の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康～」	保育士、保健師、児童館職員など（40）	51	H15.2.14・15 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「子どもの成長と発達」（巷野悟郎こどもの城小児保健部顧問・小児科医師）の講義のほか、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「発達や親子関係」、「赤ちゃんサロン」の事業説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育士、保健師、児童館職員など予想以上に経験のある人の参加が多かった。
小児肥満のための指導者講習会（第32回）	養護教諭、栄養士、保健師、保育士など（50）	45	3.14・15 10:00～17:00	本年度は、2日コースを1回開催した。全国から肥満児の指導について学習したい養護教諭・栄養士らが集まった。「肥満の判定と指導」（村田光範和洋女子大学教授・小児科医）、「肥満改善のための食事・栄養指導」（坂本元子和洋女子大学教授・栄養学）、「肥満児の運動指導・実技紹介」（羽崎泰男こどもの城体育事業部長）、「肥満の子どもの心理的理解と対応」（井口由子こどもの城小児保健部長）。最後にグループに分かれて、情報交換の場を持った。

3. その他

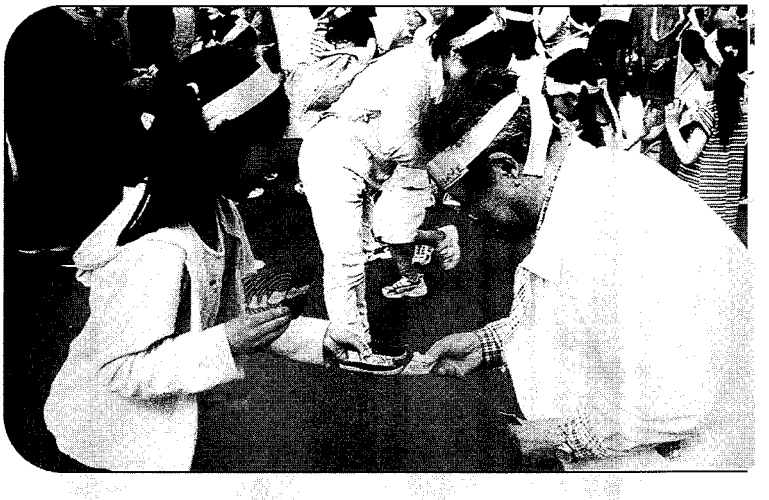
〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	6.1	親子向けの体育プログラムに管理栄養士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行い、助言した午後は職員への研修を実施。福岡県田川市青少年文化ホール。
〃	9.9	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。親子関係や発達について親向けの助言を行ったほか、児童厚生員対象の研修会を実施。子育てサークルの主催。北海道余市町中央公民館。
〃	9.30	親子向けの体育プログラムに臨床心理士と保健師が同行。0歳児を持つ親向けの子育て支援について、実際に「赤ちゃんサロン」のような形で実施。保健師や保育ボランティア向けの講義も行った。茨城県猿島郡境町保健センター。
〃	10.15	親子向けの体育プログラムに管理栄養士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行い、助言した。午後は児童館職員・保健師などへの研修を実施した。茨城県行方郡玉造町保健相談センター。
〃	H15.1.14	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。乳児向けプログラムの活動の中心となっている保健師などへの研修を行った。岡山県勝田郡勝央町高齢者福祉センター。

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
神奈川県藤沢市教育委員会「相談指導教室・いじめなんでも相談ふじさわ」	5.23、7.25、11.21、H15.2.27	不登校の児童・生徒の相談・指導にあたっている教職員の研修会に、定期的に臨床心理士が出向いて、助言・指導を行った。
(財)母子衛生研究会マタニティひろば〜ハロー赤ちゃん	月1回（水曜日・午後）	妊婦対象の教室で「妊娠中の栄養の話」（管理栄養士）と「妊娠中の健康管理について」（看護師）のワンポイントアドバイスを行った。
藤沢市辻堂公民館「あひるの学校」	6.18	乳幼児を育てている保護者に対し「こどもの事故防止について」看護師が実技をまじえて講習を行った。
東京都品川区教育委員会家庭教育幼児学級	7.11	0〜2歳の子どもの母親に育児のストレスを解消し、リフレッシュできるよう臨床心理士が「ストレスなんてふきとばせ！」の講義を行った。
東京都葛飾区子ども家庭支援センター「子育てサポーター研修会」	9.26	地域の子育て支援にあたる「子育てサポーター制度」ができ、その養成講座の講師として臨床心理士が、「親とのコミュニケーション〜カウンセリングの初歩的な技術について」の講義を実技をまじえて行った。
静岡県児童館連絡協議会児童厚生員研修会	7.12	児童館に来る子どもの対応に現場の職員が困ることがある。臨床心理士が出向き、気になる子どもをどう理解し対応したらよいか、「児童館へ遊びにくる子どもの接し方」について講義や話し合いを行った。
兵庫県津名郡一宮町子育てふれあいセンター	9.30	0〜2歳の子どもの保護者にむけて、子どもの心の発達と大人の接し方について、臨床心理士が「子どもの心が育つとき」のテーマで講義を行った。
青森県栄養士会	10.6	「子どもの肥満について」のテーマで、管理栄養士が講義を行った。三沢市古牧温泉。
神奈川県藤沢市立辻堂公民館保育ボランティア学習会	H15.2.4	保育ボランティアをする人を対象に、「乳幼児の応急手当について」看護師が実技を交えて講習を行った。
チャイルドシート安全装着シンポジウム「SAVE THE CHILDREN 2003」	3.12	チャイルドシートメーカーの団体（チャイルドシート連絡協議会）主催の、初産の妊婦対象のシンポジウムに、小児科医師が出演、看護師が救急対応の担当に参加した。青山円形劇場。
東京都葛飾区子ども家庭支援センター子育てサポーター研修会	3.18	地域の子育て支援にあたる「子育てサポーター制度」ができ、その養成講座で臨床心理士が、「親とのコミュニケーション〜カウンセリングの発展的手法について」の講義を実技をまじえて行った。

企画研修部



平成14年度の活動

1．はじめに

前年度から大きな変更はなく、「企画部門」と「研修部門」の2部門において事業とそのとりまとめを行った。

企画部門では、「こども活動エリア」での一般来館児・者を対象とした事業、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、ギャラリーや研修室を使用した外部関連団体との協力事業などを実施している。また、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館などの情報の収集、インターネットを利用したホームページの運営のほか、全国レベルでの子育て支援に関する調査研究を行う助成金事業について各部と協力して実施した(助成金事業については「こどもの城から全国へ」の項参照)。

研修部門では、ボランティアの養成と日常活動のコーディネイトのほかに、夏休み・春休み特別期間の野外活動、高校生の社会参加を目的としたグループ活動（L. I. T.)、児童厚生員などを対象とした実技指導講習会、手話講座などの企画運営にあたった。

（ア）事業全体のとりまとめ

企画部門での中心的な業務は、劇場部門を含めた複数の事業部にわたる事業調整にある。この事業調整の基本になるのが、事業計画および事業報告書のとりまとめ、事業内容をまとめた小冊子『こどもの城事業と運営』の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末や館内特別期間の掲示用事業予定“デイリー版”の作成などが基本的な業務である。

ここ数年〈動くこどもの城〉や助成金事業など外部に働きかける事業の増大とともに、こうした基本業務の機能についての点検がおろそかになっていることは見直したい点である。

（イ）学校5日制対応／来館児・者増加対策

来館児・者数の増加をはかるために、春休みの新1年生招待（渋谷・港・目黒・世田谷の4区)、年間をとおした小学校開校記念日の全児童招待（渋谷・港の2区）を本年度も継続して実施した。また、特別期間には、小学校・保育所・幼稚園・児童館などにちらしを配布し、対象を絞ったＰＲに努めた。

本年度から始まった学校5日制の完全実施に対応するため、土曜日には小学生、特に高学年を対象としたプログラムの充実をはかると同時に、子どもたちが繰り返し遊びに来ることができるように、「小・中学生土曜日パス」を新設した。

5月には、これらのプログラムや優待パス制度の告知を目的として、渋谷・港・目黒・世田谷4区の全小学校の全児童約48，000人に対し、ちらしと6・7月中の土曜日に利用できる招待券を配布し、約1，000人の来館があった。招待券利用の際には、簡単なアンケート調査に協力してもらい、以下のような結果が出た。

子どもたちの学年のばらつきは大きかったが、5年生が最も多く22．1%、次いで4年生が17．6%で、高学年の子どもたちの来館が目立った。開校記念日などの招待を実施している渋谷・港区では初めて来館した子どもの割合は、5～8%程度だったが、世田谷・目黒区では25%を超え、新規利用者開拓の可能性が示された。

優待パス類の売り上げは、平日のおとな用「平日ゆうゆ

うパス」234枚、本年度から新設した高学年向けの「小・中学生土曜日パス」134枚、「夏休みフリーパス」おとな142枚、子ども142枚の売り上げがあった。

（ウ）〔こどもの城〕の利用者調査

来館児・者のニーズや動向を知るために、8月と11月にそれぞれ5日間にわたるアンケート調査を実施した。前回実施したアンケート調査（平成10年度）と比較することで、今後の施設整備やプログラム開発、運営全般についての参考にするのが目的。アンケート結果（概要）は109ページ。

（エ）グループ活動

グループ活動の受け入れ件数は、134団体3，144人。件数、利用者ともに3年連続で過去最高を更新する結果となった。年間100件以上の利用が続く状況は、数字的には満足いくものだった。しかし、新規プログラムの開発が進まない、年度末への利用の集中、養護学校・保育所・幼稚園などへの利用のかたより、小学生以上の利用が少ない——といった実態には変化がなかった。予算的制約により活動紹介ビデオの新規作成など積極的な広報活動が行われていないなどの問題点は依然として残されている。

（オ）動くこどもの城

※「こどもの城から全国へ」（127～136ページ）参照。

（カ）こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔こどもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、本年度も別表のように一般の催しへの優待や会独自の催しを行ってきた。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」を12回発行し、本年度末で通巻72号となった。毎回、会員から「通信を読んで、来館の計画を立てている」「なかなか行けないけれども、記事を読んで、行った気持ちになり楽しんでいる」などの意見が寄せられている。「こどもの城ニュース」（年11回）、講座募集や催しの案内なども会員あてに毎月1回郵送した。

会員数は約1，350家族で、年々減少傾向にある。友の会会員は〔こどもの城〕のよき理解者であるだけでなく、モニター的機能を持ち、一般客に対するＰＲを担い、集客効果のある大切な組織である。開館記念特別期間（ファミリーウイーク）に新規入会キャンペーンを実施したり、そのほか特別プログラムの実施・招待、〔こどもの城〕の催し・劇場公演の優待など対策をとっているが、減少の理由がはっきりと分からないので、なかなか増加につながらず苦慮している。

（キ）〔こどもの城〕ホームページの更新

ウェブサイト上に初めて〔こどもの城〕独自のホームページを開設したのは、1998年にホンダ技研工業（株）と共催で行った「発見！ バイクワールド」に際してである。その後必要な情報についての追加、修正を随時行ってきたものの、基本構成は開設当時のままであった。抜本的な改訂の必要性は常々指摘されていたが、イラストやデザインなど外部の力に頼らざるを得ない部分が多いため、改訂作業への着手には時間がかかり、平成15年3月に至りようやく全面的に改訂することができた。改訂の基本的な考え方、狙いは以下の通りである。

1．正確で豊富な情報
2．各部ごとのより細かく内容の深い情報の提供

【「こどもの城友の会」の活動】

プログラム名	内　容
特別試写会招待	20世紀フォックス映画会社の協力で、映画『アイス・エイジ』特別試写会をヤクルトホールで実施。定員574席（満席）。6月30日。
ワークショップ招待・優待	「日本の太鼓～デモンストレーションライブ」にあわせて行われた「和太鼓のワークショップ」に友の会会員と一般を招待（8月）／「日本のふるさと弦楽器～デモンストレーションライブ」にあわせて行われた「弦楽器のワークショップ」に友の会会員と一般を招待（平成15年1月）／「ジェームス・リジィとあそぼう　ポップ・アップ・ワールド」を12月に計画、友の会会員と一般を優待する予定だったが、アーチストの健康状態の都合で中止。
劇場公演などに招待・優待	以下の公演に抽選で招待。（青山＝青山劇場／円形＝青山円形劇場） こどもフェスティバル（円形）／月猫えほん音楽会2002（円形）／スターダストin上海（青山）／クリスマスの贈物（青山）／おひさまおはなしコンサート(円形)
	そのほか、自主公演の料金割引などの優待を以下のように行った。 ダウンタウン・フォーリーズ（円形）／少年隊ミュージカルプレゾン2002（青山・優先予約）／文学座ファミリーシアター　アラビアンナイト（円形）／日本の太鼓～デモンストレーションライブ（円形）／Ｇ２プロデュース　おじいちゃんの夏（円形）／鬼太鼓座（青山）／とびこむ絵本Ⅱ 天使と人魚がトコトコと（円形）／日本のふるさと弦楽器～デモンストレーションライブ（円形）／泣き虫桃太郎（円形）

3．クライアントが子どもであることを念頭に置いた、親しみ易い構成、デザイン
4．情報の浅い部分から深い部分へ、また深い部分から浅い部分への容易な移動
5．「こども活動エリア」だけに限らず、保育、小児保健、営業部門など、既に独自サイトを開設している劇場を除くすべての部門を含むトータルな構成
6．子育て支援全般についての幅広い情報の提供
7．情報という面からも大型児童館のセンター的機能を果たす
8．公的施設の社会的責任としての協会の情報公開
9．携帯電話からのアクセスへの対応

この改訂によって、総情報量は2，000ページと従来の約8倍となった。しかし、改訂後も次のような課題が残った。

1．各部の情報ページの作り方、管理の方法
2．際限なく広がる内容に量的な規制をどうするのか
3．各部のメールアドレス公開の問題
4．通信回線選択などインフラの問題
5．ページ全体の管理ルールと管理者の権限
6．外部ページとのリンクのルール

（ク）特別期間などに実施した事業

特別期間などには、ギャラリーや青山円形劇場などを使って、外部関連団体との提携事業などを積極的に行った。

2．ボランティア活動と養成

〔こどもの城〕には、施設内で専門スタッフとともに子どもの健全育成活動を行う、「こどもの城ボランティア」が登録して活動している。ボランティアを養成し、活動に参画してもらうことも、事業運営の1つである。

ボランティアとして、活動を希望する人に対し、年3回の講習会を実施している。講習会は対象別に2種類のものがあり、大学生と社会人を対象とした「ボランティア講習会」（年2回）と、主に平日昼間に参加しやすい女性を対象とした「女性ボランティア講習会」（年1回）を実施した。講習会修了者は、青年ボランティアが70人、女性ボランティアが15人で、合計85人が新規登録者となった。これに前年度からの継続者を含め、平成15年3月末までの登録人数は、青年ボランティア312人、女性ボランティアが89人、合計401人であった。

登録ボランティアは、毎月延べ人数として500～700人余が、さまざまな活動を行っている。

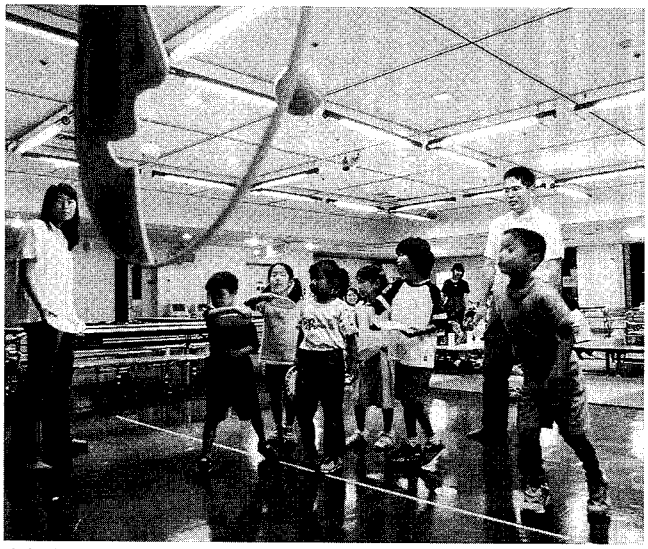
（ア）ボランティアの活動

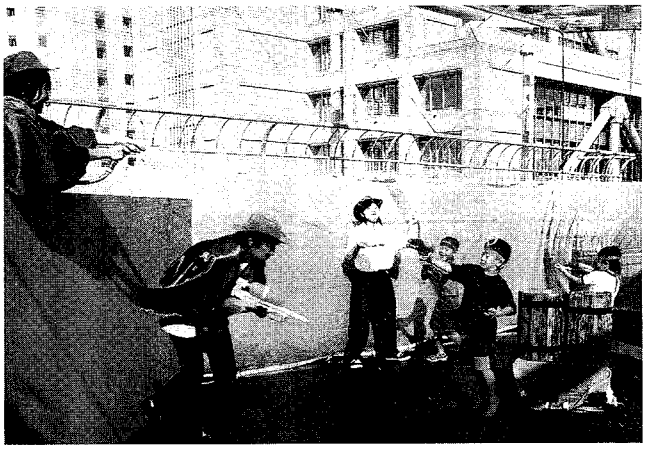
【平常期間に実施したプログラム活動】

平常期間の平日や土・日曜日に、定期的に活動を行うプログラムは、約20種類ある。紙芝居や人形劇といった歌やお話を中心とした公演、こまなどの伝承遊び、屋上での外遊びなど、3～5人ぐらいのグループが中心となって活動をしている。これらの活動は、短いものでも5～6年以上継続されているものばかりである。

本年度は、学校週5日制の実施に伴い、土・日曜日のプログラムの充実をはかるため、新規プログラムの企画をボランティアに提案した。多くのボランティアが賛同し、どのような活動プログラムが可能か、企画会議がもたれた。この会議に、講習会を修了したばかりの46期生が多数参加して、数種類のアイデアのなかから、2つの新しいグループが発足した。館内ラリーを中心とするゲームプログラムを行う「こどもの城アドベンチャー」と、造形活動を中心とする「つくってあそぼう」である。夏休み前から数回の準備会議を持ち、両プログラムともに9月から定期的に活動を開始した。活動グループの中心メンバーは46期生で構成されたが、先輩ボランティアも参加し、活動上の留意点などを示唆する場面があった。また、職員も企画・準


本年度から始まった「こどもの城アドベンチャー」（土曜日）


本年度から始まった「つくってあそぼう」（日曜日）


「キャッスルファンタジー2002～不思議ヶ丘の魔法使い」


L. I. T. の「ざっく！　ザック！　パラダイス」

備に加わることで、活動を通じてグループの人間関係作りをはかり、月１～２回程度の活動を継続することができた。

このように、新しいメンバーが中心となって活動を運営する活気が他のボランティアにも波及し、ボランティア活動全体の活性化がはかれたことが、本年度のボランティア活動の特徴といえる。

【特別期間に実施したプログラム活動】

多くの子どもたちが来館する長期の学校休み期間や大型連休に、主にふしぎが丘（屋上）を活動場所として多くの子どもや親子が参加できるプログラムを提供している。本年度もボランティアと共同で２つの特別期間プログラムを行った。

開館記念特別期間には、ボランティアの活動グループ単位で参加を募り、日常活動でつちかったプログラム開発の能力、プログラム実行までのプロセスに欠くことのできないメンバーの相互作用を活用した。また、春休み特別期間のプログラムでは、新しいゲームの開発と集団を介したゲームの価値を見つめ直すとともに、指導力を身につけることを目的としたプログラムを実施した。どちらの働きかけもスタッフからの提案で行われ、ボランティアと協議を重ねながら進めた。

ボランティアとスタッフとの共同で行われるプログラムは、ここ数年安定感を増し、内容も充実してきた。反面、新しいことにチャレンジする意欲に欠けてきているようにも感じられる。20代の青年層が中心になる、特別期間のプログラムだけに、彼らの活力あふれる行動力や自由な発想を生かすことはとても重要である。こうしたアプローチは今後ますます必要となるだろう。

【L. I. T.（Leader In Training）の活動】

高校生の社会参加活動プログラム。前年度の９月から継続しているメンバーが８月まで。そして、９月から本年度募集した新メンバーの活動を行った。

本年度の活動で注目されるのは、財団法人児童健全育成推進財団の主催で行われた「平成14年度全国児童交流事業じどうかんジャンボリー」への参加。全国の児童館、学童クラブの子どもたちと職員が参集し、相互に意見や活動の交換、人的交流を行うことで、児童健全育成活動を活性化することを目的に、沖縄で実施された活動である。17人のＬ．Ｉ．Ｔ．が参加し、参加した子どもたちとともに、遊びのワークショップを行い、沖縄の自然、人、文化にもふれる機会を持った。

生活の面では、ボランティア体験活動として、低学年児童の生活をサポートするリーダーの役割を担った。初めて親と離れて宿泊をする子どもたちも多いなかで、食事、着替え、入浴などの生活支援の体験は、子どもを理解すること、愛し愛される相互関係の喜びと大切さ、子どもの支えとなるリーダーの役割と心構えを学ぶ絶好の機会となった。また、他施設の高校生との交流も大きな刺激となったようだ。

（イ）野外活動

「ジュニア・アウトドア・スクール」は、８月上旬に６泊７日の日程で、宮城県で実施した。天候にも恵まれ、全日程のプログラムを予定通り実施できた。また今回は、新聞などの広報活動の結果、７年前に７日間のキャンププログラムになって以来初めて、申し込み受け付け時に応募が殺到し、キャンセル待ちがでる状況となった。結果的に定員を10人増やして対応した。約３割が初参加者。

「ジュニア・スプリング・キャンプ」は、夏のキャンプ同様に応募が多く、定員を10人増やした。運営のサポートとして毎回Ｌ．Ｉ．Ｔ．の高校生リーダーが参加しているが、今年は15人が参加を希望。前年度も同数が参加し本部運営をサポートしたが、人数が多かったため課題の残る活動となった。そこで本年度は、高校生の役割を子どもたちと生活を共にする「班付きＬ．Ｉ．Ｔ.」と、本部運営をサポートする「本部付きＬ．Ｉ．Ｔ.」に分けて組織を作った。子どもたちの生活班にボランティアリーダーとＬ．Ｉ．Ｔ．の高校生がつく２人体制の班付きの組織となった。

準備段階からボランティアリーダーの指導のもと、班のメンバーの情報や班運営の方針を相談するといった活動を行った。この取り組みは、両者の信頼関係を作り、キャンプ当日の運営でもよい効果が得られた。特に子どもたちの生活環境を整えたことで、部屋の整理整頓や子どもの忘れ物が少なくなった。高校生が一緒に生活をともにすることで、子どもたちの年齢に近い存在である彼らにあこがれ、「大きくなったら、L．I．T．になりたい」という子どもたちの感想が、キャンプ後の作文やアンケートにも多数あった。

高校生にとっても、24時間生活をともにするなかで子どもとのかかわりで悩んだり、一緒によろこびを共有することで子どもへの理解が深まる様子が、夜の反省会などで見られた。本部で活動した高校生は3人という少人数だったが、逆に本部員のボランティアリーダーと密にかかわる環境が得られ、全体運営の中での役割を理解する機会となった。イグルー作りでは、本部付きL．I．T．も子どもたちの班に配属され、丸一日一緒に活動を行った。このことから、子どもに直接かかわる機会を得て、ともに活動し考えることも体験できた。

高校生の主体的な活動姿勢は、子どもやボランティアにもよい効果を与え、キャンプ活動の充実をはかることにもなった。

この他、下記のように、他事業部から活動依頼があり、野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／フェローシップキャンプ（同）／ゆきんこ冒険団（同）／スキースクールパートII（体育事業部）

（ウ）ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会は、以下のように行われた。

【ボランティア講習会】

大学生以上（社会人を含む）の青年層を対象とした講習会を2回（46・47期）実施した。

46期の講習会は5～6月に行い、39人が修了した。参加者の年齢層が幅広く（10代～60代）、社会人の参加がめだった。この社会人がグループのムードメーカーとなり、宿泊研修を終えるころには、グループとしてのまとまりも見えた。また、講習後にさまざまな活動に参加する人も多く、46期の仲間意識のよさが他のボランティアリーダーにも良い影響を与えていた。

47期の講習会は平成15年1～2月に開催。修了時には31人が登録した。学生が春休みの時期であり、講習会の受講率もよく全体的にまじめな印象を受けた。しかし、実際の活動への参加は少なく、春休みの時間がある時に講習会を受けることが目的のメンバーも多かったようで、5人前後が活動に参加する程度にとどまった。春休み特別期間は通常活動が少なく、活動を見学する機会が少ない。イベント実施期間も短いことや、帰省・旅行などでボランティア活動開始時に活動に参加しづらいという面も見受けられた。次年度以降、この時期の講習会実施が、ボランティア募集の目的に適当であるか、課題が残った。

【女性ボランティア講習会】

前年度の募集の際に問い合わせが多かったことの影響が残っていて、前年度キャンセル待ちなどで参加できなかった人に送ったダイレクトメールを見て応募する人が多かった。女性18期生は、15人が修了した。講習会修了後、年齢層が同じ50代の世代が中心となって仲間作りも行われ、連絡網の作成や月1回の同期での食事会などを企画し、主体的な動きが当初から活発に行われた。

修了者のほとんどが既存のグループ活動に入り、それぞれのグループのなかでも活気ある存在として活動。「手作りおもちゃ」や女性ボランティアの企画行事である「あそびのポケット」などに新人が多く参加したことで、活動全般の活性化がみられた。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と2月に実施した。

参加者の減少が課題となっていたため、今回は夏休み特別期間に行われる「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニングと位置づけ、6月に横浜市三ツ沢野外活動センターで実施した。野外技術を再確認することを目的に、野外活動センターの専門指導員の森山明さんの指導で、役割分担を明確にするグループワークトレーニングの手法を取り入れた「野外炊事実習」を行った。経験者にとっても新しい発見のある活動となり、実際のキャンプでも、自信をもって子どもたちの指導ができ、かつ、おいしい食事



ボランティアグレードアップ講習会「野外活動講習会」

ができた。キャンプに参加した子どもたちにもよい影響を与えた。

2月は「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高少年自然の家で実施した。今回は、過去数回キャンプに参加している大学生ボランティアが多く、このメンバーが中心となり現地トレーニングでも力を発揮した。

例年、キャンプでの役割分担を現地で発表していたが、本年度は事前打ち合わせの段階で発表を行った。キャンプ経験のある学生メンバーが自主的に準備活動を行ったり、現地でも、自ら初めてのメンバーに対して場所の確認や注意事項、プログラムの計画について積極的にリードするといった意欲的な姿勢が見られた。現地トレーニングでのチームワークの良さが、本番のキャンプでも生かされたと感じた。

また、従来行っているボランティア講習会のなかに、登録したボランティアが興味を持って参加できる「グレードアップ講座」を組み込む実践も試みた。「第18期女性ボランティア講習会」で取り上げた「子どもと楽しむかんたんな手遊び」(講師＝劇団コロン団の荒木文子さん)では、日ごろから公演などを演じているの女性ボランティアが16人参加し、総勢30人余のにぎやかな講習となった。初心者も経験者も興味を持つ内容を養成講習会に組むことにより、少ない予算で効果を上げることができた。

3. 講座・クラブ

【社会福祉講座】

開館以来実施している「手話講座」(全15回)を、本年度も2回開講した。講師は、4年目となる中野佐世子さんで、NHK手話ニュースキャスターとしても活躍している。本年度は2月に特別講師として、高島良宏さん(トライアスロン選手)を招き、手話講座のPRと活性化をはかるために門戸を開き、受講生の関係者も特別講師の講義に参加できるようにした。

受講生の半数以上が継続者となり、「上級クラスの開講を！」という声も少数ではあるが聞かれた。しかし、講師の確保や、受講後の手話を使ったボランティア活動の場を提供することの難しさなどがある。カルチャーセンターなどで実施されている手話講座も、同じような課題をかかえている。このため、講座修了時に、他の手話サークルや地域活動への紹介を講師にお願いした。

手話講座は半数以上が継続者だが、初心者を中心にプログラムの運営を行っている。さまざまな経験の人が一緒に受講することで、“講座”というより“サークル活動”の要素が強くなっている。「手話講座」ということを考えると、一つの課題でもある。その中で、特別講師を招いたり、実際に手話を使う機会の提供、地域活動への紹介をとおして、個々のニーズに応える対応を行ったが、受講生の減少もあり、そろそろ新しい講座に発展的展開をする時期にきていると感じる。

4. まとめ

今一番必要なことは“バランスのよさ”だと感じている。例えばボランティアの活動を例にあげれば、「じょいんフェスティバル」の開催は他施設のボランテイアとの交流と連帯という今までになかった展開ができ、意欲の点では大いにもりあがった。一方、通常の事業に負担がかかったことも事実だと思う。

〈動くこどもの城〉も、助成金による事業も、同様に今までの〔こどもの城〕になかった仕事の広がりが持てた反面、従来の業務の遂行が不十分になった点もあった。能力が一定だとすると、何かを取れば何かを棄てなくてはならない。その取捨選択のバランスをよくしていきたい。

まず私たちの足元をしっかりと固めることが、新しい展開につながると考える。

平成14年度活動一覧表

1．一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 見て！さわって！ うごかして！ ～こどもの城探検隊～	4.27～5.6	夏休み特別期間の短期講習会の紹介をかねた“体験できる展示”。夏の短期講座で取り上げるプログラムに実際に触れることで、そのおもしろさの一部を体験してもらった。映像関係では“不思議”を感じてもらい、夏休み短期講座に参加すれば“不思議”に近づくことができるのではないかという期待感を持たせることにつながった。また、野外活動（キャンプ）については、これまでの写真やビデオ映像を流して参加した子どもたちの様子を知ってもらうとともに、〔こどもの城〕の内外でさまざまな活動を行っていることを伝えた。（ギャラリー）
〈 〃 〉 わくわく絵本パーク	5.3	日本財団助成事業として実施。136ページ参照。（青山円形劇場）
〈 〃 〉 こども フェスティバル	5.4～6	来館児・者の多いゴールデンウイークに、良質のプログラムを気軽に劇場で観劇できるよう、毎年実施している。家族で楽しめる芝居、観客参加のコーナーをふんだんに取り入れたコンサートを実施した。「ガドガド」は〔こどもの城〕音楽事業部スタッフを中心に編成されたバンド。活動10周年にちなみゲストを迎えて10人で演奏した。 ◇4日「愉快なコンサート」ロバの音楽座 ◇5日「おんがくがスキ!スペシャル」スーパーガドガド10 ◇6日「宮城弁で語る貴央おんちゃんの『春夏○冬（あきない）むかしばなし』」横山企画 ※4日と6日の公演は、（財）児童健全育成推進財団の優良巡回劇事業。（青山円形劇場）
〈 〃 〉 マックロー グリーティング	5.5、11.1･3･4	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの誕生日である5月5日の「こどもの日」と開館記念特別期間の11月1･3･4日にも館内の子どもたちと握手をして回ったり、いろいろな遊びに一緒にチャレンジした。（館内各所）
〈 〃 〉 アイスクリームのプレゼント	5.6	5月9日のアイスクリームの日にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力は（社）日本アイスクリーム協会。（フリーホール）
〈夏休み〉 ○・△・□形であそぼう	7.20～9.1	○・△・□などの単純な形をもとにして、想像力を働かせながら、新しい形をつくったり、何かを表現したりするという体験の場を提供すること、単純な遊びの可能性や楽しさを多くの大人たちにも再認識してもらうことを目的とした企画展。事前に募集した子どもたちと建築家およびアーチストとの共同作業で制作した大きなブロックのオブジェの展示、正多面体を組み合わせて立体を作ることのできるブロック「ポリドロン」のオブジェの展示、形をテーマとした絵本のコーナーなどを設けた。あわせて丸、四角、三角の形を使って絵を制作するワークショップなども実施した。建築家、アーチストとのオブジェの制作は、3日間のコースとして実施したが、大変応募者が多く、こうしたプログラムへの要望が高かったことが非常に印象的だった。（ギャラリー）
〈 〃 〉 第8回 人形劇カーニバル	8.16～19	からくりや小道具、演出などで、お話の世界でしか起きないことを表現する人形劇「アッとびっくり！人形劇～人形劇ならではの表現」をテーマに、8劇団が公演。小さい子どもたちから参加できるワークショップも期間中に開催し、紙コップやストローを使って、顔がくるくるまわる人形を制作した。あわせて、指導者向け講習会「つくって演じる人形劇2002」を8月18日と9月8日に実施した。 ◇16日＝クレヨンカンパニー／エツコ・ワールド ◇17日＝あ・ぶ・ぶ@人形劇場／人形劇・木ぐつの木 ◇18日＝よろず劇場とんがらし／テアトロ天気 ◇19日＝劇団かかし座／高津人形座（研修室）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 第9回おりがみカーニバル／全国児童館おりがみ作品展	10.26～11.17	伝承遊びとして昔から受け継がれてきた「おりがみ」は、子どもからお年寄りまで3世代に渡って楽しめる数少ない遊び。日本折紙協会会員の作品と折紙協会所有の大型パノラマ作品を展示する『第9回おりがみカーニバル』、〔こどもの城〕が全国児童館に公募したおりがみ作品24点を展示する『全国児童館おりがみ作品展』を開催。会場では、伝承・創作おりがみと数多くある中から、基本に立ち返る伝承おりがみ5種類の折り図を用意して、子どもたちで、また親子で楽めるワークショップも実施した。日本折紙協会との共催事業。 『全国児童館おりがみ作品展』は、児童館交流事業として行われた。今回のテーマは「私たちの街」。居ながら全国を旅してきたようだなどの声が聞かれるほど、特色のある作品が展示された。これらの作品は、〔こどもの城〕での展示終了後に全国で巡回展示。〈動くこどもの城〉の項参照。（ギャラリー）
〈　〃　〉 子育てママの悠遊タイム	11.3	対象は、3歳以下の子どもを持つ家族。ゆっくりとした時間のなかで、母親同士の交流の時間を持ち、日常での“ゆとりある生活”のヒントを提供することと、父親と子どもたちがじっくりと接する時間を提供することを目的とした催し。家族で参加してもらい、母親はゲストを交えたトークやワークショップ、茶話会を楽しみ、父親と子どもたちは保育研究開発部のスタッフと一緒に親子遊びに参加。母親向けプログラムは、パッケージデザイナーの宮寺美奈子さんをゲストに迎え、ラッピングペーパーやリボンを使ってクリスマスボールのオーナメント作り。父親と子どもたちは保育スタッフと隣室に移動して、親子遊びのプログラム。小麦粉粘土を使った活動を楽しんだ。（研修室）
〈冬休み〉 日中国交正常化30周年記念 ニイハオ　シャオポンヨウ 岡本央写真展「中国の子どもたちからのメッセージ」	12.13～H15.1.13	写真家・岡本央氏がとらえた中国各地の子どもたちの生き生きとした生活風景、約70点を展示。子どもたちの表情も豊かで、見応えのある写真展となった。期間中、京劇の俳優が、メイクから簡単な舞までを披露してくれるイベントも実施した。（ギャラリー）
〈　〃　〉 自分でつくってよくあがる「えい凧づくり」	1.3～7	日本の伝統的な正月遊びを子どもたちに伝承していきたいと考えて、毎年実施しているワークショップ。誰でも簡単に作れてよく揚がる「えい凧」を作った。本年度は、「角凧」や「飛行機凧」作りは行わなかった。（ギャラリー）
〈　〃　〉 新春もちつき大会		日本の正月の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている。できるだけ多くの人たちに参加してもらうために、ピロティで実施。マック・マックローも応援にかけつけた。もち米50ｋｇを2うすで12回に分けてついた。女性ボランティアが、つきたてのもちをまるめ、あんときなこをまぶして、もちつきを体験した子どもに配布。一人ずつもちをついたので、待ち時間が長くなってしまったことが課題である。（ピロティ）
〈　〃　〉 ニッサンゆかいな絵本と童話展 「みんなでマーチ！街までマーチ！」		「第18回ニッサン童話と絵本のグランプリ」で入賞した作品の原画、イラストレーターのはらだゆうこさんの作品、国際アンデルセン賞受賞作家の絵本などを展示した。毎回、クラフト系のワークショップを実施している。今回は、日産自動車の工場から出る内装材や緩衝材を使って「お弁当」を作り、弁当屋に並べ、それを買ってドライブ（ピクニック）に出かける、というストーリーを作って実施した。作る楽しさにとどまらず、お買い物ごっこの要素も含み、「本物のお弁当かと思った！」と大人も楽しめる内容となった。〔こどもの城〕での開催は11回目。共催は株式会社日産自動車。（ギャラリー）

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
おもちゃ図書館 マックロー	年末、年始を除く水曜日	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（'97）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も10数人に及ぶボランティアを中心に運営され、延べ49回開催した。年間250人を超えるボランティアの参加と、300人を超える利用者があった。全国に約500か所ある「おもちゃの図書館」のモデル的な活動として、全国からの見学者も多い。（会議室）
豊かな遊びを広げる おもちゃ展	11.27～12.2	おもちゃメーカーの協力で、障害を持った子どもたちにも使いやすい市販のおもちゃを展示、紹介する「おもちゃ展」。併せて、各地のおもちゃ図書館ボランティア手作りのおもちゃの紹介も行った。（ギャラリー）

2. ボランティアの活動

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
保育活動 （保育研究開発）	月～金曜日 9:45～16:00	「保育クラブ」「幼児グループ」に、1～2人程度が参加し、保育活動の運営補助。長期休暇期間に、短期で行う活動も学生を中心に活発な活動を行った。（保育室ほか）
紙芝居 （みんなのにこにこ広場） （プレイ）	水曜日　15:00～15:30	女性ボランティアが、紙芝居の持つ温かさを伝えることを目標に定期的活動。本年度から月2回、水曜日が公演日。公演日以外は練習日。メンバーも増え、活性化している。（プレイホール）
女性人形劇・影絵 （みんなのにこにこ広場） （プレイ・企画研修）	水曜日　15:00～15:30	女性ボランティアの人形劇・影絵の両グループが第2・3水曜日に公演。両グループともにメンバーも増え、活性化して来た。その分、人間関係で悩む事も多くなった。（プレイホール）
おりがみあそび広場 （プレイ）	木曜日　14:00～15:00	女性ボランティアが中心となって運営、週1回、折り紙ワークショップを行う。メンバーの入れ替わりはあったが、安定した活動を展開する。（プレイホール）
王さんの楽器屋さん （音楽）	木曜日　15:30～16:00	音楽スタッフが運営するプログラムの補助活動。プログラムも変わり、前年度から活動を続けているメンバーが積極的な活動を展開する。（音楽ロビー）
みかんちゃんズのオパオパサンバ！（音楽）	金曜日　15:00～15:30	女性ボランティアが、音楽のスタッフと一緒に“サンバ”を素材としたリズム遊びのプログラムを運営。本年度からボランティア独自のプログラムも加わり意欲的に活動。（音楽ロビー）
手作りおもちゃ （企画研修）	第2・4金曜日 11:00～15:00	女性ボランティアのグループが、プレイホール幼児コーナーに置く抱き人形やままごと用具などを製作。プレイ事業部が積極的にアプローチを行い、意欲的な活動を続ける。 （ボランティアオフィス）
絵本のよみかたり （企画研修）	第3金曜日 13:45～14:15 第2日曜日 14:00～14:20	プレイホール（金曜日）、保育室（日曜日）で、親子対象に絵本を読む。青年・女性ボランティアがともに活動に参加。前年度の意欲的な活動とは違い、本年度はメンバーがそろわないことが多くなった。金曜日の活動はメンバーが増え、次第に活性化してきたが、プレイ事業部から場所の提供について問題提起され、今後活動場所を変更する可能性もでてきた。 （プレイホール、保育室）
ビッグサタデー（体育）	土曜日　10:30～12:00	新規プログラム。体育事業部からの積極的な呼びかけにより、9月から毎回3人程度のボランティアが活動を始める。スポーツ好きなボランティアが活気あふれる活動を展開。（体育室）
手足の不自由な子の水泳（体育）	土曜日　17:00～18:00	ハンディキャップを持つ子どもたちを対象とする唯一の活動。本年度は定期的に活動するボランティアが増えた。（プール）
土曜昔あそびの会 （企画研修）	第2・4土曜日 14:00～17:00	こま、三つ馬などの昔遊びを中心に活動。継続している3人は、本年度も意欲的な活動を展開。新規メンバーの加入もあり、活気ある活動を行った。メンコ、ゴム段も取り入れた。 （ふしぎが丘）
キッズクラブ （プレイ）	月2回土曜日 15:00～17:00	小学校低学年30人の遊びのクラブ。ボランティアは、グループワーカーとしての視点からプログラムの立案・準備・実施にかかわっている。年度末には就職で、活動が継続できなくなるメンバーが多くなり、新しい組織作りが行われた。（会議室ほか）
こどもの城アドベンチャー（企画研修）	月2回土曜日 14:00～17:00	学校週5日制に対応して、9月からスタートしたボランティアの新プログラム。6月からチームを結成し企画を練り上げた。館内全体を歩きながら、さまざまなポイントを探していく方法がプログラムの軸。『エキサイトハンティング』（館内に隠された動物カードを探してくる）、『こどもの城事件簿』（探偵コースと犯人コースに別れ、館内の各ポイントを回り答えのヒントを見つけてくる）の2つのプログラムを実施。46期のメンバーを中心に意欲的な取り組みを見せた。
青年人形劇（企画研修）	月1回土曜日 14:00～15:00	マックロー人形劇と手遣いの人形劇のプログラムを実施。人手不足に悩んでいたが、7月から新規メンバーが3人加入。人形劇の経験者もいて、活動活性化の原動力となる。（プレイホール）
ユースクラブ（プレイ）	月2回日曜日 13:00～15:00	小学校高学年から中学生までの40人が対象。グループリーダーとしてのボランティアは、思春期の子どもたちにとっての“モデル”として大きな存在となっている。（会議室ほか）

名　称	日　時	内　容
パネルであそぼう （企画研修）	月2回日曜日 13:00～15:00	パネルシアターの公演とワークショップ（幼児コーナー）を行っている。新規メンバーの加入がある。男性も加入しムードが変わるが、グループとしての凝集性はまだ低く、活動が活性化するまでには至らない。（プレイホール）
日曜クラブ （企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	ドッジボール、長なわ、フラフープなどの活動を実施。季節行事ごとにクイズ大会のプログラムも取り入れる。メンバーはあいかわらず固定化している。新しい活動が生まれてこないのは、こうしたメンバーの固定化に起因しているのかもしれない。（ふしぎが丘）
つくってあそぼう （企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	学校週5日制に対応した新プログラム。6月からチームを結成し企画を練り上げ、9月からスタート。手作りおもちゃのワークショップ。『フライングディスクとスカイフライヤー』（紙皿を使ってつくるフライングディスクと紙コップで作る飛ぶおもちゃ）、『楓の実ダーツ』（紙コップと輪ゴムを使って作るおもちゃ。楓の実を飛ばして遊ぶ）の2つのプログラムを実施。46期のメンバーを中心に意欲的な取り組みを見せた。（フリーホール）
ファミリープレイタイム　（プレイ）	月1回　11:00～12:30	親子を対象に毎回さまざまなプログラムに挑戦。ボランティアリーダーはプログラムの運営をサポートした。（プレイホール）
わいわいスタジオ （音楽）	月1・2回日曜日 13:00～17:00	手作り楽器のプログラムに参加するメンバーが加入する。この活動が、夏の特別活動へとつながっていく。（Bスタジオ）
L.I.T.　（企画研修）	原則的に月2回 10:00～16:00	高校生のボランティア体験活動を主眼に置いたグループ活動。年間をとおして社会人のボランティアがグループワーカーとして活動をサポートしている。7年以上固定したボランティアで活動している。前年度に新規加入が3人あったが、そのメンバーがなかなか定着しない。ボランティアグループのあり方を考え直す機会となった。（会議室ほか）
日曜体育室　（プレイ）	日曜日　14:00～17:00	日曜日の体育室のプログラムの指導補助を行う活動。本年度は活動者なし。（体育室）

〈特別期間ほか〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 **キャッスルファンタジー　2002～不思議ケ丘の魔法使い～** （企画研修・プレイ）	5.3～6 11:00～16:00 （受付時間）	ハリーポッターの魔法の世界をモチーフに企画。前年度までリーダーシップをとっていたメンバーが就職活動の時期を迎え、9人だったボランティアのリーダーチームもわずか3人。世代交代の時期を迎えた。チーフのうち、3人は新しい期の学生ボランティア。準備期間から実施まで意欲的な取り組みをみせた。延べ76人のボランティアが参加。（ふしぎが丘）
〈　〃　〉 **マックのおはなし広場** （企画研修）	5.4・5 11:00～16:00 （受付時間）	青年ボランティアの人形劇とパネルシアターのグループが協力し、2日間連続で「マックロー人形劇場」「パネルシアター」の公演、人形作りのワークショップとその人形を使って遊ぶ参加劇を行った。もりだくさんの内容で、質の高いプログラムだった。参加した子どもたちの生き生きとした表情が印象的。ボランティア独特の温かい配慮がいかされたプログラムとなった。延べ29人のボランティアが参加。（研修室）
〈夏休み〉 **ウォーターアドベンチャー　2002～西部の決闘～**　（企画研修）	8.14～18 11:00～16:00 （受付時間）	水鉄砲を使ったロールプレイングゲーム。学生、社会人5人でリーダーチームを編成。年齢差があるためか、結成当初からコンセンサスをとるのが難しく、準備活動が思うように進まないことが多かった。リーダーチームがまとまらないと、それ以外のボランティアの集まりも悪く苦しい運営となった。延べ80人のボランティアが参加。（ふしぎが丘）
〈開館記念〉 **秋のチャレンジゲーム** （企画研修）	11.2～4 11:00～16:00 （受付時間）	恒例のチャレンジゲーム大会。準備段階での取り組みは各ボランティアグループを単位とした。全グループに募集をかけ、女性ボランティアの「手づくりおもちゃ」、青年ボランティアの「昔あそび」「ユースクラブ」「L.I.T.」「代表者会」の5グループが参加した。日常活動をとおして人間関係ができているグループなので、アイディア会議もスムーズ。今までにないユニークなゲームが立案された。『楓（ふう）の実ダーツ』（楓の実を投げて的をねらう）、『まわして さがして いただきまーす』（サーカスゴマが回っている間に、箱の中からきのこを見つける）、『どんどんどーんぐり』（両手いっぱいに持ったドングリを穴をめがけて投げ入れる）、『直感ひらめきじゃんけん本』（じゃんけんマークが書いてある本をめくりながら、じゃんけん勝負）、『みのむしもんたのクイズ秋オネア』（秋にちなんだ○×クイズ）の5ゲーム。既存のグループの力を活用し、質の良いプログラム作りをねらうとともに、各グループ相互の交流をはかることができた。延べ57人のボランティアが参加。（ふしぎが丘）

名　称	日　時	内　容
〈 〃 〉 あそびのおもちゃ箱 （企画研修）	11.23・24 11:00～16:00 （受付時間）	青年人形劇、女性人形劇、影絵、紙芝居、女性影絵、パネルシアター、音楽の各グループの合同公演。公演の合間には、トコトコ人形で遊ぶワークショップを実施。青年ボランティアと女性ボランティアが協力して実施するのが特徴。今回は、青年人形劇、パネルシアターの有志によって新グループが結成された。各グループとも意欲的な取り組みを見せた。2日間で51人のボランティアが参加。（フリーホール）
〈冬休み〉 新春昔遊びつくって あそんで　お正月 （企画研修・プレイ）	H15.1.3 13:00～17:00 1.4～7 11:00～17:00 （受付時間）	前年度から継続的にかかわっているボランティアが中心になって進めた。共同企画の場合、事業部スタッフとボランティアとのよりよいパートナーシップが重要になってくる。ボランティアを始めて間もないメンバーも中心的役割でかかわっていたが、スタッフとの関係で悩むことが多かった。「ボランティアの意見が生かされない」との意見があり、パートナーシップの難しさを感じさせられた。5日間で延べ約66人のボランティアが参加。（屋上遊園、Bスタジオ）
あそびのポケット～ようこそぽけっと市場～ （企画研修）	3.13・14 13:00～17:00 3.15　11:00～17:00 （受付時間）	女性ボランティア全体で取り組む企画。女性ボランティアの独自性を生かすこと、企画の準備、実行のプロセスをとおして相互交流をはかることがねらい。『魚屋』『八百屋』『花屋』『レストラン』を設置、銀行でもらった、お金とかごを持って各店で買い物ごっこ。シンプルな設定が幸いして、幼児に大人気のプログラムとなった。買いものを楽しむだけでなく、店員になることもできるようにして、子どもたちが主体的に遊びに取り組めるよう配慮した。『レストラン』でも、ウェイター・ウェイトレスを積極的に募集した。子どもたちが少し緊張しながら、「ご注文は何にいたしますか？」と聞く姿が印象的だった。4回目となったこの企画も、継続的な取り組みによって成果があがった。延べ52人が参加。（フリーホール）
〈春休み〉 S－1フェスティバル ～みんなであそぼう春一番～　（企画研修）	3.21～23 11:30、13:00、 14:30、16:00	ボランティアの特別期間のプログラム内容を振り返ってみると、子どもの集団を対象にゲームを行う機会が極端に減っている。こうした手法のプログラムは、子どもとの距離があり、あまり積極的に取り組むことができないようだ。そこで、集団を介したレクリエーションゲームの価値をもう一度確認するとともに、新しいゲームを考案することを目的に実施した。既存のゲームを参考に、オリジナルのプログラムがいくつか生まれた。毎回30人近い子どもたちに、ボランティアがゲーム指導。また、「神戸市総合児童センターこべっこランド」のボランティア7人とスタッフ2人が研修に訪れ、「こべっこランド」ボランティアによるプログラム運営も行い、お互いの情報交換をした。3日間で延べ25人のボランティアが参加。（ふしぎが丘）

〈高校生プログラム＝L. I. T.（Leader In Training）〉

名　称	日　時	内　容
春イベント「春だよ　ワッハッハ祭り」準備	4.7	前年度から準備をしていたイベントの準備。手作り楽器、手作りおもちゃ、魚つりコーナー、ペープサート、楽器演奏による歌とダンス――もりだくさんの企画。毎回の準備活動にほぼ全員が参加する意欲的な活動を展開する。24人参加。
〃	4.14	『春だよ ワッハッハ祭り』の準備活動。22人参加。
「春だよ　ワッハッハ祭り」	4.21　11:00～16:00	「手作り楽器」（ヤクルトの容器を2つ重ねて作るガンザ、装飾しやすいようにトイレットペーパーのしんに入れる工夫をした）、「手作りおもちゃ」（トイレットペーパーのしんを飛ばすおもちゃ）、「遊びのコーナー」（子ども用プールに紙で作った魚を入れて魚つり遊び。途中に一定時間内に何匹釣れるか競争を行う）の3つのワークショップを常時行い、時間を決めて「ペープサート」（脚本、人形はすべて手作り。題名は『天の鬼退治』）と「歌とダンス」（ピアノ、ギター、リコーダー、ドラム、ボーカルで構成されるバンドによる歌の集いとダンス。ダンスはトトロのテーマソングで、オリジナルの振り付け）を行った。例年に比べて、多くのプログラムに取り組んだ。積極的で主体的な取り組みが生み出した結果と考えられる。背景には、グループの人間関係が良好なことと、一人ひとりの希望や特性を最大限生かしたプログラム作りがあったからだと考えられる。フリーホール。26人参加。
活動のふりかえり／今後の活動計画	5.12	『春だよ ワッハッハ祭り』のフィードバックを行う。一連のプログラムをとおして、自分や他のメンバー、リーダーが子どもと接していて感じたことを話し合う。ボランティアリーダーの子どもと接する姿が印象に残ったようだった。今後の活動計画について話し合う。16人参加。

名　称	日　時	内　容
夏の行事企画会議	6.16	8月の行事の概要が決定。『ざっく！ざっく！パラダイス』館内ラリーとフリーホールでの遊びのワークショップを組み合わせたプログラム。活動期間が半年を越え、グループ内におけるメンバーの関係が明確になってきた。17人参加。
〃	7.14	具体的な準備活動の1回目。活動目標の決定、組織作りが中心。さまざまなメンバーが交流を促進できるようにグループ分けを行い、担当を決める。そのグループとは別に、「人形劇」「クイズ大会」「歌とダンス」の3チームに、自分の興味・関心によって分かれる、"好き好きグループ"を編成した。17人参加。
〃	7.20	組織作り、役割分担をし、各グループに分かれてミーティング。『ざっく！ざっく！パラダイス』の概要が決定した。夏休みに入り、夏期講習等のため、欠席者が増えて来た。18人参加。
〃	7.28	準備活動。メンバー一人ひとりが責任感と自発性を持つこと、他者との協力関係、グループの力がより良いものを作り出す実感が持てるよう、目標達成までのプロセスの明確化と、個人の興味・関心に合わせた役割分担を行った。12人参加。
『ジュニア・アウトドア・スクール』参加	8.2～9	本部スタッフとして『ジュニア・アウトドア・スクール』を支える。班付きと本部付きに別れて活動。宮城県国立青少年野営場（6泊7日・テント泊）。希望者7人が参加。
夏の行事企画会議	8.11	2週間ぶりの活動。プログラムの企画と来週予定の館内合宿打ち合わせ・準備。14人参加。
夏合宿	8.17・18	合宿のプログラム運営、食事、物品の準備、すべてをメンバーの手による。夏休みプログラムの最終準備が中心。3年生と2年生のリーダーシップがバランスよく発揮される。22人参加。
『ざっく！ ざっく！ パラダイス』実施	8.24・25	館内にある4つのゲームを探し、それにチャレンジ。成績に応じて、カジノ『ざっく！ざっく！パラダイス』で使える通貨"ザック"がもらえる。700ザックたまったら、カジノへ。カジノでは、「ザックザックダーツ」（回る的をねらって、ピストルで吸盤付きのダーツを発射する）、「ザックザックルーレット」（大きなボールを投げ入れるルーレット）、「ザックザックトランプ」（4枚のカードを素早く並べ替え、あたりを予想）、「ザックザックレース」（6台のモーターで動く動物のレース。一着を予想）。子どもたちは、それぞれのゲームに参加して、ザックをためていく。3000ザックためると"カジノマスター"の証明書。お金がなくなってしまうと、ラストチャンスゲーム（○×クイズ）にチャレンジする。ゲーム以外に、カジノに設営された大きなテレビ（ステージ）で、ペープサート、歌とダンスの集い、クイズ大会も実施された。例年から比べるとかなり充実した内容であった。しかも一人ひとりの自発性、積極性も高く、意欲に満ちた、活気あふれるプログラムとなった。2年生を中心にした意欲的なメンバーの存在と、それぞれのニーズをとらえ、自己実現可能なプログラムを選択し、取り組めるようにしたことも要因の一つとして考えられる。フリーホール。
平成14年度 L. I. T. 開講式	9.22	継続者がとても多く、新規メンバーもその友人がほとんどだった。1年生の加入は7人と少ない。開講式の後、面接。一人ひとり参加した動機や期待感などを聞く。その後、自己紹介を中心にした、グループワークトレーニングを実施し相互交流の活性化をはかった。L. I. T. についてのオリエンテーションは、継続者の経験を生かし、グループ討議を行った。17人参加。
グループワークトレーニング	10.14	"コンセンサスのよさ"を学ぶグループワークトレーニング「ぼくらのリーダー」を実施。リーダーとして望ましい人柄を考えるとともに、自己主張と相手の考えを尊重した上で集団決定ができるまでのプロセスを体験。その後、今後の予定を話し合う。20人参加。
活動準備	11.14	12月の活動準備を行う。継続メンバーを中心に積極的な活動が展開している。この時点では、継続者がグループのムードを決定しているが、もっと相互関係が豊かになれば、他のメンバーの自由な自己表現が可能になるだろうと目標を設定した。18人参加。
〃	12.15	企画概要が決定する。手作りおもちゃとゲームとダンスの集いを計画した。メンバーが自己決定した活動を、お互いの協力関係の中で準備、実施し、その時に起こるさまざまな問題や課題に気づくことを目標に活動を展開した。ワークショップの材料や表示物の準備、ゲームやダンスの指導を行い、メンバー同士で評価をした。15人参加。

名　称	日　時	内　容
2002年遊びつくそう　ほっかほかスペシャル	12.22	10月から準備をしてきたプログラムを実施。フリーホールで、「手作りおもちゃ」(牛乳パックのパチンコ、かさぶくろロケット)、「ゲーム」(じゃんけん遊び、ボール運び、キャタピラレース)、「ダンスの集い」(トトロとハム太郎)を行う。予想とは随分とちがう子どもたちの動きを見てとまどいを感じたメンバーが多かった。「もっとしっかりとした準備が必要だ」と課題を明確にした。23人参加。
じどうかんジャンボリー打ち合わせ	12.26	1月に実施される『じどうかんジャンボリー in 沖縄』の参加希望者が集まり、活動準備。実施に向けてのオリエンテーション、遊びのワークショップの準備を行う。また、「低学年児童の生活支援の心得」を学び、グループリーダー活動に備えた。15人参加。
じどうかんジャンボリー in 沖縄	H15.1.11～13	(財)児童健全育成推進財団が社会福祉・医療事業団の助成を受けて実施している『平成14年度全国児童交流事業 じどうかんジャンボリー in 沖縄』にL. I. T. 17人、ボランティア5人が参加。沖縄県国頭郡本部町地域一帯を中心に、全国26施設、762人の児童館・学童クラブに所属する小学生から高校生、スタッフが集まり、さまざまな交流事業を展開した。各施設がそれぞれ準備したプログラムによる遊びの交流会、各個人が自由に選択できる沖縄の文化・自然を体験できる選択プログラムなどが実施され、他施設の子どもたちとプログラムを体験するとともに、宿泊や食事などの生活支援を行った。L. I. T. にとって、初めての他施設の子どもたちとの交流、沖縄の人・文化・自然にふれたことはとても貴重な体験となった。17人参加。
今後の活動ミーティング	1.26	午前中は『じどうかんジャンボリー』参加者によるフィードバック。午後は今後の活動計画を話し合った。「もう一度子どもたちとじっくり遊んで、L. I. T. の活動の原点を見つめ直すべきだ」「沖縄には行ったけれど、まだL. I. T. のチームワークはできていない」などの課題が話し合われ、2月に館内でボランティアの体験活動を行うことになった。話し合いから、メンバーのグループへの帰属性、自発的にグループの課題を発見し、次の活動目標をたてる自主的なグループ運営の意識が強くなってきたことがうかがわれた。17人参加。
ボランティア体験活動	2.11	L. I. T. を2チームに分け、午前午後それぞれに、屋上で長なわやドッジボール、プレイホールでままごとやアスレチック遊びを展開する予定だったが、雨のため外での遊びは中止、室内での遊びだけ実施。それ以外の時間は、4月の活動内容を話し合った。17人参加。
今後の活動ミーティング	3.16	4月の活動計画を話し合う。タイトルは『ヒーロー伝説2003小さな勇者たち』に決定。設定されたストーリーに従って館内をまわる、ラリー形式のゲーム。最終ポイントでは、参加劇形式のプログラムを実施する。メンバー全員意欲的に取り組んでいる。21人参加。
〃	3.23	前回に続き、4月の活動計画を話し合うが、出席者はわずか10人。話し合い、準備活動も思うように進まない。
『ジュニア・スプリング・キャンプ2003』参加	3.27～31	今回も10人を超えるL. I. T. が参加。前年度の反省を踏まえ、L. I. T. の役割を班付きと本部付きに分け、多様な活動体験ができるよう配慮。また、事前にボランティアとの関係作りをする機会も多く設け、スムーズな組織運営ができるよう考えた。その結果、キャンプに参加した子どもにもL. I. T. にも大きな効果が得られた。13人参加。

3. 講座・クラブなど

〈講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
手話講座（前期）	高校生以上（30）	36	火曜日 18:30～20:00	4月から8月までの5か月間、全15回の講座。講師は、NHK手話ニュース845キャスターの中野佐世子手話通訳士。
手話講座（後期）	〃	28	〃	10月から2月までの5か月間、全15回の講座。講師は前期と同じ。

〈専門指導者向け講習会など〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
第46期ボランティア講習会	18歳以上(高校生不可)(50)	42	5.11～7.2 18:00～20:30 (5.24～26宿泊研修)	学生から定年退職をした男性まで、幅広い年齢層が集まった。「こどもを支えるリーダー」(吉澤英子大正大学大学院教授)、「現代社会とこどものキャンプ活動」(柴田俊明東京小中学生センター館長)のほか「こどもの城ボランティア活動」「子どもの心をつかむ」「ボランティアが創るプログラム」「現代社会とこどものキャンプ活動」の講座、人間関係トレーニングを中心とした宿泊研修(千葉県・流山青年の家)を実施した。
ボランティアグレードアップ講習会「野外活動講習会」	野外活動に参加するボランティア(30)	32	6.28・29	小4～中3年を対象にしたキャンプ『ジュニア・アウトドア・スクール』に参加するボランティアリーダーが対象。都内近郊に実習地を定め、できるだけ多くのメンバーが参加できるように配慮。キャンプを支援するリーダーとして最低限知っておかなければならない、野外活動に関する知識、技術の習得。リーダー同士の情報交換、意見交換、共同作業をとおして、人間関係を深め、お互いを理解し、キャンプに向けたリーダー組織の確立――をめざして実施した。主なプログラムは「キャンプファイヤー実践法Ⅰ・Ⅱ」「キャンプで役立つ救急法」「野外炊事実習」「アウトドリップ基礎技術」。横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター。
第18期女性ボランティア講習会	概ね30歳以上の女性(20)	18	10.8、10、17、29、31 13:00～15:00	積極的な取り組み姿勢をみせるメンバーが多く集まる。〔こどもの城〕スタッフによる「交流！こどもの城ボランティアの活動」「子どもの健全育成と遊び」のほか、「子どもと楽しむかんたん手遊び」(劇団ころん団荒木文子さん)による講座。
第47期ボランティア講習会	18歳以上(進路決定の高校生可)(30)	31	H15.2.1～3.4 18:00～20:30 (2.14～16宿泊研修)	最高年齢が29歳と比較的若い年齢層が集まる。「こどもの今を考える」(西郷泰之大正大学教授)、「心をつなぐコミュニケーション」(今井登茂子とも子塾主宰)、「こどものグループ活動」(北川清一明治学院大学教授)のほか、〔こどもの城〕スタッフが「パートナーシップとボランティア」「こどものリーダーとして大切にしたいこと」を講義、人間関係トレーニングを中心とした宿泊研修(神奈川県・足柄ふれあいの村)も実施した。
ボランティアグレードアップ講習会「雪上野外活動講習会」	野外活動に参加するボランティア(30)	18	2.21～23	小3～中3を対象にしたキャンプ『ジュニア・スプリング・キャンプ』に参加するボランティアリーダーが対象。主な内容は「歩くスキーの基礎技術」「雪上キャンプファイヤー設営法、運営法」「雪洞づくりの実際」「グルーづくりの実際」「夜を演出する野外パーティーの実際」「スキーハイキング実習」など。新潟県・国立妙高少年自然の家。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
ジュニア・アウトドア・スクール2002	8.2～8	小学生37人、中学生35人、スタッフ45人の合計117人が参加。キャンプ前半は夕方になると雨が降る不順な天候、後半はずっと晴れが続き、3年ぶりにキャンプファイヤーも実施できた。今回は、国立南蔵王青少年野営場の佐藤指導員の協力を得て、竹で炊くごはんに挑戦。ていねいな指導法やその技術にリーダー、スタッフも大いに刺激を受けた。蔵王でキャンプを実施するようになって8年が経過したが、こうした地元の文化、人にふれる機会を今後、多くしていきたいと考える。国立南蔵王青少年野営場(宮城県)。
ジュニア・スプリング・キャンプ2003	H15.3.27～31	小学生46人、中学生32人、スタッフ38人、合計116人が参加。天候は全日を通して良好。すべてのプログラムが順調に行われた。今回は、各班にボランティアリーダーとともに子どもたちの生活支援をする高校生リーダーL.I.T.が一人ずつつき、特に低学年の生活支援を細やかに行うことができた。国立妙高少年自然の家(新潟県)。

平成14年度「グループ活動」プログラム一覧表

	プログラム名	対象年齢	時間	内容
体育	すてきな新体操	3歳児～中3	60分	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操。
	楽しい体育・運動	〃	〃	身近な道具を使った運動、マット・とび箱などを使ったサーキットなど。
	レクリエーション	〃	〃	おにごっこやしっぽとり・フライングディスク・パラバルーンで楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう	〃	〃	ウオールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タグラグビーなどの球技から一種目を選択。
プレイ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	60～80分	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検。ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	〃	〃	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑むごっこ遊び。
	みんなであそぼうパペットランド	〃	〃	紙コップ、封筒などの身近な物で人形を作り、お話の世界で遊びます。
	みんないっしょに	3歳児～小2	〃	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどをスタッフと一緒に楽しむプログラム。
	こどもの城オリンピック	小1～	〃	オリンピック種目を愉快にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。
	パソコンであそぼう	5歳児～	60～90分	コンピュータグラフィックス・パソコンクラフトなど、パソコンを使ったさまざまな遊びを体験。
造形	かげをうつそう	4歳児～小6	60～80分	自分の影をプレイングボード（大きな白い壁）に写しとって、その影の中を絵の具でデザイン。
	木をつくろう	〃	〃	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る。計画の楽しさを知ろう。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	〃	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作り、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	〃	日本の伝統的な植物“竹”の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら、竹の造形を楽しみます。
音楽	忍者ってほんとうにいたの?	3～5歳児	60分	子どもたちのイマジネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	〃	〃	スタジオの照明にはえるスカーフで楽しく遊びます。
	まつりばやし	〃	〃	お祭り広場になったスタジオで、楽しく和太鼓をたたいてみます。
	ガムランで遊ぼう	3歳児～	〃	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりします。
	サンバでおどろう	4～5歳児	40～50分	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊ります。
	たたいてみよう日本の太鼓	〃	〃	いろいろな種類の和太鼓を思いっきりたたいてコンサート。リズムは簡単!
	タムタム大王と遊ぼう	〃	〃	アフリカの太鼓の名人、タムタム大王と一緒に太鼓の大合奏。
	インドネシア・アンクルン	小1～	〃	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	〃	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。

	プログラム名	対象年齢	時間	内容
A	みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”	4歳児～	60~90分	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	60分	透明な映画フィルムに着色してから映写すると、楽しい図柄がスクリーンに映し出される。
V	ビデオであそぼう	小3～	60~120分	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	60分	針穴があいただけのカメラ、ピンホールカメラを作ります。

※障害児対応のプログラムについては、障害の程度によって実施できるプログラムが異なります。
体育部門の活動は、各プログラムを組み合わせることも可能です（打ち合わせ時に相談）。

平成14年度〔こどもの城〕来館児・者アンケート（資料）

（ア）回答状況

回答用紙は来館時に配布し、大人用はグループ・家族別に代表に１枚、子ども用は小学生以上に対し人数分配布した。従って未就学児の意見と動向については、子ども用では反映されず、大人用の中で意見が集約されている点に留意していただきたい。来館時からペンと一緒に用紙を配布したにもかかわらず、自由筆記欄の回答が空欄だったり短く類型的だったりと、短時間で記入したことをうかがわせるサンプルが多かった。

（人）

	8月10日（土）	8月11日（日）	10月8日（水）	10月9日（木）	10月12日（土）	10月13日（日）	合　計
大人	282	254	130	83	113	188	1,050
子ども	191	171	33	38	80	97	610
合計	473	425	163	121	193	285	1,660
総来館児・者数	2,220	2,428	349	293	974	1,840	8,104
天候	晴れ	晴れ	曇り時々雨	曇り	晴れ	晴れ	

（イ）入館券の種別（大人＝1,011：複数回答あり／子ども=597）

大人アンケートでは当日券が76%、招待券が14．6%、受講証7．8%となっており、無回答を除けばこれ以外は１%未満と極めて少数である。こどものアンケートでは当日券が67．2%、招待券が13．7%、受講証12．7%となっており、少数ではあるが、回数券、土曜日パスが１%を超え、夏休みパスも０．８%と、大人にくらべリピーターが多いことをうかがわせる。

（人）

	当日券	団体券	回数券	夏休みパス	講座受講証	招待券	円形観劇券	土曜日パス	無回答
大人（%）	768(76.0)	4(0.4)	4(0.4)	5(0.5)	79(7.8)	148(14.6)	3(0.3)	－	14(1.4)
子ども（%）	401(67.2)	17(2.8)	8(1.3)	5(0.8)	76(12.7)	82(13.7)	2(0.3)	6(1.0)	－

（ウ）大人の来館者数と引率される子どもの人数

大人のアンケート回答総数1，050に対し1，685人、平均1．６人なので２組に１組が大人２人で来館している計算になる。この数値は調査実施日が土・日曜日の４日に対して、平日が２日だけだったことと関係があると推測される。また、大人だけの来館は回答総数1，050に対し18人と極めて少ない。

大人の人数に対する、引率される子どもの総人数は1，953人で、大人１人が連れてくる子どもの人数は平均で1．６人となっている。

（エ）子どもの年齢

３～５歳、６～８歳がそれぞれ約30%ずつを占めている。次いで０～２歳が23．２%、９歳以上のいわゆる中高学年は15．３%あるが、夏休みだけをとると19%になっている（大人のアンケート）。

（オ）来館頻度

大人のアンケートでは約３分の１、子どものアンケートでは36%がはじめての来館と答えている。つまり約３分の２はリピーターであった。

（カ）交通手段

渋谷、表参道駅の利用がそれぞれ40%ずつ、マイカー利用が約10%である。バスの利用は3．４%、徒歩自転車が3．２%となっている（大人のアンケート）。

（人）

	渋谷駅	表参道駅	バス	自家用車	自転車・徒歩	〔こどもの城〕泊	その他
人数	415	414	36	100	34	4	33

（キ）居住地域

都道府県別では東京都60.2％、神奈川県16.1％、埼玉県8.9％、千葉県7.7％。このほかごく少数だが、北海道、岩手県、京都府、大阪府、兵庫県、島根県、広島県、山口県、宮崎県など遠隔地からの来館もあったが、これは調査が夏休み特別期間中に行われたものを含むためと考えられる。また、都内では世田谷、大田など西側の区部が多く、他県でも東急田園都市線・東横線（川崎市宮前区、横浜市港北区）や常磐線・地下鉄千代田線（千葉県松戸市）など表参道、渋谷へのアクセスの良い路線からの来館が目立つ（大人のアンケート）。

（ク）認知方法

52.0％が友人知人から聞いてと答えている。雑誌・新聞とテレビをあわせマスコミによる紹介は26.1％。学校・児童館からのちらし5.0％、ホームページの4.5％は全体のなかではそれほど高い数値ではないが、意図的な働きかけの結果が確実にでているといえる（大人のアンケート）。

（ケ）講座・クラブ／友の会

来館者のうち講座・クラブ受講者は13.2％、友の会会員は2.7％。夏休み特別期間中の調査では受講者、会員の割合が低かった。友の会の認知度は低く、友の会を知らない人は70.0％だった（大人のアンケート）。

（コ）入館料の評価

大人500円、子ども300円が適正という回答が一番多い。平均では大人396円、子ども169円（大人のアンケート）。

（サ）再来館の希望

大人の90.7％、子どもの87.0％が再来館を希望している。「安心して遊ばせることができる」と施設への信頼をあげている人が多く（大人のアンケート）、子どもは明快に「楽しかった」と満足感をあげている（子どものアンケート）。

（シ）滞在時間

全サンプルの平均滞在時間は3.7時間となっている。

（人）

	～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6～7時間	7時間～
人数（%）	37（3.5）	199（19.0）	225（21.4）	195（18.6）	155（14.8）	114（10.9）	85（8.1）	31（3.0）

（ス）エリア別利用率と評価

大人については、プレイホールが21.0％と高い利用率を示しているのに対し、プレイポートは直接大人がボールプールの中に入るわけではない（まわりのベンチですわっていただけ）ので、利用したと認識していないことも考えられる。子どもの利用率に比べ、大人の利用率がおしなべて低いのは、付き添いであり“一緒に遊ぶ”という感覚が一部にしかないからだと考える。

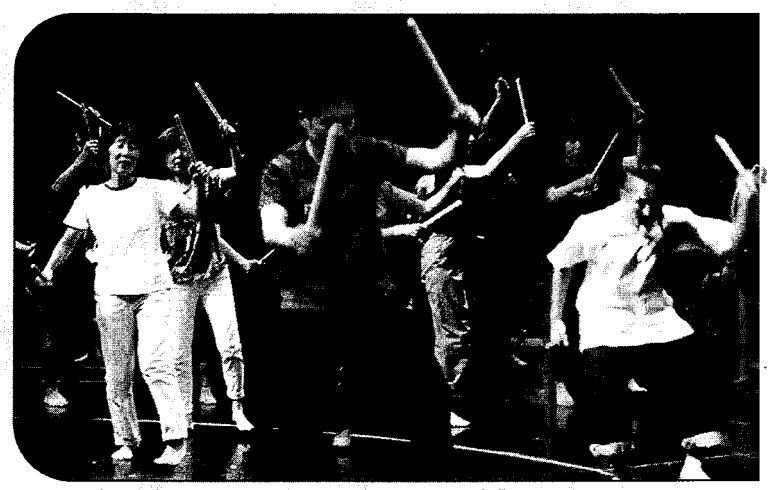
子どもの利用率についてもかなりのばらつきがあるが、比較的利用率の低いちびっこプール、A・Bスタジオ、青山円形劇場、ギャラリーなども、利用した子どもの反応は楽しかったという回答が60％を超えている。利用率のばらつきは自由筆記の回答欄に遊び足りなかった（時間が足りなかった）との記入が多い反応と無関係ではないと考える。

（セ）要望・感想

大人では、施設の安全性やプログラムの独自性を評価する一方、子どもと分かれてくつろげる場所がほしい、低年齢の子どもでも親が手をかけずに遊べるところがほしいという要望が多い。施設の明るさ、清潔さへの要望も多数あった。

子どもでは、トランポリン、ボウリングなどの運動系プログラムの充実をもとめる声が多い。多数を占めたのが「もっと楽しいものがほしい」「一日中いても飽きないようにしてほしい」といった抽象的な要望。自分でどうやって遊びたいのか分からない、〔こどもの城〕でもっとおもしろいことを提案してほしいという要望と受け取って良いのではないか。

劇場事業本部



日本の音楽シリーズ～日本の太鼓ワークショップ「太鼓を打つ」

平成14年度の活動

1．はじめに

本年度の劇場事業は、新旧交代のきざしがみえてきた年であった。開館以来青山劇場を利用している団体が、経済的情勢とリンクし、観客動員の苦戦を強いられていたようだが、初登場のアイドル系ミュージカルや小劇場系制作会社の演劇、自社の劇場ではなく外部劇場に場を求める企画会社のミュージカルなどは前者にくらべ、ほとんど前売りチケット発売日に完売している状態が目立った。

入場料金の設定など、老舗も新興プロダクションも変わりないのだから、企画の内容に同時代の意識が持てるかどうかの判断基準が大きいのだろう。しかしながら『アニー』『少年隊ミュージカル』など、〔こどもの城〕青山劇場ならではの企画も、爆発的な動員ではなくとも確実に１か月近く上演して、それぞれ観客がいっぱいになる。これらは、青山劇場で生まれ育って、より完成度の高い作品になってきたのだといえよう。劇場が作品を育てる例なのかも知れない。



ダンスビエンナーレ TOKYO 2002～バニョレ
「こどもとコンテンポラリーダンス」ワークショップ

青山円形劇場も従来の小劇場系の演劇に加え、新しい興業スタイルが増え、採算の取りにくい小スペースながら、テレビや映画のスターなどの出演や、企画内容などに新しい時代の到来を感じさせる１年であった。青山円形劇場のもうひとつの変化は、利用日数が長くなったことである。これまでは採算を度外視した先駆的実験的な公演で、２～３日の利用が多かったが、１週間以上の利用で公演回数も多くとり、客席数の少ない青山円形劇場でもなんとか損益バランスを保とうという公演が目立ってきた。

良質のパフォーミングアーツを提供する役割を持つ劇場事業のもう一つの柱である自主事業は、事業予算の大半を助成金と入場料収入に頼らなければならないという片肺飛行のため、動員と収支が確実に見込まれる企画が優先され、発信そのものに意義のある企画は先細りになっている。

『ア・ラ・カルト』『キリンファミリーオペレッタ』などは規模こそ違え完全に定着した事業になり、季節もの企画としても成功した長寿事業になっている。第二、第三の『ア・ラ・カルト』や『キリンファミリーオペレッタ』を生み出すべく、若い世代が新しい企画を誕生させているが、前述の企画が10年以上も継続してはじめて定着したことを考えるとまだまだ試行錯誤は続くのであろう。

一方、劇場を安全かつ確実に利用していただくためにはハード面でのメンテナンスも不可欠で、特にコンピュータを多用している最近の劇場機構は、経年の老化、劣化のテンポが早く、そのためのメンテナンス経費などは建設時には考えられないほどの額に増大してしまう。劇場の稼働率を上げればハードの老化、劣化の速度が速まるという二面を直視した劇場経営と、長寿な自主事業を生み出すための

投資がいつまで耐えられるかがここ数年の劇場事業本部の大きな課題と言えよう。

私たちは、劇場機構の劣化に伴う管理、運営に留意し、さらに大切な人的財産の新旧交代を見据えたプランを持たなければ、やがて来るであろう大きな変革に対応できないであろう。

2. 主な自主・提携公演

(ア) 青山劇場

【ダンスビエンナーレ TOKYO 2002〜バニョレ】

国・地域や世代を超えて世界の振付家・舞踊家たちが東京で出会う！　東京は世界のダンスから何を発見し、何を感じ、どんな違いを思うのか？——文化によるにぎわいの場の創造とダンスをはじめ舞台芸術の文化的土壌をさらに豊かにすることを目的に、世界の先駆的なコンテンポラリーダンスのアーチストや関係者が2年に一度集う、ダンスビエンナーレを立ち上げ、その第1回を8月に青山劇場・青山円形劇場で開催した。

イスラエル、ドイツ、スペイン、フランス、香港、韓国、カナダ、アメリカ、日本から19のカンパニー、150人以上のアーチストが参加し、公演、ダンスフォーラムやワークショップ、青少年のためのダンスワークショップなどダンスに関する多彩なプログラムを行った。

『青山バレエフェスティバル』や『ローザンヌ引越し公演』など時代を先取りする企画を打ち立ててきた青山劇場が贈る、かつてない規模の世界的ダンスビエンナーレ。新しい文化発信に対する期待と支援をダンスやパフォーミングアーツ関係者のみならず多方面からいただいた。継続開催により、世界のダンスの最新情報が集まる場として定着し、世界から観客、関係者が集うアジア最大のダンスビエンナーレとして成長していくことをめざしている。

◎青山劇場（8月7〜11日）

Aプログラム

○オハッド・ナハリン（イスラエル）振付『Minus 6〜オハッド・ナハリンの世界』／出演：バトシェバ・アンサンブル



ダンスビエンナーレ　TOKYO　2002〜バニョレ
「Minus 6〜オハッド・ナハリンの世界」バトシェバ・アンサンブル

○島崎麻美（日本）振付『Blue Wound』／出演：島崎麻美とイスラエルの仲間たち（日本・イスラエル）

Bプログラム

○アマンダ・ミラー（ドイツ）振付『Paralipomena』／出演：バレエ・フライブルグ・プリティ・アグリィ

○ユーリ・ン（香港）振付『眠れぬ森の美女』／出演：貞松・浜田バレエ団

○パク・ミョンスク（韓国）振付『流浪』／出演：ソウルコンテンポラリー ダンスカンパニー

Cプログラム

○ベルナール・グランディエ（フランス）振付　Bernard Glandier "Hommage"『Nata Lux』／出演：カンパニー・ラ・ヴェイユーズ

○カルメン・ワーナー（スペイン）振付『Fine Romance』／出演：プロビジョナル・ダンザ

○白井剛（日本）振付『Living Room−砂の部屋』／出演：Study of Live work発条ト

◎青山円形劇場（8月12〜18日）

Dプログラム

○マルタン・ベランジェ（カナダ）振付・出演／『Demonstration no. 1』

○黒田育世（日本）振付・出演／『SIDE B』

○イ・キョンウン（韓国）、シン・ジョンチュル（韓国）振付・出演／『目、泪、目を隠す』

○サラ・ウイリアムズ（カナダ）振付・出演／『Nil Admirari』

Eプログラム

○アンナ・フーバー（ドイツ）振付・出演／『unsichbarst』

○北村成美（日本）振付・出演／『i. d』

○山田うん（日本）振付・出演／『スカイラーク』

Fプログラム

○杏奈（日本）振付・出演／『them』

○岩淵多喜子（日本）振付／『Be』−duo version−出演：ダンスシアター・ルーデンス

○ムイ・チェックイン（香港）振付・出演／『As Quick As Silver』

Gプログラム

○『New York Downtown now』米井澄江プロデュース　振付・出演：ディディ・ドウヴィリア、アレクシス・ユーピアー、ジョン・ジャスパース、ジェニファー・モンソン、クレイグ・パターソン（以上アメリカ）

〈共催〉朝日新聞社、ダンスビエンナーレ21実行委員会

〈助成〉文化庁・日本芸術文化振興会、国際交流基金、財

団法人東京国際交流財団
〈協賛〉トヨタ自動車株式会社、キリンビール株式会社
〈提携〉日本イスラエル国交樹立50周年記念、国際舞踊夏期大学、アジア舞台芸術祭2002東京、JADE2002 International Dance Festival
〈後援〉イスラエル大使館、カナダ大使館、韓国大使館／韓国文化院、スペイン大使館、フランス大使館、ケベック州政府在日事務所、東京アメリカン・センター、バニョレ国際振付作品センター、OISTAT日本センター
〈協力〉財団法人 セゾン文化財団、日本アートマネージメント学会、アーキタンツ、QFRONT、グルービズムカンパニー、Dance in Deed！、ダンスカフェ、ダンスマガジン、日本旅行

（イ）青山円形劇場

【月猫えほん音楽会2002 えほん×ジャズ＝めちゃ² 楽しいシアターライブ】

1999年から始まり、大好評を得ている『月猫えほん音楽会』は、“ことば”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。共催は、（財）こども未来財団。

絵本の絵を大きな月（スクリーン）に映しながらの読み聞かせとジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で絵本のライブならではの生き生きとした時間を会場全員で共有することをめざした。また、開演前に希望する観客に猫のフェイスペインティングを施し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功した。

昨今、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が見直されている。それは、何かと暗い世相の中で絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向け始めたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせがそれを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。そのような関心の高さを示してか、定員1,750人のところ約2,300世帯6,600人の応募数となった。

出演：佐山雅弘（ピアノ）、波多雅子（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）／演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ／主催：（財）こども未来財団、（財）児童育成協会

【こどもの城×ジーツープロデュース・ファミリー公演「おじいちゃんの夏」】

家族で楽しめる夏休み公演として、G2（ジーツー）の作・演出によるオリジナル芝居「おじいちゃんの夏」を公演した。家族の絆をテーマにした話で、親子だけでなく、おじいちゃんおばあちゃんなど3世代で一緒に劇場に来て楽しんでいただきたいと考えた。

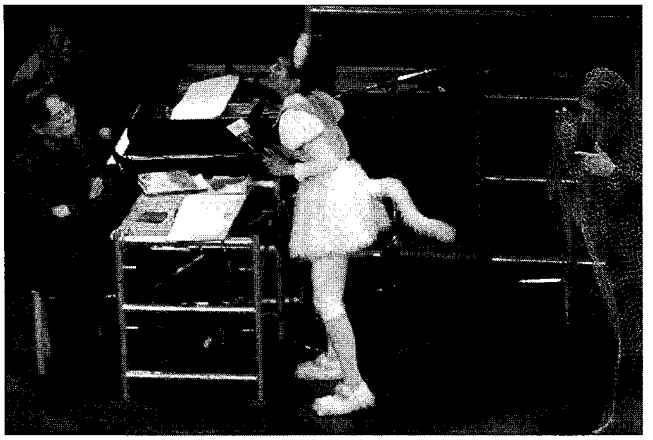
おじいちゃんを主人公にして家族のあり方や生と死について描き、人間にとって避けられないこの重いテーマを家族でしっかりと受け止めてほしいという思いを込めながら上演した。G2お得意のエンターテインメントな要素を盛り込み、重くなりがちなテーマを明るく楽しく、子どもたちにも分かりやすく描いた。

この作品をとおして、核家族化がすすみ、たとえばお茶の間でテーブルを囲んでみんなで話をしたりすることがなくなってしまった現代人の乾いた心に、潤いをあたえることができたのではないかと思う。

本公演は、作品のテーマが注目されNHK衛星放送の舞台中継番組で放映された。

〔こどもの城〕のなかにある青山円形劇場で、ファミリー向け公演を続けていくことには大きな意義があるが、良質でさらに低廉な料金で作品を提供するには何らかの補助金を得ていかなければ成立し難いことを今回の公演で痛感した。

出演：小須田康人、武藤陶子、廣川三憲、佐藤真弓、高木珠里、一倉梨紗、及川直紀、宮吉康夫、小沢真珠／作・演


月猫えほん音楽会2002
「えほん×ジャズ＝めちゃ² 楽しいシアターライブ」


こどもの城×ジーツープロデュース・ファミリー公演
「おじいちゃんの夏」

出：Ｇ２／後援：ＴＢＳラジオ

【青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト　～役者と音楽家のいるレストラン」】

役者と音楽家が一体となって作り上げる『ア・ラ・カルト』は、クリスマスの時期を迎えたとある老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショートの芝居とヴァイオリニストの中西俊博を中心としたバンドマンの生演奏でつづるしゃれたエンターテインメントショーとして、すっかり冬の風物詩となり、本年度で開店14周年を迎えた。

ゲストにテレビでお馴染みの山崎一を迎え、歌にダンスに、そして笑いと心にしみわたるお芝居で素敵な時間を提供した。10月で遊◉機械／全自動シアターは活動を休止させたが、12月に変わらずにレストラン『ア・ラ・カルト』が開店しお客様方を安心させ、全24ステージが完売、約9,000人を動員した。昨年休演した大阪公演も新しい劇場ＭＩＤシアターと出会い、年末の大阪を賑わせた。

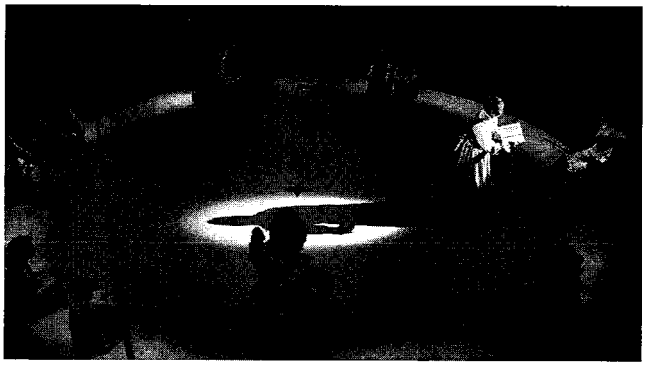
出演：高泉淳子、白井晃、陰山泰、山崎一（ゲスト）、中西俊博（ヴァイオリン）、細野義彦（ギター）、北島直樹（ピアノ）、クリス・シルバースタイン（ベース）／演出：吉澤耕一／構成：白井晃／台詞：高泉淳子／音楽監督：中西俊博／協賛：キリンビール（株）、富士通（株）

＊大阪公演の主催は関西テレビ放送、（株）ハートス、キョードー大阪

【第15回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本 II ～天使と人魚がトコトコト～」】

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづる正月恒例のファミリーオペレッタ。〔こどもの城〕のスタッフで創作するこの作品は、今年で15回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

演目は、前回からのシリーズとなる『とびこむ絵本』。空から落ちてきた絵本に飛び込み、天使たちが住む街“ぷっかりタウン”にやってきたクルクルとトコトコ。そこで巻き起こる事件と天使たちとの交流をとおして、素直に気持ちを伝えることの大切さと、親の包容力に気づくまでを描いた。また、シリーズとおしてのテーマを“絵本の読み聞かせ”とし、親と子が語り合うこと、ふれあうことの素晴らしさを考えた。



第15回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ
「とびこむ絵本 II ～天使と人魚がトコトコト～」

あたたかで楽しい登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語のなかに引き込み、子どもだけでなく大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多くの観客に提供したい。

脚本：山下哲／演出：高谷静治／出演：オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、岸辺バレエスタジオ、他／共催：キリン福祉財団

【日本の音楽シリーズ】

日本の音楽を代表する演奏者と参加者（観客）との間で、日本の楽器や音楽を通じたコミュニケーションにより、日本音楽の楽しさや身近さを再発見する機会として『日本の太鼓』『日本のふるさと弦楽器』を企画研修部・音楽事業部と共催した。

次世代を担う青少年、音楽の指導者やこれから教育のなかで日本の音楽を取り入れようとしている人々を主なターゲットとするワークショップでは、日本の音楽を代表する演奏家がそれぞれ講師となって、演奏の姿勢や楽器の持ち方、楽器の構造、作り方などさまざまな角度から楽器を紹介し、日本の音楽をさらに身近に感じる機会となった。また、開催前にアトリウムで楽器の展示や製作過程をビデオで紹介した。

ワークショップと連動して開催したデモンストレーションライブはふだんのコンサートと一味違う構成。楽器を知ってもらおう、楽器に親しんでもらおう、日本の音楽の成り立ちを知ろう、など目的をもったライブ。演奏家と観客（参加者）がコミュニケーションしながら、日本の音楽の楽しさを体験。演奏とワークショップ、トークをおりまぜて日本の音楽の魅力を紹介した。

『日本の太鼓』

演奏・ワークショップ講師：大倉正之助（能楽・大鼓）、木津茂理（民謡・太鼓）＋澤田勝秋（民謡・三味線）、林英哲（創作太鼓）＋鳥羽市立神島小学校「島っこ太鼓」

『日本のふるさと弦楽器』

演奏・ワークショップ講師：直川礼緒（アイヌムックリ・ユーラシアの口琴）、金城実（かんから三線・三線）、東音田島佳子（三味線）＋こどもの城三味線グループ、本條秀太郎（ごったん・三味線・胡弓）

協賛：株式会社 宮本卯之助商店、財団法人 ビクター伝統文化振興財団／後援：朝日小学生新聞・朝日中学生ウィークリー（朝日学生新聞社）、邦楽ジャーナル、東京邦楽器商工業協同組合

平成14年度公演演目一覧表

1．青山劇場

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ダンスビエンナーレTOKYO 2002	8.6~11 (6)	3	S=5,500 (前売5,000)／A=4,500 (前売4,000)	3,222	1,970	61.1	
Thank you! Broadway! Vol.2	9.9~11 (3)	3	9,500	3,574	3,340	93.5	
クリスマスの贈り物	12.24~25 (2)	1	A=4,000／B=3,500	1,192	546	45.8	
ブリリアントII	12.26 (1)	1	8,000	1,256	1,022	88.4	
(自主・提携公演　小計)	(12)						
〈貸し館〉							
THE CONVOY SHOW PENGUINZA (ニッポン放送)	4.2~15 (14)	12	7,350	13,034	12,578	96.5	
林英哲2001－2002「澪の蓮」(楽インターナショナル)	4.16~21 (6)	5	6,000	5,302	4,260	80.3	
明治生命ミュージカル「アニー」(日本テレビ)	4.22~5.19 (28)	34	S=7,800／A=5,800	38,930	27,428	70.5	
モーニング娘。「モーニング・タウン」(東宝)	5.20~6.23 (35)	41	12,000	50,103	46,002	91.8	
チェン・ミン 二胡LIVE 2002「MY STORY」(オフィスプラネット)	6.26 (1)	1	S=5,000／A=4,500	1,156	999	86.4	
「少年隊PLAYZONE 2002」(ヤングコミュニケーション)	7.5~8.5 (32)	34	12,000／立ち見=9,000	38,418	37,922	98.7	
さくら大戦「新編八犬伝」(レイネット)	8.12~25 (14)	16	A=7,000／B=5,000／立ち見=2,500	17,464	14,728	84.3	
轟悠コンサート「Stylish！」(宝塚クリエイティブアーツ)	8.31~9.6 (7)	6	S=8,000／A=6,000／B=3,500	7,084	6,887	97.2	
松崎すみ子バレエ公演「オンディーヌ」(バレエ団ピッコロ)	9.7~8 (2)	1	S=8,000／A=6,000／B=3,500	1,132	927	81.9	
明日への扉(東京スクールオブミュージック)	9.18~22 (5)	4	招待	4,264	4,183	98.1	
石川さゆり音楽会一七夜祭一(さゆり音楽舎)	9.28~10.6 (9)	7	SS=10,500／S=8,400	8,296	7,450	89.8	
「Can't Stop Dancin' 2002」(名倉ジャズダンススタジオ)	10.8~13 (6)	6	S=7,000／A=6,000	6,660	6,340	95.2	
ペギー葉山スペシャル「SUPER LADY LIVE 2002」(東京音楽文化協会)	10.22 (1)	1	S=10,000／A=8,000／ペア=16,000	1,156	800	69.2	
谷村新司「LA STRADA V」(キョードー東京)	10.23~11.9 (18)	12	1F=10,000／2F=8,000	13,913	12,952	93.1	
透明人間の蒸気 (RUP)	11.11~12.1 (21)	15	S=8,500／A=7,500	16,440	14,073	85.6	
スターダンス in 上海(シアタードラマシティ)	12.5~8 (4)	5	S=8,400／A=6,300／立ち見=5,500	5,960	5,706	95.7	
日本有線放送大賞 (TBS)	12.11~13 (3)	1	招待	1,110	812	73.2	
壱陽来復 (鬼太鼓座)	12.14 (1)	1	5,000	1,120	899	80.3	
渡辺真知子コンサート(キョードー東京)	12.15~16 (2)	2	6,500	2,312	1,581	68.4	
荒木一郎 2002 in 青山劇場(ムージャック)	12.19 (1)	1	6,000	1,150	1,059	92.1	
古内東子コンサート (ディスクガレージ)	12.20 (1)	1	5,500	1,204	1,086	90.2	

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
松居慶子クリスマス・コンサート（ザ・カンパニー）	12.21 (1)	1	7,000／立ち見＝6,000	2,364	2,138	90.4	
アニークリスマスコンサート（日本テレビ）	12.22~23 (2)	4	S＝5,000／A＝4,800	4,672	4,228	90.5	
RED（ハルプロデュース）	12.27~28 (2)	2	S＝7,000／A＝5,000	2,304	1,739	75.5	
サクラ大戦帝国歌劇団・花組 2003年新春歌謡ショウ「初笑い七福神」（レイネット）	12.29~ H15.1.7 (7)	9	SS＝9,000／SS見切れ席＝5,000／S＝7,000／A＝4,000／ファミリー券＝12,000	10,404	8,100	77.9	
2003都民芸術フェスティバル（東京都生活文科局）	1.10~11 (2)	1	招待	1,160	943	81.3	
林英哲 meets 山下洋輔「乾坤値千金」（楽インターナショナル）	2.15 (1)	1	6,500	1,162	1,080	92.9	
オケピ！（パルコ）	2.17~3.31 (43)	28	SS＝12,600／S＝10,500／A＝8,400／B＝6,300／立ち見＝5,000	30,352	29,896	98.5	
（貸し館　小計）	(269)						
（青山劇場　合計）	(281)						

2. 青山円形劇場

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
月猫えほん音楽会2002	7.22~25 (4)	5	招待	1,750	1,611	92.1	
ダンスビエンナーレ TOKYO 2002	8.11~18 (8)	8	4,000（前売3,800）	1,634	1,092	66.8	
日本の太鼓	8.19~20 (2)	4	4,500（前売4,000）	544	298	54.8	
おじいちゃんの夏	8.21~29 (9)	14	3,000	4,515	3,207	71.0	
CELL−lean BLUE	9.12~15 (4)	4	3,500（前売3,000）	766	552	72.1	
クラブ・オブ・アリス	9.30~10. 24 (25)	25	6,300	9,257	8,744	94.5	
上田遥ダンスリサイタル	10.25~27 (3)	3	5,000	767	660	86.0	
ア・ラ・カルト	12.3~26 (24)	24	3,000	9,239	8,633	93.4	
キリンファミリーオペレッタ「とびこむ絵本」	12.27~ H15.1.8 (10)	12	2,800	4,296	3,821	88.9	
サーティデラックス「MAYA−K」	1.15~21 (7)	9	4,300（前売3,800）	2,092	1,690	90.8	
ジゼル「お察しします」	1.22~24 (3)	3	4,000（前売＝3,800）	840	426	50. 7	
日本のふるさと弦楽器	1.25~26 (2)	2	3,500（前売3,000）	532	262	49.2	
HIMIKO	3.28~30 (3)	4	4,500（前売4,000）／ペア＝7,000	830	417	50.2	
（自主・提携公演　小計）	(104)						
〈内部利用〉							
こどもフェスティバル	5.2~6 (5)	11	無料	3,282	2,697	82.2	企画研修部
第17回マタニティ・コンサート	7.6~7 (2)	1	〃	376	263	69.9	小児保健部
キンダー・フィルム・フェステバル	8.8~10 (3)	6	〃	1,674	1,102	65.8	AV事業部
おひさまおはなしコンサート	H15.1.11~12 (2)	2	〃	688	647	94.0	企画研修部
三味線のつどい	1.13 (1)	1	〃	325	213	65.5	音楽事業部
ぼくらのサウンド2003	3.21~23 (3)	5	〃	1,181	852	72.1	〃
（内部利用　小計）	(16)						

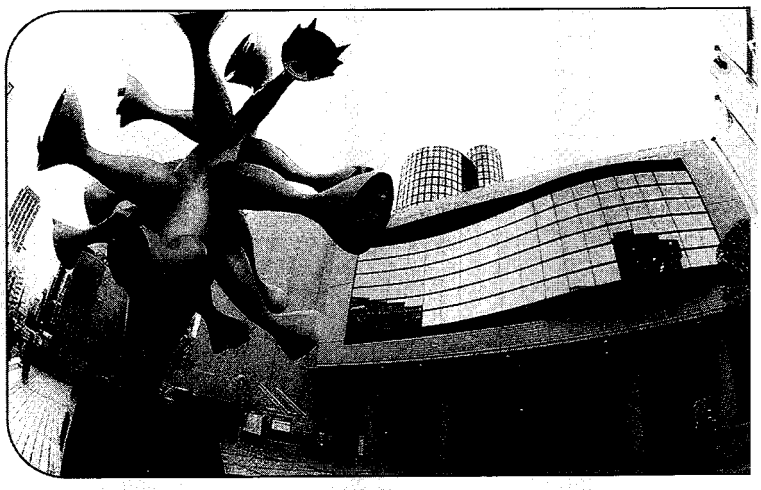
名　　称	日　　時	回数	料　　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈貸し館〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
バラ売りの人生ーラビアン・ローズ(魁文舎)	4.2~7 (6)	6	4,300 (前売4,000)	1,576	1,330	84.4	
LIVING IN TOKYO~スローライフ宣言~ (J-WAVE)	4.8 (1)	1	招待	324	290	89.5	
夢の海賊 (TYPES)	4.9~14 (6)	7	3,500 (前売3,200)	1,323	1,126	85.1	
魑魅魍魎的 (松本幸四郎事務所)	4.15~16 (2)	2	8,000	686	615	89.7	
PONTABOX meets YOSIDAMINAKO 「GOSH」TOUR (バグコーポレーション)	4.17~18 (2)	2	7,500 (前売7,000)	753	657	87.3	
Mi-Ner-Va (フェームカンパニー)	4.19~20 (2)	3	4,300 (前売3,800)	756	483	63.9	
すがはらやすのりライブ (すがはらやすのり音楽事務所)	4.21~24 (4)	3	6,000	913	846	92.7	
鶴瓶噺2002 (デンナーシステムズ)	4.26~30 (5)	5	4,200	1,835	1,717	93.6	
ダウンタウンフォーリーズ (ニッポン放送)	5.7~19 (13)	14	アリーナ=8,000／S=7,500 (前売7,000)	4,300	3,386	78.7	
頑張れ！ 難病と闘う人々 チャリティ・コンサート (鴻池薫オフィス)	5.20~26 (7)	7	6,000	2,072	1,573	75.9	
琵琶伝 (振津郁江)	5.29~31 (3)	2	4,000 (前売3,500)	362	292	80.7	
予期せぬ出来事がいっぱい (劇団ステージドア)	6.1~2 (2)	3	2,500	948	825	87.0	
南総里見八犬伝 (AOYAMAダイナマイトバレエ団)	6.6~9 (4)	5	6,000 (前売5,500)	1,240	1,123	90.6	
東京三騎会月例会 (東京三騎会)	6.11 (1)	1	招待	306	297	97.1	
セー・オ・キューブ(ラ ダンスコントラステ)	6.13~16 (4)	4	5,000	1,204	796	66.1	
地獄八景亡者戯 (AGAPE store)	6.17~25 (9)	10	4,000	3,180	2,856	89.8	
Over The Sky (NEVER LOSE)	6.26~27 (2)	2	3,000／ブロック指定=2,000／学生=2,000	1,103	813	73.7	
汽車はイーハトーボを越えて (レオ・コーポレーション)	6.28~30 (3)	5	4,000	1,538	1,142	74.3	
Live cafe music #5 (オズエンターテイメント)	7.3~5 (3)	3	6,500	1,050	901	85.8	
田原総一郎の熱論90分 (テイクシステムズ)	7.10 (1)	1	無料	300	280	93.3	
中西俊博コンサート (ミュージックハウス・モズ)	7.11 (1)	1	5,500 (5,000)	376	263	69.9	
パディントンとコンサートに行こう！ (アリオン音楽財団)	7.12~13 (2)	2	3,500	736	382	51.9	
光原エミカ チャリティー コンサート (ライトエージェンシー)	7.14 (1)	2	昼=招待／夜=10,000	584	392	67.1	
アラビアンナイト (文学座)	7.26~8.7 (13)	15	5,500／学生=3,800／小中学生=2,800	3,900	3,463	88.8	
マクベス (TYPES)	9.3~8 (6)	6	3,500 (前売3,200)	1,741	1,416	81.3	
紫炎 (code"M")	9.10~11 (2)	2	4,500 (学生3,000)	299	209	69.9	
愛の嵐 (アールユービー)	9.16~29 (14)	16	4,800 (前売4,500)	5,226	4,874	93.3	
エデンの南 (ドリス&オレガ)	10.28~11.16 (20)	21	7,000	7,260	6,464	89.0	
ファッションショー(早稲田大学繊維研究会)	11.17 (1)	2	1,000	608	524	86.2	
メタファンタジア 「眠りの森の・・・」 (楽園王)	11.18~21 (4)	3	3,000 (前売2,700) ／ペア=5,000	714	484	67.8	
バルバラを踊る (アキコカンダダンスカンパニー)	11.22~24 (3)	3	4,000	675	632	93.6	

名　　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
田原総一郎の熱論90分（テイクシステムズ）	11.25 (1)	1	無料	300	280	93.3	
放下15　（シューツ&ルーツ）	11.26 (1)	1	3,500（前売3,000）／学生2,500（前売2,000）	261	119	45.6	
創作舞踊展　（創作舞踊展）	11.29～12.1 (3)	3	5,000	876	527	60.2	
E－Train　（トニーティー）	H15.1.9 (1)	1	4,000（3,500）	164	128	78.0	
奥さまお手をどうぞ　（劇団俳協）	1.27～2.2 (7)	6	4,200	1,642	1,054	64.2	
1989　（ヴィレッヂ）	2.3～16 (14)	12	3,800	3,256	2,905	89.2	
砂の女　（ヴァサンタマラ印度舞踊研究所）	2.17 (1)	1	6,500（前売6,000）	258	113	43.8	
RとJ　（ジンジャントロプスボイセイ）	2.19～23 (5)	5	3,500（前売3,000）	970	433	44.6	
欠片たちの檻　（日本映画学校）	2.25～3.3 (7)	6	2,000	1,422	1,109	78.0	
ZIPPER（ジッパー）（ネルケプランニング）	3.5～11 (7)	7	4,500（前売4,000）	1,911	1,806	94.5	
チャイルドシート安全装着シンポジウム（チャイルドシート連絡協議会）	3.12 (1)	1	無料	224	81	36.2	
ノッキング・オン・ヘヴンズ・ドア（TYPES）	3.13～16 (4)	5	3,500（前売3,200）	1,460	1,184	81.1	
泣き虫桃太郎　（現代人形劇センター）	3.17～20 (4)	6	3,500（前売3,000）／学生2,500（前売2,000）	1,152	817	70.9	
非常麻将　（アゴラ企画・青年団）	3.24～27 (4)	3	3,500（前売3,000）／学生＝2,000／高校生以下＝1,500	621	410	66.0	
アラビアンダンス（国際アラビアンダンス協会）	3.31 (1)	1	5,000	242	161	66.5	
（貸し館　小計）	(208)						
（青山円形劇場　合計）	(328)						

3. その他

名　　称	日　時	定　員	内　　容
ダンスビエンナーレ TOKYO 2002～バニョレ（フォーラム）			
「ダンスから世界が見える」	7.6	50	講師＝松川眞一郎、安田敬ほか　(研修室)
「世界のコンテンポラリーダンス」	8.6	〃	講師＝西田留美可、堤広志ほか　(〃)
「ダンスと美術・映像」	8.7	〃	講師＝伊東順二、松島誠　(〃)
「アジアのダンス・現在」	8.8	〃	講師＝ユーリ・ン（香港）、白井剛ほか　(〃)
「ダンスの新しいうねり」	8.10	〃	講師＝石井達朗、榎本了壱ほか　(〃)
「カナダにおけるアートマネージメント」	8.11	〃	講師＝シャルタン・ポンブリアン（カナダ）　(〃)
ダンスビエンナーレ TOKYO 2002～バニョレ（ワークショップ）			
「コンテンポラリー・テクニック」	8.6・7	各日25	講師＝岩淵多喜子　(Bリハーサル室)
「Meets the Artists」	8.8	25	講師＝アマンダ・ミラー（ドイツ）　(〃)
「　〃　」	8.9	〃	講師＝カルメン・ワーナー（スペイン）　(〃)
「ボイスとダンス」	8.15	〃	講師＝山田うん、足立智美　(〃)
「こどもとコンテンポラリーダンス」（小学生対象）	8.15	〃	講師＝北村成美　(〃)
「　〃　」（中学生対象）	8.16	〃	〃
「こどもの城合唱団のボディーワーク」	8.10	75	講師＝サラ・ウイリアムズ（カナダ）　(〃)
日本の音楽シリーズ～日本の太鼓（小学生～一般対象ワークショップ）			
「太鼓を打つ」	8.19・20	各日50	講師＝林英哲　(青山円形劇場)
「太鼓の音」	〃	各日30	講師＝大倉正之助　(音楽ロビー)
「民謡の大きなリズム」	〃	〃	講師＝木津茂理　(フリーホール)
日本の音楽シリーズ～日本のふるさと弦楽器（小学生～一般対象ワークショップ）			
「ごったんと三味線（楽器制作と演奏）」	H15.1.25	30	講師＝本條秀太郎　(フリーホール)
「ムックリ（演奏）」	〃	〃	講師＝直川礼緒　(音楽ロビー)
「長唄三味線（演奏）」	1.26	〃	講師＝東音田島佳子　(フリーホール)
「かんから三線（楽器制作と演奏）」	〃	〃	講師＝金城実　(音楽ロビー)

広報部



平成14年度の活動

1．はじめに

広報部の仕事は、一言で言えば、〔こどもの城〕を多くの人に知ってもらう（伝える）ことである。では、なにを知ってもらいたい（伝えたい）のか？　これが、簡単なようで、実はたいへん難しい問題なのである。

“知ってもらう（伝える）”ためには、“知ってもらいたい（伝えたい）こと”がなければならない。〔こどもの城〕の存在そのもの、何をめざして活動しているのか、そのためにどのような活動をしているのか――など“知ってもらいたい（伝えたい）”ことはたくさんある。しかも、催しに参加してもらうための案内から、生活の中で子どもの“育ち”を考えようという啓発・働きかけまで、さまざまなレベルがある。その上、取り扱う分野も心や体の健康、文化・芸術など多岐にわたり、“知ってもらいたい（伝えたい）こと”は無数にある。

無数にある“知ってもらいたいこと”をすべて伝えることは不可能に近い。また、たくさんの情報が並ぶことによって、一つひとつの情報が目立たなくなるという事態にもなりかねない。そのため、そのなかから選択し、状況に応じて絞り込むことが必要になる。このとき、組織としての〔こどもの城〕の“判断”――“意志”が重要な意味を持ってくる。なにをめざして、どのように活動していくのか、運営する姿勢・方針にかかわってくるので、広報部という〔こどもの城〕の一部門だけでは対応できない問題になってくる。

とはいっても、人の集合体である組織は思うようにいかないのが常であり、さまざまな人の意見を聞きながら“知ってもらいたい（伝えたい）こと”は何か、を自問しながら広報活動をしているのが現状である。

行政機関をはじめ、あらゆる企業体で情報開示が課題になってきている。情報開示というのは、持っている情報をただ開示するという狭い意味に理解すべきではなく、なにを考え、なにをしようとしているのかを分かってもらおうという意図を持った、パブリック・リレーション作りのための情報開示という考え方をしていかなければならないのではないだろうか。

催しのお知らせという、ともすれば一方通行になりがちな情報提供だけでなく、〔こどもの城〕の存在・活動への理解を得るための情報提供を考えていかなければならない。なにを知りたいのかに応えると同時に、なにを伝えたいのかという〔こどもの城〕の姿勢がたいせつになる。

2．パブリック・リレーションズ

長期的な視点にたって、〔こどもの城〕が“知ってもらいたいこと”を伝えていくのがパブリック・リレーションズ（PR）といえる。児童福祉（厚生）施設である〔こどもの城〕を認知してもらうという消極的な考え方だけではなく、児童福祉（厚生）の大切さや必要性を積極的に働きかけることが重要と考えている。“大きな児童館”というのであれば、前者の範囲でPRを考えればいいかもしれないが、全国の児童館の“センター的役割”を果たす施設であるとすると後者の積極性が要求されてくるだろう。

「こどもの城ニュース」の編集・発行、各種ちらし・ポスターの作成、各種メディアとの対応など、さまざまな機会・媒体を使って“知ってもらいたい（伝えたい）こと”が広く行き渡るように努力している。

そのためには、情報の整理・加工が重要になってくるが、

まだ十分な対応ができていないのが現状である。

（ア）「こどもの城ニュース」の編集・発行

〔こどもの城〕の利用者や周辺の学校、幼稚園、保育所などのほか、都道府県児童館連絡協議会をとおして全国の児童館・児童センターに配付している。

編集にあたっては、〔こどもの城〕の催し物の案内におわるのではなく、それぞれのプログラムが意図するもの――子どもたちが生活を豊かにするために考えてほしいこと、気づいてほしいことなど――まで伝えられればと考えて紙面作りをしている。

4月から実施された学校週5日制に対応して、土曜日を中心に小中学生を対象としたプログラムを充実させていくことになった。「こどもの城ニュース」でも土曜日の小中学生向けプログラムの紹介に重点を置いた。

「こどもの城ニュース」は、B3判、表面4色（カラー）・裏面1色印刷、各号25,000部発行。主な配付先は下記のとおり。

都道府県児童館連絡協議会など……	6,350部
こどもの城友の会……	約2,000部
都道府県民生主管部……	1,156部
保育所、幼稚園、小・中学校（渋谷区、港区）……	390部
渋谷区町内会長ほか……	202部
その他（一般入館者、招待者見学・視察者など）……	約15,000部

（イ）「こどもの城写真ニュース」

公共の場などでよく見られる、新聞各社の写真ニュースのような「こどもの城写真ニュース」を館内の壁面に掲示している。DTPソフトを使ってパソコンで作成。A3判サイズ・カラー。毎月20日に更新している。

取り上げている内容は、直近に行われた各種の活動（健全育成関係者への講習会などから季節のイベントや日常プログラムなど）。それぞれの活動が、楽しさやおもしろさだけではなく、子どもにとって意味のある遊びであることを伝えると同時に、多彩な活動をしていることをアピールしている。

“終わった”活動を取り上げる理由は、館内に掲示されているポスター・配付されているちらしなどは“お知らせ”がほとんどであること、自分が参加した活動以外のようすを利用者が知る方法が少ないこと――などによる。

（ウ）取材対応・パブリシティ（情報提供）

〔こどもの城〕は、子どもを持つ家族向けの情報として取り上げられることが多く、多数の問い合わせがある。最近の傾向としては、印刷（活字・紙）媒体だけでなく、インターネットなどの電子メディア関連からの問い合わせが多くなってきている。

雑誌関係（特に月刊誌）の原稿締切りは早く、ゴールデンウイークの前後には、夏休みの催し物の問い合わせがくる。すべてが決まってからでないと情報が提供できないという考え方ではなく、大枠の情報から具体的な情報へと段階を追って提供する方法も検討しなければならない。プログラムを企画する側の都合もあれば、多くの人に情報を伝えてくれる媒体の都合もある。両者の間で調整しながら、現実的な対応を心がけている。

問い合わせを受けた媒体へは、毎月1回定期的に1～2か月先の〔こどもの城〕の情報（催し物の案内等）を送付している。新聞社などのマスコミから地域のミニコミなど約160社。ファックス、Eメール、郵送などさまざまな方法を取っている。特別期間のプログラムや講座・クラブ受講生募集の案内なども随時送付している。

本年度の取材件数は、新聞28件、雑誌26件、テレビ・ラ

【「こどもの城ニュース」の主な内容】

	発行日	内容	発行部数
第126号	平成14年4月15日	〈あそび〉で体験～スポーツ、音楽、造形、科学……そして、生活 ～土曜日の小・中学生向けプログラム	25,000部
第127号	〃 5月15日	〈あそび〉をつくり、みんなで楽しむ ～10代前半の子どもたちのための“遊びのクラブ”～ユースクラブ	〃
第128号	〃 6月15日	“街”でみつけて、“自然”を楽しむ～〔こどもの城〕の保育活動から	〃
第129号	〃 7月15日	映画って、おもしろい～世界中から大集合。見るだけではなく、ワークショップもいっぱい ～10回目をむかえた「キンダー・フィルム・フェスティバル」	〃
第130号	〃 8月15日	土曜日は〔こどもの城〕へ～小・中学生向けプログラムがいっぱい	〃
第131号	〃 9月15日	元気印〈あそび〉はじけた夏休み	〃
第132号	〃 10月15日	折り紙で「私たちの街」～全国児童館おりがみ作品展	〃
第133号	〃 11月15日	楽しみ方いろいろ“遊びの空間”～〔こどもの城〕のプレイホール	〃
第134号	〃 12月15日	昔遊びのおもしろさ再発見！	〃
第135号	平成15年2月15日	子どもたちにいろいろな体験を～家庭といっしょに子育てを考える「保育クラブ」	〃
第136号	〃 3月15日	体全体で音楽感じる～「世界なりきり！　ハリキリダンス！」（春休みプログラム）	〃

ジオ14件、その他（電子メディアなどを含む）139件の合計207件である。

3. 宣伝・広告

講座・クラブの受講生募集のように、対象とする人の地域が限定されるものは、地域を限定して配付できるものが効率的だし、特別期間の案内のように多くの人に知ってもらいたいものは広範囲に伝わるものが望まれる。〔こどもの城〕側がどのような情報をだれに伝えたいか――宣伝したいことがらを明確にして、予算のゆるす範囲内で最良の宣伝方法を模索している。

（ア）新聞広告

夏休み特別期間の告知、講座・クラブの新年度受講生募集のお知らせなど、別表のような宣伝活動を行った。

夏休み特別期間は、都営地下鉄とのタイアップ広告（沿線の観光案内のポスターの下部に広告を掲載）を行い、都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両に、14日間掲示した。講座・クラブの新年度受講生募集の際には、毎週の通いが可能と思われる地域（ドア・ツー・ドアで1時間程度の範囲）での新聞折り込み・各戸へのポストインに重点を置き、補助的に新聞広告を行う形にして経費の節約に努めた。

また、小学生向けメディアである朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に、折々の話題を取り上げ記事広告の形で出稿している。

（イ）ちらし・ポスターなど

学校の週5日制に対応して、年度始めに土曜日の小中学生向けプログラムへの参加を呼びかけるちらしを企画研修部の要請を受けて作成した。学年雑誌の図解ページのイメージをふまえたデザインにし、小中学生向けのちらしであることを明確にした。文章に会話形式を採り入れるなど、一方通行のお知らせになりがちなちらし作りとは異なる方法で作成した。子どもたちには、親しみやすいちらしになった。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、夏休み、冬休み、春休みの各特別期間に催し物案内のちらしを作成した。冬休み特別期間のちらしは1色刷りで、ポスターを作成せず、他の3つの特別期間は、従来通りの4色・1色のちらしと同じデザインのポスターを印刷した。

また、講座・クラブの一覧（新年度講座・クラブ）を作成し、新聞折り込み・ポストインにも使用した。

ちらし等は、資料請求したことのある人をリストアップして、ダイレクトメールを送るようにしている。

4. その他

（ア）渋谷スタンプラリー

夏休み特別期間恒例の「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加。「NHKスタジオパーク」「電力館」「たばこと塩の博物館」「東京都児童会館」「こどもの城」の5館で実施した。

渋谷駅周辺にある各館が、協力して施設の存在と活動をPRするのが目的。5館の情報交換の場ともなっている。

（イ）その他

〔こどもの城〕のホームページは、企画研修部で管理している。広報部では、プレスリリースや各種ちらし作成時

【掲載した新聞広告の一覧】

掲載紙	形式	日時	内容
毎日小学生／中学生新聞	タブロイド3段	平成14年4月18日	児童福祉週間特別期間の催し物案内
朝日新聞（都内各版）	全5段ほか	平成14年7月5日～8月31日	夏休み特別期間の催し物案内
朝日少年少女スポーツ（埼玉）	半2段、半3段	〃　7月17、31日	
朝日小学生新聞	全5段	〃　7月14日	
毎日小学生／中学生新聞	タブロイド3段	〃　7月12日	
東京新聞（東京中日スポーツ）	全5段、半5段	〃　7月13、15、18、27日	
毎日新聞	全5段	〃　7月23日	
朝日小学生新聞	全5段	平成14年12月19、26、27日	冬休み特別期間の催し物案内
東京新聞	〃	〃　12月20日～平成15年1月5日	
毎日小学生／中学生新聞	タブロイド3段	平成15年1月1日（新年号）	
朝日新聞　都内各版	全5段ほか	平成15年1月26日～3月21日	平成15年度第1期講座・クラブ受講生募集
朝日小学生新聞	全5段	〃　2月12日	
毎日小学生／中学生新聞	タブロイド3段	平成15年3月21日	春休み特別期間の催し物案内
朝日小学生新聞（特約）	記事広告	毎月1～2回	記事広告の形で、さまざまなプログラムを紹介
毎日小学生新聞（特約）	〃	年6回	
東京新聞（東京中日スポーツ）	全5段、半5段	1～2回／月（不定期）	D. H. C. の案内

【作成した印刷物などの一覧】

名　　称	発行部数	内　　容
平成15年度講座・クラブ一覧	200,000部	15年度全講座・クラブの案内（B4版2色4ページ）
こどもの城の案内（和文）	260,000部	12月に一部改訂して増刷
〃　（英文）	15,000部	12月に一部改訂して増刷
その他（各種ちらし・ポスター）	200,000部	GW、夏休み、冬休み、春休みの催し物案内（英語版もあわせて作成） 講座・クラブなどの募集案内（2期、3期、夏休み短期講習会）
土曜日プログラムのちらし	55,000部	土曜日の小中学生向けプログラムの紹介

【その他の広報活動】

名　　称	日　　時	内　　容
都営交通車内つりポスター	7月28日～8月10日	都営交通のタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に14日間にわたって掲出した（約3,800枚）。
新聞折り込み サンケイリビングのポストイン	平成15年2月11日 〃　15日	平成15年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の読売新聞・毎日新聞の朝刊（計30.450部強）に折り込み広告を実施。本年度新たにサンケイリビングの各戸ポストイン（200.000部強）も行った。
ＪＲ渋谷駅（玉川口）案内看板	通年	山手線外回りホーム（玉川口）横の、駅周辺案内図に広告掲載

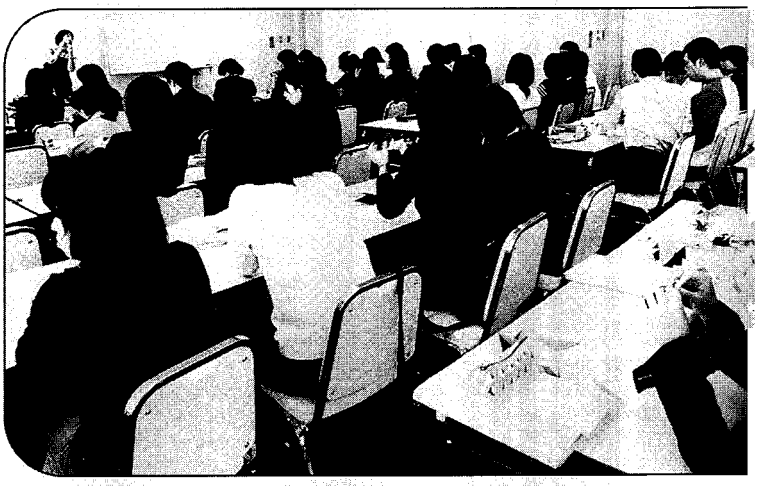
のデータを二次利用の形で提供している。

5. まとめ

年度末に起こったイラク戦争が“メディア戦争”と呼ばれたように、それぞれの正当性（相手の非合法性）を世界に訴えるメディアコントロールが注目を集めた。アメリカは、民間の優秀な広告代理店のスタッフを雇い入れて広報戦略を練り、展開した。結果的には十分な効果があげられず解雇されてしまったが、“情報”の重要性が広く知られることになった。同時に“情報”とはなにか？　信頼性は？など、具体的な事例（例えば、アメリカ側の発表とイラク側の発表の食い違いなど）を目の当たりにして、さまざまなことを考えさせられることになった。

広報の仕事は、まさに“情報”を扱うことにある。児童福祉（厚生）施設として、また各地の児童館などの“センター的役割”をはたすために、〔こどもの城〕はどのような情報をどのように提供していけばよいのか、考えなければならないことは多い。

利用者サービス



平成14年度の活動

1．業種別の状況

（ア）宿泊施設

宿泊施設の利用状況を見ると、客室利用率は和洋室全体で86.1％、客数利用率では70.0％となっており、前年度に比べ客室利用率で 1.1％の増加、客数利用率で 1.6％の増加となった。客数利用率が客室利用率に比べて低いのは、ツインルームのシングルユースおよび和室の利用人員が客室定員より少ない場合が多かったためである。

3室しかないシングルルームの利用率は、窓のない部屋であるにもかかわらず、97.1％と極めて高率であり、ツインルームのシングルユースも30.5％と利用率が高く、シングルルームの需要が高い。

平成13年4月から始めたインターネット予約の売上高は全体の9.8％を占め、客室・客数の利用増に寄与している。

前年度に引き続き、旅行情報誌、ホテルガイドへの広告の掲載や関係団体の全国会議でのパンフレットの配付など宣伝に努めた。

【宿泊施設の利用状況】

客室種別	利用客室数	客室利用率	利用者数	客数利用率
シングル	1,025室	97.1%	1,025人	97.1%
ツイン	6,191室	87.7%	11,071人	78.4%
和室	665室	63.0%	3,188人	47.7%
合計	7,881室	86.1%	15,284人	70.0%

(1) 客室利用率＝$\frac{\text{利用客室総数}}{\text{営業日数(352日)}\times\text{販売可能客室数(26人)}}\times 100$

(2) 客数利用率＝$\frac{\text{利用客総数}}{\text{営業日数(352日)}\times\text{収納可能客数(62人)}}\times 100$

※総客室数は27室、総定員は64人だが、このうちツイン1室を予備室としているため、販売可能客室数は26室、収容可能客数は62人とした。

（イ）研修室・ギャラリー

研修室利用率は合計で66.2％となり、前年度より2.8％増加した。

外部への有料貸しのほか、〔こどもの城〕の企画による催事などにも利用されている。とりわけ春・夏・冬休み、ゴールデンウイーク（児童福祉週間）などの特別期間中は、研修室、ギャラリーの内部利用の割合が極めて高く、限られたスペースでの充実したプログラム作りに寄与している。

（ウ）その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理などについては、前年度に引き続き〔こどもの城〕事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。

【貸し室の利用状況】

客室種別		有料利用		内部利用		計	
		件数	利用率	件数	利用率	件数	利用率
研修室	午前	1,861	52.7	275	7.8	2,136	60.5
	午後	2,612	73.8	286	8.1	2,898	81.9
	夜間	1,347	46.5	216	7.5	1,563	53.9
	合計	5,820	58.4	777	7.8	6,597	66.2
ギャラリー		43	12.0	240	67.0	283	79.0

(1) 客室利用率＝$\frac{\text{各室を午前・午後・夜間各1件とした場合の年間利用件数}}{\text{年間営業可能件数}}\times 100$

※本年度における年間営業可能件数は、午前3,530件、午後3,540件、夜間2,898件の合計9,968件（日曜日・祝日の夜間休業のほか、じゅうたんクリーニング、工事などのため利用不能となった件数を除く）。

(2) ギャラリー利用率＝$\frac{\text{利用日数}}{365\text{日}-(\text{年末年始5日}+\text{基幹停電日1日})=359\text{日}}\times 100$

〔こどもの城〕の利用を促進しくいくうえで、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

平成14年度の概要

1．業務の一覧

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月28日～1月2日を除く）	洋室24室（シングル3、Aツイン10、Bツイン11） 和室3室（4人用1、5人用1、10人用1） ※1泊6,400円（税別）～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用できる。利用人員350人ぐらいまで	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝9：00～21：00	研修および会議など ※1単位時間11,500円～（税別）
	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝10：00～18：00	各種展示会および実演など ※1日30,000円（税別）
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時＝「こども活動エリア」の開館日時と同じ 毎週月曜日休業（月曜日が祝・休日のときは火曜日） 土・日曜日、祝・休日、春・夏・冬休みの特別期間＝10：00～17：30 その他の平日＝12：30～17：30	がん具、文具、造形用品、音楽用品、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨、フィルムなど
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 15か所 たばこ 6か所 フィルム 1か所 テレホンカード 2か所	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類、カップ麺類
公衆電話		館内各所	15か所 19台	無休	
駐車場		屋内（地下2階～地下4階）、屋外（1階）	約126台 （業務車両分含む）	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝8：00～22：00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外（1階）に駐車 ※普通車両 30分 300円（税込み） マイクロ車 1時間 840円（〃） 大型車 1時間1,260円（〃）
飲食関係	カフェテラス「アンファン」	1階	客席数 140	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝7：30～19：00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕出し、パーティー、宿泊施設利用者の食事など
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下および2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間＝開演前・幕間	喫茶、軽食

3

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ



平成14年度の活動

1．はじめに

〔こどもの城〕のセンター的な機能の充実は、重要な課題であり、本年度についてもさまざまな取り組みを行った。特に、全国的な児童館活動の充実を目的とした事業のほかに、もう少し視野を広げて地域の子育て支援やボランティア活動の活性化を目的とした事業にも取り組んだ。

児童館活動の充実を目的とした事業として、こどもの城児童厚生員等実技指導講習会、〈動くこどもの城〉事業、講師の派遣や実習生・研修生の受け入れなどと、社会福祉・医療事業団子育て支援基金助成事業「小・中学生ボランティア交流事業」「こどもの城ファミリーフェア事業」を実施した。

また、地域の子育て支援活動の充実を目的とした、社会福祉・医療事業団子育て支援基金助成事業「子育てサークルネット支援事業」のほか、厚生労働省と財団法人こども未来財団が主催した「子育てサークルリーダー研修事業」を実行委員会の一員としてコーディネートした。

（ア）児童厚生員対象の講習会

【こどもの城児童厚生員等実技指導講習会】

本年度も2日間にわたる通い型1回、2泊3日の宿泊型2回、計3回の講習会を行った。

1回目は5月22・29日の2日間の通い型。40人の参加者を 迎え「パソコン遊びのワークショップ」のテーマで行った。〔こどもの城〕のパソコン遊びのプログラムは、パソコンの操作に終始するだけでなく、遊びの道具として使う展開を心がけてきた。今回の講習会でもカレンダーやクラフト制作のツールとしてパソコンを使用するプログラムを紹介した。参加者のパソコンへの習熟度によって制作時間に差がでてしまった点など、今後一考の必要があると感じた。

2回目は10月23～25日に宿泊型。あやとり、メンコ、こま、けんだま、折り紙といった伝承遊びについて講習を行った。伝承遊びはほとんどの参加者が扱ったことのあるテーマであったが、その遊びの持つ文化的背景や子どもに対する技術的な指導方法など、遊びの持つ奥行きの深さを学ぶ講習会となった。

3回目は平成15年1月22～24日。2泊3日の宿泊型で、テーマは「つくる 育む　子育てサークル～児童館の子育て支援とは～」。基本的なレクチャー、子育てサークルの現場へのフィールドワーク、それに基づいたワークショップで構成。児童館でも乳幼児連れの母親や子育てサークルへの支援を求められている所も多く、タイムリーなテーマ設定であった。地域により子育てサークルの数や活動内容にかなり差があるため、児童館の求められている対応も幅があり、講習内容をどのようにしぼりこんでいくか迷ったというのが卒直な感想である。

【その他の講習会】

児童厚生員等実技指導講習会のほかに、一般来館児・者向けの催しとリンクした形での指導者向け講習会「つくって演じる人形劇」と「おりがみにつよくなる講習会」を実施した。どちらの講習会も大変好評であり、今後も続けて

（イ）研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、本年度37人を受け入れた。特に、平成15年5月に開館予定の岩手県立児童館「いわて子どもの森」から、5日間程度の研修を数回にわた

って受け入れた。「こども活動エリア」で実習的な研修を行ったほか、プログラムの立案・広報・安全管理など多岐にわたる研修を実施した。〔こどもの城〕としても研修プログラムの企画をとおして、活動内容を再認識したことも多く、施設の運営全体にかかわる研修を今後も続けていきたいと考える。

実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学などの科目履修を目的とした実習の場として、学生を受け入れたものである。本年度は24人の実習生を受け入れた。このなかには、近年増加傾向にある職場体験的なインターンシップ、日産自動車(株)が実施しているNPOラーニングシステムでの奨学生受け入れも含まれる。指導、教育の伴う実習生は、受け入れ側には時間のかかる仕事であるが、〔こどもの城〕の社会的役割を果たす上でも必要な事業として今後も継続していきたい。

(ウ) 講師派遣

地域で開催される児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕のスタッフが講師として招かれる例が年々増加している。本年は133件にのぼった。今後さらにこうした要望が多くなることも予想され、〔こどもの城〕の事業などに影響の出ないように、一定のルール作りが必要だと感じている。

2. 動くこどもの城

別掲のプログラムのなかから、巡回支援活動で19都道府県37か所（前年度22か所）に派遣した。このうち児童館の制作による「全国児童館おりがみ作品展」が12か所と最も多かった。また、巡回実技指導事業(講習会)を19都道府県25か所(前年度18か所)に派遣した。

本年度からの新規プログラム「忍者マスター決定戦〜レクリエーションゲーム大会の演出プラン」は、事前に研修会を行ったのち、参加者とともに子ども向けプログラムを実施する形態で行った。研修会での理解度を確認できることもあり、地域へのプログラム普及を目的とした〈動くこどもの城〉事業としては有効な方法。ほかのプログラムへの応用ができないか、今後検討していきたい。


〈動くこどもの城〉「みんなで遊ぼうパペットランド」

平成6年度に始まったこの事業も9年を経過して、新たな方向性を示す時期に来ている。プログラムの量的、質的なそろえ方、講師派遣や〔こどもの城〕で行う講習会との区分、一般事業とのバランスなど早期に明確な方向性を持ちたいと思う。

3. 助成金による事業

本年度は、児童館に対するセンター的な役割を充実させていくために、4つの助成金による事業に取り組んだ。社会福祉・医療事業団の子育て支援基金助成事業として、3年計画の最終年度となった「こどもの城ファミリーフェア事業」「小・中学生ボランティア交流事業」のほか、2年目の「子育てサークルネット支援事業」に取り組んだ。日本財団の助成を受けて、絵本の読み語り公演「わくわく絵本パーク」も実施した。

「こどもの城ファミリーフェア事業」は、親子向けのプログラム開発とその啓発活動を中心に実施した。具体的には、絵本の読み語り公演「おひさまおはなしコンサート」を東京と愛媛で開催したほか、親子関係をテーマとした公開講座を3回開催、親子遊びの事例集「おやおや こ・こ・こ2」の発行、さらに3年間の事業をまとめた報告書を作成して全国の児童館に配布した。

「小・中学生ボランティア交流事業」では、全国各地の大型児童館で活動するボランティアによる交流フェスティバル「じょいんフェスティバル」を11月2〜4日に愛媛、平成15年3月8〜9日に岩手、3月15〜17日に富山の3か所で実施したほか、児童館におけるボランティア活動のマニュアルとなる「地域に発進!! ボランティア1・2・3 児童館のボランティアコーディネート」を制作し、全国の児童館に配布し参考に供した。

「子育てサークルネット支援事業」は、地域で活動する子育てサークルのネットワーク化をとおして、子育て支援の具体的な方策を検討する事業。前年度に引き続き、全国20か所でモデル事業を実施した。11月30日に〔こどもの城〕で「全国フォーラム」を開催。年度末には事業の成果をまとめた「みんなで子育て」を作成し、行政の子育て支援担当部署に配布した。

日本財団の助成による「おはなしコンサート事業（わくわく絵本パーク)」は5月3日東京、9月29日山口、11月23日大阪、平成15年2月2日秋田、9日香川の5会場で、声優の語りと音楽による親子向けコンサートを実施した。また、コンサートの開催だけで終わらせるのではなく、地域にこ

うした方法論の活動が定着するように、9月29日山口、11月22日大阪、12月18日仙台、平成15年2月2日秋田、9日香川の5会場でコンサート開催のための講習会を開催した。全国で1,700人の観客と400人近い受講者を集め、開催したすべての地域から歓迎された事業となった。

【その他の共催事業】

厚生労働省・こども未来財団と共催で子育て支援のための具体的な施策として、「子育てサークル リーダー研修会」を全国4か所で行った。10月5・19日帯広市（北海道）、11月29日・12月6日名古屋市、12月3・11日大野城市（福岡県）、平成15年1月16・29日東京の日程で延べ576人の参加者があった。

講習会はサークル活動に必要なコミュニケーションの方法論、幼児期の発達の特徴、地域の子育て情報誌作りの実習、親子遊びの実例紹介、子育てサークルの運営やネットワーク作りについてのディスカッションなど、もりだくさんの内容となった。

市民対象の講習会を〔こどもの城〕以外の場所で行うのが初めてということもあり、運営についてはとまどう点が多かった。しかし実際に子育て中の母親の声を直接聞くことができ、特に「子育てサークルネット支援事業」には多くの示唆を得る機会となった。

4. まとめ

課題は昨年来のままである。センター的機能が〔こどもの城〕の新しい展開の可能性を示唆する一方、機能の拡大が従来業務への負荷となってきている。

〔こどもの城〕の外で行われた事業は、一旦その成果がフィードバックされてこそ、再び外に発信できるものとして結実するのではないか。こうした好ましい循環が事業全体のなかに生れるように、積極的に取り組みながらも業務のバランスに充分配慮していきたい。

平成14年度活動一覧表

1．講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会〉

名　　称	対象・定員	受講数	日　　時	内　　容
	(人)	(人)		
平成14年度第1回児童厚生員等実技指導講習会	児童館職員ほか(40)	40	5.22、29	「パソコン遊びのワークショップ」をテーマに「アプリケーションソフト」「創作・表現遊び」「ペーパークラフト」「パソコン遊びとプログラム提供の準備」の4つの単元にわけて、実際のプログラムを体験しながら児童館でのパソコン遊びの意味と遊びを提供する具体的な方法について考えた。講師はプレイ事業部スタッフ。(パソコンルーム)
〃　第2回 〃	〃 (50)	51	10.23~25	「~古いけれど、新しい~伝承遊び徹底研究」と題して、さまざまな伝承遊びの実技をとおして、テレビゲームに代表される現代の遊びにはない魅力を探った。講師は、日本児童遊戯研究所有木昭久所長、日本こま博物館藤田由仁館長、日本折紙協会津留見裕子師範。(研修室ほか)
〃　第3回 〃	〃 (50)	42	H15.1.22~24	「つくる 育む 子育てサークル~児童館の子育てサークル支援とは~」をテーマにして、首都圏10か所の子育て支援の現場を見て回り、フィールドワークをもとにグループ討議、発表を行うワークショップ形式の講習会を実施した。講師は、小田原女子短期大学吉田眞理さん、江東区子ども家庭支援センター新澤拓治氏さん。(研修室ほか)
つくって演じる人形劇	〃 (計120)	120	8.19、9.9	児童館、保育所、幼稚園などで、子どもたちを前にして本格的な人形劇を演じるための人形作りと、操作方法について、2日間にわたって指導者を対象に講習会を行った。(研修室)
おりがみにつよくなる講習会	〃 (計120)	109	10.28、11.11	児童館、保育所、幼稚園など児童健全育成の現場で使われる折り紙の講習会。1日目は「折り図の見方から装飾まで」、2日目は「立体作品の手法」がテーマ。(研修室)



平成14年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会



平成14年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会

2.〈動くこどもの城〉

〈子どもや家族を対象としたプログラム〉

名　　称	内　　容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ（体育・小児保健）	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんと一緒にできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見する。
身近な道具でスポーツあそび（体育）	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも、そして特定のスポーツの道具として用いることが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開していく。
「おにごっこ」で楽しく体力づくり（体育）	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に伸ばしていたが、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。体力の中でも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームや、遊びのなかで人気があり多彩な「おにごっこ」を存分に楽しむ。
おんがくがスキ！（音楽）	参加者に聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊び、手遊びなどを盛り込み、演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となって、音楽の楽しさをより体験できる参加型のコンサート。
竹の響き「アンクルン・コンサート」（音楽）	アンクルンは、竹で作られたインドネシアの民族楽器。一つの楽器から一つの音しかでない“竹のハンドベル”。アンクルンのほかに、竹のマリンバ、ベースなどと一緒に、童謡やインドネシアの民謡を演奏。竹の優しく素朴な音のハーモニーが楽しめる。参加した子どもたちが体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターで遊ぼう「スーパースターゲッター！」（音楽）	子どもたちとの遊びのなかから生まれたオリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」など、音楽的要素を含んだゲームコーナーが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ（ＡＶ）	２枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ“視覚玩具”の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、制作の難しい複雑な「視覚玩具」も展示。
映像探検　写真ワークショップ（ＡＶ）	日常なにげなく撮っている写真の“写る仕組み”を体験。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップ。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も行う。
こどもの城映画劇場（ＡＶ）	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品――基本的に、〔こどもの城〕フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵された作品から数本を選ぶ――を上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁（NFBC）のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品を約110本収蔵。
みんなで遊ぼうパペット・ランド（プレイ）	人形作りと人形遊びの2つの活動で構成。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたり――イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
パソコン遊びのプログラム（プレイ）	「きれいなグラフィック遊び」、さまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインしてから作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムの中から、いくつかを選択して実施。パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置する。
忍者マスター決定戦（プレイ）	ごっこ遊びの要素を取り入れ、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出。忍者の世界をテーマに、ファンタジーの世界を仲間と共有しながら、交流をはぐくむことをねらいとしたプログラム。
ボランティア交流プログラム（企画研修）	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーと地域のボランティアとの交流プログラム。ボランティアの養成やさまざまな活動についての情報を交換。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名称	内容
造形ワークショップ（造形）	素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材も、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムを何種類かを体験制作。背景となる考え方や発想法についても考える。
不思議な映像実験室（ＡＶ）	“映像の時代”ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは大切なこと。映像の基本的な原理について、遊びをとおして理解させるワークショップ。
手作り楽器のワークショップ（音楽）	“がらくた”として捨ててしまうようなもの（金属の缶やフィルムのケースなど）を生き返らせて、音が出る“音の道具＝楽器”に早変わり。制作終了後には、作った楽器を使って全員で合奏。
打楽器で遊ぶワークショップ（音楽）	ブラジルのサンバやアフリカの太鼓「タムタム」を活用して、リズム遊びを手作りの楽器などで体験するワークショップ。
パソコン遊びのワークショップ（プレイ）	パソコンを使った遊びのプログラムをいくつか体験しながら、子どもにとってのパソコン活動の意味と、プログラムを計画・実施するときの方法などを考える。
想像遊びのワークショップ（企画研修）	さまざまな絵本をモチーフにした、想像遊び、みたて遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。かんたんなカード制作をとおして、共同制作者とのコミュニケーションをはかります。

〈巡回展示とワークショップ〉

名称	内容
ブルーノ・ムナーリ展（造形）	1985年の〔こどもの城〕開館を記念して行われたブルーノ・ムナーリ氏の作品展およびワークショップから、グラフィック・アート、プレイシングス、絵本、オブジェなどの展示とワークショップを巡回用に構成したもの。子どもの触覚、視覚、体感覚を使って造形感覚を磨き、心身ともに豊かに発展させるという考えが基本となっている。
ビクトル・ダミコ展 ～こどもアートカーニバル～（造形）	1995年の〔こどもの城〕開館10周年を記念して行われた「ビクトル・ダミコ展“こどもアートカーニバル”」を巡回キット化したもの。「色、光、触覚」を遊びながら体験できる21個のボックス型造形美術玩具は、子どもの造形意欲や創造性を喚起し、好奇心と感性に刺激を与える環境となる。このほかに、特別に設計されたイーゼルや回転式円形コラージュ・テーブルなどを加えた環境の中で、絵画とコラージュ制作を中心としたワークショップを実施。
造形ワークショップ展（造形）	〔こどもの城〕造形スタジオの実践プログラムを視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。その中からいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。パネル展示が中心のプログラム。
お父さんの少年時代（企画研修）	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の“遊び”の展示。展示されたメンコ、ベーゴマ、凧、日光写真などの遊び道具をきっかけに、親子のコミュニケーションをはかると同時に、子どもたちは昔遊びのエッセンスを体験。
絵本とコミュニケーション（企画研修）	絵本は子どもたちの感性をはぐくむ優れた媒体。子どもの様子を見ながらページをめくれば、自然と親子のコミュニケーションをはかることもできる。駒形克己さん（グラフィックデザイナー）の、絵本は“コミュニケーションのためのツール”という考え方に着目し、さまざまな絵本を制作するだけでなく、絵本作りのワークショップを実践している。〔こどもの城〕で実施した展示とワークショップで構成したプログラム。
全国児童館おりがみ作品展（企画研修）	各地の児童館活動のなかで制作したおりがみ作品を集めた「全国児童館おりがみ作品展」（参加21館／10月26日～11月17日／こどもの城）ののち、12月から全国で巡回展示。本年度は「私たちの街」がテーマ。6月までは平成13年度の作品（テーマは「未来」）を巡回展示。

〈実施一覧〉

都道府県	開催団体	会場	日時	内容	催し	研修	展示
佐賀県	佐賀県児童館連絡協議会	佐賀県立生涯学習センター	5.1~8	全国児童館おりがみ作品展			○
静岡県	静岡市社会福祉協議会	静岡市児童会館	5.15~26	全国児童館おりがみ作品展			○
長野県	長野県児童館連絡協議会	ホテル山王閣	5.23	身近な道具でスポーツ遊び	○		
福岡県	田川市子育て支援センター	田川市青少年文化ホール	6.1	すくすくスキンシップ	○	○	
滋賀県	石部町子育て支援センター	石部町子育て支援センター	6.11	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
栃木県	高根沢町児童館みんなのひろば	高根沢町児童館みんなのひろば	6.15・16	音楽ゲームセンターで遊ぼう	○	○	
宮崎県	社会福祉法人ゆりかご福祉会	ゆりかご児童館	6.15~23	全国児童館おりがみ作品展			○
福岡県	豊前市地域子育て支援センター	豊前市総合福祉センター	6.28	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
島根県	益田市子育て支援センターほか	益田市人権センター	7.10	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
群馬県	三波川ふるさと児童館「あそびの学校」	三波川ふるさと児童館「あそびの学校」	8.8~25	お父さんの少年時代			○
北海道	余市町子育て支援連絡会	余市町中央公民館	9.9	すくすくスキンシップ	○	○	
東京都	豊島区子ども家庭部青少年課	こどもの城	9.20	パソコン遊びのプログラム	○		
静岡県	三ヶ日町子ども会育成連合会・三ヶ日町児童館	三ヶ日町民ホール	9.22・23	おんがくがスキ!	○	○	
茨城県	境町	境町保健センター	9.30	すくすくスキンシップ	○	○	
愛知県	高浜市やきのものの里かわら美術館	高浜市やきのものの里かわら美術館	10.5・6	アニメ・ワークショップ	○	○	
鳥取県	国府町立栃本児童館	国府町立栃本・麻生児童館	10.9・10	みんなで遊ぼう パペットランド	○	○	
茨城県	玉造町	玉造町福祉課	10.15	すくすくスキンシップ	○	○	
栃木県	栃木県児童館連絡協議会・同子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	10.18~20	映像探検 写真ワークショップ	○	○	
岐阜県	岐阜市本郷児童センター・同母親クラブ	岐阜市本郷児童センター	10.18・19	みんなで遊ぼう パペットランド	○	○	
大阪府	能勢町地域子育て支援センター	能勢町地域子育て支援センター	10.22	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
岩手県	種市町	種市町立おこない児童館	11.9・10	おんがくがスキ!	○	○	
愛知県	新城市役所福祉健康部福祉課	新城市鳥原児童館	11.8・9	みんなで遊ぼう パペットランド	○	○	
埼玉県	上福岡市児童センター	上福岡市児童センター	11.12	すくすくスキンシップ	○	○	
兵庫県	西宮市立子育て総合センター	西宮市立子育て総合センター	11.19~12.1	造形ワークショップ	○		○
静岡県	浜松こども館	浜松こども館	11.24・25	アンクルンコンサート	○	○	
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	11.25~12.25	全国児童館おりがみ作品展			○
北海道	白糠町庶路小学校	白糠町庶路小学校	11.27~12.5	全国児童館おりがみ作品展			○
東京都	世田谷区立野沢児童館・駒繁小学校新BOP・PTA	世田谷区駒繁小学校	12.4	忍者マスター決定戦	○	○	
青森県	大鰐町中央児童館	大鰐町中央児童館	12.7~15	全国児童館おりがみ作品展			○
埼玉県	上福岡市児童センター	上福岡市児童センター	H15. 1.12~18	全国児童館おりがみ作品展			○
岡山県	市町村保健師研究協議会勝英支部	勝央町高齢者福祉センター	1.14	すくすくスキンシップ	○	○	
福島県	福島市東浜児童センター	福島市東浜児童センター	1.23~2.5	全国児童館おりがみ作品展			○
千葉県	浦安市保健福祉部子育て家庭課	日の出公民館	2.12	おにごっこで楽しく体力づくり	○	○	
大分県	九重町児童館	九重町福祉センター	2.14~22	全国児童館おりがみ作品展			○
静岡県	静岡市社会福祉協議会	静岡市児童会館	2.27~3.7	全国児童館おりがみ作品展			○
福井県	福井県児童科学館	福井県児童科学館	3.8~16	造形ワークショップ展			○
佐賀県	久保田町児童館	佐賀県立助成センター アバンセ	3.14~16	全国児童館おりがみ作品展			○
兵庫県	姫路市北児童センター	姫路市北児童センター	3.23~30	全国児童館おりがみ作品展			○
京都府	絵本とコミュニケーション実行委員会	大川センターCAMP	3.21~4.6	絵本とコミュニケーション	○	○	○

3. 助成金による事業

〈社会福祉・医療事業団助成事業　「こどもの城ファミリーフェア」事業〉

名　称	日　時	内　容
公開講座「みんなで子育て」	6.12（第1回） 9.25（第2回） H15.2.5（第3回）	子どもたちの最も大切な生活の基盤である“家族”、そして“家族”を支える“社会環境”の大切さを広く訴えることを目的に3回シリーズで実施。 第1回＝「育つ力を信じよう　～親の子離れと子の自立～」 ゲスト：巷野 悟郎 氏（こどもの城小児保健部顧問） 第2回＝「どこからが、わがまま ～自己主張とがまん～」 ゲスト：佐藤淑子氏（鶴川女子短期大学教授） 第3回＝「みんなで子育て ～社会・家族の役割～」 ゲスト：今井登茂子氏（「とも子塾」主宰） 広岡守穂氏（中央大学法学部教授） 坂本純子氏（新座子育てネットワーク代表）
おひさまおはなしコンサート	12.21	前年度に引き続き、親子のコミュニケーションを目的とした絵本の読み語り公演。普及活動の一環として、えひめこどもの城で実施した。出演は小山茉美（声優）、渡辺 亮（パーカッション）、福沢達郎（ピアノ）、人形劇・木ぐつの木、音楽事業部職員。制作・演出は企画研修部スタッフ。
	H15.1.14	青山円形劇場で公演。
0～3歳児の親子あそび「おやおや こ・こ・こ 2－こどもの城の活動から－」	H15.3月	前年度に発行した親子遊びの事例集の続編として、児童館からの要望が大きかった0～3歳を対象とした「0～3歳児の親子あそび　おやおや こ・こ・こ 2－こどもの城の活動から－」を発行。全国の児童館に配布した。
こどもの城ファミリーフェア事業報告書2003	〃	3年間の事業を総括し、こうした活動の普及活動を目的として、事業報告書をまとめ、全国の児童館に配布した。報告書の制作にあたっては、子どもにかかわるさまざまな分野の有識者による委員会を実施して、事業の評価、今後の課題などについて検討した。 □委員会メンバー□（敬称略・順不同） 駒形克己（造本作家／グラフィックデザイナー）／坂本純子（新座子育てネットワーク代表）／島内行夫（ベネッセ教育総研主席研究員）／杉山治子（練馬区立光が丘第四保育園園長）／鈴木葉子（東京女子医科大学付属第二病院・小児科医師）／能祖将夫（芸術監督・プロデューサー）／長谷川智子（大正大学助教授・発達心理学）／宮原哲（西南学院大学教授・コミュニケーション）／百瀬裕一（制作プロデューサー）／矢野眞一（ＦＣ東京普及部長・育成部副部長）

公開講座「みんなで子育て」





おひさまおはなしコンサート（青山円形劇場）

〈社会福祉・医療事業団助成事業　「小・中学生ボランティア交流」事業〉

名　称	日　時	内　容
じょいんフェスティバル「愛媛大会」	11.2〜4	前年度に引き続き、「じょいんフェスティバル」を実施。各地の大型児童館で活動しているボランティアと〔こどもの城〕のボランティアとで、"遊びのボランティア"の周知、交流とネットワーク化をはかることが目的。えひめこどもの城で開催した愛媛大会では、ボランティアの自主企画イベントを中心に実施した。14館、約100人のボランティアが参加。 参加館（順不同）＝秋田県児童館／いわて子どもの森／宮城県子ども総合センター／栃木県子ども総合科学館／富山こどもみらい館／福井県児童科学館エンゼルランドふくい／三重県立こどもの城／大阪府立大型児童館ビッグバン／神戸市総合児童センターこべっこランド／兵庫県立こどもの館／さぬきこどもの国／山口県児童センター／えひめこどもの城／こどもの城
児童館でのボランティア活動に関する実態調査	12月〜H15.1月	全国の児童館でのボランティア活動の活動状況を把握するために、アンケート調査を実施。全国4,175館の児童館・児童センターにアンケートを依頼し、2,375館から回答があり（回答率56.9%）、約7割の館でボランティア活動を受け入れていることなどが分かった。
じょいんフェスティバル「岩手大会」	H15.3.8・9	平成15年5月に開館予定の岩手県立児童館「いわて子どもの森」（仮称）で、野外活動の研修を中心としたボランティア交流を実施。7館から約40人のボランティアが参加した。 参加館（順不同）＝秋田県児童会館／栃木県子ども総合科学館／神戸市総合児童センター こべっこランド／さぬきこどもの国／えひめこどもの城／いわて子どもの森／こどもの城
じょいんフェスティバル「富山大会」	3.15〜17	日ごろ行っている各館での活動を発表しあうことで交流するとともに、それぞれの活動の質的向上をはかることを目的として、富山県こどもみらい館で実施。11館、約50人のボランティアが参加。 参加館（順不同）＝秋田県児童会館／宮城県子ども総合センター／ぐんまこどもの国児童会館／東京都児童会館／福井県児童科学館エンゼルランドふくい／兵庫県立こどもの館／神戸市総合児童センターこべっこランド／さぬきこどもの国／山口県児童センター／富山こどもみらい館／こどもの城
児童館のボランティアコーディネート「地域に発進!!　ボランティア1・2・3」の発行	3月	児童館でのボランティア活動の活性化を目的として、ボランティアコーディネートマニュアル「地域に発進!!　ボランティア1・2・3　児童館のボランティアコーディネート」を発行し、全国の児童館に配布した。この冊子をまとめるにあたっては、12月に実施したアンケート調査の結果をもとに、専門委員会を開催し、内容を検討した。 専門委員会（順不同・敬称略）＝久保和功（神戸市総合児童センターこべっこランド運営課長）／染川香澄（ハンズ・オン・プランニング代表）／千葉雅人（中野区宮の台児童館）／山崎富一（世田谷区ボランティア協会事業部長）／吉澤英子（大正大学大学院教授）／依田秀任（財団法人児童健全育成推進財団事務局次長）

〈社会福祉・医療事業団助成事業　「子育てサークルネット支援」事業〉

名　称	日　時	内　容
子育てネットワーク活動推進のためのモデル事業	通年	前年度に引き続き、子育てネットワーク活動の推進を目的として全国各地の市民グループなどにモデル事業を委託し、実施してもらった。本年度は「支援グループとのネットワーク化」「行政との協働」「インターネットを利用したネットワークづくり」「ネットワークの立ち上げ」をテーマとし、20地域でモデル事業を行った。 実施地域（順不同）＝帯広市（北海道）／秋田市／山形市／境町（茨城県）／上福岡市（埼玉県）／市川市（千葉県）／世田谷区／杉並区／豊島区／小平市（以上、東京都）／麻生区（川崎市）／新津市（新潟県）／金沢市／清水市（静岡県）／西区（名古屋市）／安城市（愛知県）／名張市（三重県）／交野市（大阪府）／島原市（長崎県）／八代市（熊本県）
子育てネットワーク全国フォーラム	11.1	各地の子育てネットワークとの情報交換を目的に、全国フォーラムを〔こどもの城〕で開催。自治体の人口規模ごとに、「子育てネットワークの目指すところと自己評価」と題したグループ学習を行った。また、分科会として「子育てネットワークの継続」「行政との協働」「男性の子育て参加と地域の人的社会資源の活用」をテーマにパネルディスカッション。
子育てネットワークづくりのための情報誌「みんなで子育て」	H15.3月	本年度の活動をまとめるとともに、子育てネットワークの活動を普及させるために、情報誌「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体およびネットワーク関係者に配布した。

〈日本財団助成事業〉

名　称	日　時	内　容
わくわく絵本パーク	5.3	前年度に引き続き、絵本の楽しさを子どもたちに伝えるために実施した声優による絵本の読み語り公演。株式会社81プロデュースと共同で制作。出演は、関俊彦、佐久間レイ、小林優子（声優）、人良のび太（ピアノ演奏）
	9.28・29	山口県児童センターで巡回公演と、絵本を多面的にとらえて子どもたちとの遊びに活用するための研修会を実施した。
	11.22・23	大阪府立大型児童館「ビッグバン」で実施。
	H15.2.1・2	秋田県児童会館で実施。
	2.8・9	さぬきこどもの国（香川県）で実施。
	2.18	仙台市で研修会のみ実施。

〈その他・子育てサークルリーダー研修事業〉

名　称	日　時	内　容
子育てサークルリーダー研修事業	10.5、19	本年度から厚生労働省と財団法人こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」の共催者として研修会をコーディネート、実施した。帯広市では、帯広市子育て支援システムの協力を得て、「コミュニケーション」「現在の子育て事情」「子育てマップづくり」「子どもの発育・発達」「サークルで活用できる遊び」などの研修を北海道で活躍している講師を中心に実施した。
	11.29、12.6	愛知県名古屋市で、子ども＆まちネット名古屋の協力を得て実施。
	12.3、11	福岡県大野城市で、NPO法人大野城チャイルドケアセンターの協力を得て実施。
	H15.1.16・29	こどもの城で実施。

こどもの城 事業年報

平成14年度

平成16年3月31日発行

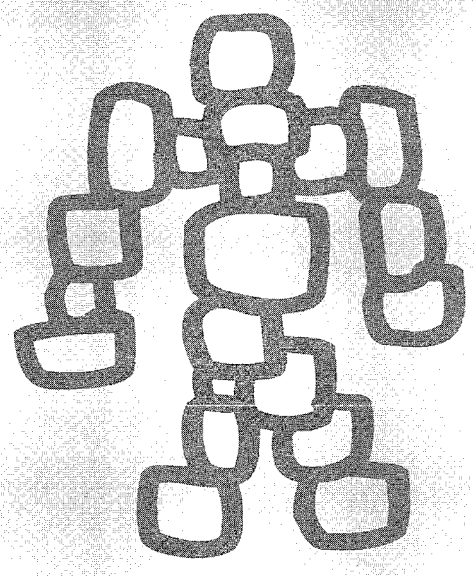
[編集・発行]

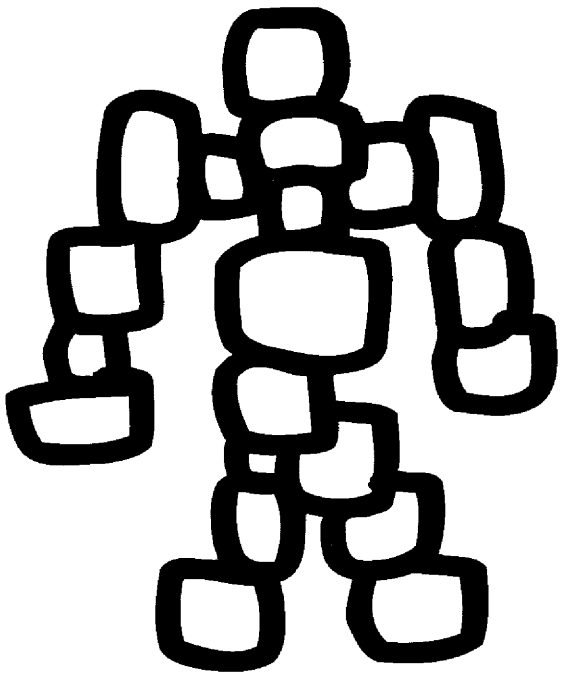
財団法人 児童育成協会

理事長　　高峯　一世

〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話　03-3797-5666

表紙イラスト――――――田中靖夫
デザイン――――――COIL





財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http://www.kodomono-shiro.or.jp/